格闘技にとって、ルール問題こそ最高のアングルだ!

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年4月25日発行　毎月第2・第4木曜日発行　第4巻・9号・通算68号

# SRSDX

Special Ring Side

No.68
2002
4・25
毎月第2・4木曜発売
定価680YEN

それでもミルコ。お前はシウバに勝つんだ!　押忍!

K-1vsPRIDE…もう一つの戦争…もう一つのテーマ

# 「ルール問題」大研究

SRSDX 4・25 No.68

K-1 vs PRIDE「ルール問題」大研究!
3.30『DEEP 4th IMPACT』名古屋大会

K－1 VS PRIDE

ルール問題こそ、エンターテインメントだ！

完璧なPRIDEルールでできない シウバが不利？

やっぱり経験が少なく敵のルールである ミルコが不利？

今号はルールとは何かを徹底検証してみました

# ミルコVSシウバは猪木祭り3分5Rルールが濃厚

◎INOKI BOM-BA-YE ルール

基本的にPRIDEルールと同じだが、最大の違いは3分5Rの時間制限。また、膠着ブレイクは基本的にはないが、ロープ際の攻防では、「ドント・ムーブ」をかけて中央に戻すのではなく、中央でスタンドの状態から再開となる。ミルコVSシウバ戦に関しては、4点ポジションでの蹴り技は有効になりそうだ。判定決着はなし。

# 4・28 PRIDE.20
# ミルコvsシウバの最大のアングルは「猪木祭りルール」でやることだ！

◎出席者
**ターザン山本**（『命懸けの論理』著者）
**サダハルンバ谷川**（本誌編集長）
**柳沢忠之**（本誌発行人）
**小松モグタン**（締めの達人）

**4月28日、横浜アリーナで行われる『プライド20』のメインイベントに決定したミルコ・クロコップVSヴァンダレイ・シウバの一戦は、あらゆる意味で注目されているが、中でもHPなどで騒がれているのがルール問題だ。3分5Rの『イノキ・ボンバイエ』ルールで行われることが濃厚なこの一戦。果たして、格闘技におけるルール問題とは何か？**

# K―1 VS PRIDE

## ルール問題こそ、エンターテインメントだ!

# ルール問題こそが、格闘技の最大にして最高のアングルだって気付いたよぉ

**山本**　谷川ーっ、俺はまだ納得できませんよぉ。やっぱり、どーしてもミルコVSシウバっていうのはないよなぁ。それは頭では正しいって理解してるんだよ。でも、素直に手放しで喜べない何かがあるんだよねぇ、俺の中には。

**谷川**　えっ、じゃあ山本さんは見に行かないんですか?

**山本**　そんなもん行きますよぉ。

**谷川**　だったら、難しいことは考えずに見に行けばいいじゃないですか。見たらきっと面白いと思いますよぉ。

**山本**　お気楽でいいねぇ、おまえの見方は。

――今度の『プライド20』は、ミルコVSシウバを発表しただけで、横アリのチケットがもう完売状態みたいですよ。

**谷川**　山本さんが前号でも言ってたように、K―1VS『プライド』に、昔の新日イズムがあると思えばいいじゃないですか。

**山本**　本当にぃ〜?

**谷川**　……………うん。

**山本**　というか、ほとんどのファンは単純にミルコとシウバの大物対決はどっちが勝つんだって騒いでるんじゃないですか? 2人とも、強そうだし。

――強そう(笑)。

**山本**　いや、今は谷川のようにそういう果汁20%ぐらいのファンが多いのは分かるんだけど、仮にK―1VS『プライド』にかつての新日イズムを見るとしたら、俺たちは非常に物足りないわけよぉ。プロレスラーがそこに絡まないことで、語るべきものが足りないんだよなぁ。やっぱり、ミルコVSシウバが闘うってなると、次はミルコVS桜庭をやるんじゃないかとか、藤田にリベンジしてもらいたいって、どうしてもそういう話になるわけよ。ミルコVSシウバ自体に、谷川が言うように、どっちが強いか以上の何も見えてこないんだよなぁ。俺はそういう部分でも、納得できないわけよぉ。

――山本さん、今、ミルコVSシウバに関して、ファンの間で一番話題になっているのは、ルール問題なんですよ。

**山本**　ルールぅ〜?

**谷川**　ああ、そうだね。

――ネットなんかを見ると、サダハルンバが言うように、ミルコVSシウバはどっちが強いかって単純な発想からもちろん始まるんだけど、そこでポイントとなるのは、やっぱりルールなんですよ。ウチのHPなんか、ミルコVSシウバのルール問題のスレッドで、ファンが延々と論争してますからね。

**山本**　何を言ってるん?

――だから、簡単に言ってしまうと、石井館長が「かかって来い!」と言っておきながら、K―1のリングで試合をする時はK―1ルールになるのに、なぜ『プライド』のリングに上がったら、3分5Rの『イノキ・ボンバイエ』ルールになるかってことですよ。要するにK―1側は汚いんじゃないか、と。そういう議論から始まって、でも『プライド』もここで興行を成功させたいから、石井館長は本当は夏くらいに考えていたのに、DSEは「3分5Rでもいいから、次の興行にすぐに出てくれ!」と頼んだんじゃないかという推理があったり、特別ルールを認めるのは是か非かという論争が起こったりしているわけですよ。

**谷川**　いや、ルールが変わったら、どっちが勝つという僕の予測も変わっちゃうよ。それは、たしかに重要だ。

――うん、そのレベルの論争も多い(笑)。

**山本**　ちょっと待った! 俺は今、気が付いたけど、そこで重要なことは、ガチンコの試合では「ルール問題」が、唯一にして最高の〝アングル〟ってことですよぉ。だから、試合を盛り上げるためには、絶対にルール問題が出てこなくっちゃいけないってことだよ。

――そういうことです! まあ、グレイシー一族の一番の良さはそこでしたからね。

**山本**　そうだよぉ。ホリオンですよ。ホリオンはルール問題を〝アングル〟にしたんでしょ。だから、俺たちにとってグレイシーというものが、最大のプロレスラーに見えたんだよね。

**谷川**　『プライド』のこれまでの歴史を振り返ると、最初はグレイシーがプロレスラーに勝ちまくって、それを桜庭がリベンジして大ブレイクしたじゃないですか。で、そのドラマが終わったところで今度はK―1が登場したでしょ。その『プライド』最大の外敵であるグレイシーとK―1の共通点って何かって言ったら、そのルール問題ということですもんね。

**山本**　今までは、そのルール問題が出た時に誰もが自分の闘いを有利にするためにやってきたんだけど、実は違うんだよ。今はルール問題そのものがエンターテインメントになってるんだよぉ。それを分からないでルール問題を語るっていうのは、はっきり言ってナンセンスなんだよぉ。

――だから、グレイシーもK―1も、なんで話題をかっさらうかと言ったら、出た時からエンターテインメントをやってるからでしょ。

**山本**　それがグレイシーとK―1の特権になってるっていうのがいいよなぁ。

**谷川**　そう言えば、大山倍達はたぶんガチンコの格闘技を初めてやったんですけど、そのガチンコの試合でも、プロレス的な空間をどこで感じたかというと、ルールと審判なんですよ。

――大山裁定とかね(笑)。

**谷川**　そうそう。で、極真がどうやって〝地上最強の空手〟になったかと言ったら、「プロレスラーも、キックボクサーも、ムエタイも、他流派も誰でもかかって来いっ!」って言ったからでしょ。でも、かかって来いって言っても、それは極真ルールなんだよね。プロレスラーやキッ

## グレイシーも大山倍達も、「かかって来い!」って、自分のルールで最強になったんですよ

クボクサーが勝てるわけないじゃない！（笑）。

——まあ、ムチャクチャだよね（笑）。そこがまたいいところなんだけど。

**谷川** どっちかと言ったら、今の極真のほうが〝地上最強〟を真面目に目指しているでしょう。でも、その大山倍達のムチャクチャさのほうが、地上最強に見えてたってところがポイントでしょう。それはK—1にしたって、グレイシーにしたって同じだと思うんだよね。

**山本** つまり、それはそのムチャクチャというか、不条理が隠し味になっているんだよぉ。不条理の精神が、その競技を生かすんだよね。

**谷川** でも、今でも極真の試合を見てて一番ドキドキするのは、判定の瞬間ですもんねぇ。審判が旗を上げる時。たとえば、日本人と外人が試合していて、審判5人のうち3人が外人だと、判定になった時にドキドキするもんなぁ。誤解を恐れずに言うと、その時、エコヒイキ的な世界ほどカーッとなるんですよ。それで「あの審判はおかしい」とか「判定が汚い」というのが、見る側のエンターテインメントになっていくんですよね。大山倍達の時代に比べて、今はほとんど公平な裁定が行われてるけど、逆に大山倍達はそういうことを知っててルールや審判をエンターテインメントにしてたんじゃない？

——まあ、間違いないだろうね（笑）。

**山本** そこでもう一つ言えるのは、日本人には非常に優れた言語感覚があるわけよぉ。つまり、「格闘技」って言うでしょ。格闘技というのは、技を用いて勝負を競う闘いなんだけど、最後の判定の時は全ての競技で「格」を見るんですよぉ。実は日本人は「格」というものが大好きな国民で、大山倍達がやっていた「大山裁定」というのは、よ〜するに「格」なんだよねぇ。

**谷川** そうです、そうです（笑）。

——で、今回ミルコVSシウバが仮に3分5R制になったとしたら、シウバが入場の時に花道で片ヒザついてるのと同じだと思うんですよ（笑）。猪木さんがゴルドーのローキック受けて足を痛めた時みたいに。

**谷川** 体重差のことを考えたら、さらに片腕を三角巾で吊ってるくらいのハンディかもしれないよ（笑）。

——でも、『プライド』のリングでやるんだから『プライド』のルールじゃなきゃいけないっていう声があるけど、冷静に考えた場合、『プライド』を有利にするには、3分5Rにするのがベストですよね。相手に合わせてハンディを背負うほうが、プロとしてファンを味方にするのに有利になるし、山本さん的に言えば、そこがエンターテインメントになるじゃないですか。

**山本** そう！ まず1R何分とか、ルールがどうのと言う前に、そもそもミルコとシウバじゃ体格が違うよねぇ。だけど、格闘技は無差別の闘いが一番面白いわけ。大山先生が小さい者が大きな者を倒すのが大好きだったのは、それが一番のエンターテインメントになるからだよぉ。

——緑健児ね。

**谷川** つまり、大山裁定とルール問題、審判の判定で、極真は地味に見えて凄いエンターテインメントになっていたんですね。そう考えると、格闘技だってなんでもメチャクチャ面白いエンターテインメントになるなぁ。

——だから、格闘技がまだ議論せずに楽しめる目が、でき上がっていないってことでしょ。逆に言えば、山本さんは語るべきものが物足りないって言ってましたけど、そこに凄い可能性があるんですよ。

**山本** そうだなぁ。俺は凄い発見したよぉ。ルール問題こそ、格闘技の「アングル」なんだよなぁ。だいたい日本人の発想である〝無差別〟なんて、それ自体見る側にイレギュラーを起こさせるんだよなぁ。フツー、外人なんか理解できないでしょう。外人はすぐに平等、平等ってスポーツの理屈を持ち出すけど、そんなもんより無差別の柔道の全日本選手権とか、極真の世界大会のほうが、見る側にイレギュラーを起こさせて面白いもんなぁ。俺は断然、そっちを支持しますよぉ。

——そう考えると、ミルコVSシウバなんて、見る側の頭はイレギュラーしっぱなしでしょ（笑）。だから、『プライド』が競技化しない一点はそこなんですよ。チャンピオンを作ろうが、階級を作ろうが、そんなもん全然関係なくてミルコVSシウバをやっちゃうでしょ。それで、ルールがまた違う（笑）。この強引さが、エンターテインメントですからね。

**谷川** 要は『プライド』の場合、競技性より面白さを優先しちゃうわけでしょ。だから、デビュー戦の田村がいきなりシウバとタイトルマッチやったり、『プライドGP』なのに、ホイスVS桜庭だけ時間無制限の特別ルールを認めちゃう。そんなムチャクチャな話はないと思うんだけど、結局面白かったんで、ほとんどの人は文句を言わなくなるでしょ。K—1VS猪木軍だって、そうだと思うんですよ。逆にノゲイラVSヒーリングなんて、今から考えるとカードが地味すぎるからタイトルマッチにした気がするもんなぁ（笑）。

——桜庭VSシウバだって、面白さを付け加えるためにタイトルマッチにしたんで

# ハンディがある闘いほど興奮する。ルールで平等にする必要なんてないよぉ

あって、競技性ありきじゃないんだよね、『プライド』は（笑）。

**山本**　今はタイトルとか、ベルト自体がインフレになっているからぁ。むしろ、ミルコVSシウバみたいなマッチメイクのほうが、デフレで面白いわけよぉ。

**谷川**　で、石井館長は何をやっても勝ちだって言ってたけど、ネットで騒いでるファンよりもっと薄い、一般世間から見たら、K―1ルールで闘っているミルコが、『プライド』のリングに上がるだけで、ミルコのほうがハンディを背負っているように見えちゃうんですもんねぇ。「『プライド』のリングなんだから、シウバが勝って当たり前だろっ」っていう（笑）。それは3分5Rだって、一緒だと思うんですよ。

**山本**　実に巧妙なワナですよ、これは。それが分かってて石井館長と『プライド』が仕掛けているとしたら、もうプロレスのチンケなアングルなんて勝てませんよぉ。今の話を聞いていたら、俺はますますショックですよぉ。

**谷川**　ショックですけど、面白いからいいんじゃないですか。

**山本**　面白いよぉ。興奮するよぉ。だいたい猪木VSアリ戦もそうだったけど、猪木さんはとてつもないハンディを背負って闘ったでしょ。でも、俺たちはそーゆーハンディを背負った闘いほど興奮するんだよなぁ。そうかぁ、ミルコVSシウバにはそんな隠し味があったんかぁ。

――だから、そういうルール問題が浮上した時に、ホリオンみたいなのが出てきて、「たとえば2人が砂漠にいたとしよう」なんて例え話を持ち出せるのが新しいプロレスラーなんですよ。ホリオンなんて、次はどんな不条理なことを言い出すかって、ワクワクするもんなぁ（笑）。

**谷川**　いやぁ、ホリオンが出てきたことで、ノールールというアングルが世界中でいっぺんにでき上がっちゃったもんなぁ。あんな強引なエンターテインメントを見せようとしたからこそ、グレイシーは極真のような地上最強になったんでしょうね。

――で、またホリオンと絡んだ相手が、トボケた桜庭ってのも、いいんですよね（笑）。

**山本**　それがカラクリですよぉ。そうかぁ、だったら格闘技というのは、エンターテインメントとして凄い遊べるなぁ。特に他流試合なんか、いくらでもルールでアングルが作れるよぉ。

――飽きちゃったり、試合自体が膠着したら、去年の「4点ポジションの攻撃OK!」みたいに、いつでもルール問題を浮上させればいいんですよ。で、そのたびにホリオンみたいのが出てきて、理屈を言ったりしていれば、格闘技で凄く遊べる可能性はあるでしょ。

**山本**　かぁ～、それはそうだなぁ。ということは、今の格闘技専門誌は「ルールだ、ルールだ」って、まったく逆のことをやってるよ。笑えるなぁ。谷川ーっ!　石井館長に言って、K―1もルールを変えさせろっ!

――ガッハハハ、でも武蔵VSシュルトなんて、通常のK―1ルールでやらないほうがいいんだよなぁ。シュルトだけにオープン・フィンガー・グローブをつけさせるとか（笑）。

**谷川**　武蔵VSシュルトは、3分無制限R制がいいんじゃない?　これやると、いつも判定勝ち狙いする武蔵は絶体絶命だよ（笑）。もしかしたら、武蔵が初めてアグレッシブになって、何かが変わるかもしれない。

――ガッハハハ。でも、そういうのはホント重要だよ。そうなって初めて、武蔵はハンディを背負うわけじゃない。

**谷川**　スポーツというのは、ルールを作りながらも、いかにそういう不条理なハンディを作り出すかって、ことなんだろうね。

**山本**　うん、なるほどねぇ。よし!　こうなったら俺はルール問題をテーマにした、格闘技の見方の本を書かなくちゃならんなぁ。

――ぷぷぷぷ。本を書く（笑）。

**谷川**　どうせなら、山本さんとホリオンの共著がいいんじゃないですか。2人の名前が並ぶだけで笑えますよ（笑）。ルール問題で、2人で砂漠の話とかいっぱいしてくださいよぉ。

**山本**　谷川ーっ、それはおまえにしてはいいアイディアだよぉ。やりますよぉ。

――どうせなら、タイトルは『新・命懸けの論理』がいいですね（笑）。

**谷川**　ガッハハハハ。ターザン山本&ホリオン・グレイシー共著『新・命懸けの論理』はいいなぁ。

**山本**　もうこれから俺はルールでじゃんじゃん遊びますよぉ。そういえばモグタン!　おまえ、まったく発言してないじゃないかぁ。おまえはルール問題をどう考える?

**小松**　いやぁ……たとえば、相撲で4ポイントの蹴りを有りにしたらどうですかねえ?

――どうですかねえっておまえ、それはもはや相撲じゃない（笑）。

**谷川**　キミ、相撲のルール知ってる?　4ポイントですでに負けじゃん（笑）。

**小松**　いや、そこをなんとか。

**山本**　うん!　それは面白い!　根本の価値観をぶち壊すのが面白いわけよぉ。負けてから蹴りを入れられるっていうのは恐ろしい!　メチャクチャ緊張感あるなあ。それこそ『命懸けの相撲』ですよぉぉ!　モグタン、おまえは組めるなあ。

**谷川**　んあ～。■

## ミルコVSシウバ戦最大のテーマ

# 格闘技のルール問題で遊びたければ、これを読めぇ!

試合や勝負を競い合うものは、まず最初にルールを作る。そのルール**は平等という理念を原則とする。**しかしその平等性は、決して完璧なものではない。

ルールは競技者や選手が、一応の了解点として納得できる範囲の中で収められるものだからだ。相撲では力士の足の裏以外の体の一部が、土俵についてしまうか、体が土俵の外に出たら負けになる。

また力士は〝まわし〟をつけることを義務付けられ、それ以外は裸。髪をつかんだら反則になるとか、そういうルールが決められている。つまり**ルールは競技形態を、デザインしていくもの**と考えれば、一番分かりやすい説明と言える。

ルールを単に〝規則〟とか〝きまり〟と考えるのは、少し安易な発想といえる。なぜならルールによって競技体系がデザインされていくからだ。

デザインの意味は〝設計〟〝造形〟ということである。相撲は相撲のルールによって、今のような相撲にデザイン、設計、造形されていったのだ。

ルールは規則以外にもう一つの役割として、競技を設計していく要素がある。それは忘れてほしくない。設計は造形にもつながるとしたら、ルールは〝美〟にも関わっていることになる。

各競技のルールはその競技の規則と美を規定していくものでもあるのだ。またそれぞれの競技には、個別の魅力的な風景がある。たとえば柔道の試合会場には柔道ならではの風景がある。

あれは柔道のルールが造形した風景と言わざるを得ない。ここまではいわゆるルールに関する一般論である。

私は**ルール＝規則という捉え方はやめよう**と言っているのだ。その前提に立った上で、これからルール論を展開していきたい。まず「ルールは絶対である」という一大条件がある。

誰もこれを破ることはできない。だからそこに**〝反則〟という概念**が出てくるのだ。規則違反のことである。反則には厳しい罰則が決められている。

これを称して「ルールは神である」という言い方は、言い過ぎだ。そんなに大げさに考えなくてもいい。オリンピックの種目になっているあらゆるスポーツにおいては、**競技ルールは選手にとって友達みたいなもの。**

実に彼らはルールと気楽に付き合っている。そこではルールはある部分で空気みたいな存在なのだ。それぐらい選手とルールは、溶け合っている。両者の間に違和感はまったくないといえる。

これが格闘技の世界になると、意味合いが違ってくる。ボクシング、キックボクシング、K—1、『プライド』では敵をぶっ倒す（KOする）ということがルールで認められているからだ。

KOは人間の意識を一瞬なくす行為のこと。それはすなわち自分がKOされるかもしれないという不安と恐怖を、あおられることでもある。この点で**格闘技のファイターにとっては、ルール自体が不安の対象**でもあるのだ。

ここにスポーツと格闘技の決定的な違いがある。**ルールと友達付き合いできるスポーツ選手と、ルールを不安視してしまう格闘家。**だからスポーツと格闘技はまったく別のものなのだ。

**仮に格闘技をスポーツ化しようとする動きがあったとしたら、それはルールを安心するもの**にしたい。そういう願望から起こったものと考えるしかない。

もともとK—1はスポーツを目指していた。倒すか、倒されるかの迫力と緊張感を売りものにしながら、その一方ではルールをマイルドなものにしている。

危険なヒジの攻撃は禁止。危ないと思ったらレフェリーが、素早く試合をストップさせる。また、試合中での流血はすぐにドクターがチェックする。

いという見方もできるが、それよりも基本的にはルールが怖いのだ。だがミルコ

な見方もできるのだ。だが、それでも彼らはルールに関して

©Essei Hara

# 遊びだけれは これを読めぇぇ!

## ターザン山本の究極のルール論

K―1の魅力はKOシーンにあるが一方では、このようにルールの面で選手を守ることに重点が置かれている。こうしてK―1は格闘技のスポーツ化に成功した。**格闘技のエッセンスであるKOと、ルールを不安視しないスポーツの良さをうまくドッキングさせているのだ。**

スポーツ格闘技としてのK―1は、そうして誕生していった。まったく絶妙なセンスと知恵の結晶である。だがスポーツと格闘技はそもそも水と油。しばらく共存してうまくやっていても、どちらかが相手を浸食していく。

K―1においてはスポーツ性が重視されて、格闘技色は薄められていく傾向が強くなっていった。要するに**K―1ファイターの心がスポーツ化**していって、ルールに不安をおぼえなくなった。

K―1プロデューサーの石井館長はそこに危機感を持った。「**まずい。**このままではK―1はだめになる。終わる」という直感である。さすがに石井館長は勘がいい。危機管理能力に優れている。それでこそビジネスマンである。

スポーツに傾きかけていたK―1をもう一度、格闘技のほうに戻す必要がある。そう思った時、石井館長はすぐに次の一手に出た。それが昨年の8月、さいたまスーパーアリーナで行われたK―1軍対猪木軍の対決である。

K―1戦士のミルコ・クロコップと猪木軍の藤田和之の試合は、まさしく石井館長によって仕掛けられたもの。

この一戦の意味はどこにあったかというと、ミルコ側からすると藤田と闘うことは、**K―1の試合とは比べものにならないほど緊張**を強いられる。

その原因はどこにあるかというと、ルールの違う世界に入ったからだ。ミルコにとって寝技も関節技もありというのは、恐怖以外の何物でもない。

相手の藤田が怖いとか、試合自体が怖いという見方もできるが、それよりも基本的にはルールが怖いのだ。だがミルコはタックルにきた藤田を、ヒザ蹴りで流血させ試合に勝った。

**このミルコVS藤田戦は一言でいうとルールが、選手を不安にする試合。**ミルコをそういうステージに立たせることで石井館長は、K―1の再生を図ろうとしたのだ。スポーツ化しすぎてしまったK―1を、格闘技の原点に戻すためだ。

ファンもそれを支持した。昨年の12月31日、K―1軍対猪木軍の第2ラウンドが行われたが、ファンの期待感は非常に大きいものがあった。そして今回、4月28日、横浜アリーナではK―1対『プライド』が激突することになった。ミルコVSヴァンダレイ・シウバの一戦が、それに相当する。この試合ではルールをどうするのかが、最大の焦点になっている。

ルールは最終的にどこかに落ち着き収まるはずである。そうしないと試合が成立しないからだ。たとえどういうルールになったとしても、**ミルコとシウバにとっては平等なルールはあり得ない。**

両者とも同じように不平等で不利という気持ちしか、起こらないだろう。逆説的にいうとそこだけは、平等という皮肉な見方もできるのだ。

だが、それでも彼らはルールに関して自分の主張を続けていく。少しでも自分に有利なルールを獲得するためだ。

このように1回ごとにルールを一から考え直さなければならない。猪木VSアリ戦の時もそうだった。選手もファンもそういう時、**ルールに最も関心を持ちルールにエキサイト**しているのだ。

これがすなわち格闘技の証明でもあるのだ。ルールは一定していない。あるいは固定していない。常に変わっていく。格闘技ではルールはその場、その場によって変動していくものなのだ。

**問題はスポーツ寄りになるのか、格闘技寄りになるか**だけの違いである。ミルコVSシウバ戦はそういうことも、超えてしまっている試合だ。**どんなルールも2人にはなんの慰めにもならない**からだ。

そう、私が言いたかったのはそのことなのだ。どんな慰めにもならないルールの中で、選手に試合をさせる。それが格闘技だと私は考えているのだ。

**ルール問題が起きる試合と、ルール問題が起きない試合。**この二つの意味を考えたら、私が何をここで言いたいか、全て分かっていただけたと思う。■

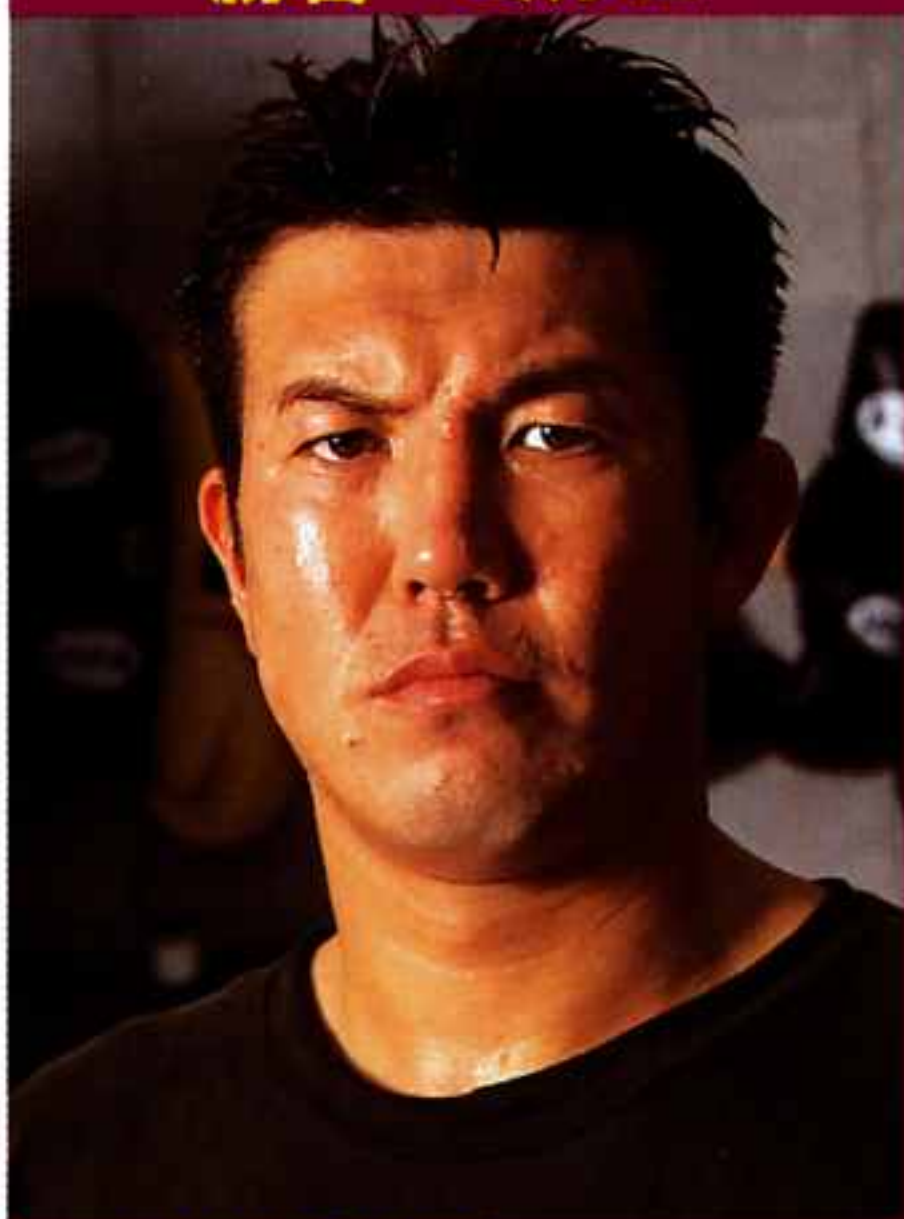
# シウバVSミルコ、どっちが有利？ 関係者がルール問題を一刀両断！

**ドロー**

**安田忠夫**〈フリー〉

## 3分5Rのルールはレスラーに有利なルールだと思っているんですよ

シウバVSミルコ戦？　今の僕はホント人のことを話せる立場じゃないんですよぉ（4月7日に取材）。どうしてもって言うなら言うけど、3分5Rのルールはレスラーに有利なルールだと思ってるんですよ。なぜかって？　それは言えませ～ん。だって、それを言っちゃうとK―1の人たちがその対策練ってきちゃうもん。ちょっとだけでも教えてって？　じゃあ、ちょっとだけ、まず、あの時間が問題なんです。それとK―1の選手は……やっぱりこれ以上は言えませ～ん。シウバVSミルコ戦はどっちも有利だと思うので五分五分だと思います。半年前のミルコだったら、シウバが有利だけど、今のミルコなら3分5Rルールでも『プライド』のルールでもできると思うから。シウバも打撃の選手なんでしょ？　だったら、やっぱり五分五分ですねぇ。僕？　僕はミルコもシウバもいいです。寝技できるヤツは大っ嫌いだからぁ（笑）。バンナとハントだったらいつでもいいですよ。■

**勝者→ミルコ**

**佐竹雅昭**〈怪獣王国〉

## どっちが有利っていうより3分5Rは両方にとって楽やね

う～ん、ミルコのほうかな？　でも、3分5Rだとシウバもやりやすいのとちゃうかな？　同じキック的な選手やからね。3分5Rはキックの時間だから。だから、どっちが有利っていうよりも、両方にとってこれは楽やね。通常の『プライド』ルールで20分やるよりも、3分5Rのほうが1Rの時間も短いし、インターバルも多いし、多く休めると。俺も3分5Rにしてほしいね（笑）。もちろん、3分5Rだと時間が短い分、シウバがテイクダウンするチャンスは少なくなるけど、まあ、元々キックの選手だから打ち合いにいくのとちゃうかな？　シウバも1R10分やって、2R・3R5分ずつやるよりも、3分5Rのほうが楽だと思っているんじゃない？　選手は3分5Rのほうが絶対楽ですよ。まあ、ただ通常のルールでもやってほしいと思いますけどね。自分も同じようにK―1から来て、苦労したし。ちょっと過保護というかな。そう思いますね。■

**勝者→シウバ**

**堀辺正史**〈日本武道傳骨法・創始師範〉

## ミルコとシウバでは他流試合の回数が違いますね

3分5Rで、寝技をすぐ立たせるっていうルールだと、ミルコのほうが有利ですね。3分というのが曲者なんですよ。なぜかというと、3分という短い時間の中では、ミルコの打撃をかいくぐってテイクダウンを取るというのは、非常に難しいんですよ。これが5分だったり、通常の1R目が10分だったりすると、また変わってくるんですが、そういう意味で言うと、ミルコに有利な環境が設定されているんです。ただし、シウバにとってはかなり不利な格闘環境なんだけども、彼にはこの3分5Rにもかなり順応するだけの格闘能力があると思うんです。他の総合格闘家と違って相当打撃をやり込んでいるということもあるんですが、ミルコとは他流試合の回数が違うということ。このキャリアの差っていうのは、両者の実力が伯仲している時に、もの凄い影響を及ぼす。そう考えると、あえてどっちが勝つと予想すれば、シウバのほうが勝つと思います。■

## 勝者→ミルコ？

### シウバは180センチ？ミルコの射程距離だな。ハイだな

**橋本真也〈ZERO—ONE〉**

芦原さんが昔、猪木さんとウィリーが試合をする時に、面白いことを言ってたよ。「テニスと野球の試合」だって。それをなんとか結び付けてやっているから、どっちが不利だ、どっちが有利だなんて、やってみないと分からないじゃん。どっちが強いか弱いかで決まるんだよ。勝敗なんてのは、一流の人間がやればやるほど、先に自分の得意技を決めたほうが勝ちっていう時があるんだよ。ミルコは一撃っていうのを持っているから。シウバは180センチぐらい？射程距離だな。ハイだな。180センチぐらいの人間っていうのは、一番蹴りやすい位置にいるわけですよ。後ろに回って裸絞めに入っちゃえば別だけど、体重が軽いってなると一撃で決まる場合はあるな。タッパがデカイヤツは有利ですよ。俺が小川に負けたのもタッパかもしれないしね。■

## ドロー

### 僕だったら通常の『プライド』ルールでやりますよ

**中迫剛〈ZEBRA244〉**

3分5Rの特別ルールで、どっちに有利、不利っていうのはないんじゃないですかね。どちらも早期決着型なんで、膠着にはならないと思うんですけど。ただ、『プライド』みたいなルールだと1R、3分っていうのは結構短いと思いますよ。お互いに見合って、殴り合うっていう展開が5R続くんじゃないですかね。だから、結構しょっぱい試合になると思いますよ。まあ、通常ルールだとシウバじゃないですか。いつも慣れているルールだし。「K—1の選手だけに特別ルールは不公平だ」っていうファンの気持ちは分かりますね。僕が『プライド』に出たら、通常の『プライド』ルールでやりたいですもん。じゃないと乗り込む意味がないじゃないですか。いつ乗り込むかって？ それはもう少し待ってください（笑）。商品価値をもう少し上げてからですよ。■

## 勝者→ミルコ

### この流れでいくと、3年後くらいにオレと宇野君がやったりすんのかなぁ

**魔裟斗〈シルバーウルフ〉**

予想っていうか、ミルコに勝ってほしいです。やっぱり打撃のナンバー1が格闘技の一番なんだっていう。自分に置き換えて考えるとそう思いますね。『この流れでいくと、3年後くらいにオレと宇野君がやったりすんのかなぁ』って考えたりするんで。展開は、ルールがどうっていうよりシウバ次第。頭が良かったら打撃では来ないでしょうね。でも打撃でいったら絶対ミルコ。〝ケンカが強いのはどっちだ？〟って感じで凄い楽しみですね。■

## 勝者→ミルコ

### ミルコに特別ルールを設定する配慮は必要ない！

**宮戸優光〈スネークピット〉**

どうだろうな？ ただね、今回この試合に関して、他のK—1の選手は別として、ミルコに対しては特別ルールを設定するという配慮は必要ないかと思いますけどね。この前、K—1のトップ選手たちを何人か見たけれども、ミルコは単純にキックボクサーっていうタイプの人じゃないですよね。僕には打撃だけをずっとやってきた人とは感じが違うように見えますね。まあ、体格差もあるし、どっちのルールに転んでもミルコ有利だと思いますよ。■

## 勝者→シウバ

### F1と『プライド』？全部ある『プライド』が勝つ！

**ユセフ・トルコ**

K—1？ 何、F1か？ F1と『プライド』ね、そりゃあ、『プライド』のほうが勝つよ。『プライド』はプロレスと同じで、全部あるんだから。そりゃ全部があるほうが勝つよ。F1は寝技ないだろう？ だから、俺、力道山が木村政彦とやる時に言ったもん。寝技に気を付けろって。俺、力さんには寝技では負けないんだから。その俺が木村さんには寝技で歯が立たなかったからね。だから、寝技があるほうが勝つよ。■

# レフェリーは格闘技をエンターテインメントにできるか？

## 〈名勝負製造機〉島田裕二はこう考える！

ルール問題が格闘技のエンターテインメントだとしたら、それを裁くレフェリーは重要な役割を持っている。では、レフェリーはいかに名勝負を作り出し、スター選手を生み出すのか、「名勝負製造機」と呼ばれる世界の名レフェリー島田裕二に話を聞いてみた。

聞き手◎谷川貞治

**島田** ハーイ、タニー！　今日は俺様のジム「BCG」の紹介かい？　なんでも聞いてよ。

――キミ、随分やせたねぇ。

**島田** あったり前じゃない。俺様自ら、「BCG」で鍛えればいかに肉体改造できるかってところをお見せしないと、会員なんて来ないじゃない。タニーも、ウチのジムで体鍛えなきゃダメだね。

――うん、まぁそんなことはどうでもいいんだけど、今日はレフェリー島田裕二についてインタビューさせてよ。

**島田** オッケー・ブラザー！　タニーのためなら、なんでもお答えするよ。

――じゃあ、お言葉に甘えて、世界の名レフェリー島田裕二から見て、ルールって何？

**島田** ルール？　ルールというのは、まぁお互い同じ条件で闘うための、統一の法律みたいなもんですね。

――あ、なるほどね。で、島ちゃん的には今度のミルコVSシウバが、猪木祭りルールになることについてはどう思ってるわけ？

**島田** 僕的にはまあ、好きじゃないですねぇ。というのも、ひとつのイベントに、いろんなルールがあってファンがコンフューズするのは嫌だなぁと。ルール・ディレクターとしては、やっぱり統一ルールでやるのが望ましいですね、ハイ。

――ああ、混乱するのはよくないね、たしかに。

**島田** でも、ミルコとシウバみたいに、打撃ができる者同士だったら、3分5Rのほうがスピーディな試合になるかもしれないし、体重の重い選手と軽い選手が試合をするんだったら、『プライド』の10分→5分→5分より、3分5Rのほうがいいかもしれないですね。そう言うと、結局はいいんじゃないかってことになるんだけど、見る側をコンフューズさせちゃうのだけは心配ですね。

――島ちゃんから見て、3分5Rにすることによって、どっちが有利になるってことはあるの？

**島田** 3分5Rで言えば、ミルコのほうが慣れてるから若干有利じゃないですかね。でも、総合の試合自体はシウバのほうが経験があるじゃない。だから、より試合が分からなくなってきたんじゃないですか。僕的には前半はミルコで、後半になればシウバって感じがしますね、ハイ。

――あの～、去年K―1と猪木軍が闘った時に、ブレイクが問題になったでしょう。そのへんはどうなの？

**島田** みなさん、誤解している人も多いんですけど、猪木軍VSK―1の試合で膠着ブレイクなんてないんですよぉ。あれは全部「ドント・ムーブ」のブレイクなんです。膠着ブレイクはルールにないんですよぉ。でも、あまりにも膠着が続いた場合、これは『プライド』も同じなんですけど、膠着を誘発したほうが反則のイエローカードになるんです。それでブレイクするんですね。でも、猪木軍VSK―1では一度もない。ただ、K―1ジャパンで最初にやった時はK―1のリングだったんで、ロープの間が広くて、落っこちやすかったんですよ。それでブレイクが多かったんですよぉ。

――そこを誤解している人は多いよね。

**島田** だから、大きく違うところは時間だけなんですよ。それと、4点ポジショ

# K−1 VS PRIDE

## ルール問題こそ、エンターテインメントだ!

## 競馬で言えば、レフェリーは騎手! 俺様が武豊ですよぉ

ンでの蹴りが今までなかったんですけど、ミルコVSシウバだったら有りでもいいんじゃないですかねぇ。

—今回ね、ルール問題こそが格闘技にとっての一番のアングルであり、エンターテインメントだって特集をやっているんだけど、島ちゃんくらいのレフェリーになると、試合の勝敗までも左右しちゃうじゃない。レフェリーもまた、格闘技におけるプロレス的部分を作り出す大きな要因だって思うんだよね。

**島田** あんまり人聞きの悪いことは言わないでくださいよ。俺様にも立場ってものがありますからね。

—それは分かるんだけど、島ちゃんはどうやってレフェリングをしているのか、その心構えを聞いておきたいわけ。

**島田** レフェリーというのは、まずお客さんに分かりやすくすることが一番だと思うんですよ。その上で、サブレフェリーとか、ジャッジの人にも見やすい位置に立つ。自分が試合にのめり込むんじゃなく、あくまでも客観的に試合を見るってところも大切ですね。よく、格闘技をやりこなした人や物凄く専門的に技を知ってる人でも、試合に夢中になって周りが目に入らない人もいるんですけど、そういう人は向いてないんじゃないかと思うんですけどね。

—それは凄く分かる。レフェリーってセンスいるからねぇ。でも、島ちゃんの場合、いい試合を作るためのノウハウって、なんかあるわけ?

**島田** それはありますね。僕の場合、プロのエンターテインメントにとって重要なのは、アドバンテージだって思ってるんですよ。その見極めですよねぇ。たとえば、アイブルなんかすぐに反則するでしょ。でも、それですぐに反則をとってたら、いっぺんに反則負けになって試合が成立しなくなる。だから、それをどこまでとるかっていうアドバンテージが大切になってくるんですよ。だから、ドン・フライとの試合では、フライのほうから頭突きを引き出せたわけじゃないですか。最初にアイブルがロープつかんだり、サミングした途端にイエローとって試合を終わらせたら、お客もフライも納得しなかったって思うんですよ。サッカーのオフサイドで言えば、アマチュアだったら厳しく、すぐにとらないとダメなんですけど、プロのエンターテインメントだったら、オフサイドに対してどこまでアドバンテージを認めるかってところが勝負なんですよね。その見極めでいい試合になるか、悪い試合になるかって変わってくるんですよねぇ。

—じゃあ、やってる選手の特徴をよく知ってないとできないね。

**島田** それはそうですね。ある程度、この選手はどういう性格で、どういう試合をやるのか。たとえば、よく膠着する選手だったら、早めにアクションを起こさせないとダメだし、膠着してても一本取る極め技を持っている選手だったら、我慢してもう少し攻めさせないとダメ。そういう知識と予測は必要だと思うんですね。

—アドバンテージという概念は面白いねぇ。

**島田** 僕はレフェリーって、競馬で言う騎手だって思ってるんですよ。選手が騎手じゃないんですよ。選手は競走馬なんですよぉ。

—レフェリーは騎手? それは興味深い!

**島田** 競馬で言うと、馬の中に追い込み型とか、先行逃げ切り型とか、いろんなタイプがいるじゃないですか。格闘技でも同じで、いろんなタイプの選手がいるんですよ。それに対して、「アクション、アクション」ってムチを入れたり、ストップをかけたり、まだ見たりして試合を操るのがレフェリーの役目だって思ってるんですね。騎手だから、試合前にちゃんとドクターに選手の調子とか、ケガしているのはどこかって聞いたりもしなくちゃいけない。そういう努力をしていれば、ファイトは最初の30秒ぐらいでどうなるのかって見えてくるんですね。そこに主観を入れずに、選手のいいところを引き出すのがプロのレフェリーだってことだと思うんですよ。それが分からないと、いつまでもソワソワしたレフェリーで終わっちゃうんですよ。

—凄いじゃん。ちゃんと名レフェリーのノウハウがあるんだね。

**島田** だから、レフェリーはやればやるほど奥が深いし、面白くなってくるんですよ。

—ただ、ルールどおりに裁いて、適当に立ってるだけじゃないんだ(笑)。

**島田** あったり前じゃないですか。俺様を誰だと思ってんですか。だから、競馬で言えば、俺様は武豊ですよぉ。

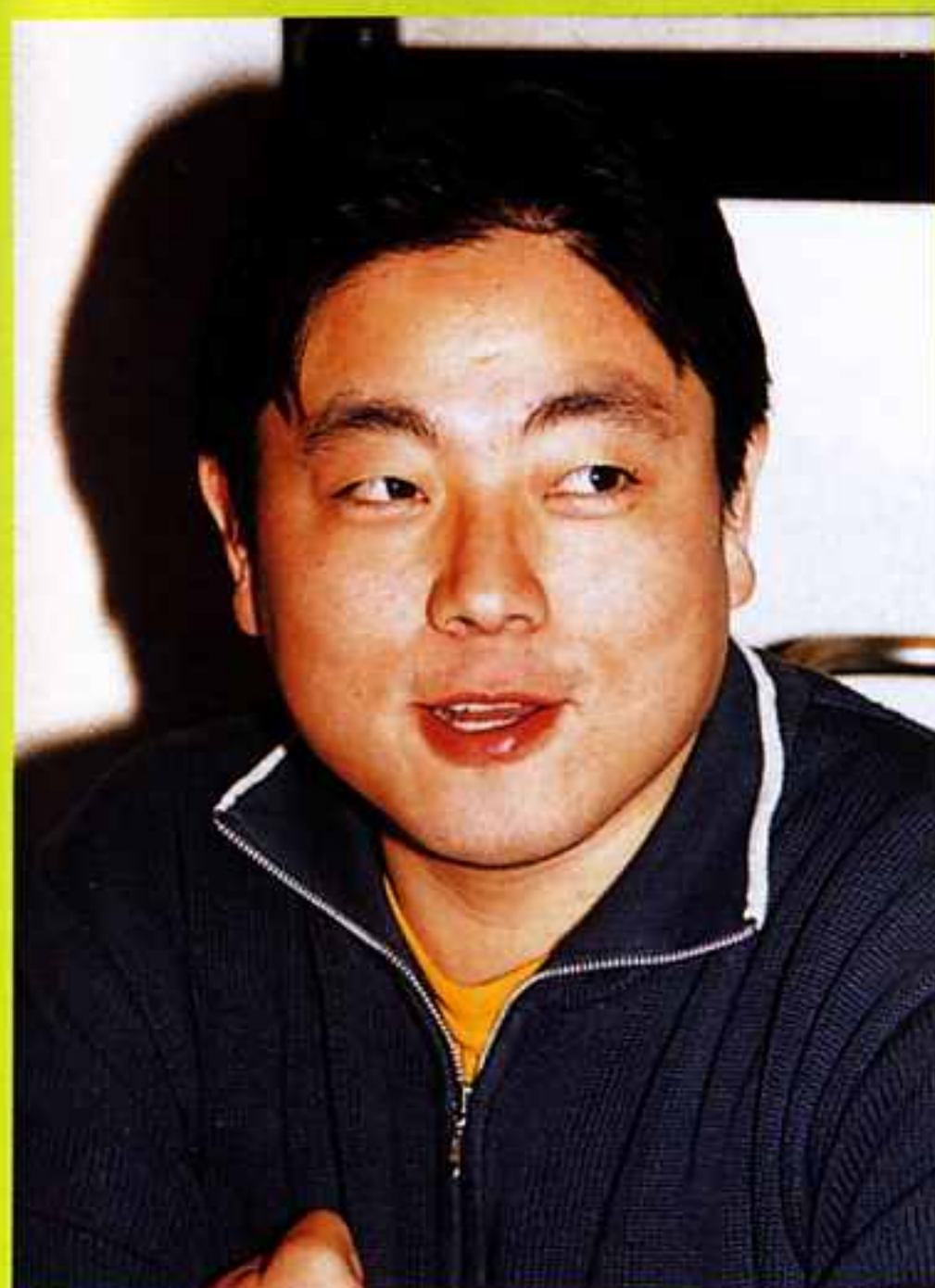
—へぇ〜、なんか島ちゃんがレフェリーやると試合が面白くなる理由が分かってきた(笑)。

**島田** ギリギリのアドバンテージを見極めるのがプロの試合では大切なんですよ。その見極めがいい試合を作ったり、スター選手を生み出すんですね。だから、レフェリーって凄いことをやってるんですよ。これで女の子にモテないのはおかしいですよ。

—いい試合を作るっていう意味で、どっちかの味方をするっていうのはないの?

**島田** だから、人聞きの悪いこと言わないでくださいよぉ。どっちかの味方をすることはないけど、ファイトを予測するっていうのはあるでしょうけどね。

—やっぱり、ルール問題が格闘技のエンターテインメントだとしたら、レフェリーは重要なんだね。今日はキミのことを見直したよ。

**島田** やっと気が付いたんですか。だから、ファンの人もレフェリーをもっと評価してくれないと。あと、『プライド』公認ジム「BCG」もヨロシク! 盛り上げてよ、タニー! ■

# ルール問題をエンターテインメントに変える天才！
# 格闘技界でこんなプロレスラー見たことない

## 最強格闘技グレイシーをデザインした男
## ホリオンに学べっ！

今、世界中の格闘家の中で、アングルを作らせたら世界一の男がホリオン・グレイシーだ。彼こそ、大山倍達や石井館長のように、グレイシー幻想を最強にまで仕立てた立役者。その役割はヒクソンやエリオより大きい。

グレイシーが世に登場し、『世界最強』の格闘技のイメージを作る上で、一族一番の功労者は、なんと言ってもエリオ家の長男ホリオン・グレイシーだろう。

おそらく、ホリオンという優秀なスポークスマンなしでは、エリオやヒクソンといえども、今日のようなグレイシーのポジションは築けなかったに違いない。グレイシー柔術とバーリ・トゥードの理念は、ホリオンの頭脳を持って、世界中の格闘競技を揺さぶった。今から考えれば、エリオやヒクソン、ホイスたちは、ホリオンの頭脳のコマにすぎなかった。

それに気付いたからこそ、彼らはバラバラになっていったのだ。

ああ言えば、こう言う。

こう言えば、ああ言う。

我々は常にホリオンの大人の余裕というか、含みのある笑みに惑わされながら、グレイシーのフィールドに引き込まれていった。

まずはホイスが初めてUFCで優勝した時、ホリオンは遂に俺の出番とばかりに、幻惑の格闘技グレイシー柔術を、誰よりも先に説明し始めている。

「グレイシー柔術は、殴ったりしないで絞め技で勝つのが根本的精神なのさ。だから、弟のホイスはUFCで1回も殴らなかっただろう？　素手で殴ってもいいルールでもあえて殴らない。本当のグレイシー柔術は美しいものだよ」

「殴ったり、腕や足を折っても、まだ試合ができる。でもチョークで〝グッドナイト〟のほうが、ひどくないし、人間的じゃないか（笑）」

「バーリ・トゥードは全てが有効という意味で〝皆さん、いらっしゃい〟という意味さ（笑）。あれはダメ、これはダメと言っていては本当の実力は出せない。我々は決して殺し合いをしたいんじゃないが、最も実戦に近い形で真のアート・オブ・ディフェンス（護身術）を求めていきたいのさ」

ノールールのリアルファイトの実現。そして、その中で自分は傷つかず、相手も必要以上に傷つけずに勝っていくグレイシー柔術に我々は度胆を抜かれた。しかし、今になって思えば、それはグレイシー柔術という格闘技が最も勝ちやすい状況設定だった。ホリオンはその状況設定にもっていくための様々な美学を駆使して、人々を納得させていったのだ。

# 桜庭をムカつかせ、名勝負をデザイン UFCはホリオンが辞めてスポーツになった！

グレイシーはポジショニングの格闘技だと言われているが、ホリオンの言葉そのものが、自分がいいポジションを奪うためのテクニックだった。そこに我々は見事にハマッていったのだ。グレイシーが登場した当時、様々な実戦論や最強論が展開されていったが、ホリオンの言葉の魔術に勝てる者はいなかった。そして、ホイスを巧妙なマッチメイクで売り出すことによって、グレイシーは一気に最強格闘技として君臨しはじめたのである。

ホリオンの言葉の魔術が、自分たちの一番有利な状況設定を作るものであることが、より鮮明となったのが、例の桜庭VSホイス戦でルール変更を要求した時だった。『プライドGP』という共通したルールのもとで世界最強の座を争うべきところで、ホリオンはホイスのみを特別ルールで闘うことを認めろという強引な主張をしてきた。

それが認められなければもう『プライド』には出ない。ホリオンの凄いところは、UFCから撤退した時もそうだが、決して自らの主張を曲げないことだ。UFCなどは、ホリオンがあのまま続けていれば、いいポジションでそれなりのお金を手にしていただろう。しかし、そんな小さなところで揺れるホリオンではなかった。そこで妥協すれば、グレイシー神話が崩壊することをホリオンは誰よりも知っていたのだ。

「もしサハラ砂漠のような所に人をバッと置いて、その人を一人にしてしまったら、その人の頭の中はパニックになってしまうでしょう。でも、彼に『明日迎えに来るよ』と言ったら、彼の頭の中のパニックはなくなるはず。熱い日差しの中でも一日我慢すればいいのですから。闘いもまったく同じで、時間制限がないということで初めてその人のマインドを試すことができるのさ」

「結局、第三者のレフェリーが存在すると、必ずミスジャッジが起こる。また、時間制限を設けて判定で勝敗を決めようとすれば、必ず判定で勝とうというゲームを楽しむファイターが出てくる。我々はそのような偽りの闘いはしたくないのです」

そうホリオンは、記者会見で主張し、桜庭VSホイス戦を判定決着なしの時間無制限ラウンドで行うことを要求した。しかも、ルールを曲げておきながら、「レフェリーやジャッジの後ろに隠れていないで出て来て闘え」と桜庭を挑発。さすがに桜庭もこの理不尽な挑発にはキレた。

ホリオンはさらに「この素晴らしい提案で我々は世界中のファイターから感謝状とクリスマスカードを贈られてきてもいいと思う」とか、「これまでグレイシーが負けたと認定された試合は、全てレフェリーのミスジャッジか、ルールそのものが悪いからだ」とうなるような言葉を連発。また、時間無制限にすることで膠着状態が長くなるんじゃないかという心配に対しても、「膠着は毒みたいなもので、ただの水だと思っていても、知らないうちにその毒で死んでしまうことがあるでしょう。柔術のテクニックはそれと同じで、動いてないと見えてもいつの間にかその毒で死んでしまうものなのです」と応えている。

しかし、そのグレイシー有利の状況設定にもっていきながらも、ホイスは桜庭に敗れた。最後は名スポークスマンであるホリオンのタオル投入によるTKO負けだった。しかし、ホリオンはそれでも一切あわてず余裕のコメント。

「どんな性能のいい車だって、タイヤがパンクしたら走れない。もちろん、無理すれば走ることはできる。しかし、そんなことをすれば車自体を傷めてしまうことになるだろう。それなら、パンクしたタイヤを直して次のレースに参加したほうがいい、ということさ」

しかも、「この敗北は、裏を返せばグレイシー柔術の勝利！」と断言。つまり、世界中のファイターがグレイシー柔術を研究し、身に付けたからこその敗北であり、それだけグレイシー柔術は世界に普及したことが証明されたと喜ぶのだ。

▲桜庭vsホイス戦の最後はホリオンのタオル投入だった。最後までこの名勝負をデザインしたのは、この男だったのだ

「我々がこれまで主張し、試合で証明してきたことは、自分たちが強いと言ってきたわけじゃないんだよ。グレイシー柔術というひとつの芸術が優れていることを主張してきただけなんだ」

さらに、こうしたグレイシーの布教活動に対しても「たとえば私が砂漠の真ん中にいて、バケツ一杯の水を持っていたとしよう。そこにノドが乾いて死にそうになっている人間がやってきたら、その水を分けてあげないと私は悪人となる。もし、その人間が悪人で水を飲んだ後に体力を回復し、私を殺して水を持ち去っていったとしても、その水は分けるべきなんだ」と自らの太っ腹を自慢するばかりか、桜庭をほとんど犯罪者扱い。

そして最後には、その勝った桜庭を「グレイシー一族に養子として迎え入れたい」と言い出す始末。いちいち心憎いホリオンの言葉の魔術師ぶりである。

このように、ホリオンはグレイシーの理念やルール問題をアングルにし、グレイシー柔術をエンターテインメントにした最大の立役者だ。同じグレイシーでも、ヘンゾに幻想が持てない理由は、ホリオン的世界がないからだし、UFCもホリオンが撤退してからはただのスポーツになってしまった事実を見ても、それは明らかだろう。

ホリオンのような男がいれば、格闘技はいつだってエンターテインメントに化ける。ホイスがビジネス上、ホリオンから自立したことで、ホリオンの目はすでに次世代の息子たちに向けられている。ホリオンの復活を心から願うばかりである。

（谷川）

サム・グレコに告ぐ！
「おいおい、3分5Rなんて
オレは認めねぇぜ！」

# 野獣アイブルにとってルールとは何か？

## Gilbert Yvel
THE HURRICANE

取材◎遠藤文康　BUNKO ENDO

**4・28『プライド20』でサム・グレコと対戦することになったギルバート・アイブル。最近の『プライド』でのアイブルは、反則行為など試合以外の部分がクローズアップされているが、果たして今回はどうなることやら……。そのアイブルにグレコ戦について話を聞いてみたが、どうやらルールについて引っかかっているらしい……。アイブルの主張を聞いてみよう！**

ありえないことを想定してみる。オランダ人選手同士が数人のグループで喧嘩をすることになったとする。こんなヤツが敵の中にいたら本当に嫌だなと思う男。自分もそれに参加しなければならないハメになったとしたら、その男のいる側に入りたいと思う男。それがギルバート・アイブルだと、僕は勝手に個人的には思っている。

ナチュラル・ボーン・ストリート・ファイター。それがアイブル。少なくともオランダで開催されたアイブルの今までのどの試合を見ても、エンセン井上がよく口にする「心が折られた」ような場面に出くわしたことがない。まるで試合を楽しんでいる。殴り合いを喜んでいる。恐怖心というものと無縁の場所に立っている。そういう男なのだ。

過去1度だけボブ・シュライバーとの壮絶な殴り合いでKO負けを喫したことがあるアイブルだが、負けた後も負けを認めず、敵陣に叫びながら突進して行った姿を思い出す。ハンス・ナイマンとディック・フライがシュライバーの盾となってアイブルの突撃を阻止していたが、手は出さなかった。

クリス・ドールマンが以前、アイブルについてこう語ったことがある。

「アイブルは私の元で練習を始めたが、呑み込みと勘所は他の者より抜きん出ている。何よりも恐れを知らない。いつも『どうやって相手を仕留めるか』しか考えてない。だからスパーですら負けるということをまったく想定していない。アイブル自身の生い立ちにも原因はあるが、リングス・オランダメンバーは誰一人アイブルを快く思っていない。そりゃあ、私は誰にでも平等だ。ただディック（フライ）もハンス（ナイマン）もヨープ（カステル）もみんなアイブルを嫌っている。困ったことだ」と。

この言葉を聞いてからしばらくして、アイブルは練習場としてのリングス・オランダを去った。周囲の敵意に嫌気がさしたようだ。ルシアン・カルビンコーチと個人としてグラウンドの練習に励むことにしたのだ。アイブルに対する周囲の敵意を察知していたドールマンは、自前の大会でアイブルと周囲の選手とのマッチメイクを組んだ。ボブ・シュライバー戦。ヨープ・カステル戦。セーム・シュルト戦。全部アイブルが勝った。敵意の先頭だったフライとナイマンはアイブルとの試合を拒否している。勝てないことを知っているからだ。

その後のアイブルの日本での様子は、改めて紹介するまでもなく現在に至っている。アイブルとはどういう男なのか。喧嘩屋、野生児、天衣無縫、あるがまんま、本能の男。こういう類の言葉ではなんとでも表現できる。明朗活発、やりたい放題。怖いものなし。こんな男の登場の背景。これにはドールマンが語ったように生い立ちが大きく影響している。

3月下旬。アイブルとサム・グレコの試合が決定したという一報。アイブルに意気込みを聞くために会った。

◎

**アイブル**　へーイ、元気かい？　オレは元気だぜ。この前のボブとの試合で殴りすぎて拳がちょっと痛いんで、今週の練習は休みさ（大笑）。アリスターは秒殺勝利だったからいつもどおりに練習さ、なっ（と、アリスターの肩を抱くアイブル）。

――凄い試合でしたよね。ずっと殴り合いで。殴り合いで勝負を決めようという

THE HURRICANE

2人の気持ちが伝わって来ました。

**アイブル**　ボブは最初からそのつもりだったようだね。互いに1勝1敗の決着戦だったからさすがにちょっと緊張したぜ。なんせ前回の負けは、オレの初めてのKO負けだった。殴り合いで負けたのはあれが生まれて初めてだった。ボブの一発は効くから油断するとやられるからな。今回も終盤で一発いいのが入ってグラッときたが、そのまま殴り合っているうちに元に戻ったぜ。ちょっと危なかった。ま、最後はボブの顔がボコボコになって終了さ。あれ以上続けたらボブも失明になっただろうから、ドクターストップでホ～ントよかったぜ。

――互いに殴り合ってシュライバーの顔はボコボコ。あなたの顔はきれいなままでした。パンチの違いですかねぇ、やっぱり。

**アイブル**　まあ、ボブのパンチはフック系だからな。気を付けないと当たればグラグラ来る。だけど顔の表面はキレイなままさ。オレはストレート系のパンチだから。相手の鼻から潰して顔面を破壊していくから。相手の顔を壊すのは楽しいぜ。そういうのが大好きだぜ（笑）。喧嘩ってよ、血が出ると結構気持ちが萎えるからな。だけどボブは血が出るとテンションが上がる人間なんだよなぁ。あの歳でホントよくやるぜ、ったく。

――サム・グレコとの一戦が4・28『プライド20』で決定したと聞きました。今日は、その試合へ向けての意気込みを聞こうと思ってやって来ました。

**アイブル**　決定？　決定なんてしてないぜ。

――（おそらくアイブル本人にはまだマッチメイクが伝わってないのかと思い）日本ではグレコとの試合が決定したと言われていますよ。

**アイブル**　だから決定してないって。

――……？

**アイブル**　だってよ、闘うオレがまだ「イエス」って言ってねえんだから（大笑）。

――ああ、そうなんですか（ジョークかと思い）で、どうします？（笑）。

**アイブル**　妙なことになってるんで、やるかどうかは分からない。

――と、言いますと？

**アイブル**　いいか。オレは今までいろいろなルールで試合をしてきた。リングス・オランダでの試合ではリングス・オランダのルールで。2H2Hではそのルールで。ゴルドーの空手の大会では空手ルールで闘って優勝した。KOKではKOKルールでやってきた。そこの団体へ行って闘うのだから、そこの団体のルールでやるのが筋だ。だろ？　今は『プライド』でやっている。『プライド』のルールでやっている。ところがな、サム・グレコって野郎はK－1から『プライド』へ来て試合をするのに3分5Rでやるという。なんだそりゃ？　他の団体へやって来てルールを変えろって言ってんだぜ。ふざけてんのか？　チキン（臆病者）なのか？　イタリアンでチャイニーズ(すし屋でうどん）を注文か？　イタリアンに行ったらイタリアンを注文して食えばいいじゃねえか。オレは間違っているか？

――いえ、筋は通っています。

**アイブル**　だろ？　なんでごちゃごちゃルールに文句を言いながら他の団体に来るんだ？　嫌なら来るなって言いたいぜ。『プライド』で試合をするのなら5分2Rか10分1Rだ。もしオレがK－1に呼ばれてK－1の試合をするのなら3分5Rでやるぜ。K－1のリングに上がるんだ

▲日本では『プライド16』対フライ戦以来の試合となるアイブル。グッドリッジを一発で葬ったあの爆発力のある試合が見たい

からK―1のルールでやるのが筋だ。K―1のリングで5分2Rなんて言わないぜ。『イノキ・ボンバイエ』のリングで闘うとなれば3分5Rでやったっていいぜ。だって『イノキ・ボンバイエ』のルールで闘うのが筋だからな。『プライド』へ来るのなら『プライド』のルールで試合をやれってことよ。だからよ、このマッチメイクに『イエス』の返事はまだしてない。ただ、もし特別ルールということでとんでもないファイトマネーをくれるとでも言うんなら、考えてもいいけどな、ガハハハハハハハ。

――じゃあ、今日の段階ではどうなるかは、まだ未定なわけですね?

**アイブル**　そうそう、未定未定。

◎

アイブルの意見にはコーチのルシアン・カルビンの考えが多分に影響している。ルシアン・カルビンという人は実はオランダキックの基礎を作り上げた人で、有名なメジロコンビネーションにしても発案はこのルシアン・カルビンによるもの。キックマニアの人以外ではあまり知られてはいない事実だ。もちろんそれを元にオランダのキック技術が様々な考えの元で改良発展してきているのは当然のことだが、大元の基本は全てこのルシアン・カルビンという人が考え出した動きなのだ。

ホーストがこよなく尊敬する人の名にこのルシアン・カルビンを挙げるし、若き日に冤罪で人生に行き詰まったことのあるロブ・カーマンは「私がキックを続けてこられたのはルシアン・カルビンが存在したお陰だ」と引退試合のリング上のコメントで感謝のスピーチをしている。アイブルはこのルシアン・カルビンを自分の人生の父であり師であると決めている。だから誰の言うことも聞かないアイブルだが、ルシアン・カルビンの言うことだけは全部信じ、素直にそのとおりにしている。このルシアン・カルビンは筋の通らないことを極端に嫌う。アイブルの発言は恐らくその全部がルシアン・カルビンのものと言ってよい。だからアイブルと話した後でルシアン・カルビンに確認してみると、アイブルが語ったこととまったく同じ言葉が返ってきた。

**カルビン**　アイブルは『プライド』で闘っている。『プライド』では『プライド』のルールで闘うのが筋だ。他からやって来る選手がルール変更を望むのはおかしい。ルールを変えたいのなら来るべきじゃない。筋の通らないことを私は認めない。

――窓口のバス・ブーン氏（ゴールデン・グローリーのマネージャー）はどう返事するでしょうね?

**カルビン**　バスは金のことしか考えない面が強い。個人的には私は彼のやり方は嫌いだ。筋の通らない試合をする必要はないだろう。何が問題なのだ? 我々がK―1のリングに上がることがあれば我々はK―1のルールで試合をする。それが闘う者の筋というものだ。他の団体に行くのに違うことをやりたいというのはおかしい。人の家を訪問して食事を出されて、これは嫌いだからこういうものを作ってくれ、と要求するようなものだ。無礼なことだろ? 嫌いなら静かにして手をつけなければそれでいいんだ。

アリスター・オーフレイムの練習を指示しながらルシアン・カルビンは語った。断っておくが、これらの発言は3月29日のこと。この号が発売になった段階でどのような変遷をしているかは、現時点ではまだ分かっていないことを了解しておいてほしい。

THE HURRICANE

◎

――もう1つ質問があります。実は『プライド』であなたはグッドリッジをハイキックでKOしました。秒殺でした。戦慄のハイキックでした。しかし、怒らないでくださいよ。その後の試合ではあまり芳しい結果を残していません。勝利がないということを言いたいのではなく、あなたの場合、実はまったくなんのルールもない試合よりも、何かいくつかルールのある枠の決まった試合のほうがもっと力が発揮できるのではないかという意見が日本であります。例えばKOKルールのような感じで。この点を聞いてくれという日本からの質問です。

**アイブル**　ふ〜ん……。ま、オレにとってルールはなんでもいいんだけどな。いや、ちょっと待てよ。さっきのグレコの件とは話が違うからな。グレコのことは「筋が通らない」ということを言いたいんだからな。分かってるよな?

――はい。

**アイブル**　ま、そういうことだ。

――そういうことって、どういうことです（笑）?

**アイブル**　はぁ……?

――例えば、学校で絵の授業などがありますよね。

**アイブル**　学校? おいおい、やめてくれよ。お勉強かい?

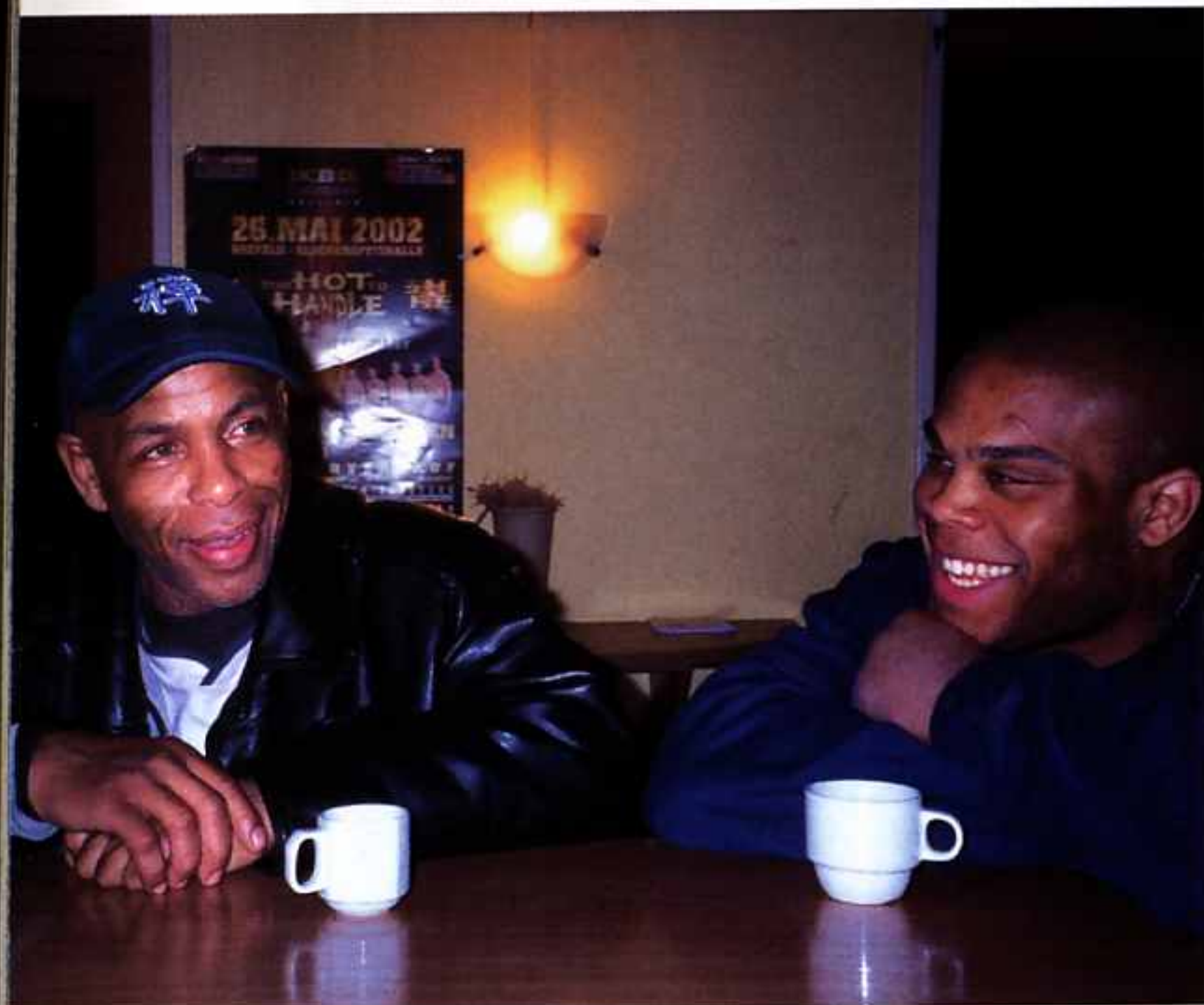
――いや、例えです。ちょっと聞いてください。例えば生徒に「好きな画用紙を使って好きな絵を描きなさい」と言ってもこれは大変難しいんですよ。生徒にとってはどうしていいか分からないんです。ですから「このサイズの画用紙を買ってきて、夏の風景の絵を5色の絵の具で自由に描いてください」って、ある程度約束を決めてから描かせるほうが、不思議とみんなイメージが膨らんでそれこそいろいろなものができるんですよ。あなたの場合も何かちょっとルールの枠があったほうが、ますます潜在能力を発揮するような気がするというような感じがするんです。日本ではそういうふうに考えているようです。

**アイブル**　ふ〜ん。

――だって実際今まで、あらゆる大会に出場してそれぞれのルールに従って結果を残して来てるじゃないですか。ルールがあったほうが力を出せるような気がしますが……。

**アイブル**　『プライド』にだってルールがあるぜ。本当の意味で完全なノールールというわけじゃないぜ。オレは完璧になんのルールもないのが一番いいなぁ。あっ、それじゃ喧嘩か。喧嘩を観客に見せても商売にならないか、ガハハハ。

――どうです?

**アイブル**　オレは日本で負けた試合は1つだけだと思っている。イゴールとの試合だ。あれは完全にオレの負けだ。ミスった。他の試合は、フジタ戦もフライ戦も全部イエローカードだ。反則負けだ。反則しようと思ってやったことなんて一

度もないぜ。なんだか全部オレばかりをレフェリーが反則にするんだ。なんでだ？　オレは反則をする人間だと勝手に思い込んでいるんじゃないのか？　オレはレフェリーに負けてるぜ。イゴール戦以外オレは負けを認めない。どうも『プライド』はレフェリーがよくない。オレはレフェリーを替えてほしいぜ。シウバともやりたいし、ノゲイラともやりたいしよ。『プライド』ルールでオレはまったく問題ないと思っている。今のところ一番オレには理想的なルールじゃねえかな。

――そうですか。じゃあ、これからまだまだ期待していいですね。

**アイブル**　オップ・コ～ス（もちろん）。

――分かりました。そのように日本側に伝えておきます。

**アイブル**　だけどこれだけは言っておくぜ。ルールはなんでもいい。『プライド』では『プライド』。K―1ならK―1。空手なら空手。ケージならケージ。それだけのことよ。オレは闘えればそれでいいんだ。おっと、次の待ち合わせがあるんだ。もういいか？

――はい。

**アイブル**　そうか、じゃあな。ありがとよ。またゆっくり話ししようぜ。おっ、本が出たら送ってくれよ。頼むぜ。じゃあな。

◎

相変わらずのアイブルだった。2H2Hの主宰のアピ・エクテル氏も途中から参加し、シュライバー戦での模様を語りあって談笑していた。

　アイブルの生い立ちは厳しい。カリブのハイチ共和国出身の父親とスリナム出身の母親のもとで誕生。場所はオランダのヘンゲローというドイツ国境近くの町。5歳の時に両親は離婚し、アイブルは父親に育てられた。毎日殴られて育った。アイブルが中学に上がる時にその父親も行方をくらました。捨てられた。見かねた同級生の親が引き取ってくれた。しつけなんて何もできてない。引き取った家でも持て余した。

　勘の鋭いアイブルは中学を出るとともにお世話になった家を後にした。働いた。なんの希望もなかった。喧嘩は毎日。野良犬のような生活。喧嘩しかとりえのない者が喧嘩に負ければ人生そのものの敗北となる。喧嘩には絶対の自信があった。小さい頃から説得ではなく、拳で教えられたアイブルにとって殴られることはまったく平気。負け知らずだった。力こそ正義。勝つことでしか自分の存在証明はなかった。

　アムステルダムに出て来た。田舎から都会へ。どこの国の若者も同じだ。移動遊園地で働いた。カジノで働いた。ディスコで。カフェで。もちろんバウンサー。時同じくしてリングス・オランダが始まっていた。観た。喧嘩のようなスポーツが商売になっている。驚いた。やりたい。

　なんの実績もない自分を知りキックの門を叩いた。ルシアン・カルビンとの出会いがそこにあった。自分を理解してくれる人間との初めての出会い。初めて人を信じた。ルシアン・カルビンは1試合だけキックをさせてみてすぐに、フリースタイル系のほうが合うことを見抜いた。連戦連勝。全勝街道を驀進した。楽しくて仕方がなかった。毎週でも闘えた。週2回の試合も平気だった。喧嘩のようなことをして金が稼げる。自分の居場所を見つけた思いがした。

　ボブ・シュライバーとの一戦。試合の直前。行方の分からなかった母親が16年ぶりに現れた。動揺した。自分でも驚くほど動揺した。母親は街のポスターにアイブルを見つけ、驚いて会いにやってきたのだ。涙ながらにアイブルに謝罪する母親の姿。小さかった。自分でも覚えのないような感情が湧いた。動揺が止まらない。3カ月前にはタップを奪って勝ったシュライバーとの再戦。負ける要素はなかった。だが、KOで負けてしまった。どうにも止めようがない感情があった。試合後も殴りかかってしまった。泣いている自分がいた。いつもの自分ではなかった。「オレも人の子さ」とアイブルは言った。母親を許す自分がいた……。

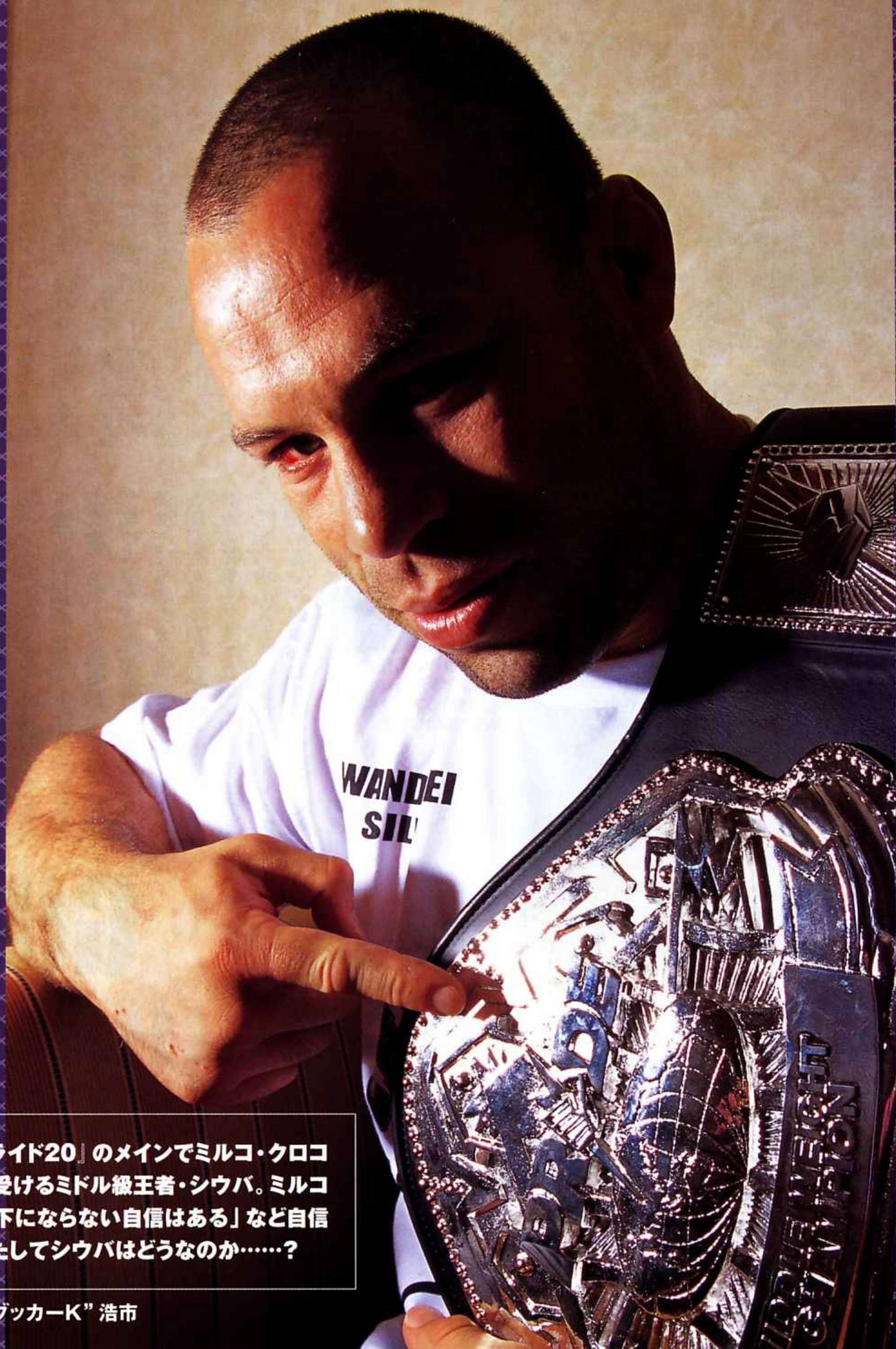
　日本では反則野郎のようなイメージのあるアイブルだが、オランダでの試合を観ている限りアイブルの故意の反則を見たことはない。偶然の反則はある。しかしそれは誰にでもあること。そればかりをクローズアップされてはアイブルも浮かばれない。人生になんのバックも持たないアイブル。自分で自分のキャリアとバックを作ってきたアイブル。ルシアン・カルビンという拠り所を得て闘うことを本業にしている。アイブルにとって仕事も闘いなら人生そのものも闘いなのだ。

　なんの保証もない。自分の五体だけが保証なのだ。意見する人間が自分を何かに導いてくれるのか？　誰か自分の人生をバックアップしてくれるのか？　誰もいない。口だけなら誰でも言える。だからオレはオレとして生きていく。自己責任の人生を行く。それがアイブル。人生の辛さは経験から誰よりも体で知り抜いている。

　だから一昨年のオランダの大火災で亡くなった人々のために、ポンと500万の寄付をした。金は大事だ。その使い方はもっと大事だ。捨て子だったアイブルがそれを知っていた。金はまた稼げばいい。人が暮らしていく金はたかがしれている。いかに金を稼ぐのかは各人の生き方の思想・哲学の範疇だ。しかし、いかに金を使うのかは各人の生き方の美学による。野獣のアイブルにはアイブルの美学がある。■

# Gilbert Yvel

▲アイブルの師匠であるルシアン・カルビンと。普段のアイブルは本当に陽気な男だ

◀2H2H主催者でもあり、ジムのオーナーでもあるアピ・エクテル氏と談笑するアイブル

# 言いたい放題のミルコに対して ヴァンダレイ・シウバは……？

# 「闘う相手が『プライド』王者だということを忘れるなよ」

**4・28『プライド20』のメインでミルコ・クロコップの挑戦を受けるミドル級王者・シウバ。ミルコは「シウバの下にならない自信はある」など自信満々だが、果たしてシウバはどうなのか……？**

**取材協力◎川崎“ブッカーK”浩市**

――まずは、田村選手と闘った感想をお聞かせください。

**シウバ** とても強い選手だったよ。彼はとても良いテクニックを持っていたと思うよ。

――桜庭選手と比べて、田村選手はどんな選手でした？

**シウバ** 彼はウォーリアーだったね。打撃でもガンガン来てくれたし、オレが何発もいいパンチを入れても、全然タップしなかったからな。

――田村、桜庭、大山、松井など日本人選手に勝ってることで日本人にとって、あなたを破ることがひとつの目標になっていますが、それについてはどう思いますか？

**シウバ** オレにとってはそれはなんの問題もないし、ただ『プライド』の用意した選手と闘うだけだよ（笑）。

――チャンピオンになったことで、自分の中で何が変わったと思います？

**シウバ** 多くの人に知られるようになったということと、シュート・ボクセがより尊敬されるようになったことかな。だから、このベルトをオレは永久に巻き続けるつもりだよ（笑）。

――では、結婚して、自分の中で何が変わったと思いますか？

**シウバ** ハハハハハハハ、何も変らないよ。オレの生活はとてもシンプルで、いつも前に進むだけだからね。

――新妻を紹介してください。どこで出会って、初めての印象はどうだったのか？　また、プロポーズはどこで、なんと言ったのか？　奥さんはどんな人？

**シウバ** 彼女はとてもインテリジェントでとても優しい人。オレたちはスポーツジムで出会ったんだ。出会った最初から恋に堕ち、オレは教会で彼女にプロポー

# （ミルコ戦は）体重さえ合わせてくれれば どんなルールでもオレは闘うだけ

ズしたよ。

―日本ではタレントの長谷川京子ちゃんが悲しがっていると思いますが、そんな京子ちゃんにメッセージを。

**シウバ** 今でもキョウコのことはプリティウーマンだと心で想っているよ（笑）。彼女に誰か良い人が見つかるといいな。

―さて、日本ではK―1 VS『プライド』の話題が出ていますが、それについてはどう思いますか？

**シウバ** 『プライド』がこれまでやってきたマッチメイクはとても素晴らしいことで多くのファンがついてきたんじゃないかな。だから、K―1と闘うことは本当に素晴らしいことだと思うね。

―ところで、シウバさんは『イノキ・ボンバイエ』を見ましたか？ もし見ていたらその感想をお聞かせください。

**シウバ** 残念ながら見てないんだよぉ。でも『イノキ・ボンバイエ』はとても素晴らしく、良い大会だったと聞いた。次回はオレもぜひ参加させてもらいたいね。

―では、K―1ファイターの中で、『プライド』に向いているのは誰だと思いますか？

**シウバ** K―1ファイター？ いやぁ、実はK―1の選手についてあまり詳しく知らないんだよぉ。だから誰が向いているというのは分からないな。

―シウバさん自身、K―1についてはどう思っていますか？

**シウバ** K―1は最高のムエタイ（ブラジルではキックもムエタイもK―1も総称してムエタイと言う）のイベントだね。立ち技では、やっぱりK―1が最高だと思うよ。

―じゃあ、K―1でどんな選手が好きかっていうのもない？

**シウバ** うん。本当にすまないけど、よく分からない。

―シウバさんはK―1ルールで闘ってみる気はありますか？

**シウバ** それについては、『プライド』のプロモーターと私のトレーナー兼マネージャーのフジマの判断次第だね。ただ、K―1はヘビー級だろ？ オレのためにミドル級を作ってくれたらチャンピオンになるよ（笑）。

―シュート・ボクセでK―1で活躍できる選手はいますか？

**シウバ** イエ～ス、ニルソン・デ・カストロが向いているよ。

―4月21日、広島で行われるK―1ジャパン大会で、子安選手と闘う選手ですね。

**シウバ** 勝ち負けは別として、ニルソンは我々シュート・ボクセで学んでいるものを見せられる選手だと断言できる。そのジャパニーズ・ファイターとはいい試合になると思うよ。そうそう、ニルソンは先日の「MECA6」でも相手をヒザ蹴りでKOしている。彼とアンデルソン・シウバ、エマニュエル・ダ・フォンセカ、カテウはスタンドの試合が得意だから、K―1には向いているよ。

―じゃあ、シュート・ボクセ以外の『プライド』の選手で、K―1ルールで対応できる選手は誰がいると思います？

**シウバ** 今回ニルソンと一緒に参加するシュルトなんかは良いんじゃないかな。でも、他は思いつかないね。

―それで、そのK―1との対抗戦で、K―1のエースとも言えるミルコ選手とシウバ選手の試合が決まりましたが、ミルコ選手の印象を詳しく教えてください。

**シウバ** 実は彼の試合はまったく見ていないんだよぉ。残念ながら、彼とミスター・タカダとの試合も見ていないんで分からない。

―ミルコVS藤田、ミルコVS髙田、ミルコVS永田は見てないんですか？

**シウバ** 見てない、見てない。だから、なんとも言えないけど、ミスター・フジタに勝ったのは驚きだね。バーリ・トゥードはホント何が起こるか分からないよぉ。

―シウバさん自身、ミルコ選手と闘うとなったら、どんな試合になると思いまか？

**シウバ** もちろん、もの凄く激しい打ち合いの試合になるだろうな。

―ミルコ選手の本職は警官で、しかもテロ対策の特殊部隊に所属しているんですが、それについてはどう思いますか？

**シウバ** べつにそんなのオレにとってはどうでもいいことだけど、ミルコにとっては良いことじゃないの。

―う～ん。では、ミルコ選手と試合をするなら、どんなルールがいいですか？ やっぱり『プライド』ルールがいいですか？

**シウバ** いや、体重だけ合わせてくれれば、ルールについてはまったく問題ない。どんなルールでもオレは闘うだけだから。

―シウバさんの一番得意な打撃で、K―1ファイターに対してどう闘おうと思ってますか？

**シウバ** オレは『プライド』ファイターだろうと、K―1ファイターであろうと、誰と闘う時でも同じスタイルで闘うだけだから。ミルコに対してもいつもと同じさ（笑）。殴りまくるだけだよ。

―ミルコ選手はシウバさんと対戦して「絶対に勝つ」「寝技でも勝つ」と言っているようですが、その発言についてはどうですか？

**シウバ** それはミルコにとっては良いことなんじゃないの。だが、ミルコには闘う相手が『プライド』のチャンピオンだということを忘れるなよ、とだけ忠告しておくよ。

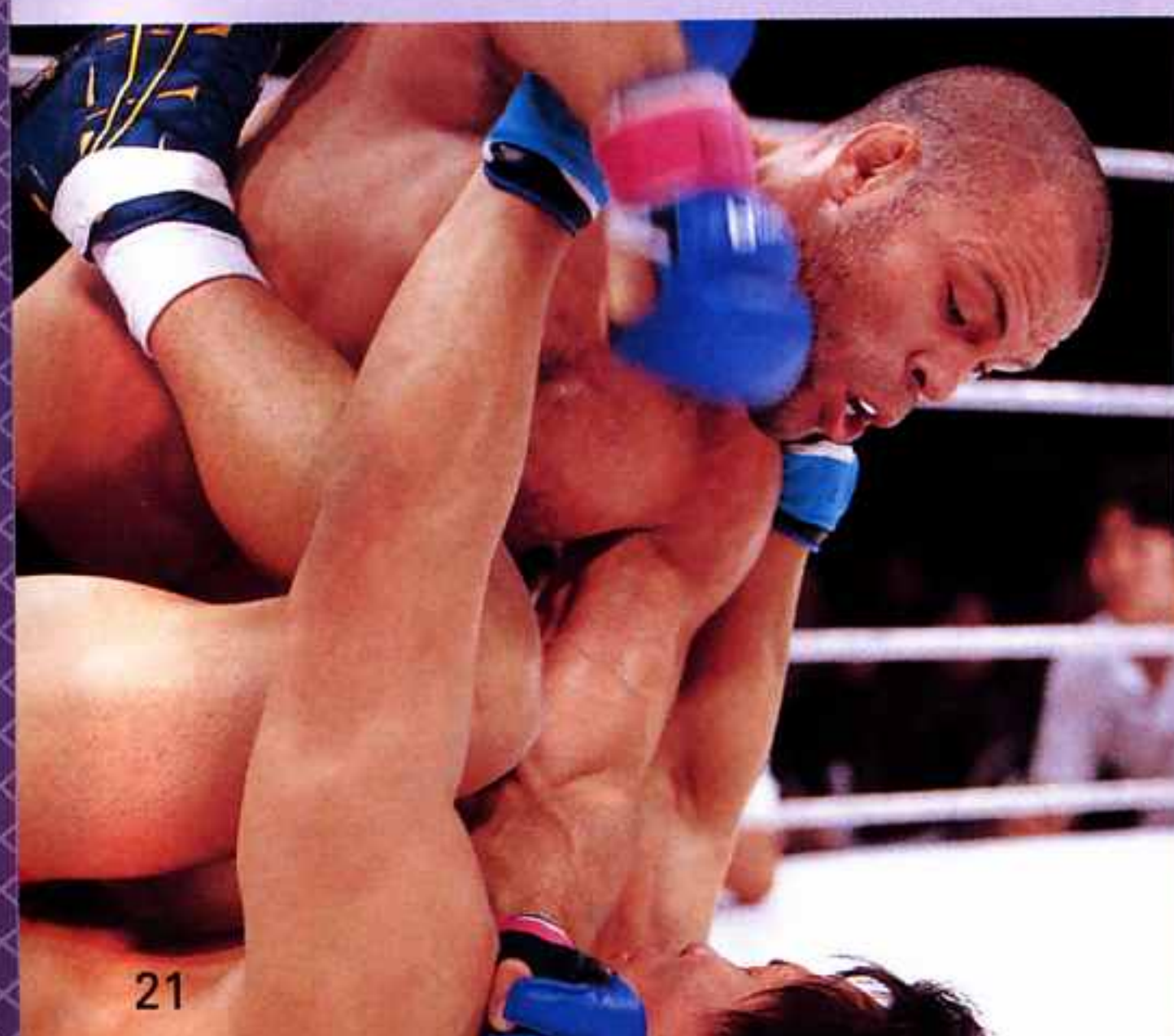
―逆にミルコ選手の得意技である打撃で勝負を挑んでみる気はありますか？

**シウバ** オレの試合を見たことあるよな？ これまで『プライド』でたくさん試合をしてきて、オレはいつも殴りまくってただろ？ だから、打撃戦については何も恐れるものはないさ。それが、たとえ相手がK―1ファイターだろうとね。

―では、ミルコ選手との試合は短期戦ですか？ それとも長期戦になると思いますか？

**シウバ** オレは短い時間で決着が付くと思う。

―では最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

**シウバ** オレは日本と日本のファンがとても大好きなんだ。だから日本のファンにもっともっとオレのノックアウトシーンを見せたいと思っているよ。まあ、楽しみにしててくれ！ オブリガード（ありがとう）！ ■

◀鬼のような形相でミルコを攻め込む場面が見られるか？

# 師ジョン・ブルミンが語る 大巨人セーム・シュルトの強さとは？

**格闘技王国オランダの創始者にして、4・21 K-1ジャパン広島大会で武蔵と対戦するセーム・シュルトの師ジョン・ブルミン。この無敵の大巨人の強さをブルミンに聞いてみた。**

聞き手◎
遠藤文康 BUNKO ENDO

セーム・シュルトのK—1参戦に伴い、極真武道会創始者のジョン・ブルミン氏を直撃した。言うまでもなくブルミン氏は極真空手を1960年代にヨーロッパに持ち込んだ当事者だ。コミック『空手バカ一代』では芦原英幸との壮絶な激闘が描かれているが、実際には『私は闘っていないよ』と本人は笑って否定している。つまりコミックでの激闘は想像上のことに過ぎない。欧州極真空手の創始者として当初は組織展開に尽力したが、内部的な政治的軋轢が勃発。

1972年に極真そのものからは手を引いた形のブルミン氏だ。だが多くのオランダ人格闘家の要望に応えて改めて『極真武道会』という組織を1980年に発足。現在に至っている。加盟道場は160。その範囲は全世界に及んでおり、ブルミン氏は組織の終生会長に就任している。元気一杯の70歳だ。

——先生、お元気ですか？

**ブルミン** ああ、私は元気だよ。2年前に心臓が麻痺して止まってしまったけど養生して治したよ。心臓が止まっていたと後で聞いたときは私もビックリしたよ。ハハハハハ。

——覚えています。私もドールマンさんから聞いて驚きました。もう健康は大丈夫ですか？

**ブルミン** 誰でも年を取ればあちこち悪くなる。あの黒崎先生もきっとどこか悪い所がいろいろとあると思うよ（笑）。尊敬する黒崎先生には長生きしてもらいたいねえ。

——ところで、極真武道会の目的はなんなのですか？

**ブルミン** オールラウンドの闘いができる選手を育成することが目的なのだよ。大道塾のような感じだよ。すでにセームが2回大道塾を制覇しているしね。極真から手を引いて立ち上げたのが極真武道会だけれども、発足のきっかけはオランダ海軍からの依頼だったんだよ。そこに所属する柔道選手から空手を習いたいという要望があったので立ち上げたわけさ。基本モットーは『ノーポリティクス、ノーレイシズム、ノーディスクリミネーション』だ。（政治的動き厳禁・人種差別厳禁・あらゆる差別厳禁）

——納得です。先生ご自身は道場を持ってないんですよね？

**ブルミン** （笑）おいおい、私はもう70歳だよ。道場を構えてどうだこうだなんてもうできないよ。組織の名誉会長としてシンボルのような存在でいるんだよ。でも加盟している道場は160あるのだよ。全世界にメンバーがいる。毎月あちらこちらの国の道場から呼ばれて出向いていくので相変わらず多忙だよ。そのうち心臓がまた止まるかもしれないよ、ワハハハ。

——それだけ元気でしたら、大丈夫そうです。

**ブルミン** そうかい。ワハハハ。

——先月はゴルドー主催の毎年恒例のオープンヨーロッパ空手選手権にゲストとして参加していましたよね。

**ブルミン** そうだよ。ゴルドーも極真武道会のメンバーなんだよ。

——彼は大山空手じゃなかったですか？

**ブルミン** そうだよ。両方に所属しているんだよ。ゴルドーも私の生徒さんなんだよ（笑）。

日本語が上手なブルミン氏は日本語で話せば日本語で英語で話せば英語で、オランダ語にはオランダ語で相手に合わせて話をしてくれる。今まで何度となく話を聞いてきた。ボケてはいないのだけれども、過去にやってきたいろいろなことが、人のやったことも自分がやったことのように思い込んでいる節が時々ある。記憶が混同しているのだ。逆に自分がしてきたことでも他人がやったことになっている場合もある。空手やキックの道を通るオランダ人格闘家の全てが言ってみればブルミン氏の生徒・孫生徒・曾孫生徒にあたるわけで、誰彼なく「彼は私の生徒さん。あの選手も私の生徒さん」と言うのが口癖になっている。実際そのとおりなのだが、現役のオランダ人選手にとっては閉口することもあるようだ。ただしそんなことを語っているブルミン氏の様子を見ていると、自慢話をしているのを聞いていても何だかかわいいお爺ちゃんという印象がしてくる。

**ブルミン** 私はメンバーにアドバイスするだけ。頼ってくれば相談に乗るという立場さ。一番近い弟子がドールマンだよ。彼はずっと変わらない。これからも変わることはないだろう。

——そうですか。ところで先生の弟子の一人にあたるセーム・シュルトですが、今回K—1参戦となりました。

**ブルミン** 聞いているよ。いいことだと思うよ。

——シュルトの強い点というのは先生から見てなんでしょうか？

**ブルミン** セームか？ 彼はほぼ完璧だよ。極真武道会の目標であるオールラウ

ンドの闘いを、彼はきちんと実践し実際

セームに何も問題はないだろう。全然大

**ブルミン** いいことじゃないか（笑）。ア

ならそれはそれでいいではないか。打撃

# セームがなぜ強いかと言ったら、『心』だよ

ンドの闘いを、彼はきちんと実践し実際にできている。彼に問題点は見当たらないよ。

——何がシュルトの一番の長所でしょうか？

**ブルミン**　まず彼の性格がいい。それとパワーもある。打撃力。インパクト。破壊力は抜群だ。寝技もぐんぐん伸びてきている。ヒザ蹴りは文句ない。彼には『心』がある。『心』が一番大事だ。

——『心』といいますと？

**ブルミン**　心は心だ。誠実な姿勢だ。それがセームにはある。いつも変わらない。空手家にとって、格闘家にとって、人間にとって一番大切な要素が心だ。心は魂だ。それが無い者は強くてもダメだ。心が一番重要なのだよ。

——シュルトはキックの経験がありません。

**ブルミン**　K―1はキックだったねえ。ムエタイじゃないキックだ。クリンチが駄目なのかな？　打撃だけの勝負だねえ。セームに何も問題はないだろう。全然大丈夫だよ。

——シュルトの欠点なんて先生から見てありますか？

**ブルミン**　シュルトの欠点はないように思う。日々成長しているようだし、私から見て彼は絶えず完成を目指して努力している。今回のK―1参戦も彼の実力を示すいい機会だ。問題はないだろう。

——では、K―1参戦にあたってシュルトはどういう練習をしなければならないと思いますか？

**ブルミン**　タックルや寝技がない勝負だ。打撃の勝負だ。私はシュルトはボクシング中心の練習を重ねて参戦すればいいと思っている。パワーと蹴りに関してはまったく問題がないのだからもう少しボクシング技術を磨いて参戦すればそれでいいのではないかと思う。まったく問題ないよ。大丈夫だよ。

——シュルトの参戦で多くの人が想像を膨らませているようです。

**ブルミン**　いいことじゃないか（笑）。アーツもケガをしてからどうも今ひとつ良くない状態が続いている。ホーストもそろそろ年齢的に厳しい頃になってきた。新しい世代の一人としてセームがK―1に参戦することはK―1にとってもいいことだと私は思うよ。セームなら優勝も不思議じゃないと思うよ。

——フィリォとシュルトの試合実現もあり得ます。

**ブルミン**　いいことではないか。いい試合になるだろう。どちらも極真の空手魂で試合をすればいいのだよ。いい闘いをすればいいのだよ。セームは強いよ。私の弟子のヨンケルスが育てた選手だ。セームは私の孫弟子にあたる。成長する姿を見るのは楽しいことだよ（笑）。

——シュルトは基本的には総合の試合が好きなようです。

**ブルミン**　そうだよ。トータルな闘いが目標なのだよ。極真武道会の目標なのだから。だけどK―1に出る機会があるのならそれはそれでいいではないか。打撃だけの実力を大道塾だけじゃなく、別の場所で発揮してもいいではないか。セームに何も問題はないよ。私はセームが勝つと思っているよ。

——分かりました。先生の意見として掲載させていただきます。

**ブルミン**　ああ、どうぞ。今度家に遊びに来なさい。コーヒーでも飲みながらゆっくり話をしよう。今日はありがとう。

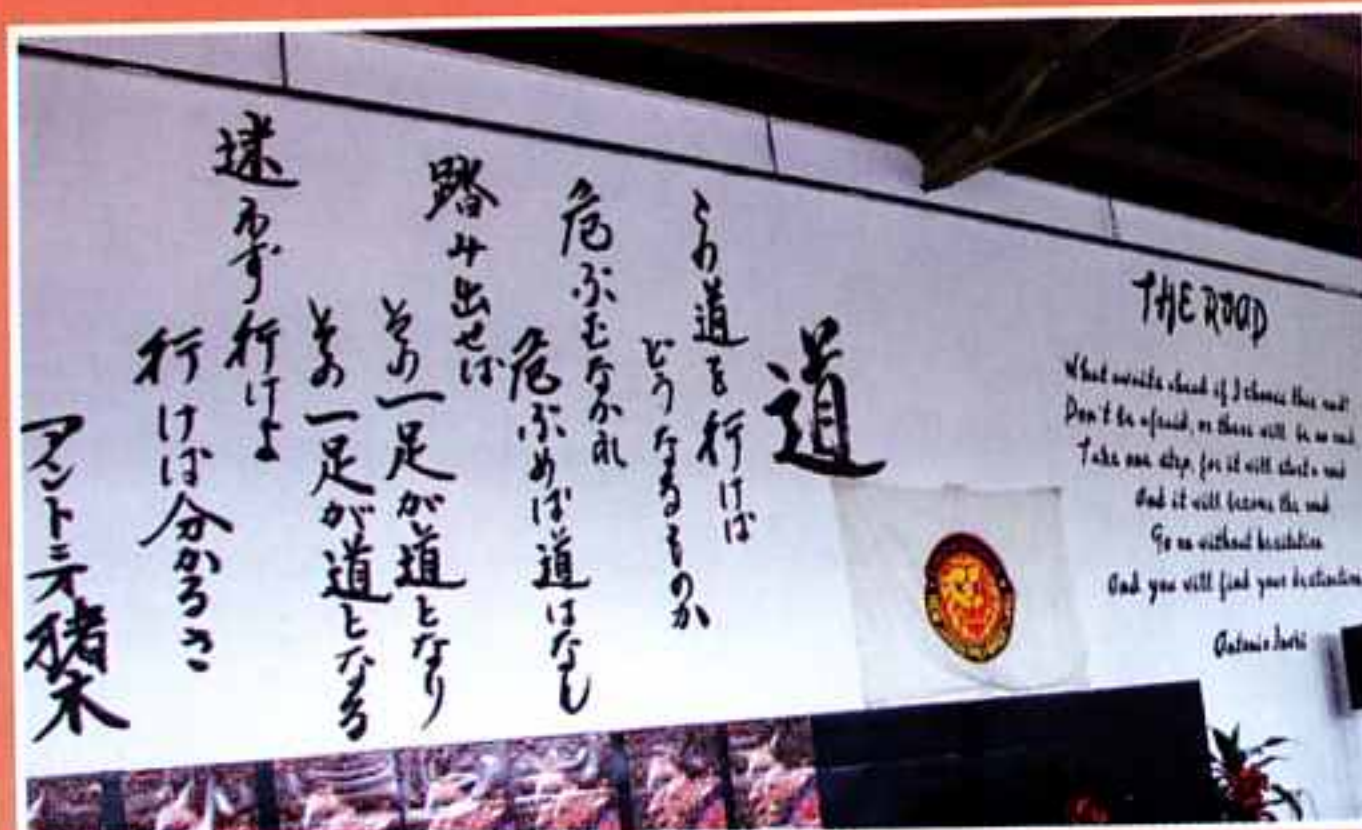
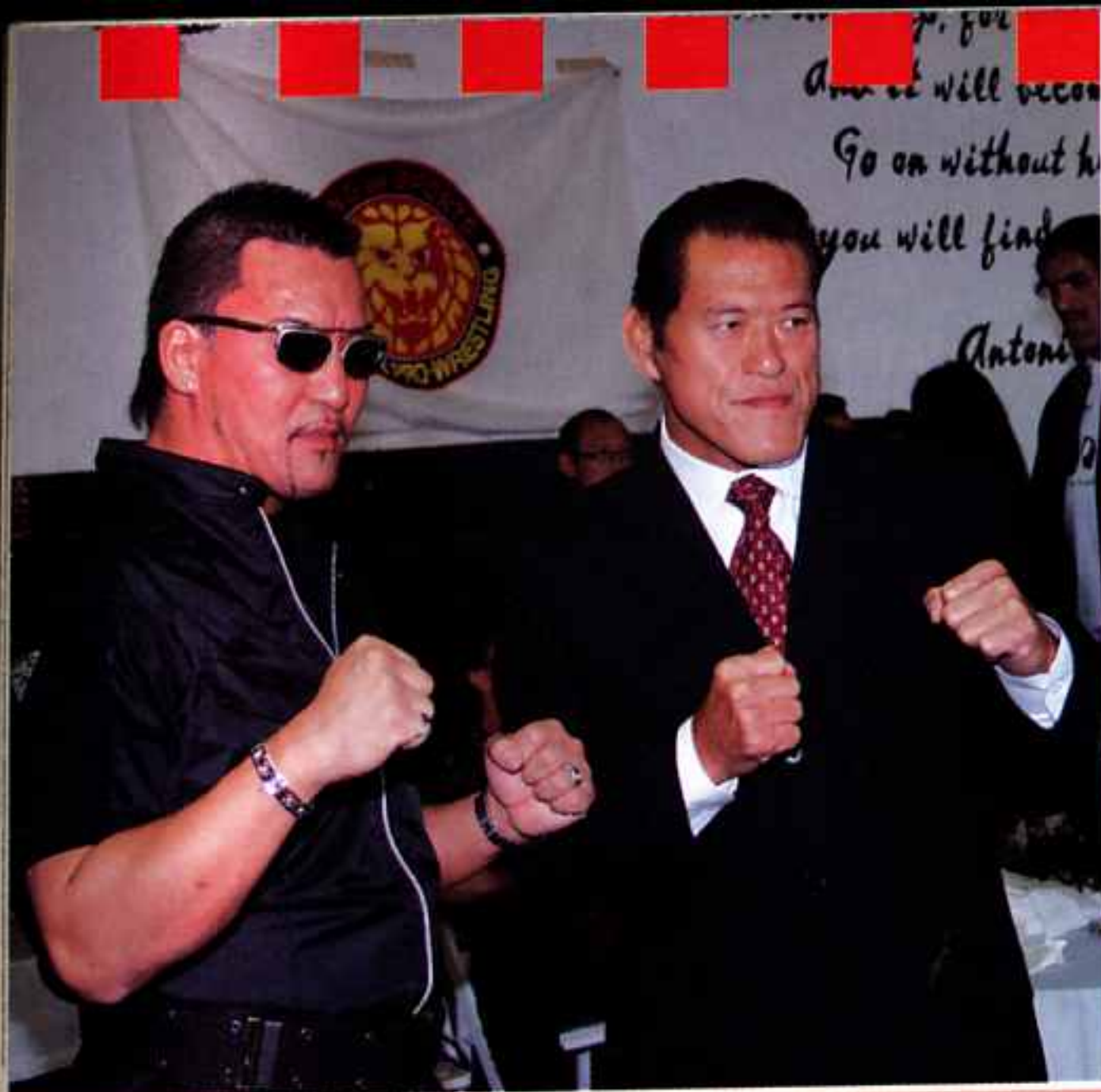
——いえいえ、こちらこそありがとうございます。健康にくれぐれも留意してください。

**ブルミン**　ありがとう。じゃあまた。

自分の孫弟子がK―1に参戦する。しかし何の危惧も抱いていないブルミン氏だ。ちょっとコーヒーでも、と招かれたのでさっそく訪問してみようと思う。70歳にして世界を飛び回る熱い爺さんだ。そうそう、ブルミン氏は自身と極真の歴史をまとめた写真集書籍を完成させ発刊した。値段は一冊3000円。秘蔵写真も満載だ。入手希望の方はSRS・DX編集部まで問い合わせを。■

# アントニオ猪木の夢の発信基地ロス道場が完成！

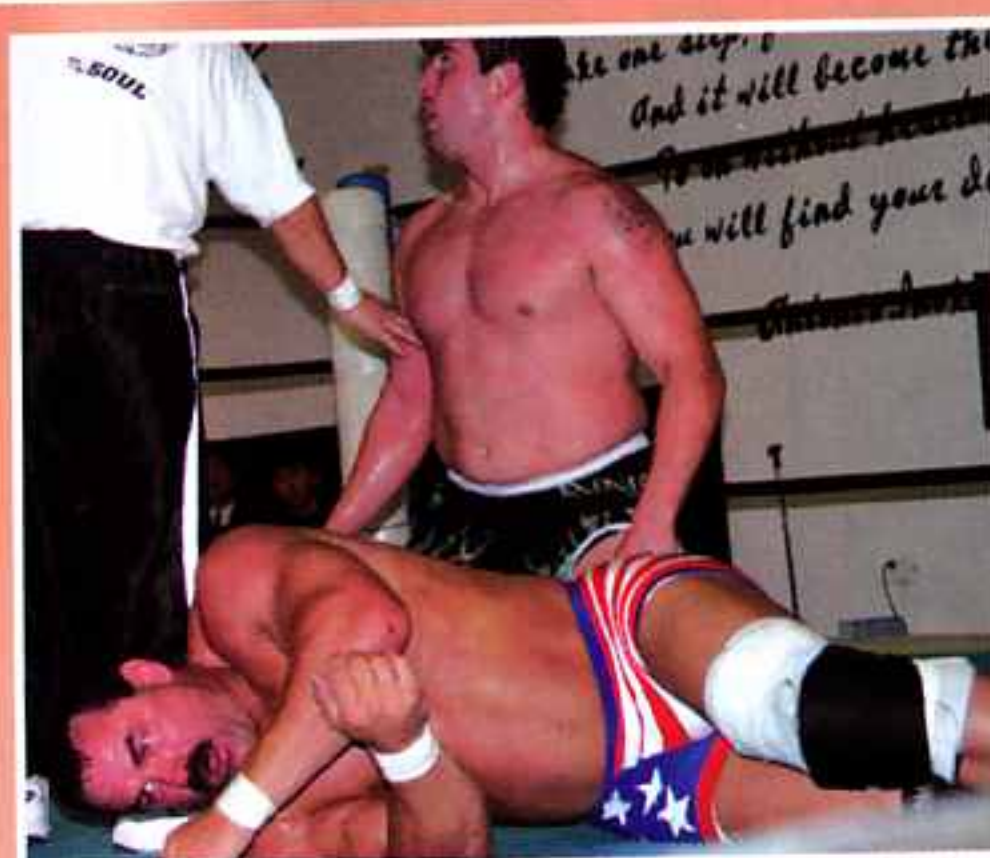
4月1日（現時時間）、遂にアントニオ猪木の悲願でもあった新日本プロレスのロス道場がオープンした。道場開きには日本からも新日本プロレスのレスラーが多数参加して、オープニングに華を添えた。セレモニーで「元気ですかぁぁぁぁぁぁ～！　日本の道場を旗揚げした30年前のことを思い出しました。今は、海外へ出ていくというチャンスがなくなってしまい、旅をして修行し、国際的なレスラーとして成長していったことができなくなってきています。世界と交わることによって成長していかなければならないのです。そういった意味でここに道場を開いたことには意義があります。世界に発信できる新日本プロレス、30周年を境に世界に歩みだして行きます」と猪木が挨拶。さらに、テープカット、鏡割り、エキシビションマッチなどが行われ、最後は藤波社長が「猪木会長が前々から言われていた新日本プロレス・ロサンゼルス道場がやっとオープンする運びとなりました。この道場が日本のマット界を大きく変えていくと思います。今後もよろしくお願いします」と挨拶して道場開きは終了した。

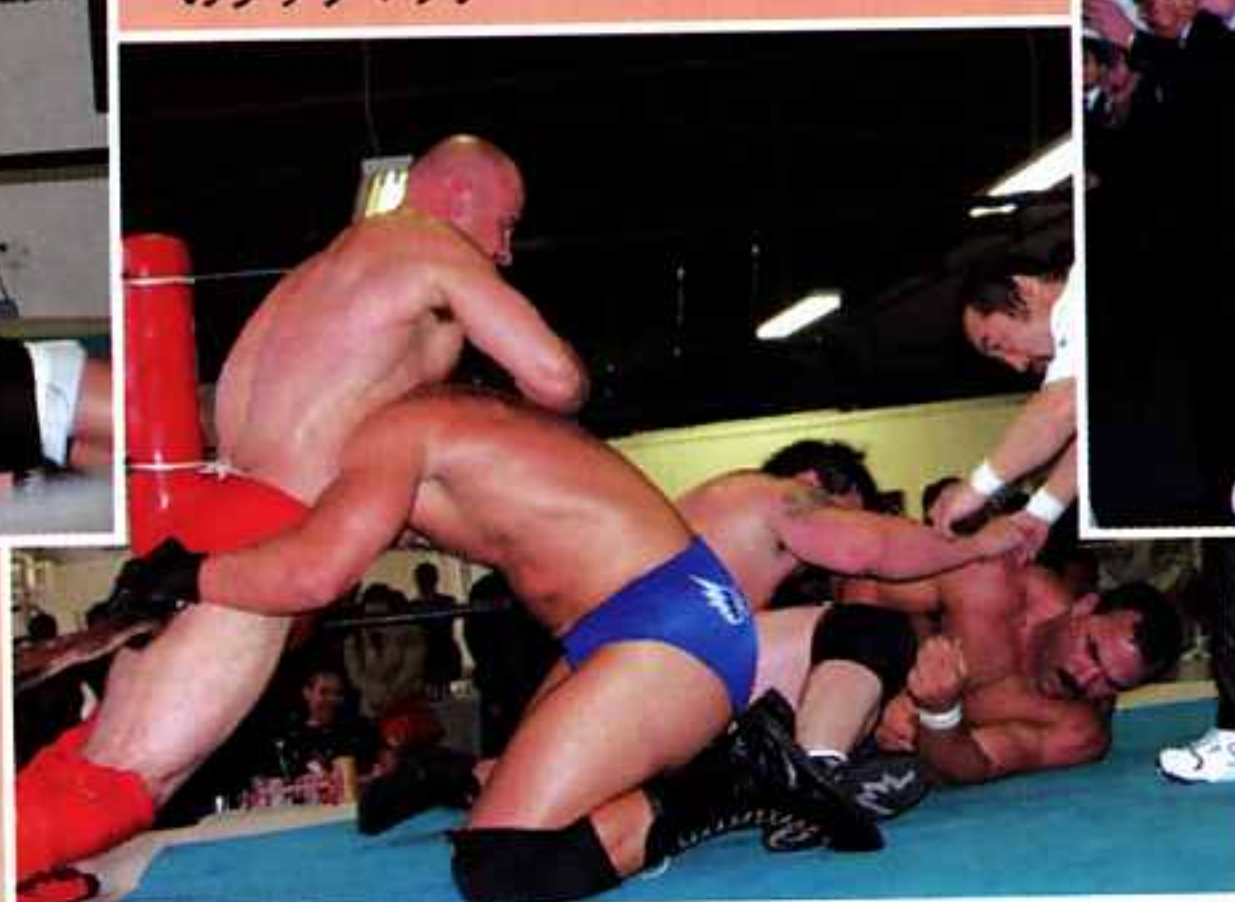
取材協力◎川嶋達也
Lighthouse

▲ロス道場には「道」の日本語バージョンと英語バージョンがある

◀現場責任者となった蝶野と猪木。「ロスは猪木さんが最初にアメリカに来て修行した場で、深い思い出があるんでね。アメリカは世界のトップのマーケットですから、いろんなものを学んで交流できれば、いい刺激になると思いますよ」と蝶野

▲坂口会長、藤波社長も揃ってテープカット

▼エキシビションの一つとして行われたドン・フライ＆ダン・デバインVSバス・ルッテン＆ジャスティン・マッコーリーのタッグマッチ

▲ナシャーッと鏡割り！

◀道場の発展を願って乾杯！

▲エキシビションマッチに出場するなど、ロス道場ができて張り切っているフライは、道場開きの翌日に行われた合同練習に遅刻した安田に激怒。大乱闘となったが、この一件が発端となり5・2東京ドーム大会での一騎打ちが実現濃厚と噂されている

## 愛だとか、勇気、正義といった熱いメッセージを届けるぞっ！
## 新日本戦士コメント集

▲「新日本プロレスの選手として、ますます多くの人々に、愛だとか、勇気、正義といった熱いメッセージを届けたいです」（西村修）

▲「プロレスにかかわらずいろんなジャンルの人に来てもらって、格闘技を軸にして交流を深めたいです」（天山広吉）

▲「LAは友達もいてよく来ますので、町で見かけたら声を掛けてください」（佐々木健介）

「この世界に入って35年になるけど、最初はロサンゼルスで修行してね。年に何回も来ますし、知人も多いし、アメリカで一番親しみのある街。ロサンゼルスの皆さんにも新日本プロレスを一度見ていただきたいですね」（坂口征二会長）

「アメリカは選手、人材の宝庫です。日本だけでなく、アメリカの選手を育てて日本に送り込もう、マット界を全部制圧するつもりでね。このロサンゼルス道場を一つの起点にしたいですね。応援よろしくお願いします」（藤波辰爾社長）

「ロサンゼルスに道場ができて、これから僕らもドンドン来ることになり、皆さんの前で元気な試合を見せられることを楽しみにしています」（永田裕志）

「道場に来て元気を入れ直して、また新しい生活をエンジョイしてください」（獣神サンダーライガー）

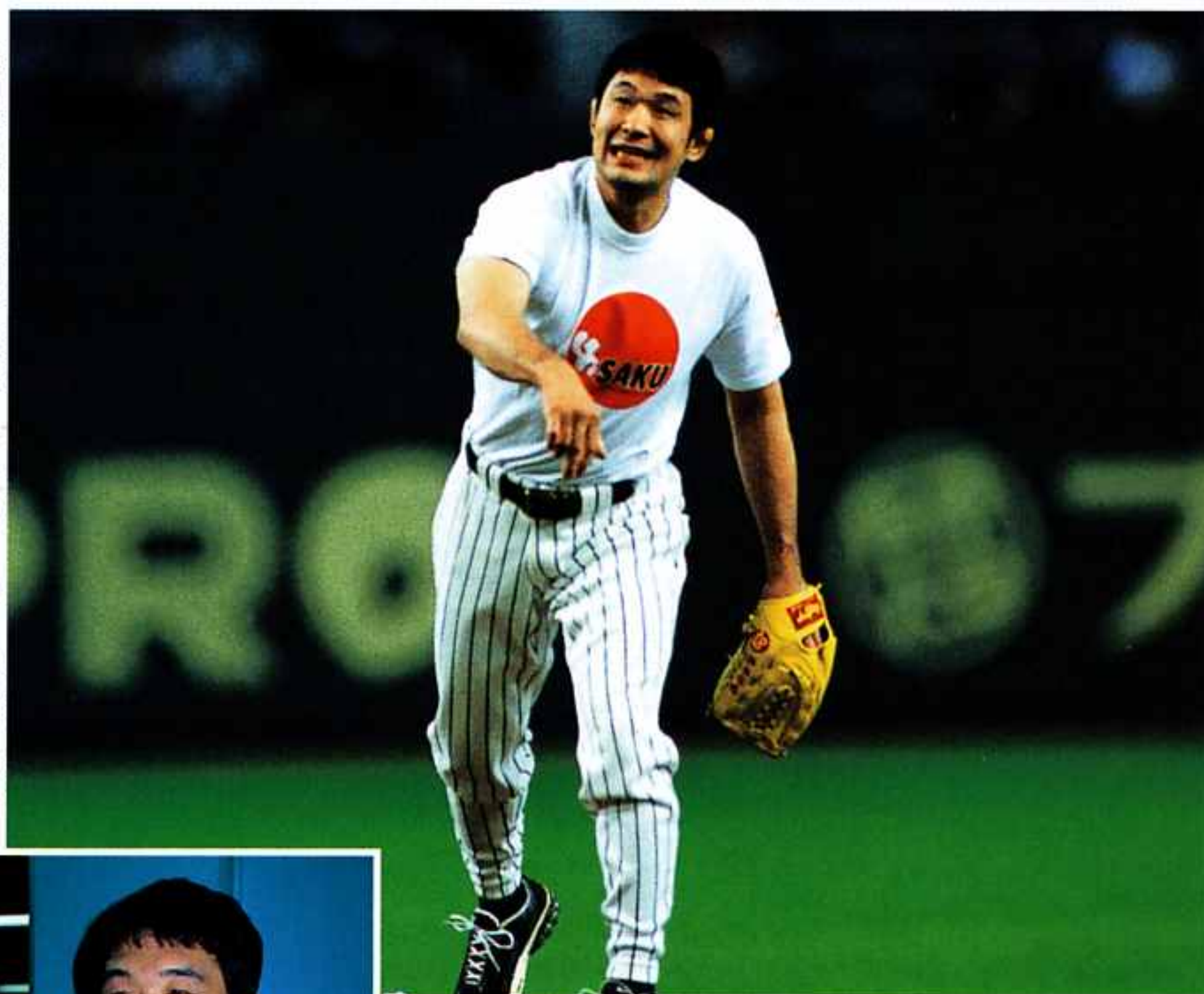
「ロサンゼルスに新日本プロレスの道場ができて、ここを中心にドンドン活気づいてきてくれると思います」（中西学）

「新日本プロレス共々、よろしくお願いします」（棚橋弘至＆柴田勝頼）

## 4・5東京武道館大会で激突した安田と永田は……？

道場開きでは4・5東京武道館大会でIWGP選手権を行ったチャンピオン・安田忠夫とチャレンジャー・永田裕志も参加。「大きな舞台で負けてきているので、これがラストチャンスだと思って、とにかく必ず勝ちます。チャンピオンの攻略法も頭に入ってます。僕の執念を感じていただければ……」と永田。これに対して受けて立つ安田は「藤田選手と闘うまでこのベルトはずっと守り続けます。2年前に小川に負けたリベンジはベルトを持ってればできますから」と永田はまったく眼中にないともとれる発言をした。だが、試合はナガタロックⅡで永田の勝利。安田は2度目の防衛に失敗した。念願のIWGP王者となった永田だが、喜びもつかの間、この試合を観客席で観戦していた高山善廣がリングに乱入し、挨拶代わりのジャーマンを永田に浴びせると5・2東京ドーム大会での対戦を要求。しかも、いきなりIWGP王座挑戦表明の大胆な行動に出た。その後、新日本内部で協議の結果、永田VS高山のIWGP選手権が正式決定。新日本プロレス30周年を祝う大会のメインは永田VS高山戦となった。

NEWS TOPICS

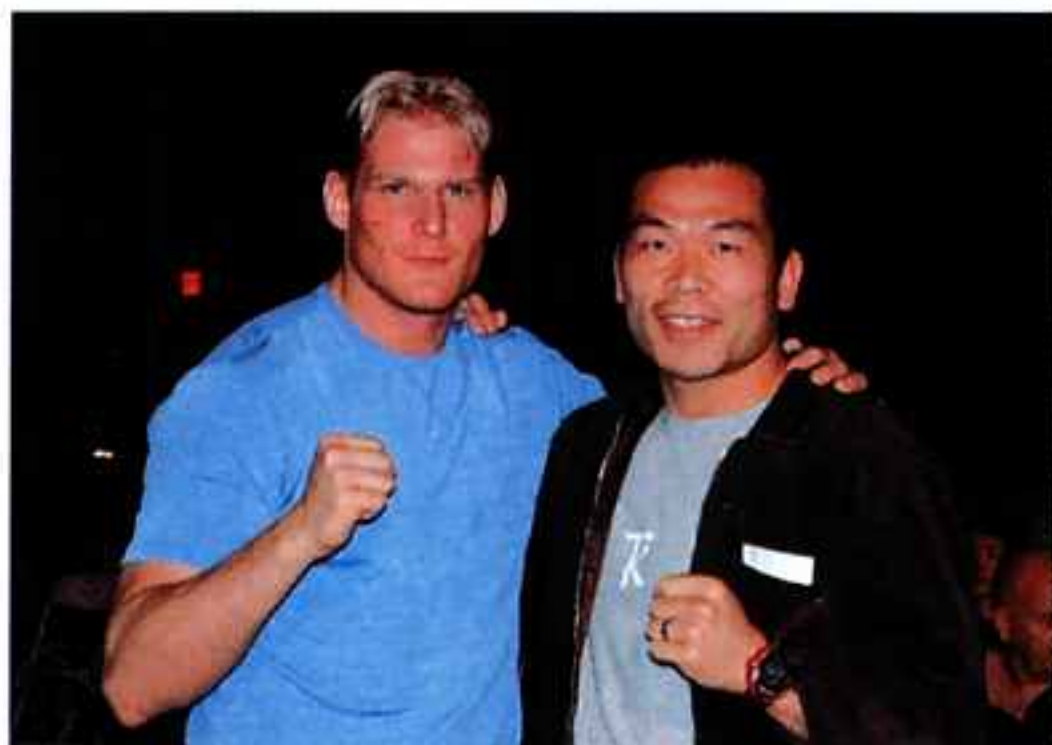
# 元気ですよ～！ 8月復帰に向け 4月2日始球式で 桜庭ワールド早くも全開！

▶お馴染みの入場曲で東京ドームに姿を現した桜庭。「練習なしのぶっつけ本番でした」（桜庭）

▲マウンド上で得意の毒霧。去年11月にKO負けを喫した場所だけにいいお清めになった？

◀「バッターにぶつけなくてよかったです（笑）」と始球式後、ニコニコ顔の桜庭

桜庭和志が5カ月ぶりに東京ドームに姿を現した！ といっても、この日はいつものスパッツではなくユニホーム姿。4月2日（火）に行われた、日本ハム―オリックス戦の始球式を務めたのだ。『プライド18』のシウバ戦で左肩を負傷した桜庭。その後、手術に踏み切るなど長期欠場に追い込まれた。しかし今年に入り、下半身中心のウェイトトレーニングを開始するなど、回復も順調の様子。3月には、スパーリングも再開している。まだ若干左肩を気づかう場面が見られるが、徐々に肩の筋肉を取り戻しつつ、今後は立ち技の練習も開始したいと桜庭。この日の始球式でも外角高めギリギリのストライクを決め、負傷箇所に問題のないところをアピールした。気になる復帰戦の時期だが、「夏くらいに復帰したいですね」（桜庭）とすでに青写真も完成。戦列を離れている間に奪われた主役の座を取り戻すべく、この夏、いよいよ『プライド』のエースがリングに帰ってくる！■

# UFCの翌日、ベガスでキック大会。超豪華メンバーの中にM（マンソン）・ギブソンが！

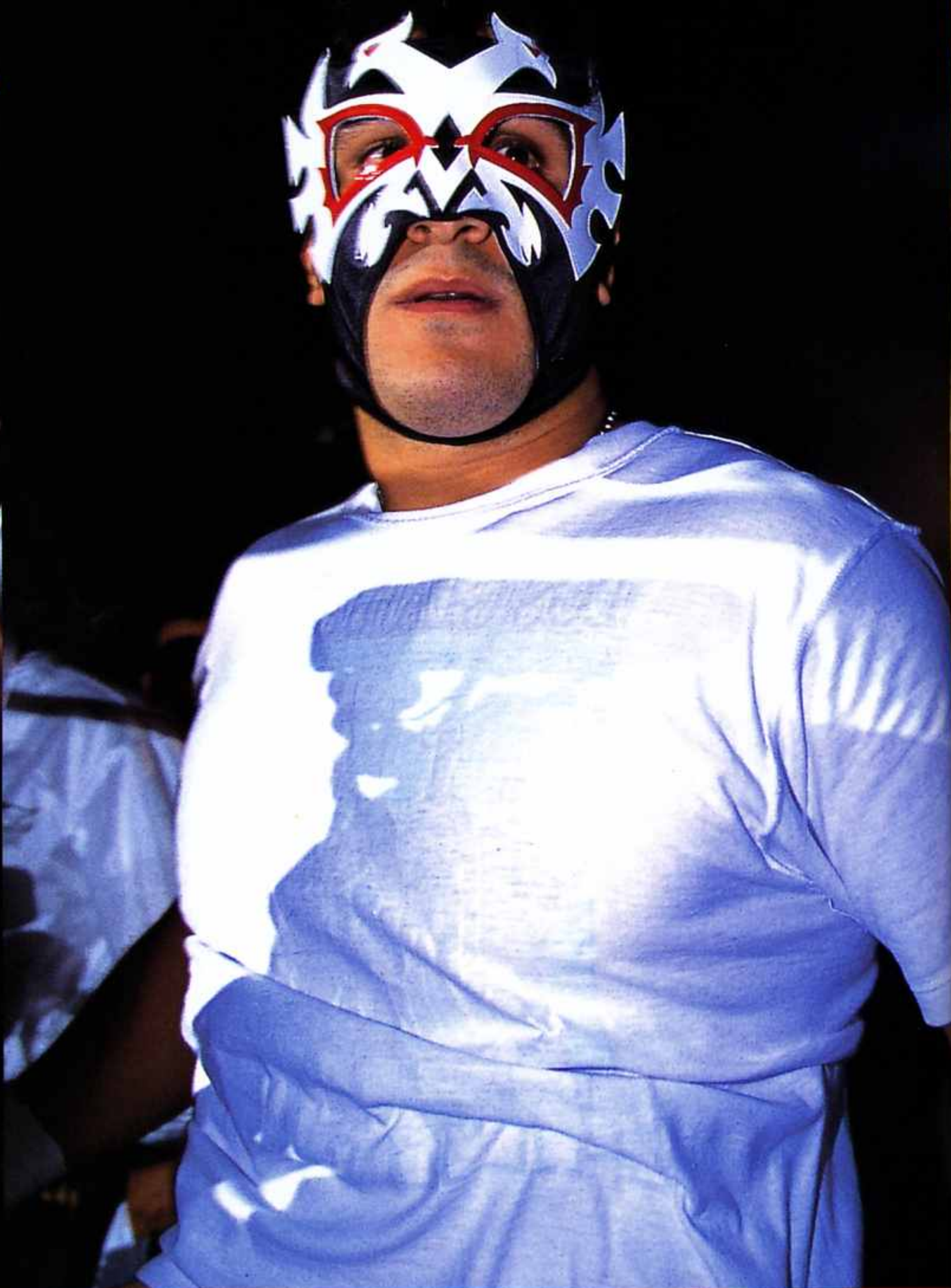
協力◎川崎"ブッカーK"浩市

◀前日のUFCでヘビー級王者となったジョシュ・バーネットとTKも大会を観戦。レイ・セフォーも顔を見せていた

『UFC36』の翌日、ラスベガスではキックの興行も開催されていた。『バトル・オブ・ワールドチャンピオンズ』という大会名どおり、世界各国から選手が参戦し、ムエタイとの対抗戦を繰り広げたわけだが、とにかく参加選手の豪華なこと！ オーストラリアからはジョン・ウェインとダニエル・ドーソン、アメリカのメルチョー・メノーにキット・コープと『K―1ワールドMAX』に出てきてもおかしくない顔ぶれ。試合ではKO賞だけでなく『ヒジ打ち賞』も設けられるなど、必然的に試合が盛り上がるように計算されたイベントだった。そして最も驚かされたのが、あのマンソン・ギブソンの登場。90年代前半、SBやK―1などで旋風を巻き起こした"人間風車"が、40歳を越えた今も試合をしていたとは……。ぜひ、日本でもその勇姿をもう一度見てみたいものである。■

▲キック界でここ数年、飛躍的進歩を見せているオーストラリアの代表選手がジョン・ウェイン。ロットン・ウォー・ターキアットとの一進一退の攻防を制して判定勝ち

▲『コロシアム2000』で魔裟斗と闘ったこともあるアメリカの強豪メルチョー・メノーはムエタイ戦士・ターボのヒジで出血して判定負けとなった

▲大会には、あの懐かしのマンソン・ギブソンも登場！ もう40代だそうだ。往年の華麗な回転蹴り連発も見られたが、さすがに判定負け（相手はカナダのニック・カラ）

DEEP 2001 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

またも奇跡的な盛り上がりだったDEEP2001
そこで本誌からの問いかけです

# 謙吾のリベンジとルチャ幻想
# あなたが見たかったのはどっち!?

# 勝ったのは謙吾、されど強かったのはドスJr!



この見事なジャーマンはどうだ!

**Q** 設問：謙吾VSドス・カラスJr戦で、あなたは何を見たかった？

**A**
1. 謙吾のリベンジだったから、最高の結末だ!
2. ドスJrの返り討ちだったから、最悪の結末だ!
3. 勝ち負けには関係なく、とにかく未完の大器・謙吾の潜在能力!
4. 勝ち負けには関係なく、とにかくドスJrのジャベ!
5. 何も期待してなかった!

試合開始直後、謙吾の右ストレートを浴びて腰が落ちたドスJrだが、ひるまずに突進。タックルで押し込み、なんとジャーマンを決めた!

ひょっとして、DEEPの佐伯代表って日本屈指の名プロデューサーなんじゃないだろうか？

そう思ってしまうくらい、今回のDEEP名古屋大会も面白かった。日本VSルチャの5対5マッチという奇抜なアイディアを本当に実現させ、しかもそれがメチャクチャ盛り上がったのだからたまらない。

メインの謙吾VSドス・カラスJr戦に対する感想が、見た人それぞれで違っていたのも面白かった。「最後がダメだよな～」と言う人もいれば、「やっぱりメインが良かったよね」と言う人もいて。それだけ考えがい、語りがいのある興行だったってことだ。

そこで今回『Webゴング』式に問いかけを作ってみた。僕らが謙吾とドスJrの試合で見たかったのは、いったいなんだったんだろうか？

まずは①の『謙吾のリベンジだったから、最高の結末だ！』という人は多いだろう。パンクラスのファンはもちろん、格闘技マニアとして「プロレスラーにいきなり出てきて勝たれちゃ困る。ガチンコはそんなに甘くない！」って考えの人もいるだろうし。

逆に②の『ドスJrの返り討ちだったから、最悪の結末だ！』と考える人の気持ちも分かる。プロレスの中でも特にエンターテインメント色が高いと思われていたルチャ。それが実はレスリングのベースとセメントを重視していて、バーリ・トゥードの専門家に勝ってしまうなんて痛快すぎるというものだ。それにDEEPの主役は、あくまでルチャ勢なんだし。

DEEP 2001 **4th IMPACT in Nagoya**
3.30★愛知県体育館

# これはもう"幻想"じゃない ドスJrの実力はホンモノだった！

▼取っ組み合いからロープに詰めて殴る！

不十分な体勢になった謙吾にヒザを放つ。とにかくルチャ勢には恐ろしい程のアグレッシブさがあった

▲ドスJrはマスクを被ったラウンドガールの先導で入場

コーナーを背負ってもアッパーを打っていったドスJr。試合後、ブレイクのタイミングに怒っていたようだ

◀バックを取ってパンチ！身体能力やレスリングの局面ではドスJrが謙吾を押しまくっていた

▶勝った直後の謙吾。疲れのせいかダメージか、思わず崩れ落ちてしまった

バックを取られた謙吾だが、体を回転させて上になり、最後はスリーパーでタップさせる。押され気味の展開だったが、執念で勝利をもぎ取った

▶リベンジを果たした謙吾は、ラウンドガールの腰に手を回したりしてご満悦

★第12試合/日本選抜VTチームVSルチャVT軍団・第5戦（5分3R）
○ **謙吾（2R3分56秒、スリーパーホールド）ドス・カラスJr** ●
＜パンクラスism＞ ＜AAA＞

③は『勝ち負けには関係なく、とにかく未完の大器・謙吾の潜在能力！』。鳴り物入りでデビューしてから3年以上たっているのに、謙吾はルッテンとのデビュー戦以外「これは」という試合をしていないからね。

④『勝ち負けには関係なく、とにかくドスJrのジャベ！』。これもいい！　ルチャ勢が強いっていうのはたしかに痛快だけど、アスリート的な強さよりももっと豪快な、たとえばフライングクロスチョップやロメロスペシャルを決めてくれないだろうかという妄想がどっかであるのだ。

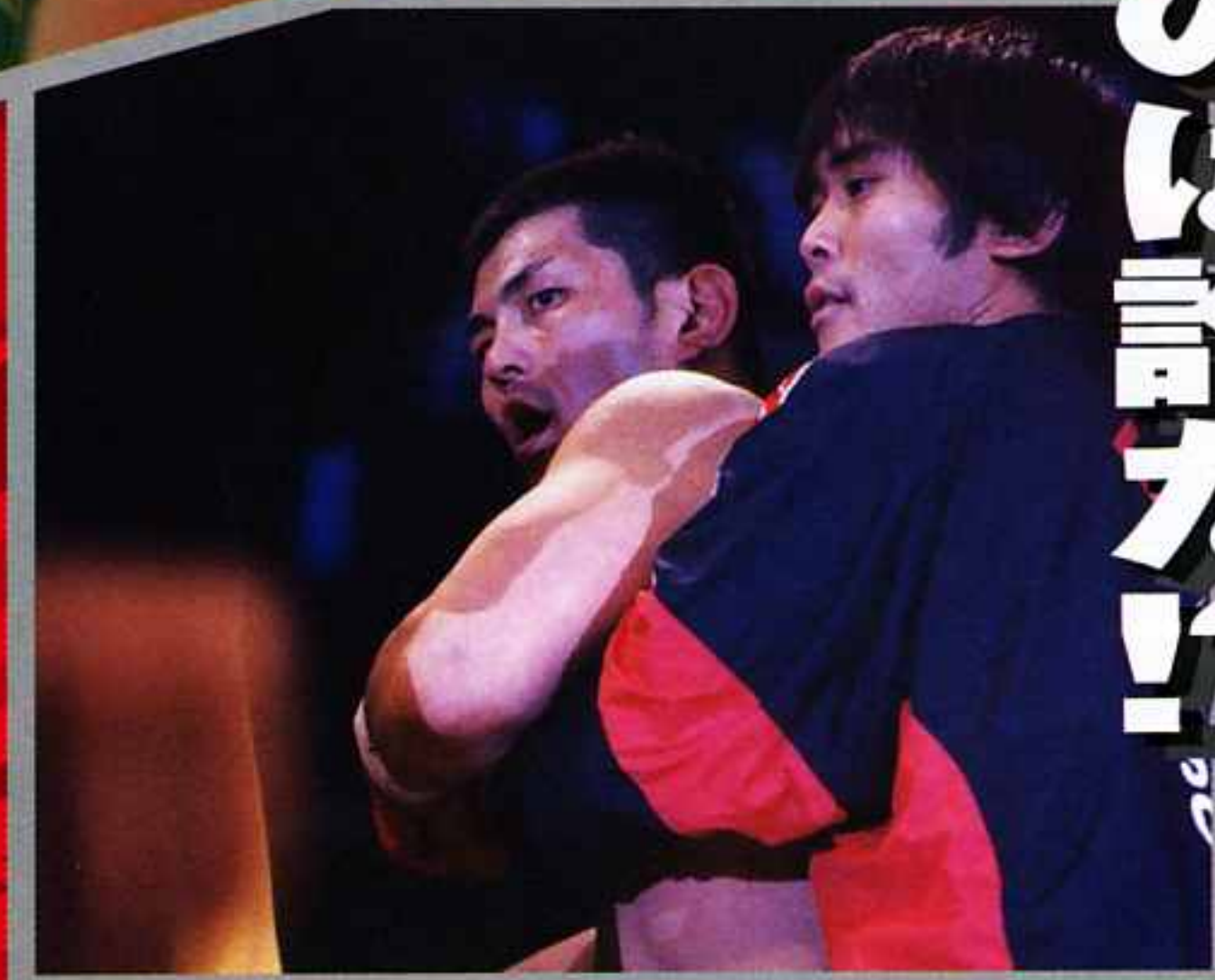
実際の試合では、勝ったのは謙吾だった。見事なリベンジ達成である。だがドスJrも、その強さ、能力の高さを存分に見せてくれた。なにしろ謙吾を完璧なジャーマンで投げきったのだ。前回の対戦がフロックじゃなかったばかりか、ドスJrはごく真っ当な意味で"いい選手"だった。そして試合そのものも、荒削りではあるけれども"いい試合"だった。

ちなみに設問に対するボクの答えは……。謙吾には悪いけど②だ。③や④も気持ちとしてあるし、謙吾が勝ってホッとしたけど（これで負けたらマジで廃業の危機だった）、究極的に見たかったのはドスJrの勝利。ルチャドールをVTのリングに上げてしまうような、いい意味でのデタラメさがDEEPの魅力なんだから、その舞台の結末にふさわしいのはドス親子の大ガッツポーズだったんじゃないかと思うのだ。

あなたは今回の結末、どう思いましたか？

（橋本）

# Q ソラールの金的蹴りに、みのる大激怒！ 乱闘騒ぎを誘発したのは誰だ!?

▲▼▶試合はソラールが2度の金的蹴り（ヒザ）で反則負けに。だがそこからが大変だった。ルチャ側の態度に激怒したパンクラス側の伊藤、美濃輪らが相手コーナーに詰め寄って大騒動に！

▲怒りが収まらないみのるを、渋谷が制止。これがホントに"格闘技"大会の光景か！？

**Q 設問：乱闘騒ぎにまでなった鈴木みのるVSソラール戦。この騒動を誘発したのは誰？**

**A**
1. 勝てないと感じて反則に逃げたソラール！
2. 勝った負けたで収まらない、プロレスラーらしさを持つみのる！
3. 金的攻撃で倒したのに喜んでいたソラールとドス父！
4. シャレの分からないパンクラス勢！
5. こんなカードを組んだ佐伯代表！

ＤＥＥＰという大会は、毎回必ず何かが起こる。ＶＴデビューの村浜がホイラーを追い詰めたり、ルチャドールがパンクラシストを倒したり、前回はエル・カネックとビクトル・ラバナレスが登場。ランバーがヤノタクに勝ったのも驚きだった。

そして今回も〝事件〟が起こった。格闘技の大会で乱闘が勃発！事前に『鈴木みのるVSエル・ソラール戦に何を期待する？』と聞かれて「反則決着と両陣営入り乱れての乱闘騒ぎ」と応える人なんているはずがない。素晴らしいイレギュラーっぷりだ。

じゃあ、どうしてこういう事件が起こったのかを考えてみよう。誰がこの騒動を誘発したのか？

パンクラス側の意見としては①の『勝てないと感じて反則に逃げたソラール！』だろう。試合展開としてはみのるが打撃で圧倒していたんだから。

でも②『勝った負けたで収まらない、プロレスラーらしさを持つみのる！』という考えも捨て難い。③『金的攻撃で倒したのに喜んでいたソラールとドス父！』。美濃輪や佐伯代表はこの意見だった。「あれでガッツポーズするのは違う」と美濃輪。佐伯代表は「文化が違いすぎる。でもまずは謝らないと……」と言っていた。

さらに④『シャレの分からないパンクラス勢！』。反則負けなのに、相手を倒したからといって喜ぶのは変だが、それが気に入らないからって乱闘を仕掛けるのはどうか？　ドス父は「あいつら麻薬でもやってんのか!?」と怒っていた。そして⑤の『こんなカードを組んだ佐伯代表！』という声も確

DEEP 2001
## 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

花道を引き上げながら、なおルチャ勢を威嚇する鈴木。この後、バックステージでもにらみ合いが展開された

▲▼ソンブレロにチャンピオンベルト姿で入場のソラール。対する鈴木はいつもどおりの気迫みなぎる表情。互いのスタイルを1ミリも崩さない強気な姿勢にシビれるばかり

# やっぱりDEEPはタダじゃ終わらなかった! 勝ち負けを超えたイレギュラーぶり!!

▲スタンドでのパンチ、ヒザで圧倒的に優勢だった鈴木。勝利まであと半歩のところで事件は起こった

金的へのヒザで悶絶する鈴木。ダメージはひきずらなかったが「立った時に一瞬クラッときた」。2度目の金的で試合は終了

★第9試合/日本選抜VTチームVSルチャVT軍団・第2戦（5分3R）
**○鈴木みのる（1R2分26秒、反則勝ち）エル・ソラール●**
<パンクラスism>　<CMLL>
※ソラールの金的攻撃が故意と裁定されたため

▲金的蹴りで倒れたみのるを尻目に、ソラールはドス父と一緒に「ダーッ！」。何はともあれ相手を倒したことでルチャ陣営は歓喜！　観客も大ソラールコールと反則裁定へのブーイングで応えた

組んだ佐伯代表！』という声も確実にある。「だいたいルチャドールに、それも50歳近い選手にVTをやらせてどうするんだ。総合格闘技にとってなんの意味があるんだ？」と。きっとマジメな人なんだろうね。だけど「なんの意味がある？」と言われても、面白そうだからってだけの直観を頼りに「でも、やるんだよ！」と踏み出してしまうのがDEEPなんだからしょうがない。

　で、ボクの意見はというと断然②だ。さすがみのる、さすがプロレスラーと言いたい。スキを見せずに秒殺してればこうはならなかったのに、みのるには「もっとオレの凄さを見せてやろう」、「もっと派手な技で決めてやろう」という欲というか色気があったんだと思う。でもそこがいいんだよ。かつてのアポロ菅原戦といい、無意識に事件、トラブルを呼び込むその体質は〝勝ち負け〟の幅の中でしか格闘技を考えなくなっているボクらの常識を、気持ち良くブチ壊してくれるのだ。

　そしてソラールにも、あえて賛辞を贈りたい。反則に逃げたというけど、本当に試合がイヤだったら自分から倒れるなりタップすればいいのだ。それをわざわざ金的攻撃を仕掛け、乱闘でも一歩も退かず、バックステージの通路でも、さらには名古屋の街中でもみのるの顔を見つけるやガンを飛ばしたというから、その度胸の据わりっぷりはお見事である。

　前代未聞の乱闘劇。あってはいけないことだけど、ますますDEEPのトリコになる自分も感じたのだった。（橋本）

# 横井よ、苦戦してる場合か！会場はルチャ大応援ムードだぞ！

日本VSルチャ対抗戦のファーストマッチで、横井がメモ・ディアスと対戦。37歳のメモは横井のパンチ、蹴りを浴びてKO寸前に追い込まれたが、それでも食らいついていく。そのガッツに会場は大声援！

健闘

★第8試合/日本選抜VTチームVSルチャVT軍団・第1戦（5分3R）
○横井宏考（3R判定3-0）メモ・ディアス●
<リングス・ジャパン>　<CMLL>
※採点…30-27、30-28、30-28

興行にとって第1試合というのは非常に重要なのだが、それはこの5対5対抗戦のファーストマッチにも当てはまることだったようだ。横井宏考VSメモ・ディアスの一戦。これがその後の対抗戦のムードというか、観客の雰囲気の流れを作ったのである。

メモはグレコローマン・レスリングで2度のオリンピック出場経験（ソウル、バルセロナ）があり、4度世界王者にもなっている男。ダン・スバーンにも勝ったことがあるという。だが現在は37歳。バーリ・トゥードも初体験だけに、どう考えても横井が有利のはずだった。

実際、試合は序盤から横井が圧倒。メヒコのレスリング王をテイクダウンしまくり、マウントパンチ、スリーパーと攻めに攻めていつタップを奪ってもおかしくない状況だった。が、とにかくこのメモが粘りに粘る。チョークをしのぎ、パンチに耐えと、何をやられても全て受けきってしまうのである。スタンドでのパンチ、ヒザでほとんどKOされかけた瞬間もあったのだが、決して音をあげないから驚くばかり。

そうこうしているうちに、会場にはルチャ応援ムードが高まっていく。横井がバックを取ると「ブレイクだ！」の声が飛び、逆にメモがハーフマウントの時にブレイクがかかると、盛大にブーイングである。結局、試合は判定までもつれ込んだ末に横井が勝ったのだが、観客は37歳のガッツとタフネスに「よくやった、メモ！」と敗者への喝采。

ここで生まれたルチャ大応援の流れが、ソラールの金的蹴りと乱

DEEP 2nd

## 4th IMPACT in Nagoya

3.30★愛知県体育館

セミファイナルは近藤VSキック・ボクサー。打撃が得意な両者だが、試合は近藤がテイクダウンからマウント、そして十字と相手の良さを封じ込めて完勝

マスク姿で入場してきたキック・ボクサー。カッコいい～！

メキシコでは俳優としても活躍しているキック・ボクサー。ルックス、雰囲気はかなりのもの

★第11試合/日本選抜VTチームVSルチャVT軍団・第4戦（5分3R）

**○近藤有己（1R1分58秒、腕ひしぎ十字固め）キック・ボクサー●**

<パンクラスism>　<AAA>

▲「全然、満足できないです。合格点あげられないですね」と近藤。観客も別の意味で満足できなかっただろう

この体勢になっても決まらない。メモのタフさと根性には横井も閉口したはず

とにかく横井に組み付こうとしたメモ。何度もテイクダウンされたが、決してあきらめなかった

スリーパーを狙いにきた横井の体を前方に落として上を取ったメモ。ハーフマウントからパンチ、そして前腕グリグリ攻撃で攻める！

判定は横井。だが観客はメモの大健闘を称えるムード一色だった

# 近藤、坂田は思いっきり一本勝ち……なんて大人気ないんだ！

▶「パッと見たら『メキシコ人相手に何あんなにはしゃいでるんだ』と思うかもしれないけど、地元ってこともあったんで」と試合後の坂田

鈴木VSソラール戦での乱闘騒ぎの直後に登場した坂田。ソラールをアオった観客に「あまりにも客の反応が許せなかった。とにかく滅茶苦茶にして勝ってやると思いましたね」と、下からの十字でトロ・イリソンを切って捨てた

▲テイクダウンに成功、上からパンチを入れる場面もあったトロだったが、結果的には完敗

★第10試合/日本選抜VTチームVSルチャVT軍団・第3戦（5分3R）

**○坂田亘（1R4分05秒、腕ひしぎ十字固め）トロ・イリソン●**

<EVOLUTION>　<KARATEスタジオ>

流れが、ソラールの金的蹴りと乱闘騒ぎ、それにドスJrの大活躍にもつながっていったんじゃないだろうか。

さて、それぞれ観客を沸かせたメモ、ソラール、ドスJrとは対照的に、まったく光を消されてしまったのがキック・ボクサーとトロ・イリソン。大会前は、格闘家出身のルチャドールであるこの2人のほうがむしろ期待されていただけに皮肉な結果だ。トロは坂田亘に下からの十字で敗れ、キック・ボクサーは近藤有己にマウントからの十字を極められた。

とはいえこれは、ぜ～んぶ坂田と近藤が悪い！　はっきり言って、大人気なさすぎる。坂田は、試合が鈴木VSソラール戦の後だっただけに怒り心頭で「日本人の心を見せたかった。とにかくメチャクチャにして勝ってやると思った」と言っていた。でもそれはガードポジションから十字を取ることじゃあないと思うんだが。

それに近藤！　前の試合で坂田が十字で勝ってるのに、自分もあっさり十字ってのはどう考えても×だろう。だいたい、キック・ボクサーって名前の選手に組み技で勝負してどうするの？　ゴング直後の一瞬、近藤の蹴りとキック・ボクサーのバックスピンキックが交錯して「おおっ！」と思わせたが、その後は近藤が組んで倒して極めてのフルコース。味気ないなぁ……。

この2人のような、プロとしての色気が感じられない勝ちっぷりでは、ルチャ応援ムードの流れをせき止めることができないのも当然なのである。

（橋本）

を

# 当事者たちが激白!

## 「パンクラスの連中にはいいところが何もないな」

ルチャ勢のセコンドについた
### ドス・カラス（父）

——今回の感想を教えてください。息子さんは負けてしまったんですが。

**ドス**　とにかくあのレフェリーには納得がいかない。「なんでここで止めるんだ」っていう場面でブレイクしてたじゃないか。逆に「ここはブレイクだろう」という時にブレイクしない場合もあった。

——試合が終わった後のドスJr選手はどんな感じでしたか?

**ドス**　なんともない。ケガはないし、顔だって傷ひとつない、キレイなままだよ。ケンゴが勝ったのは、単なるラッキーでしかない。ちょっとしたことで、運が逆転してしまったんだ。それだけのことだよ。最初からファンも応援してくれたし、流れはこっちにあったんだがね。

——ではレフェリングが公正なら、負ける試合じゃなかった?

**ドス**　簡単に勝ててたよ。それに、ソラールの試合も一番盛り上がっただろう? あれ（金的）はファウルではないんだ。負けになったけど、ファンは我々を支持してくれた。ソラールが反則負けになって、みんなブーイングしてたじゃないか。ファンはどっちを見てた? どっちに声援を送ってた? ソラールじゃないか。

——パンクラス側は、あの金的攻撃はわざとだったんじゃないかと言ってます。

**ドス**　じゃあ言わせてもらうが、向こうだって乱闘を仕掛けてきたじゃないか。なんなんだ、あれは。ドラッグでもやってるんじゃないか!? マリファナか? あいつら尿検査したほうがいいぞ。

——「ルチャ勢がパンクラスをバカにするなら、日本で仕事ができないように潰してやる」とも言っていたんですが。

**ドス**　いつでもやってやるよ。私はパンクラスなんてものは全然知らなかった。今回、どんなヤツらかは分かったから、今度は練習をしてくるよ。

——殺す!?

**ドス**　今回の試合はバレ・トドなんだろ? "トド"ってのは全部という意味だ。それなのに全然"全部"じゃなかった。それにレフェリーも日本人びいきだった。例えばボクシングでも、メキシコの選手が日本で試合をしたら必ずベルトを取られてしまう。レフェリーが日本人びいきしてるからだよ。タイ人でもシンガポール人でもそうだろう? レフェリーが悪いんだ。今日も、ブラジル人と日本人が試合して、判定になった時があったけど、私の目から見たらブラジル人が勝っていた。それなのに引き分けだったじゃないか。

——では、パンクラス勢の印象を一言で言うとどうですか?

**ドス**　何もない連中だな。試合はエキサイティングじゃないし、いいところがないし、観客も冷めている。何も特別なものがないんだよ。今日、お客さんを盛り上げたのはパンクラスとルチャ、どっちだったか分かるだろ? それだけでも、我々の勝ちと言えるんじゃないか。

——とはいえ結果的に対抗戦は5戦全敗だったわけですが……。

**ドス**　負けたとは思ってない。向こうがラッキーで、レフェリーが味方してただけだよ。例えばアメリカ人をレフェリーにしたほうが公平な試合になると思うんだがね。

——バス・ルッテンという選手が、「ドスJrは半年間VTに専念したら世界最強になれる」と言っていましたよ。

**ドス**　分かってるよ。

——分かってましたか（笑）。

**ドス**　息子はキューバ、ブルガリア、ロシアといった強豪国のコーチにアマレスを習ってきたんだ。メキシコの政府がスポーツの援助に積極的ではなかったからルチャ・リブレの道に進んだんだよ。才能の高さは疑いようがない。

——僕たちもドスJr選手には凄く期待してますから。

**ドス**　私にはもう一人息子がいて、15歳で身長が190センチあるんだ。先週、アマレスの15歳以下の大会に出たんだが、一人だけ身長が飛び抜けてたな（笑）。兄の影響もあってバレ・トドをやりたいと言ってるから期待してほしいね。■

IN NAGOYA

# 前代未聞の乱闘劇を

## 「あれは反則じゃない 今度は素手でやってやる！」

### エル・ソラール

「はっきり言って、自分では反則ではないと思っている。これは〝なんでも有り〟の試合のはずだろう？　なのにどうして反則負けなんて言われなきゃいけないんだ。なんならもう1回試合をやってやろうか？　どうせなら2人だけで、お客さんもセコンドもレフェリーもなしでいいよ。こんなことでは納得できない。（ヒザ蹴りは）お腹の下のあたりに当たった。といっても金的じゃない。あれは絶対に反則じゃないんだ。これは自信を持って言える。

相手はたしかにいい選手だったが、まだ自信というものが足りないんじゃないかと思う。途中で自信がなくなったから、試合をやめてしまったんだろう。本当に強い選手であれば、頑張って最後まで闘い抜くはずだ。本当に納得がいかないよ。向こうのセコンドが殴りかかってきたのは、たぶんファンの人たちが自分たちを味方していると分かって、それが気に入らなかったんじゃないか？　だが逆に、そのことがどっちが本当の勝者なのかをよく表していると思うよ。

ファンの声はとてもよく聞こえたよ。『ソラール！　ソラール！』と、私の名前を呼ぶ声がね。試合が終わった時だって、お客さんが『ソラール！』と言っているのが聞こえた。ファンがどっちの味方だったのか。それがこの試合の答えなんじゃないか？

今度はグローブなしでかかってこい！　こっちはグローブなしでも全然怖くないんだ。どうせならルールもなしでいい。これはバレ・トドなんだから。やる気があるならかかってこいよ。私はグローブがあるとダメだ。素手のほうが実力が出せるよ。

どうしてもグローブもルールもある状態で試合をしなければならないんだったら、まあそれでもいいだろう。でもそれには条件がある。相手の選手がもっと頑張って、最後まで試合をやり通すんじゃなきゃダメだ。それなら私もやる気になるんだがな。

相手はこっちを『日本で仕事ができなくさせる』と言っているのか？　面白い。なら素手で、グローブなしでやろうじゃないか。いつでもやってやるから、かかってこい！」

## 「パンクラスをバカにするなら日本で仕事ができないように潰す」

### 鈴木みのる

〈試合直後〉

「とんだお笑いになっちゃった。分かりました。ルチャ・リブレの裏技って、こういうことですよ。お面被って出てくんな、真剣勝負をナメるな！　真剣勝負とセメントを勘違いすんなって。まったく、太陽仮面が聞いてあきれるよ。もう触れたくないですね。力を使ったのがアホらしいです。でも、あいつらがパンクラスのことをバカにするようだったら、二度と日本で仕事ができないように潰してやりますよ」

〈大会後のパーティーにて〉

「今、いろんな選手たちが交流してるけど、今までタブーだった元リングス勢とも一緒に練習するし、これから同じ敵に向かっていけると思います。道場に練習に来てもいいですよ。『おいでよ』って言ったら『行きたいです』って言ってたんで。所属に関してはこれからいろいろあるらしいんですけど。『この名前を名乗るのは今日が最後です』ってみんな言ってました。僕と社長と船木さんと前田さんのゴチャゴチャを、若い人たちに被せちゃいけないです。それは僕たちが解決する問題であって。ホントは、それを勝ってリング上で言いたかったんですけどねぇ。（金的の）ダメージ？　ないっすよ。ないっす！　あの瞬間、気持ち悪くなったんですけどね。大丈夫です。ペースを崩されますね、ああいうことされると。でも、あれがプロレスの〝セメント〟ですよ。そう書いていいですよ。僕は何度も仕掛けられてますから。話題になったのは一つか二つだけど。練習中でもありますよ、負けそうになると金玉蹴ってきますから。もういいですよ。金的ありだったら僕の負けですから。金的なしという解釈をした僕が悪い。試合が終わった後も控室でいろいろあったんですけどね。すれ違った時につっかかってきて。興奮が醒めた後は謝りに来てくれたんですけどね。言ってきたのが『初めてだったから』と『ルールがよく分からない』って。でもそう言われたら、僕もスポーツマンですから『分かりました』ってノーサイドにしましたけど。まあ、蹴られた自分も悪いし、盛り上がったんだからオイシイかなと。そう考えて納得するしかないでしょう」

DEEP INTERNATIONAL 2001 **4th IMPACT in Nagoya** 3.30★愛知県体育館

# 《大会関係者&勝利選手のコメント》

## ルチャ勢との乱闘に加わった 美濃輪育久

### 「仲間がやられてキレましたね。乱闘はタイミングが難しいです」

「なんかもう、気持ちが入っちゃいましたね。ああいうのも真剣勝負なんですけど、やっぱり結果を見たいじゃないですか。勝ち負けはあるけど、“結果”っていうゴールに達した時に生まれるものが大事っていうか。あれでガッツポーズするのはおかしいと思いますね。ちょっとキレますね。ウチの大将っていうか、同じところで練習してる仲間がやられたんで。ルチャの人たちがこういう場に出てくるなんて素晴らしいじゃないですか。しかも鈴木さんとやるのも素晴らしいし、ボクの理想のプロレスになってきたなと思ったのに。こういうこともあるんだなって思いながらも、やっぱり『それはやめようよ』って。乱闘は初めてでしたけど、タイミングが難しいですね。自分もやられたくないし、殴り合っても何も生まれないんですけど。難しいですね、乱闘は」

## パンクラス代表 尾崎允実

### 「あれをやられちゃったら、トータルファイトになりませんよ」

「名古屋だけに、終わり（尾張）良ければ全て良しということで（笑）。謙吾はベストバウトでしょう。ドス・カラスJrもいい選手ですよ。再戦して良かったなと思いますね。謙吾は長いトンネルから、やっと抜け出たかなと。鈴木は……。ああいうことをされちゃったら、トータルファイトはできないですよ。やったもん勝ちになる。向こうはルチャの世界に帰って、ヒールでヒーローになれるでしょうから、それを狙ったんでしょう。１回目の金的は左ストレートが当たった直後で、次も組んで“ヤバい”と思ったからでしょう。リマッチをやったって、金的を打たれないようにしても今度は目潰ししてきますよ。向こうはヒールとしてＯＫでも、こっちはシャレにならないですよ。最低の行為ですよ。それを呼び込むのも、鈴木みのるという選手だからこそなんですかねぇ」

## DEEP2001事務局・代表 佐伯繁

### 「ソラールさんに関しては、もう使わないということで……」

「いや〜、疲れました。とりあえず、ソラールさんに関してはもう使わないということで。まずその場で謝らないといけないですよ。あとちゃんとルールを把握すること。お客さんにアオられた部分もあったと思いますけども。ちょっと、いろいろ考えなくちゃいけないですね。ただそれ以外ではいい試合をした選手も多かったですし。結果として全敗だったですけど、ドスJrと謙吾の試合なんか今年のベストバウトになるんじゃないかって（笑）。ジャーマンなんてさすがですよ。ドスJrの試合はまた、今年中にも見られると思います。あの潜在能力は凄い。メモさんにしても、あれだけ打たれても頑張れるっていう。ソラールさんのことは問題ですけど、ルチャの可能性は見えましたよね。６月はシリアス路線で、また９月に隠し玉というか、面白いカードが組めそうです」

## 謙吾のコメント

「ドスJrは強かったです。パワーとレスリングが凄く強かった。でも、気持ちも切れなかったし、何回投げられても大丈夫な練習をしてたんで。彼がいたから、今の僕もあると思うし、辛い時期もありましたけど、ヤツがいなかったら、今の自分はないんで、考えてみたら、いい相手なんじゃないかなぁと思います。ただドス・カラスJrごときでつまずいてるわけにはいかないんで。小さな壁だったんですけど、乗り越えられて良かったなぁと」

## 坂田亘のコメント

「15キロ差はやっぱり重いですね。ただ、客の反応もそうなんだけど、日本人の心を見せたかったので、体重差なんかはいいやと思って。鈴木さんの試合の時にあまりにも客の反応が許せなかった。試合前、鈴木さんに激励されて、かなり効きました。とにかく滅茶苦茶にして勝ってやると思いましたね。鈴木さんに関しては、僕がアオッた部分もありますけど選手としては滅茶苦茶リスペクトしてるんで、他の誰に何を言われようと闘いたい」

## 近藤有己のコメント

「全然満足できてないです。合格点あげれないですね。前回、2月に言ってたみたいに、さらに強くなって、大きい舞台で楽しめるように実力を付けるという意味では手応えがありましたけど。最高の自分を見せるという点では満足できないです。お客さん的には一本勝ちだったんで、満足してくれたのかもしれないですけど。今後もしっかり課題をクリアして、もっと強くなった姿を見せたいですね。鈴木さんの試合？　見てないんですよ」

## 横井宏考のコメント

「いや〜、全然ダメですね。話にならないですね。相手は力は強かったですね。レスリング出身って聞いたので、投げてやろうと思って、１Rで投げれたので、それはいいかなぁと。でも考えてきた必殺技も出せなかったし、次回に持ち越しです。しょっぱいですね。またイチからやり直しです。和田さんと滑川さんみたいな試合ができなくてすみません。自分だけしょっぱかったですね。今日は一本取らないとダメでしたね」

『DEEP2001名古屋大会』のレポートはP85〜に続きます

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・ガイド
No.68 4・25号

# CONTENTS

## 総力特集

## 『K-1 vs PRIDE』ルール問題こそエンターテインメントだ!



## 詳報!



## SRS・DXの注目!



### 大会レポート




◎PRIDE vs K-1効果か? PRIDE.20のチケットほぼ完売!◎大丈夫か? 4・21K-1広島大会でシュルトと対戦する武蔵が男前に意気込みを語った!◎5・11K-1中量級世界大会カードほぼ決定! 魔裟斗は世界一になれるか!?◎この夏、SBが大勝負! 横浜文体でS-cup開催



### 格闘技パーフェクトガイド



### 連　載



※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

『プライド』対K−1

超ビジネス座談会

## 古いプロレス観よ、さようなら

# ミルコvsシウバはビジネスの大ヒントだ!!

出席者

ターザン山本（ビジネスの教祖＝超大穴狙い）

サダハルンバ谷川（本誌編集人＝ブラックホール）

小松モグタン（本誌編集部員＝ムジナの穴で特訓中）

司　会

柳沢忠之（本誌発行人＝ヘビの穴出身？）

**山本**　おい、谷川ぁ！　またこいつを連れてきたのかぁ！

**谷川**　あ、はい。早く僕の後継者になれるよう、山本さんにビシビシ鍛えていただきたいと思いまして。おい、ちゃんと山本さんにご挨拶しろ。

**小松**　あ……、どうも。

**山本**　えーっと、名前はなんだっけ？

**小松**　あ、小松です。

**山本**　で、今日のテーマはなんだぁ？

**小松**　えーっと、今日は前回の続きといいますか、K—1と『プライド』についてもうちょっと考えたいと思うんですが。

**山本**　そういうおまえは、K—1対『プライド』の闘いの新しい見方とかを考えたのか？

**小松**　………新しい見方ですか？　いや、べつに何も考えてません。

**谷川**　んあ〜！

**小松**　今日はそれを山本さんから直々に教わろうかと思いまして。

**山本**　他人に答えを求めるな！　おまえが自分で考えろっ！

——おい、モグ、今日は何か話が展開するまで料理に手を出すんじゃねえぞ。

**小松**　あ、そう言われなければ食べ始めちゃうところでした。そうか、話が進むまで食べられないのかあ。じゃあ山本さんから何か話を振ってください。

**山本**　じゃあなぁ、最近の世の中で一番の出来事はなんだと思う？

**小松**　……一番の出来事ですかあ？

**山本**　そんなもんなぁ、0・1秒でパッと答えが出てこなかったら、おまえの人生は最悪だよぉ。

**小松**　……辻元清美ですかねぇ。

**山本**　………当たったよぉ。

——ダハハハッ！　それが最近一番の出来事か（笑）。

**山本**　で、あの出来事にはどういう意味があるんだ？

**小松**　……はあ？　意味？

**谷川**　山本さんが聞いているのは、あのスキャンダルの根本的な意味とか、あれに関してキミがどう思ったとかだよ。

**小松**　えーっと……、国会議員が自分でもウソをついていたのに、他人のことを責めてたってことですか？

**山本**　………そう、当たったよぉ。

——ダハハハッ！　それが当たりかよ（笑）。

**小松**　当たりましたか。じゃあ、今日も豪華な料理をいただかせてもらいます。

——まだ食うな！

**山本**　料理を食う前に、辻元清美の一連の出来事を日本のことわざで表してみろっ！

——日本のことわざで（笑）。

**小松**　日本のことわざで？　山本さん得意の四文字熟語とかじゃなくてですか？

**山本**　ことわざですよぉ！

**谷川**　さあ、ひとことで。

**小松**　………なんでしょう？

**山本**　ま〜ったく分からんのかぁ？

**小松**　まったく分からないですねえ。

**山本**　「同じ穴のムジナ」だよぉ！

**小松**　は？　ムジナ？

**山本**　同じ穴のム・ジ・ナっ！　鈴木宗男も辻元清美も同じ穴のム・ジ・ナっ!!　ムっ！　ジっ！　ナっ！

——ダハハッ！

**小松**　ムジナってなんですか？

**山本**　そんなもんは、家に帰って辞書でも引け。

**小松**　食ったらウマイもんですかねえ。

**谷川**　んあ〜！

**山本**　とにかく日本人ってすぐに誰かをスケープゴートにしてこき下ろしたりするだろ。それがもう社会心理現象になってるわけ。ところがそういうふうに他人をこき下ろしている本人が、それ以上に悪いものを心の中に抱えているんだよぉ。つまり今の日本人は最悪人種で、ピュアな人間は一人もいない！　最悪の最悪で非ピュアな人間ばっかりってことだよぉ。

## プロレス界が「同じ穴のムジナ」なんだよぉ

**小松**　あ、なるほど。

**山本**　おまえも同じ穴のムジナか？

**小松**　いえ、僕はモグラです。で、それが『プライド』対K—1の闘いとどう関わってくるんですか？

**山本**　小松は試合レポートとかを読んでも試合内容とか選手を批判することとかをしないもんねぇ。批判したら自分が足元をすくわれることが分かってるから。

**小松**　そうかもしれないですねえ。

**谷川**　き、キミ、僕の知らないところで何か悪いこととかしてるのぉ？

**小松**　いや、谷川さんが驚くほど悪いことはしてないですけど。

**山本**　自分で悪いことをしてないけど、相手を責めることもできないとゆー、最も中途半端な人生なんだよぉ。そーゆーのを「宙ぶらりん人生」というんだよぉ。

**小松**　いや、僕は元力士ですから、常に足はしっかりと地に着いてるんですけどねえ。で、話を進めると山本さんは．

時代は今!!
MKK
ムネオ　コウイチ　キヨミ
疑惑トリオ

『プライド』とK—1が、「同じ穴のムジナ」だと言いたいわけですか？

**谷川**　んあ〜！

**山本**　いや、『プライド』やK—1じゃなくて、プロレス界が「同じ穴のムジナ」なんだよぉ。

**小松**　ほお。で、格闘技界は違うんですか。

**山本**　格闘技界は違うんだよぉ。プロレス界は新日本やノアや全日本とか、ぜ〜んぶ同じ穴のムジナでやってるわけ。だけど格闘技界は同じ穴から抜け出たんだよねぇ。分かりやすく言うとオーバー・フェンスしたわけ。それはなんでだと思う？

**小松**　……『プライド』とK—1が同じ穴から抜けたのはどうしてかってことですか。

**山本**　そう、そのキーワードはなんだ。

**小松**　………えっ？

**山本**　ほら、出かかってるよぉ、おまえの口から。

**小松**　いや、まだ何も食ってませんけど。

**谷川**　んあ〜。

——着実にサダハルンバの後継者として育ちつつあるな、おまえは（笑）。

**山本**　キーワードだよぉ！　ちまちましたムジナの世界から抜け出せたのはなぜだ？

**小松**　……「ガチンコ」ってことですか。

**山本**　ガチンコなんかプロレスでもできるよぉ！　いわゆるマイナーな世界からメジャーな世界に移行させたとゆーか、巨大ブランドにできたのはどーしてだ？　石井館長を思い出してみろっ！

**小松**　石井館長ですか？

**山本**　石井館長は「××（ペケペケ）マン」だ？　そのペケペケはなんだ？

**小松**　……えーっと、●●マンですか（※諸般の事情により伏せ字にします）。

**谷川**　んあああああ〜っ！

**山本**　●●マンじゃなくて、もっと一般的な用語があるだろう。●●する前だよぉ。●●するほどになるまでには必要なことがあるだろ。そういう人をなんと呼ぶ？

**小松**　「成り上がり」ですか？

**山本**　おまえは石井館長に対して愛がないなぁ。答えは「ビジネス」マンだよぉ。

——ちょっとこれは「ターザン×サダハルンバ」を超える、絶妙のコンビ誕生の予感がするなあ（笑）。

## ビジネスしたからK—1はデカくなったんだよぉ

ビジネスしたからK—1はデカくなったんだよぉ

**谷川**　どうせボケるなら「サンドイッチマン」とか「ガッチャマン」とか、そういう気の利いたこと言えよぉ。

**山本**　谷川もよくこんなの雇ってるなぁ。義務教育受けてきてるのか、こいつは。

——ぷぷっ、東北大学ですよ。

**山本**　国立じゃねぇか。なんだぁおまえ？

——ピュアに育てていますんで（笑）。

**山本**　とにかくキーワードは「ビジネス」、ビ・ジ・ネ・ス！　石井館長はビジネスしたから、K—1はスケールがデカくなったわけよぉ。

**小松**　石井館長はなんでK—1をビジネスにできたんですか。

**山本**　なんで石井館長はビジネスにできたか。ようやくここから話が始まるよぉ。ごっちゃんです。

**小松**　じゃあ、食べていいですね。

**山本**　おい、前振りが長いぞ、谷川ぁ！

**谷川**　す、すいません。なんせ僕の後継候補なもんで。

**山本**　まず、ビジネスとはどーゆーものかといったら、「お金を儲けること」だよぉ。つまり金儲けをする仕事のことを「ビジネス」というわけ。でも、儲けるというのは普通の人たちにとったら願望とか欲望なんだよなぁ。儲けるという本当の意味は結果として「金になった」「金をつかんだ」ということなんだよぉ。ところがビジネスの定義として面白いのは「愛情とか心とか友情とかに関係なく、ただ儲けるためだけにやる仕事」のことなんだよねぇ。でも、日本人の場合、愛情とか心とかはなかなか切り離して考えられない。それがプロレスの姿なんだよぉ。だからプロレスはビジネスじゃないわけ。分かるかぁ？　この意味は。

**小松**　あ、はい。なんとなくですけど。

**山本**　その愛情とか心の領域に留まって、ソフトを作ってるのがプロレスなわけ。ところが『プライド』とかK—1は「金になる」と思ったら、愛情とか心とか関係なくビシッと仕事をして「金をつかむ」という構造にしてるわけ。つまり本当のビジネスになってる。で、金があるところには人が集まる、物が集まる、才能が集まるんだよぉ。で、プロレスは今どうなってるかと見てみると、人材も物も才能も金も集まってない。

**谷川**　そこで重要なのは、『プライド』やK—1をマネしようと思ってイベントをやろうとする会社とか組織とかがたくさんあるんだけど、ことごとく失敗しますよねぇ。あれはなんで失敗するかというと、そのイベントを開催するために1億円くらいの運営費を集めて、1億2000万円とか売り上げようとして大失敗するケースが多いんですよ。だけど『プライド』や石井館長のビジネスというのは、分かりやすく言えば選手のファイトマネーとか大会を開催するために10億円使おうっていうくらいの腹をくくるんですよ。それで結果的に20億円売り上げるとか。まあ、その数字は正確じゃないかもしれないですけど。

**山本**　そう！　よ〜するにぜ〜んぜんスケールが違うわけだよなぁ。

**谷川**　例えばファイトマネーにしてもレ・バンナにしろ、ベルナルドにしろ、ピーター・アーツにしろ、K—1に出る前はみんなファイトマネーが低いんですよ。マーク・ハントなんかはオーストラリアでのギャラは1試合5万円くらいだと思いますからね。それがグランプリに出て優勝しただけで6000万円以上も手にしちゃうわけですよね。

**山本**　ということは、ワンマッチで軽く

レスラーの年収を超えるわけだなぁ。

**谷川** そういう構造を作り上げちゃえば、やっぱり黙っていてもいい人材が集まりますよ。当然、物も才能も集まるし。そうなればビジネスとして成り立つし、ファンも見に行こうとする。『プライド』はファイトマネーが高すぎるから他の団体が迷惑するって、よく批判されますけど、高いファイトマネーを払っても成り立つ構造をしっかり作ってるし、たとえばシウバなんかもチャンピオンになって、おそらくそれまでの年収ぐらいのファイトマネーを一試合でもらえるようになったと思うんですよ。でも『プライド』としては今や田村VSシウバっていうカードで、さいたまスーパーアリーナがいっぱいになりましたからね。だから、そこに金をかけるのはビジネスの論理としては当然のことなんですよね。

**山本** そうなんだよなぁ。

**谷川** ビジネスという発想でファイトマネーの話をもう一つ挙げれば、大晦日の猪木祭で小川直也が8000万円を蹴った件があったでしょ。あのファイトマネーの額には驚いてる人が多かったけど、あれも完全にビジネスの発想から出てきた金額なんですよね。

**山本** でも小川としては、あれは完全にハッタリから出た数字でしょ。

**谷川** 小川としてはとにかく、あの場に出たくなかったんでしょうけどね。でも、石井館長の提示した8000万円って、ここぞというビジネス感覚から出てきた金額なんですよ。でも、今の小川に8000万円払うかといったら、それはまた別の話ですからね。

**山本** あれは石井館長がビジネスマンだからこそ出てきた数字だよなぁ。

**谷川** 僕はね、小川はあのたまたまのチャンスを逃して、ホントにもったいなかったと思うんですよ。

**山本** 8000万円を蹴って、今や「OH砲」だもんなぁ。あのたまたまの8000万円でバンナと闘って勝っていたら、それこそ今は2億円の選手になってたかもしれんのになぁ。

**谷川** そのとおりなんですよ。「小川さん、2億円と言いたいんですけど、なんとか1億8000万円にまけてもらえませんか？」って選手になってたでしょ。

**山本** まあ、発想としてはWWFと一緒ですよぉ。物と人と才能に金をかける、これによってビッグ・ビジネスをする！ 今回の4月の『プライド』で一番驚いたのはミルコとシウバをいきなりやらせるでしょ。あれ、俺はプロレス業界で30年も生きてて、とんでもない衝撃だったよぉ。価値観が完全に壊されたとゆーか、無視されたというかね。

——無視された（笑）。

**山本** プロレス界的常識では、そういうことに関してもったいぶったり、先に引き延ばしたり、出し惜しみしたりしてきたわけだよなぁ。それをアッサリ闘わせるわけでしょ。ミルコVSシウバはビジネスの論理じゃないと絶対にできないよぉ。つまり、ビジネスというのは「儲けること」と「消費すること」なんだよねぇ。今までのプロレス頭だと、あんなカードをいきなりやってしまうと、藤田和之や桜庭和志や永田裕志や田村潔司の立場もないしさぁ、俺としては彼らが可哀想になってくるわけよぉ。そんなことは関係なしに、バーンッと実現させてしまう『プライド』とK—1にカルチャー・ショックを受けたというか、頭を叩き割られたよぉ。

## 物と人と才能に金をかけてビッグ・ビジネスをする！

物と人と才能に金をかけてビッグ・ビジネスをする！

——でも、それは元々山本さんが自分で作った概念じゃないですか。

**山本** ………へ？

——常に「消費しろ！」って言ってたじゃないですか。

**山本** ………うむむっ！

**谷川** また山本さんの旗色が悪くなってきたなぁ（笑）。

——いや、今日はシュートじゃねえですから（笑）。山本さんが言ってたことじゃないですか。「興行で儲かった金は全部、次の興行に注ぎ込め！」って。その思想を物凄く大事にしてやっているのが今の『プライド』やK—1なんじゃないですか。

**山本** それをダイナミックにやるんだったら是なんですよぉ。『プライド』とK—1はそれをやってるわけよぉ。でも、俺はやっぱり根がプロレスファンだから、ショックを受けるんだよなぁ。

——そう、そこに愛情とか心があって戸惑うわけでしょ。でも、山本さんはビジネスとしては、とっくに気付いていたってことじゃないですか。

**山本** そう！ だから俺の中で自我が分裂してるんだよぉ!! 片方では「ダイナミックにやれ！」と言ってるのに、もう一方では「なんでここでやるんだ！」となるわけだよぉ。

**谷川** でも山本さん、石井館長が初めて大阪から東京に出てきた時に、『週プロ』編集長だった山本さんの元を訪ねて「興行とは何かを教えてください」って聞いた時に山本さんが石井館長にそういうことを言ったんですよね。要するに「横浜アリーナが満員になって儲かったら、その儲けを全部次の大会に使え！」と。

**山本** うん、俺はそう言ったよぉ。

——だから石井館長は、その一点に集中してやってきたんですよ。

**谷川** そうなんですよ。だから、K—1はあそこまで伸びたんですよ。

**山本** 俺はただ単に、自分で競馬で儲けた金をぜ～んぶ次のレースに注ぎ込むからそう言っただけなんだけどねぇ。

——ダハハハハッ！

**山本** 俺は何事もゼロかぜ～んぶか！ オール・オア・ナッシングだから。だから俺は石井館長に「儲けた金を少しでも残そうとか、取っておこうとかしたら興

行というのは必ずダメになる。次にぜ～んぶ使い切らないとダメだ」と言ったんだよぉ。

――その思想に忠実に動いてるのが今の『プライド』とK―1でしょう（笑）。

**山本**　じゃあ、今の格闘技界は俺が作ったのかぁ。

**谷川**　K―1や石井館長の大恩人ですよ。

**山本**　へ？

――ぷぷぷぷっ！　そんな山本さんがWWFの会場にも入れないなんて（笑）。

**山本**　俺としては「どうせできないだろうな」と思って言ったわけよぉ。

**小松**　無責任ですねえ、山本さんは。

**山本**　うむむむっ！

――で、そのK―1のやり方をより先鋭的に、組織的にやってるのが『プライド』ですよ。

**谷川**　ヒクソンにポンッと1億円払っちゃうんですからね。だからDSEも儲かるわけないですよ。でも、そうやりながらイベントとして次々と成功させていくしかないんですよね。ところが、その構造をプロレス界はどこも作れないんですよね。

――それはね、ネット・ビジネス（電子商取引）とかで「B2B（＝business to business）」とか「B2C（＝business to consumer）」って言葉があるでしょう。まさにその発想でね。

**山本**　ビー……？　シー……？

――「B」はビジネス、すなわち企業のことで、「C」はコンシューマー、つまり消費者。「B2B」はいわゆる企業間取引で、「B2C」は企業が消費者に向けて直接取引をすることなんですよ。でね、結局プロレスの根本っていうのは「B2C」なんですよ。ところが、石井館長が何をしたかというと、この業界で「B2B」をやったんです。そこで一番気を付けなくちゃいけないのは、「B2B」をやっても、最終的に「B2B2C」という形にしなくちゃいけなくて、それが格闘技っていう世界なんですよ。

**山本**　なるほどなぁ。

――つまり、K―1がフジテレビや日テレやTBSと企業間取引をしたら、各テレビ局が消費者に対して取引をする。そこでプロレスはどうなってるかといったら、「B2B」でも「B2C」でもなくて「B2T2C」なんですよ。まあ、「T」っていうのが適切かどうか分からないけど（笑）。

**山本**　その「T」ってなんだぁ？

――「タニマチ」（笑）。

**谷川**　まあ、後援者っていう意味で捉えるなら「スポンサー」だから「S」が適切かもしれないけどね。

――まあ「B2S2C」でもいいけどね

## 「どうせできないだろうな」と思って言ったわけよぉ

企業間取引
**B2B**（Business to Business）

企業の消費者向け直接取引
**B2C**（Business to Consumer）

**B2B2C** ← 格闘技の世界の理想型

↓

最初の[B:団体]が、次の[B:企業]を介して[C]と取引をする

**B2T2C** ← プロレスの世界　T:タニマチ（＝S:スポンサー）

今のマスコミは[B]ではなく、[T]になりつつある

（笑）。要するにプロレスは、エンドユーザーを大事にしてるとか言いながら、100枚とか200枚とか、まとまった数のチケットを買ってくれるところにしか顔が向いてないわけですよ。だから「B2B」とか「B2C」とか「B2B2C」っていうビジネスの形態を知ろうとしないんですよ。

**谷川** WWFなんかを見ると、まさにその形だもんね。

――で、もっと言うと「B2S2C」というのは、前者の「B」から売られた後者の「S」が「C」に対して売ることができないと、単に善意の手助けにしかならないんですよ（笑）。そんなもんビジネスの構造として成り立つわけがない。『プライド』の場合はPPVという形で「B2B2C」が成り立ってる。つまり間に入ってる「B」がユーザーにちゃんと売ることができないとビジネスとして成立しないんですよ。ところが『プライド』とK—1以外の格闘技イベントって「B2B」までしか見えてないですよね。地上波をつけたり、協賛社を集めたりしなくちゃいけないんだと思ってそこにしか目が行かなくて、そこから先の「C」を視野に入れないと、結果として相手企業をだましちゃうことになるんですよ。結果的に、間の「B」が「S」になっちゃう。だから次に続かないんです。

**山本** リングスはどうだったんだぁ？

――WOWOWと「B2B」ができてたんだけど、WOWOWが「B2C」をできなかったんですよ。ZERO—ONEもそれと同じで、ステージアという「B」が「B2C」という形を作れていないでしょ。

**山本** そういうことだねぇ。

――分かりやすく言うと、世代の関係もあるんだけど猪木さんも馬場元子さんもチケットのことをいまだに「キップ」って言うじゃないですか。団体がファンにキップを売るというのが「B2C」の正しい感覚なんだけど、今はその間にもうひとつ「B」がなきゃビジネスにならないんですよ。今までは景気がよくて「100枚くらい付き合ってあげるよ」とか、そういう顧客とかタニマチをいっぱい持っていたから新日本をはじめとしたプロレスは強かったし、それがプロレス界の中での「営業」ってことだったんですけどね。だけど、それはもう今の世の中では成り立たないですからね。

## ビジネスでは何も先のことを心配する必要はないんだよぉ

ビジネスでは何も先のことを心配する必要はないんだよぉ

**谷川** そういう部分で言えば、『プライド』もK—1も営業っていう役割の人間はひとりもいないですからね。

――それを誰がやっているかというと、テレビ局とか、チケット販売会社みたいなアウト・ソーシングだからね。つまりタニマチ依存体質で企業にまとめてチケットを買ってもらっちゃうと「C」には行かないんですよ。

**山本** じゃあ、猪木さんが3・21の東京体育館で「今日は営業マンを募集して気合いを入れました！」って言ったのは、もう出遅れも出遅れ、大時代遅れなんだなぁ。

**谷川** だから猪木さんは『プライド』や「INOKI BOM—BA—YE」とかにあれだけの観客が集まったのは、営業が手売りで企業とかタニマチにチケットを買ってもらったと思ったかもしれないですけど、一切そういうことはないですからねえ。

**山本** あ、そう。

――山本さんが『週プロ』をやってた時を考えれば簡単なことなんですよ。だって山本さんは最強の「B」だったでしょ。

**山本** へ？ 俺がぁ？

――団体が山本さんと企業間取引をして、山本さんが『週プロ』で煽って「C」にキップを買わせていたんだから。結果的に山本さんを間の「B」に挟むことで「C」に届いていたわけですから。

**谷川** やっぱりシュルトVS武蔵とか、ミルコVSシウバとか、マスコミが「B」として「C」にその意味を伝えなくちゃいけないですからね。

**山本** 俺の場合は脳天にスドーンッと落とすからねぇ。つまり最強の「B」だったんですよぉ。

**小松** ほお〜！

**谷川** どうしたんだ？ おまえ。

**小松** いや、有名な山本さんの自画自賛を目の当たりにできて光栄です。

――ぷぷぷっ！

**山本** まあ、その間の「B」ということで言えば、今の時代に重要なことは二つあるんだよねぇ。

**小松** 二つ！

――どうしたんだ、おまえ（笑）。

**小松** いえ、一度これ言ってみたかったんです。

**谷川** んあ〜。

**山本** 一つは、ファンは意味が分からなくても楽しめる。意味から解放された自由さで見る。もう一つは意味が分かるとより面白く見られる。この正反対の観客がいるわけ。一方では意味が分からなくても面白がるファンをシュポーッと作る。

――シュポーッと作る（笑）。

**山本** もう一つは、やっぱり活字プロレスで分かることによって面白くなってハマるというかさぁ。そういう観客やファンを作ることを求められる時代なんだよねぇ。それがマスコミが最強の「B」になりえる条件だよぉ。

――つまり、分からなくても楽しめる典型がK—1だったんですよ。で、分かったら楽しいのが『プライド』ですよ。

**山本** そーゆー二重構造がファンの気質や行動を生んでるんだよねぇ、今。

――要するに猪木軍VSK—1とかっていうのは、そういうもののぶつかり合いだったんですよ。

**谷川** 地上波で成功するっていうのは、意味が分からない一般の人たちがそれだけ入ってきてるってことですからね。モグタン、ここまでの話は分かった？

**小松** う〜ん、なんとなく。

**谷川**　じゃあ、キミが日ごろやってることもだんだん分かってきた?

**小松**　う〜ん……、もうちょっと待ってください。

―まあ、時代性としてはモグみたいに何も分からなくても楽しめる構造がベストなんですよ。

**山本**　でも、我々はそれに対しては「ノー」と言って、別のものを浮かび上がらせないといけないんだよねぇ。

**谷川**　プロレス団体の人たちは、そこに何かを感じずに、いったい何を感じるんだって話だよなあ。

**山本**　それがよ〜するにミルコVSシウバの実現だよぉ。あれはやっぱりショックだもんなぁ。物凄く尾を引いてるよぉ。

**谷川**　普通に捉えた場合、ファンもマスコミも「いったいどこまで行っちゃうの?」って思うでしょうね。

**山本**　でも、ビジネスというのは消費することだから、あれは本当は楽しいことなんだよぉ。消費したら、また別のものが出てくるんだからぁ。ビジネスにおいては、何も先のことは心配する必要ないんだよぉ。

―で、そこから考えると、ガチンコっていうのは、興行の展開がまったく読めない他力本願の世界でしょ。その予定調和のない、イレギュラーする世界を次の興行に繋げていく。これが今の時代に求められるプロデュース能力だと思うんですよ。

**山本**　そういうことだよぉ。

**谷川**　でも、考えれば考えるほど、シュルトVS武蔵とか、ミルコVSシウバって負けても誰も損しないと思うんだけどなあ。

**山本**　本来ならば刺激的なカードで面白いわけよぉ。そういう欲求は俺の中にもあるわけ。ところが今までのプロレスの価値観の中ではそういう体験がないから驚いてるわけよぉ。

**谷川**　逆にそのイレギュラーに対応できるかどうかが、マスコミとして手腕を問われるところでしょうねえ。

**山本**　対応するんじゃなくて、逆に利用するんだよぉ。

―ズバリ言ってしまえば、山本さんが手放しで喜べないのは、自分の中にまだまだ古いプロレス観の残像があるってことですよ。だって、新しいプロレス観で見ればいいだけのことですから。

**山本**　そうなんだよなぁ、新しいプロレス観から見れば何も問題ないんだよなぁ。とにかく「選手は試合をやった者が勝ち」だからなぁ。そこで勝とうが負けようが、やった者がプラスに転化するから。実はここがビジネスで、その価値観が大事なんだよなぁ。

**谷川**　逆に言えば、プロデューサーはいかにそういう刺激的なカードを提供するかですよね。今回、名古屋の『DEEP』に行って驚いたんだけど、全部で15試合くらいあったんですよ。それはどうやら出たいっていう選手が多くて、断りきれなかったらしいんですよね(笑)。

**山本**　それ、プロレスにもあるでしょ。所属選手をオールすべてぜ〜んぶ出したい。それ自体がビジネスじゃないんだよねぇ。本当にビジネスが分かってない人間というのは、デフレに対する恐怖感があるんだよぉ。これを克服しないと。でも「ここでは10試合やらなきゃダメなんじゃないか」とか「客が来ないんじゃないか」とか。

―つまり、そういうプロデュースをしちゃう人っていうのは、マッチメイクで興行をデザインするっていう感覚がなくて、パズルで悩むんでしょう。

## 突き押しか、まわしを取って組むかなんだよぉ

突き押しか、まわしを取って組むかなんだよぉ

**谷川**　まあとにかく、そういう意味でも『プライド』とK―1は格闘技界を大きく変えましたよねえ。

**山本**　あとは『プライド』対K―1で考えると、ジャンルが違うように見えて実は同じ土俵とも考えられるわけよぉ。モグタンは相撲やってたんだろう?

**小松**　あ、はい。

**山本**　分かりやすく言うと、K―1と『プライド』が闘うのは相撲でいうと突き押し相撲が得意な力士(K―1)と、四つ相撲が得意な力士(『プライド』)が闘ってるようなもんよぉ。

**小松**　おおおお〜っ!

**谷川**　何を感心してるんだよ。

**山本**　分かりやすいだろう?

**小松**　分かりやすいです。

**山本**　突き押しか、まわしを取って組むかなんだよぉ。

**小松**　それは分かりやすいですよ!

**山本**　そんなこと、俺が言う前におまえが言えよぉ!

―今日は本当に絶妙のコンビになってるなあ(笑)。

**山本**　つまりK―1の千代大海と『プライド』の琴光喜が闘うようなもんだろっ。

**小松**　『プライド』対K―1って簡単なことだったんですねえ。

**山本**　青年よ、難しく考えるな!　よ〜するにいかに自分の得意な型に持ち込むか。それに持っていけるかどうか。それとハンデを背負って闘うということ。ミルコなら打撃が得意、でも組まれたらマズイというハンデ。K―1VS『プライド』はそういう見方が必要なんだよぉ。

**小松**　大晦日の安田忠夫は自分の型に持ち込んだから、バンナに勝ったわけですか。

**山本**　密着して相手の得意な間合いを作らせなかったから勝てたんだよぉ。

―まあ、モグタン的にいえば「相手に相撲をさせなかった」ってことだな。

**小松**　なるほど。

**谷川**　『プライド』対K―1の闘いってそういう意味でハズレがなさそうですよね。

**山本**　限りなくプロレス的だよなぁ。想像力がメチャクチャ働くよぉ。

―どうだ、これでモグもようやくノゲイラがK―1で闘ってほしいと思うだろう?

**小松**　あ、いや、べつに。

**谷川**　んあ〜っ!

■

## 4/11THU～4/25THU
## CALENDAR

| | |
|---|---|
| 4/11 THU | ★『SRS・DX』68号発売日 |
| 4/12 FRI | ■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール（18:00～）⬅p49<br>■掣圏道アルティメットボクシング定期戦/千葉・船橋アリーナ（18:00～）⬅p47<br>●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）⬅p69 |
| 4/13 SAT | ■日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p50<br>■掣圏道アルティメットボクシング定期戦/福島・郡山総合体育館（18:00～）⬅p47<br>◆DEEP2001 5th IMPACT/チケット先行発売⬅p46 |
| 4/14 SUN | ■掣圏道アルティメットボクシング定期戦/東京・ディファ有明（14:00～）⬅p47<br>■修斗/東京・北沢タウンホール（第1部15:00～、第2部18:00～）⬅p47 |
| 4/15 MON | |
| 4/16 TUE | |
| 4/17 WED | |
| 4/18 THU | |
| 4/19 FRI | ●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）⬅p69 |
| 4/20 SAT | ◆DEEP2001 5th IMPACT/一般発売⬅p46 |
| 4/21 SUN | ■J-NETWORK/東京・ディファ有明（15:30～）⬅p50<br>■K-1 BURNING 2002/広島サンプラザ（16:00～）⬅p46<br>■新日本キック協会/千葉・市原臨海体育館（16:00～）⬅p48<br>■掣圏道アルティメットボクシング定期戦/北海道・サッポロテイセンホール（16:00～）⬅p47<br>■修斗/東京・北沢タウンホール（18:00～）⬅p47 |
| 4/22 MON | |
| 4/23 TUE | |
| 4/24 WED | |
| 4/25 THU | ■木口道場/東京・北沢タウンホール（18:30～）⬅p46<br>★『SRS・DX』69号発売日 |

# 格闘技パーフェクトガイド
# Perfect Guide

# GUIDE & TICKET
# 大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

## PRIDE

### PRIDE.20
**4月28日（日）　神奈川・横浜アリーナ**

◆開場/15:00　試合開始/17:00 ◆入場料/VIP席100,000円 RRS席25,000円　スタンドS席15,000円　スタンドA席7,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/ドリームステージエンターテインメント、グレート・アントニオ（特典付き）☎03-3219-9550、全国有名プレイガイド
◆会場アクセス/JR東海道新幹線・横浜線新横浜駅、地下鉄新横浜駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメン☎03-5775-5700

**決定対戦カード**

ヴァンダレイ・シウバ vs ミルコ・クロコップ
（ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー）（クロアチア/クロコップ・スクワッドジム）

ギルバート・アイブル vs サム・グレコ
（オランダ/ゴールデン・グローリー）（オーストラリア/チーム・グレコ）

山本憲尚 vs ボブ・サップ
（高田道場）（アメリカ/フリー）

## 女子総合格闘技・AX

**もうひとつの女子総合『AX』がいよいよ活動再開！**

このまま消滅してしまうのでは!?　と思われていた『AX』が約4カ月ぶりに帰って来る！　昨年12月に行われた大会では、エース的存在の星野育蒔が辻結花に敗北。主催者の木村浩一郎が「星野だけの団体ではないので、負けた選手をメインにするわけにはいかない」と語ったとおり、次回大会では、4・7『スマックガール』でもメインを務める辻とジェット・イズミの対戦がメインイベント。修斗のリングで結果を残した星野はセミに登場。今回勝利して辻とのリマッチに繋げられるか!?

### AX Vol.3
**5月4日（土・祝）　東京・後楽園ホール**

◆開場/11:00　試合開始/12:00　◆入場料/RS席10,000円　S席6,000円　R席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、米里倶人満 小伝馬町店でんわ03-3639-8605、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-5286-7921

**決定対戦カード**

辻結花 vs ジェット・イズミ
（総合格闘技闇愚羅）（Jネットワーク）

星野育蒔 vs X
（米里倶人満）

### AX Vol.4
**6月26日（水）　東京・後楽園ホール**

◆試合開始/18:30　◆チケット発売/未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-5286-7921

## DEEP2001

**次回はシリアス路線！ワンデイトーナメント開催！**

### DEEP2001 5th IMPACT in DIFFER ARIAKE
**6月9日（日）　東京・ディファ有明**

◆開場/14:00　試合開始/15:00　◆入場料/SRS席10,000円 アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円
◆チケット発売/4月13日（土）先行発売、4月20日一般発売
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ディファ有明☎03-5500-3731、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

**6・9『DEEP2001 5th IMPACT in DIFFER ARIAKE』チケット情報**

〈チケット先行発売〉
4月13日（土）　10:00〜18:00
DEEP2001事務局　☎052-339-0303

## 木口道場

### CLOSE ENCOUNTER OF 木口道場
**4月25日（木）　東京・北沢タウンホール**

◆開場/17:00　試合開始/18:30
◆入場料/S席6,000円　A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/格闘ショップ・イサミ
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/大会実行委員会☎0466-26-3676

**主な出場候補選手**

秋本じん（K'zファクトリー）
朝日昇（東京イエローマンズ）
大石真丈（K'zファクトリー）
五木田勝（木口ワークアウトスタジオ）
五味隆典（木口道場レスリング教室）
桜井"マッハ"速人（GUTSMAN修斗道場）
桜田直樹（GUTSMAN修斗道場）
佐藤ルミナ（K'zファクトリー）
寺田淳（木口ワークアウトスタジオ）
山本聖子（日本大学レスリング部）
山本美憂（PUREBRED大宮）

K-1

## K-1 ジャパンシリーズ

### K-1 BURNING 2002 〜広島初上陸〜
**4月21日（日）　広島サンプラザ**

◆開場/14:30　試合開始/16:00　◆入場料/SRS席20,000円　S席12,000円　A席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、キャンディープロモーション、広島テレビ・チケットセンター☎082-249-1218　◆会場アクセス/JR山陽本線新井口駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

**決定対戦カード**

《日本vs世界5vs5マッチ》

〈大将戦〉
武蔵 vs セーム・シュルト
（正道会館）（オランダ/ゴールデン・グローリー）

〈副将戦〉
ニコラス・ペタス vs ピーター・アーツ
（デンマーク/極真会館）（オランダ/メジロジム）

〈中堅戦〉
中迫剛 vs アーネスト・ホースト
（ZEBRA244）（オランダ/ボスジム）

〈次鋒戦〉
子安慎悟 vs ニルソン・デ・カストロ
（正道会館）（ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー）

〈先鋒戦〉
野地竜太 vs アンドリュー・ペック
（極真会館）（ニュージーランド/エリートキックボクシングジム）

〈K-1 JAPAN GP 2002出場決定戦〉
天田ヒロミ vs タケル
（フリー）（正道会館）

大石亨 vs TSUYOSHI
（日進会館）（ボスジム）

## K-1 ミドル級シリーズ

### K-1 WORLD MAX 決勝戦
**5月11日（土）　東京・日本武道館**

◆開場/15:00　試合開始/16:00　◆入場料/SRS席20,000円 SS席12,000円　S席8,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、チケットぴあ、キョードー東京☎03-3498-9999
◆会場アクセス/地下鉄東西線、半蔵門線、都営新宿線九段下駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

**出場決定選手**

魔裟斗（シルバーウルフ）
シェイン・チャップマン（ニュージーランド）
アルバート・クラウス（オランダ/リンホー）
張加滉（中国）
ドゥウェン・ルドウィック（アメリカ）

## 修斗

### いよいよ日本の修斗のリングに女王クーネンが初見参！

プロ女子修斗2戦目にして、初の国際戦が決定した！ 数々の強豪をマットに沈めてきた無敵の女王マーロス・クーネンが日本女子総合格闘技界の影の実力者、石原美和子と対戦する！ この2人は昨年7月にオランダで行われたアマ修斗で対戦経験があり、その時はクーネンが勝利しているため、石原にとってはリベンジマッチとなる。女子総合格闘技の頂点を決めると言ってもいい、下北沢ではもったいないくらいの黄金カードだ！

マーロス・クーネンvs石原美和子

### WANNA SHOOTO 2002
**4月14日（日）・第1部　東京・北沢タウンホール**

◆試合開始/15:00 ◆入場料/S席6,000円 A席4,000円
◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/KEEL CAFE☎03-5725-7338 ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラTOKYO☎03-5984-3209

**決定対戦カード**

今泉堅太郎vs勝村周一郎
（SKアブソリュート）（K'zファクトリー）

マーロス・クーネンvs石原美和子
（オランダ／タツジン道場）（禅道会）

藤原正人vsドゥドゥ・ギマラエス
（パレストラTOKYO）（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）

菊地昭vsヤニ・ラックス
（K'zファクトリー）（スウェーデン/MMAアライアンス）

〈第1回修斗新人王決定トーナメント ウェルター級1回戦〉
石田光洋vs飛田拓人
（総合格闘技TOPS）（インプレス）

### WANNA SHOOTO 2002
**4月14日（日）・第2部　東京・北沢タウンホール**

◆開場/17:00 試合開始/18:00 ◆入場料/S席6,000円 A席4,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/KEEL CAFE☎03-5725-7338 ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラTOKYO☎03-5984-3209

**決定対戦カード**

マモルvs吉田広明
（シューティングジム横浜）（パレストラTOKYO）

鈴木洋平vsトニコ・ジュニオール
（パレストラTOKYO）（ブラジル/ワールド・ファイト・センター）

ザ・ばばんばvsマリオ・スタポル
（パレストラTOKYO）（ドイツ/パワー・アカデミー）

堂垣善史vs中山徹
（パレストラ加古川）（インプレス）

小島直人vs宮本直哉
（パレストラTOKYO）（ナックルジム）

### WANNA SHOOTO JAPAN
**4月21日（日）　東京・北沢タウンホール**

◆開場/17:00 試合開始/18:00 ◆入場料/S席6,000円 A席4,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/KEEL CAFE☎03-5725-7338、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分 ◆お問い合わせ/K'zファクトリー☎0427-40-5710

**決定対戦カード**

山崎剛vs川尻達也
（TEAM GRABAKA）（総合格闘技TOPS）

塩沢正人vs木部亮
（和術慧舟會）（ALIVE）

椎木努vs溝口直右
（直心会格闘技道場）（誠流会）

赤崎勝久vs塙真一
（K'zファクトリー）（和術慧舟會千葉支部）

〈第1回修斗新人王決定トーナメント フェザー級1回戦〉
喜多浩樹vs加納学
（パレストラTOKYO）（相補体術）

〈第1回修斗新人王決定トーナメント ライト級1回戦〉
門脇英基vs孫煌進
（和術慧舟會）（K'z ファクトリー）

### プロフェッショナル修斗公式戦
**5月5日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00 試合開始/18:00 ◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席5,000円 A席3,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、書泉ブックマート、格闘技ショップファイター、フィットネスショップ水道橋、KEEL CAFE、e-ticket（http://www.e-ticket.net）、チケット&トラベルT-1 ◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/イーフォース・ジャパン☎047-378-6400

### SHOOTO GIG EAST 09
**5月28日（火）　東京・北沢タウンホール**

◆試合開始/未定 ◆入場料/S席6,000円 A席4,000円
◆チケット発売所/パレストラ東京、KEEL CAFE☎03-5984-3209、チケット&トラベルT-1 03-5275-2778 ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラTOKYO☎03-5984-3209

### プロフェッショナル修斗公式戦
**6月29日（土）　大阪・堺市金岡公園体育館**

◆開場/14:00 試合開始/16:00 ◆入場料/SRS席15,000円 RS席12,000円 PS席12,000円 SS席10,000円 P席10,000円 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、他 ◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線新金岡駅より徒歩7分 ◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月14日（日）　東京・ディファ有明**

◆試合開始/14:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/ディファ有明、チケットぴあ、後楽園ホール、書泉ブックマート
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月21日（日）　北海道・サッポロテイセンホール**

◆試合開始/16:00 ◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか ◆会場アクセス/JR札幌駅より徒歩6分 ◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月26日（金）　北海道・鳥取ドーム**

◆試合開始/18:00 ◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円 ◆チケット発売/未定 ◆チケット発売所/未定 ◆会場アクセス/JR釧路駅より白糠線バス乗車、「西郵便局前」下車、徒歩10分 ◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月28日（日）　北海道・大成市民センター**

◆試合開始/13:00 ◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円 ◆チケット発売/未定 ◆チケット発売所/未定 ◆会場アクセス/JR旭川駅から旭川電気軌道バス・道北バス乗車「花咲町4丁目」下車
◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**5月5日（日）　北海道・函館市民体育館**

◆試合開始/16:00 ◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円 ◆チケット発売/未定 ◆チケット発売所/未定 ◆会場アクセス/市電市民会館前より徒歩1分
◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

## 格闘技エンターテインメントSMACK GIRL

### GOLDEN GATE 2002
**5月6日（月・休）　東京・ディファ有明**

◆開場/17:30 試合開始/18:30 ◆入場料/SS指定席4,500円 自由席3,500円 ※当日券は500円増し ◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート ◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分 ◆お問い合わせ/SMACK GIRL実行委員会☎03-5447-8483

### SMACK LEGEND 2002
**6月1日（土）　東京・ディファ有明**

◆開場/17:30 試合開始/18:30 ◆入場料/SS指定席4,500円 自由席3,500円 ※当日券は500円増し ◆チケット発売/発売中◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート ◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分 ◆お問い合わせ/SMACK GIRL実行委員会☎03-5447-8483

## 掣圏道

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月12日（金）　千葉・船橋アリーナ　サブアリーナ**

◆試合開始/18:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/東葉高速鉄道船橋日大前駅より徒歩約8分
◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

### 掣圏道アルティメットボクシング定期戦
**4月13日（土）　福島・郡山総合体育館**

◆試合開始/18:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/JR郡山駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション☎042-544-6979

キックボクシング

## 新日本キックボクシング協会

### STAND A CHANCE!～有望～
**4月21日（日） 千葉・市原臨海体育館**

◆開場/15:30 試合開始/16:00 ◆入場料/RS席10,000円 A席7,000円 B席5,000円 立見席3,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/治政館ジム、協会各ジム ◆会場アクセス/JR内房線五井駅西口より徒歩30分、JR内房線五井駅・市原市役所駅・臨海駐車場駅より無料シャトルバス運行 ◆お問い合わせ/市原ジム☎0436-25-1909

**主な対戦カード**

―5回戦―
ソムヨット市原（市原）vs 金成倍（韓国）
中村弘樹（藤本）vs 風神和昌（野本）
高杉茂男（伊原）vs 阿佐美義文（治政館）
福元祐一（治政館）vs 森田亮二郎（藤本）

### FIGHT Ⅵ
**4月28日（日） 神奈川・トーエル横浜**

◆開場/14:30 試合開始/15:00 ◆入場料/SRS席10,000円 RS席6,000円 2階席5,000円 立見席4,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/協会各ジム、チケットぴあ ◆会場アクセス/東急東横線綱島駅よりバス乗車、「大同メタル前」下車、徒歩5分 ◆お問い合わせ/トーエルジム☎045-590-3942

**主な対戦カード**

―5回戦―
中川タカシ（トーエル）vs ジャワリット・チューワッタナ（タイ）
大野信一郎（藤本）vs 遠藤心平（治政館）
葵真吾（トーエル）vs 新宅大介（伊原）

### LOCK ON！～奪還～
**5月26日（日） 東京・後楽園ホール**

◆開場/16:45 試合開始/17:00 ◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 S席10,000円 A指定席7,000円 B指定席5,000円 立見席4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/治政館ジム、チケットぴあ、後楽園ホール ◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/治政館ジム☎048-953-1880

**主な対戦カード**

―5回戦―
〈泰国ラジャダムナンスタジアム認定Jrミドル級タイトルマッチ〉
サゲッダーオ・ギャットプートン（タイ）vs 武田幸三（治政館）
〈日本フェザー級タイトルマッチ〉
小出智（治政館）vs 鈴木敦（尚武会）
深津飛成（伊原ジム）vs X
石井宏樹（藤本ジム）vs 朴炳圭（韓国）
松本哉朗（藤本ジム）vs 頼信（トーエルジム）
マサル（トーエルジム）vs ジャッカル黒石（治政館）
小川和宏（治政館）vs X

## パルテノン&バーサスエンターテインメント

### PREMIUM CHALLENGE
**5月6日（月・休） 千葉・東京ベイNKホール**

◆詳細未定 ◆会場アクセス/JR京葉線舞浜駅より路線バス12系統でヒルトンホテル下車すぐ ◆お問い合わせ/パルテノン&バーサスエンターテインメント☎03-5312-7522

**出場予定選手**

近藤有己（パンクラスism）
石井大輔（パンクラスism）
クリストファー・ヘイズマン（リングス・オーストラリア）
矢野卓見（烏合会）
秋山賢治（禅道会）
若林次郎（SKアブソリュート）
久原清幸（真武館）
所英男（パワーオブドリーム）

## パンクラス

### 郷野、５カ月ぶりに復帰！

昨年12・1横浜大会のパンクラス東京・横浜連合軍との対抗戦で、GRABAKAの大将として近藤有己と対戦し、病院送りにされた郷野聡寛。その郷野が5・11大阪大会で、パンクラスismの窪田幸生を相手にいよいよ復活を果たす！

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**5月11日（土） 大阪・梅田ステラホール**

◆開場/17:30 試合開始/18:30 ◆入場料/SS席8,500円 A席6,500円 B席4,500円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/P' sLAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ（Pコード594-040）、ローソンチケット（Lコード39910）、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、チャンピオン大阪☎06-6645-5186、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、神戸ステーキ桜井ポートアイランド☎078-303-3901、神戸住吉・富万☎078-811-6222、パンクラス ◆会場アクセス/JR大阪駅中央北口より徒歩10分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

**決定対戦カード**

渋谷修身（パンクラスism）vs 石川英司（パンクラスGRABAKA）
窪田幸生（パンクラスism）vs 郷野聡寛（パンクラスGRABAKA）
稲垣克臣（パンクラス大阪）vs 金井一朗（パンクラスism）

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**5月28日（火） 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30 試合開始/18:30 ◆入場料/SS席12,000円 A席9,000円 C席4,500円 D席3,500円 立見席3,000円 ※当日券は500円増し ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY ☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F ☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

総合格闘技&ノールール系

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**7月28日（日）・昼 東京・後楽園ホール**

◆開場/12:30 試合開始/13:30
◆入場料/SS席12,000円 A席9,000円 C席4,500円 D席3,500円 立見席3,000円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/6月2日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY ☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F ☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
**7月28日（日）・夜 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30 試合開始/18:00
◆入場料/SS席12,000円 A席9,000円 C席4,500円 D席3,500円 立見席3,000円 ※当日券は500円増し
◆チケット発売/6月2日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F ☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

### topic! 初代ウェルター級王者は誰だ!?

3・25後楽園大会からスタートした『パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント』。3・25に行われた1回戦、伊藤崇文vs港太郎では伊藤が勝利し、2回戦進出を果たした。また、今トーナメントの出場権を賭けた北岡悟vs大石幸史では、大石が勝利し、出場権を獲得。そして、同大会のリング上でMAキックの佐藤堅一がトーナメント参加を表明した。準決勝戦は、7・28後楽園大会・昼の部で、決勝戦は、7・28後楽園大会・夜の部で行われる。

**パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント出場選手**

國奥麒樹真（パンクラスism）
伊藤崇文（パンクラスism）
大石幸史（パンクラスism）
芹沢健一（RJW/CENTRAL）
岩崎英明（ストライブル）
長岡弘樹（ロデオスタイル）
佐藤堅一（士道館）

## シュートボクシング協会

### The age of "S" vol.3
**5月13日（月）　大阪府立体育会館第2競技場**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　SS席7,000円　S席5,000円　A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット
◆会場アクセス/地下鉄・南海なんば駅より徒歩5分、近鉄なんば駅より徒歩10分、JR大和路線なんば駅より徒歩15分
◆お問い合わせ/ワールドシュートボクシング協会 大阪ジム
☎06-6382-2863

#### 主な対戦カード

―5回戦―
緒形健一 vs X
（シーザージム）

前田辰也 vs 及川知浩
（寝屋川ジム）（龍生塾）

瀧口隼人 vs X
（大阪ジム）

森谷吉博 vs 市政貴文
（シーザージム）（大阪ジム）

藤岡一也 vs 関本宏
（岡山ジム）（寝屋川ジム）

### S-cupワールド・トーナメント2002（仮）
**7月7日（日）　神奈川・横浜文化体育館**

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

## 全日本キックボクシング連盟

**全日本の新エース候補・清水貴彦が伊藤隆の愛弟子・加藤督明と対戦！**

### Rising Force
**4月12日（金）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　一般立見席3,500円（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、Bout Review、全日本キック電話予約☎03-3365-1171
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟
☎03-3365-1171

#### 主な対戦カード

―5回戦―
清水貴彦 vs 加藤督明
（超越塾）（PHOENIX）

佐藤嘉洋 vs チャルムサック・イングラムジム
（名古屋J・Kファクトリー）（タイ）

〈全日本キック×J-NETWORK・対抗戦〉
林亜欧 vs 蔵満誠
（S.V.G.）（J-NETWORK/JTMC）

〈全日本バンタム級挑戦者決定戦／サドンデスマッチ〉
割澤誠 vs YUTAKA
（作真会館）（月心会）

## MA日本キックボクシング連盟

**さすらいの賞金ハンターがMA王者に標的を定めた！**

K-1中量級出場で一躍知名度がアップした後藤龍治が、MAミドル級王者・山上健吾と対戦！　山上は後藤を相手に、秘めた実力を見せつけられるのか!?　そして、先日の60キロ級トーナメントで優勝した花戸忍は、MAスーパーフェザー級のベルトに挑む！　全日本キックとの対抗戦も2試合組まれ、シュートボクシングからは宍戸大樹の参戦が決定。注目カードがいっぱいだ！

山上健吾 vs 後藤龍治

### 最強を求めて！「出陣・決勝」
**4月28日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　RS席10,000円　指定A指定席7,000円　B指定席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、他
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/東金ジム☎0475-52-1993

#### 決定対戦カード

山上健吾 vs 後藤龍治
（花澤）（STEALTH）

武藤孝行 vs 金沢久幸
（ビクトリー）（全日本／TEAM-1）

ラビット関 vs 杉上直之
（山木）（全日本／朝久道場）

〈MAスーパーフェザー級タイトルマッチ〉
花戸忍 vs ファイティング前沢
（東金）（土浦）

〈MAフェザー級王座決定戦〉
山田健博 vs ハンニバル鈴木
（東金）（山木）

東金シャノン vs 宍戸大樹
（東金）（シーザージム）

### 第5回梶原一騎杯 キック ガッツ 2002
**6月30日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆チケット発売/未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟
☎03-3485-7060

## ニュージャパンキックボクシング連盟

**5・12後楽園大会で小次郎のタイトル防衛戦決定！**

今年1月に行われた『K-1 WORLD MAX JAPAN』のリザーブマッチに出場し、隼人に勝利した小次郎が、ラジャのランカーを挑戦者に迎え、自身が持つWMC世界ウェルター級王座のタイトル防衛戦に臨む！

### DREAM RUSH 3
**4月29日（月・祝）　東京・板橋CASSスポーツクラブ**

◆開場/15:00　試合開始/15:30　◆入場料/指定席5,000円　自由席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/小国ジム、他　◆会場アクセス/東武東上線上板駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/小国ジム☎03-3989-0368

### DREAM RUSH 4
**5月12日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/16:45　試合開始/17:00　◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　指定A席5,000円　指定B席4,000円　指定C席3,000円　立見席2,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、他
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/NJKF事務局☎03-5625-2371

#### 決定対戦カード

〈WMC世界ウェルター級タイトルマッチ〉
小次郎 vs スイット・ウォースティラ
（ウィラサクレック）（タイ）

〈NKB統一トーナメント準決勝〉
桜井洋平 vs 岩井伸洋
（岩瀬）（小国）

〈NKB統一トーナメント準決勝〉
川津真一 vs 佐藤友則
（町田金子）（小国）

ウドンサック・ウォンパサー vs HIROSHI
（タイ）（サシプラパージャパン）

〈NKB統一トーナメント準決勝〉
笛吹丈太郎 vs ソムチャーイ高津
（大和）（小国）

清水力一 vs 立嶋篤史
（小国）（ASSHI-PROJECT）

〈NKB統一トーナメント準決勝〉
野崎勇治 vs AVIS SV-01
（東京北星）（小国）

〈NKB統一トーナメント準決勝〉
弘中史樹 vs 山本恭太
（ウィラサクレック）（大和）

### Ticket Present！

5・12『DREAM RUSH 4』のチケットと大会ポスターを、『SRS・DX』読者3名様にプレゼント！希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、今号の感想を明記して、下記のあて先までご応募を。締め切りは5月2日（木）必着。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆あて先／〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12　神田NSビル8F　SRS・DX編集部「5・12ニュージャパンキックチケットプレゼント」係

その他

## 日本女子ボクシング協会

### FIGHTING GIRLS PT2
4月29日（月・祝） 東京・北沢タウンホール

◆開場/16:00 試合開始/16:30
◆入場料/SRS席10,000円（当日12,000円） RS席7,000円（当日8,000円） S席6,000円（当日7,000円） 立見席3,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/日本女子ボクシング協会 ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/日本女子ボクシング協会☎03-3485-7063

**決定対戦カード**

ライカ vs レイラ・マッカーター
（山木ジム） （アメリカ）

八島有美 vs マーベラス森本
（ゴールドジム横浜馬車道） （スピード）

ミサコ山崎 vs 猪崎かずみ
（岩井） （鴨居）

ジプシータエコ vs 久保真由美
（山木） （鴨居）

袖岡裕子 vs 山田香子
（スピード） （総武会）

キャロライン vs 沢田真理
（スピード） （SBG）

## IF-PROJECT

### 前夜祭！ GI zero
5月1日（水） 東京・北沢タウンホール

◆試合開始/未定 ◆入場料/指定席999円
◆チケット発売/4月上旬発売予定 ◆チケット発売所/IF-PROJECT、パレストラ東京、各連盟公認アカデミー
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分 ◆お問い合わせ/IF-PROJECT事務局☎03-5945-7166

**決定対戦カード**

若林次郎 vs 荒牧誠
（スポーツ会館） （パレストラ東京）

**出場予定選手**

鈴木陽一（ALIVE）
澤田石和城（K'zファクトリー）
鈴木尚美（ノヴァ・ウニオンJAPAN）
岩間朝美（名古屋BJJクラブ）
田中昭弘（INTER-FIGHT）

### ～プロフェッショナル柔術リーグ～「GI um」Ground Impact
5月2日（木） ディファ有明

◆開場/17:00 試合開始/18:00 ◆入場料/SRS席15,000円（限定Tシャツ、パンフ、首掛チケット付） SS席10,000円 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円 ◆チケット発売/4月上旬発売予定 ◆チケット発売所/IF-PROJECT、パレストラ東京、各連盟公認アカデミー、チケットぴあ ◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分 ◆お問い合わせ/IF-PROJECT事務局☎03-5945-7166

**決定対戦カード**

中井祐樹 vs レオナルド・ヴィエイラ
（パレストラ東京） （ブラジル／アリアンシ）

植松直哉 vs 植野雄
（K'zファクトリー） （パレストラ東京）

大石真丈 vs 林秀徳
（K'zファクトリー） （グレイシーバッハ四国）

宍戸勇 vs 福住慎祐
（PUREBRED大宮） （名古屋BJJクラブ）

渡辺直由 vs 丹裕
（SSSアカデミー&K'zファクトリー） （ストライブル）

**出場予定選手**

朝倉孝二（パレストラ池袋）
桑原幸一（東京イエローマンズ）
吉岡大（PUREBRED大宮）

キックボクシング

## 日本キックボクシング連盟

### 2002破壊シリーズNKB統一ランキング戦
4月13日（土） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/17:30 ◆入場料/指定A席5,000円 指定B席3,000円 ◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

**主な対戦カード**

發田隆治 vs 中川裕也
（ウィラサクレック） （渡辺）

松浦信次 vs 木浪シャーク利幸
（東京北星） （小国）

松本浩幸 vs 神谷秀明
（八王子FSG） （ピコイ・錦）

難波博志 vs 児玉正暁
（截空道） （ピコイ・錦）

〈引退記念試合〉
尾崎英樹 vs 川島康人
（ピコイ・錦） （村越）

## J-NETWORK

### J-BLOODS Ⅱ
4月21日（日） 東京・ディファ有明

◆開場/15:00 試合開始/15:30 ◆入場料/RS指定席10,000円 S指定席8,000円 A指定席6,000円 B指定席4,000円 立見席4,500円（当日のみ） ※当日券は1,000円増し ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/J-NETWORK、アクティブJ三軒茶屋ジム、サバーイ町田ジム、ソーチタラダ渋谷ジム、J-NETWORK池袋ジム、チケットぴあ ◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分 ◆お問い合わせ/J-PROMOTION☎03-3418-5248

**主な対戦カード**

―5回戦―

西山誠人 vs 浜川憲一
（ソーチタラダ） （全日本／作真会館）

五十嵐幹志 vs プアカーオ・ポープラムック
（ソーチタラダ） （タイ）

浦林幹 vs 笠原大介
（JMTC） （全日本／GENESIS）

稲葉潤 vs 砂田将祈
（サバーイ町田） （はまっこムエタイ）

尾田淳史 vs チャモアトーン・ポープラムック
（JMTC） （タイ）

空手

## 国際格闘空手道連盟 大道塾総本部

### 大道塾新世代台頭なるか!?

昨年11月に行われた第1回北斗旗世界大会で、主力選手の多くは引退。今大会は、新世代の発掘の場となる大会だ。次回世界大会で活躍を遂げる選手は生まれるか!?

### 2002ミヤギテレビ杯オープントーナメント 北斗旗全日本空道体力別選手権
5月5日（日） 宮城県スポーツセンター

◆開場/8:30 試合開始/9:30
◆入場料/S席2,000円（当日3,000円） A席1,500円（当日2,000円）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、大道塾公式ホームページ（http://www.daidojuku.com）
◆会場アクセス/JR仙台駅より市営バス「仙台博物館・国際センター前」下車
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

アマチュア

## 髙田道場

### 髙田道場サブミッションレスリング大会
4月14日（日） 東京・髙田道場 B1F

◆試合開始/14:00 ◆入場料/無料
◆会場アクセス/東急目黒線武蔵小山駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/髙田道場☎03-5749-5030

## U-FILE CAMP

### STYLE-S
4月28日（日） 東京・大田区体育館 分館

◆開場/11:00 試合開始/11:15
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR京浜東北根岸線、東急池上線・目蒲線蒲田駅より徒歩15分、京急本線梅屋敷駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/U-FILE CAMP☎044-932-0282

## アマチュア修斗

### 東京フリーファイト2
4月21日（日） 東京・北沢タウンホール

◆試合開始/未定 ◆入場料/無料 ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/K'zファクトリー☎0427-40-5710

### コパ・パレストラ ウエスト・ジャパン
5月4日（土・祝） 兵庫・神戸市立王子スポーツセンター 柔道場

◆試合開始/10:30 ◆入場料/無料 ◆会場アクセス/JR灘駅より徒歩10分 ◆お問い合わせ/パレストラTOKYO☎03-5984-3209

## 主要チケット発売所一覧

| | |
|---|---|
| チケットぴあ ☎03-5237-9999 | レッスル池袋店 ☎03-3989-0056 |
| ローソンチケット ☎03-3569-9900 | 板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443 |
| CNプレイガイド ☎03-5802-9999 | チャンピオン ☎03-3221-6237 |
| オデッセー ☎03-3408-0331 | 書泉ブックマート ☎03-3294-0011 |
| 渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513 | 後楽園ホール ☎03-5800-9999 |
| レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078 | |

# バックナンバー インフォメーション

**これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）**

### 《12・27&1・10　合併号　60号》

●完全速報！/12・8『K-1ワールドGP2001決勝戦』
●12・31「猪木軍vsK-1」最新情報/K-1王者マーク・ハント、永田裕志、レイ・セフォーインタビュー、堀辺正史師範提言「こうすれば猪木軍vsK-1は面白くなる」
●噂の三面記事/12・23『プライド18』に両王者揃い踏み？　ほか
●SRS・DXの注目/パンクラス尾崎社長、金原弘光インタビュー、TKが訴える日本人選手意識改革論、前田日明がグレート・アントニオにやって来た！
●大会詳報/12・1パンクラス横浜文体大会、11・20シュートボクシング後楽園大会、11・30全日本キック後楽園大会　ほか

### 《1・24　臨時増刊号　61号》特別定価／720円

●12・31『猪木軍vsK-1』直前情報/『猪木軍vsK-1』決戦目前密着ドキュメント、アントニオ猪木vs石井和義対談、ホイス、ベルナルド、安田インタビュー
●完全速報/12・23『プライド18』マリンメッセ福岡大会
●年末ビックイベント大特集/12・9新日本キック ラジャダムナン興行、12・16修斗NKホール大会、12・21リングス横浜文体大会、12・23DEEPディファ有明大会
●年末企画/アントニオ猪木が2001年マット界を一刀両断！
●大会レポート/12・9全日本キック後楽園大会、12・15ReMix2001ロシア大会
●別冊付録/『SRS・DX』2002年カレンダー

### 《1・24　62号》

●完全詳報！/12・31 INOKI BOM-BA-YE 2001『猪木軍vsK-1最強軍』、安田忠夫インタビュー、アントニオ猪木、石井館長コメント、新春☆緊急座談会
●噂の三面記事/前田日明、突然のリングス解散宣言！、K-1ジャパン静岡初上陸で中迫vsハントが決定！、『一撃』は日テレが放送　ほか
●SRS・DXの注目/東スポ大賞技能賞受賞・菊田早苗インタビュー、2・11『K-1 J・MAX』に名乗りを挙げた異色ファイターたちに迫る！…村浜武洋、須藤元気インタビュー
●速報/1・4全日本キック後楽園ホール大会
●大会レポート/12・26『AX』、12・28『SAMURAI!開局5周年記念イベント』

### 《2・14　63号》

●2002年、早くも始まったマット界の大地殻変動！/田村潔司、髙田延彦、武藤敬司、ドン・フライインタビュー
●大会詳報/1・11『一撃』代々木第2体育館旗揚げ大会
●新春三大特集！/『K-1 J・MAX』、ルチャ・リブレ、女子総合格闘技特集
●SRS・DXの注目/『SRS・DX』公式HP集計結果大公開！、12・31『猪木軍vsK-1軍』の余波…石井館長、永田裕志、堀辺正史、尾崎社長インタビュー
●噂の三面記事/『K-1 J・MAX』トーナメント組み合わせ決定！　ほか
●大会レポート/1・11『UFC35』、1・12修斗後楽園大会　ほか

### 《2・28　64号》

●緊急特集/揺れる猪木イズム　21世紀のプロレスとは？　アントニオ猪木、蝶野正洋、馳浩、週刊ゴング・金沢克彦編集長インタビュー
●K-1特集/ミルコ、ハント、中迫インタビュー、特別寄稿「プロレスマスコミから見たK-1」…紙のプロレスRADICAL・山口日昇編集長、週刊ファイト・井上義啓元編集長
●「プライド19」直前情報/エンセン井上、ブッカーKインタビュー
●「SRS・DX」特別企画/夢の競演！　ヤノタクvsルチャ
●大会レポート/2・1SB後楽園大会、1・27K-1 JAPAN静岡大会、1・27パンクラス後楽園大会、1・27新日本キック後楽園大会、1・26NJKF後楽園大会　ほか

### 《3・14　65号》

●大会速報/2・24「プライド19」さいたまスーパーアリーナ大会
●大会詳報/2・11「K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメント」代々木第2体育館大会、2・15リングスラストマッチ横浜文化体育館大会
●ターザン山本復活！「K-1 WORLD MAX」座談会
●SRS・DXの注目/小比類巻貴之&黒崎健時インタビュー、カーロス・ニュートンインタビュー、3・30DEEPに向け佐伯代表がメキシコ視察「これが噂のルチャ最強軍団だ！」
●大会レポート/2・11修斗神戸大会、2・15全日本キック後楽園大会、2・17パンクラス大阪大会、2・22THE BEST後楽園大会

### 《3・28　66号》

●特集「次は『K-1vsPRIDE』か？」/ミルコ・クロコップ、桜庭和志インタビュー
●徹底検証/WWF緊急座談会、武藤敬司、島田裕二インタビュー、石井館長、鈴木健想、村浜武洋、篠原光に聞く「あなたはWWFをどう見ましたか？」
●大会詳報/3・3『K-1 ワールドGP2002』名古屋レインボーホール大会
●3・30『DEEP2001』名古屋大会情報/和田良覚、横井宏考、エル・ソラールインタビュー
●SRS・DXの注目/ホドリゴ・グレイシーインタビュー、前田日明vs山崎一夫トークショー
●大会レポート/2・24K-1オランダ大会、3・2ZERO-ONE1周年記念両国大会、3・2SMACK GIRLディファ有明大会　ほか

### 《4・11　67号》

●《緊急特集K-1vs『プライド』》/K-1&『プライド』ファイターを徹底検証、セーム・シュルト、山本憲尚インタビュー、ボブ・サップとは何者か？、ブッカーKが語る総合ファイターの打撃力　ほか
●大会速報/3・22『UFC36』ラスベガス大会
●SRS・DXの注目/田村潔司、女子中学生ファイター・Eikaインタビュー
●3・30『DEEP2001』最終情報/滑川康仁、渡辺大介インタビュー
●大会レポート/3・15修斗後楽園大会、3・17全日本キック後楽園大会、3・24コンバットレスリング選手権大会、3・24新日本キック後楽園大会

**バックナンバー　通信販売方法**

定価／各680円　送料／1冊＝110円、以下一冊増えるごとに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1〜2週間ほどかかりますのでご了承ください。61号のみ720円です。ご注意願います。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　『SRS・DX　バックナンバー係』まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

---

NEXT ISSUE

# K-1vsPRIDE、遂に開戦！

## どうなる、どうするマット界!?
## SRS・DXを見れば分かる！

**完全速報**

**4・21 K-1ジャパン 広島大会**
第1弾 武蔵は大巨人セーム・シュルトを倒せるのか!?

**直前情報！**
**4・28 PRIDE.20 横アリ大会**
第2弾 ミルコvsシウバ決戦間近！
全カード&見どころ

**4月25日（木）発売！**
**2002 5/9&5/23合併号 No.69**
毎月第2・第4木曜日発売　定価 680YEN
発行/フジテレビ出版・ローデス　発売/扶桑社

SRS・DX
スペシャル・リング・サイド

※ No.70は4・28 PRIDE.20 横アリ大会 速報のため、通常より1週間早い5月2日（木）発売になります。

# 浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

## ついに『プライド』VSＫ－１開戦！
## 格闘世界大戦にキッドの興奮も最高潮！

**博士**　しかし格闘技界が凄いことになってきたな。
**玉袋**　まさかFMWを潰した冬木が新団体を旗揚げするとは……。
**博士**　そんなことじゃないよ！
**玉袋**　大槻教授がついにロシアの超能力少女にKO負けしましたか!?
**博士**　どこが格闘技だよ！　『プライド』VSＫ－１の話だろそれ！　TVタックルがどえらいことになりそうだろ。
**玉袋**　その中で最高峰のカードがミルコVSシウバってカードですよね。
**博士**　いきなりバーリ・トゥードの頂上対決だよ！
**玉袋**　まさかこんな闘いの図式が実際に起きるとは……。
**博士**　はっきり言って越境対決もいいところ。それでいて夢のカードで思いっきり刺激的。この交わりの速度の速さには驚きだよ！
**玉袋**　三田村邦彦の顔面にヒットした豪速球より速いですよ！
**博士**　TBSの大感謝祭の話はいいんだよ！　昔はK－1は立ち技、『プライド』は寝技ってくくりで見ていて、まさか闘うことになったらテニスVS卓球みたいなもんだから、成立するわけないって言われてたんだからな。
**玉袋**　チャイナVS猪木様ぐらいあり得ない話なわけですよ。
**博士**　それは本当にあるかもしれないんだよ！
**玉袋**　実現しなかったら、ごめんなチャイナ。ンムフフフ……。
**博士**　言うか！
**玉袋**　でも、今回実現！　出し惜しみしないって言うにも程があるほどですよ！
**博士**　プロレスファンとしては昔の馬場VS猪木ってのは、実現してほしいんだけど、現実は決して実現してはいけないカードだった。その両者のバランスがプロレスというジャンルを作っていた。
**玉袋**　でも、今回のミルコVSシウバっていうのは言ってしまえば馬場VS猪木が実現しちゃうみたいなもんですからね。
**博士**　そうなんだよ！　だから嬉しい反面！　本当に出し惜しみしなさすぎに今の格闘技界の運動能力の高さを感じるんだよ！
**玉袋**　プロレスは結局、その他団体とは簡単に交わらないっていう、昔からの掟を守ってきて、現在でも基本的にはそれだから、大きく格闘技界に遅れをとったんですね。
**博士**　そうなんだよ！　プロレス業界は本当にこの現実に気付いてほしいよ！
**玉袋**　お笑い界も、鎖国を解かないとダメですよ！　今後はダウンタウンと爆笑問題が絡むとか、ものまね王座とモノマネバトルが絡むとか、志村けんとビートたけしが番組やるとか……。
**博士**　タケシムケンは絡んだら相乗マイナス効果だったろ!!
**玉袋**　でもこの急展開、みのもけんじ原作でもここまでは思いつかないですよ！
**博士**　すでに現実のほうがプロレススターウォーズ超えてるし、たとえリアル梶原一騎ワールドでもここまでは行かなかったろう。
**玉袋**　俺たちみたいな昭和者には刺激が強すぎるよ。
**博士**　もはやそこをあえて無視して枠から飛び出さないプロレスは滅びていく一方だ！
**玉袋**　でも、WWFは生き残りますけどね。
**博士**　とにかく今年の夏にはもっと想像を絶する状況になるだろう。
**玉袋**　本当に今から心臓バクバクしてきました!!
**博士**　そしてセーム・シュルトが武蔵と激突！
**玉袋**　これで武蔵がシュルトを喰えばブレイクですよ！
**博士**　それでもし武蔵が総合に来たらなんて考えちゃうし、世界大戦は確実に勃発しているよ。『プライド20』には久しぶりにまだ見ぬ強豪も現れる。
**玉袋**　和田良覚を超える驚愕の強豪！　あまりにもデカすぎて、石井館長も隠そうにも隠せない、超隠し玉のボブ・サップですよ！
**博士**　見てみぃあの身体！　あれは人間じゃないよ！
**玉袋**　デカイ相手はヤマノリにお任せ！ってことで、これと闘うのが元リングス・ジャパン、現高田道場の山本ですよ！
**博士**　大物にはノルキヤには勝ったが、ヒカルド・モラエスには負けている。
**玉袋**　大物相手には1勝1敗だ。ここで勝ち越せるかですよ！
**博士**　でも、ヤマノリはべつにデカイ相手専門じゃないからな。
**玉袋**　すでに宗男から離れたムルアカ氏をスパーリングパートナーにしてるそうですよ！
**博士**　するかよ！　元K－1選手のサム・グレコも参戦！
**玉袋**　オーストラリア予選で大橋巨泉を倒して出場権獲得！
**博士**　そんなわけないよ！　対戦相手はドン・フライ相手に反則の限りを尽くし、ファンの間から「もう来日しなくていい選手ナンバー1」に選ばれた悪童ギルバート・アイブル！
**玉袋**　本格的な不良外国人ですからね。ここはサムが完膚なきまで叩きのめせば一気にベビーフェイスになりますよ！
**博士**　でも、アイブルのサミングには要注意だ！
**玉袋**　サムグレコ改めサミングレコにされちゃいますからね。
**博士**　それだけじゃない。パンクラス勢の菊田に美濃輪も参戦すると言われているからな。
**玉袋**　それだけじゃなく、鈴木みのるVS佐々木健介の試合も『プライド』でやっちゃいましょう！
**博士**　やるわけないよ！　でも、さっきチョコッと出てきたレフェリーの和田良覚選手がDEEPでデビュー初白星を挙げた。
**玉袋**　こうなってくると、アマチュアリングス優勝経験者の島田レフェリーとの対決を実現してくれ！
**博士**　レフェリー同士が闘って誰が裁くんだよ！
**玉袋**　もちろんミスター高橋ですよ！
**博士**　うん、そのカード俺も乗った！　K－1があって、『プライド』があって、DEEPがあって、UFCもある。
**玉袋**　競技は違うけど、それらを全て簡単に飲み込んでしまうWWFがある。
**博士**　プロレスで格闘技に対抗できるのは、もはやWWFしかないかもしれないな。
**玉袋**　最終戦争はWWF VS『プライド』になるのがいいですよ！
**博士**　それも夢のカードだけど、まさかあり得ないだろうな。
**玉袋**　でも、そのまさかが現実になるのが今のご時世ですよ！
**博士**　ロックVSミルコ、ビッグショーVSボブ・サップなんかも実現するか！
**玉袋**　和田良覚VSアール・ヘブナーも実現ですよ！
**博士**　レフェリー対決はいいよ！　■

WORLD MAX 2002

# 5・11「K−1 WORLD MAX2002」

# 出場選手決定!

## 初のK−1ミドル級世界一最強の男が決まる!

日本代表
魔裟斗

館長推薦
小比類巻貴之

ヨーロッパ代表
マリノ・デフローリン

ヨーロッパ代表
アルバート・クラウス

| オセアニア代表<br>シェーン・チャップマン | アメリカ代表<br>ドゥウェン・ルドウィッグ |
| --- | --- |
| 中国代表<br>張加洸 | タイ代表(調整中!)<br>チャンプアック・ウィラサクレック |

5・11「K−1 WORLD MAX2002」の出場8選手が決定した。注目の館長推薦は、ファン投票で圧倒的な票数で1位を獲得した小比類巻貴之がゲット。ちなみに、ファン投票では魔裟斗が「タイ代表で出てくればいいのに」と言った武田幸三が2位に、そして3位・村浜武洋、4位・須藤元気と2・11K−1ミドル級大会で活躍した2人がランクインした。この他にヨーロッパ代表の残りの1枠にアンディ・フグの直弟子、マリノ・デフローリンが決定。マリノは2001年のK−1スイス大会で小比類巻と対戦して勝利している選手。今回、チーム・ドラゴンから黒崎道場へと所属を変えた小比類巻にとって、リベンジしなければならない選手がまた1人増えたことになる。さて、K−1ミドル級の歴史に初代世界一の称号を得て名前を刻まれるのはいったい誰なのか?　2・11大会以上に激しい潰し合いの試合となりそうだ。

バカ売れ

### 4・28『プライド20』カード発表が遅くてもイベント熱は早くも沸点？

# 『プライド』VSＫ－1効果か？全カード発表前にチケットほぼ完売！

今年のK—1は、昨年の猪木軍VSK—1効果で、どの大会もチケットが軒並みソールドアウト状態の大盛況が続いている。

そして、新たに勃発した『プライド』VSK—1の抗争により、早くも『プライド』にもその効果が現れたのか、4・28『プライド20』は、全カードが発表されてない状態にもかかわらず、チケットがほぼ完売状態というから、いかにファンが『プライド』VSK—1開戦に期待しているのかがうかがえる。

約1年ぶりとなる横浜アリーナは、超満員の観客で埋め尽くされるだろう。そこで、すでにチケットを購入したファンも含め、気になるのは対戦カードである。

3月28日、DSEの事務所で一部カード決定ということで会見を開いた森下社長から発表されたのは、メインイベントのヴァンダレイ・シウバVSミルコ・クロコップの一戦だった。

いきなり切り札とも言えるシウバを登場させた経緯について森下社長はこう語った。

「この一戦を決定したのは、ファンが望むマッチメイクを組んでいくというコンセプトを貫くという点で決定しました。『プライド』で旬のシウバをあえて出したのは、ミルコ選手はこれまで引き分けてますけども髙田選手とやり、藤田選手には勝っております。どうしても『プライド』がらみの選手でミルコ選手に勝ちたいと思いまして（笑）。ファンの方もそういう部分を期待しているのではないかと思って決めました」

K—1だけでなく、今、ミルコは格闘技界、プロレス界にとって、一番闘って勝ったら〝おいしい選手〟にまで成長した。

そうなると、気になるのがルール問題である。ミルコが『プライド17』に参戦した時は、特別ルールで髙田と闘ったが、今回はどうなるのだろうか。

森下社長は「ルールは交渉してます。『プライド』ルールを反映しつつ、3分5Rになるのではないかと思います。ただ、その場合、4点ポジションでのヒザ蹴りは認めてもらいたいなと。これまでミルコ選手がやっていたルールよりも、より『プライド』ルールに近づけたいと思っておりますが、合意に至ってはおりません。僕の一番の希望は『プライド』ルールなんですが……」と、基本路線は『プライド』ルールを打ち出しつつも、譲歩しようとする姿勢を打ち出した。

今号のアイブルのインタビュー記事にもあるように、K—1に出るなら、K—1ルール、『プライド』に出るなら『プライド』ルールで闘うべきだというのは、正論と言えば正論だ。

だが、それを多少譲歩してまでも、シウバVSミルコ戦を実現させた森下社長の真意は「自分にとってはマッチメイクが成立しないほうがデメリットがあると思ったからです。多少ルールが逸脱しても、どうしてもこの一戦を実現させたかった。K—1ルールは触りようがないですが、

▲3月28日、DSEの事務所で会見を開いた森下社長。この時点で発表されたのはシウバVSミルコ戦だけだった

## 『プライド』へ乗り込む石井館長のコメント

### シウバVSミルコ戦について

「ルールは3分5Rの総合ルールだと聞いてます。（グラウンドの時間制限は？）それはどうでもいいですよ。時間無制限一本勝負にしますか（笑）。もうちょっと寝技の練習をさせたかった。実際は半年ちょっとしかやってないですからね。でも、ミルコのためにも総合のチャンピオンという強い選手とこの時期にやっておくのはいいのではないかと思います。ミルコはあくまでもチャレンジャー、より高い山を目指して最強魂にふれてほしい。勝とうが負けようがいいんですよ。ミルコには『勝っても負けてもいいから思い切り頑張りなさい』と言いました。シウバもムエタイの選手で打撃に慣れてますからね。出会い頭の一発で試合が決まるかは分からないですね。（シウバが負けた場合、森下社長は桜庭選手を送り込むと言ってますが）桜庭選手はシウバとはまた違う強さがあるんですね。やるには練習が必要ですね。でも、桜庭選手とまでやらせてくれるなんてありがたい話ですよ。でも、その前にシウバに勝たないと。シウバは強いですからね。（勝算は？）ミルコが倒すとしたら左ストレート。打ち合ってほしいけどこればっかりはやってみないと分からないから。ミルコが勝つとしたら運の強さ。たとえ1％でも10％でも勝算があるなら、それに賭けて勝負しないとね」

### アイブルVSグレコ戦、山本VSサップ戦について

「アイブルは目に指を入れる反則とかをするんでね。そこだけないように話をしてほしいです。サムは最近目の手術をしたばかりなんで。アイブルは打撃の選手でむちゃくちゃやってくるんで、サムと試合をすると面白いと思いますよ。山本選手はノルキヤに勝って〝巨人キラー〟なので面白いのではないかと思います」

▲3月29日、日本テレビで行われた『最強魂』の収録後に会見を行った石井館長。アイブルVSグレコと山本VSサップ戦を発表。報道陣も多数詰めかけた

『プライド』ルールは多少触ってでも、MMAの領域を超えなければいいと思います。ちょっと特別扱いをしてしまってるかもしれませんけどね（笑）。とにかく、最大限の可能性を見い出してやるべきではないかなと。闘ってみるということを最優先させることが重要。シウバ側はこちらにルール面は全て任せてくれてますので」というものだった。その裏には、シウバならミルコを倒してくれるに違いないという、森下社長の願望も強いからではないだろうか。

森下社長の話を聞く限りでは、K—1側が3分5Rを譲らないようにも聞こえるが、翌日に会見を開いた石井館長の発言はニュアンスがちょっと違っていた。

「最初のオファーの時点で、ルールは3分5Rの総合ルールだと聞いてます。『プライド』ルールとは聞いてないですよ。ミルコにもそう伝えてます」（石井館長）

微妙に食い違うルール問題だが、依然として交渉は続いている模様。だが、最終的には3分5Rに落ち着くのではないだろうか。

そして、交渉が続いていると言えば、『プライド』VS K—1開戦の話が出る前からすでに宣言されていたパンクラスの参戦だ。

シウバVSミルコ戦発表の会見で森下社長は「一部報道で菊田選手や美濃輪選手が希望の対戦相手を発言されてましたが、こちらとしても交渉はしましたが、実現できませんでした。その後も、オファーはしています。来週中には発表できるのではないでしょうか。必ず実現させたいと思ってます。K—1の選手だけでなく、パンクラスの選手にも『プライド』のリングでしか闘えないクオリティの高い選手と闘ってほしいと思って交渉を続けております」と、パンクラスとの交渉が難航している経緯を語った。

パンクラス側で『プライド20』に参戦するのは、菊田早苗だけとなりそうだが、その菊田の相手もなかなか決定までに至らず、このページの締め切りである4月5日の時点では、相変わらず交渉は難航したままのようである。

パンクラス絡みのカードが決まらないため、最終的な全カード発表も難航している『プライド20』。では、現時点で発表している3カードのうち、前号で発表されたシウバVSミルコ戦以外の見所を紹介しよう。

まず、山本VSサップ戦は、ノルキヤを下して一躍、K—1キラーとなった山本が、160キロ以上あるサップを相手にどんな試合を見せるのかが興味深い。

また、この試合が総合デビュー戦となるサップの動きにも注目だ。〝機敏な160キロ〟がVTをやるとどんなことになるのか。目の離せない一戦となりそうだ。

もう1人、K—1軍から参戦するグレコにも、かなりの期待が集まっている。WCW時代に使っていた得意技の「フラッドスタイナー」や「GKO」は出せないかもしれないが、総合の試合でグレコが武器とするのはどんな技なのか？　それを試すのがアイブルというのが、また危険極まりない。

アイブルは3・17『2H2H』で、ボブ・シュライバーをボコボコにシバき倒し、病院送りにしたばかり。さらに、『プライド』ルールで闘えないことに対してかなりご立腹の様子。

基本的にケンカファイトのアイブルのスタイルに合わせると、凄絶な結果が待ち受けるだろう。

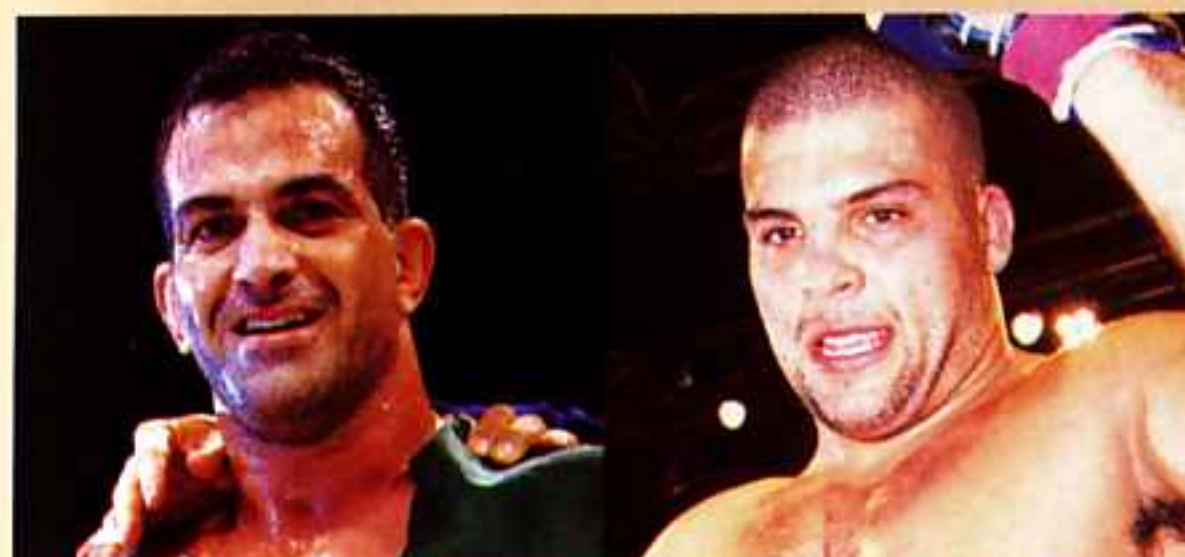
『プライド』VS K—1開戦第2Rの行方、そしてパンクラス問題と、『プライド20』は、試合当日まで気が抜けない状況が続きそうだ。■

## 決定カード

ヴァンダレイ・シウバ VS ミルコ・クロコップ
（ブラジル／シュート・ボクセ・アカデミー）（クロアチア／クロコップ・スクワッドジム）

山本憲尚 VS ボブ・サップ
（日本／髙田道場）（USA／フリー）

ギルバート・アイブル VS サム・グレコ
（オランダ／ゴールデン・グローリー）（オーストラリア／チーム・グレコ）

## あくまでも 予想カード

マリオ・スペーヒー VS ムリーロ・ニンジャ
（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）（ブラジル／シュート・ボクセ・アカデミー）

ダン・ヘンダーソン VS ヒカルド・アローナ
（アメリカ／チーム・クエスト）（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）

佐竹雅昭 VS クイントン・ランペイジ・ジャクソン
（日本／怪獣王国）（アメリカ／チーム・イハ）

カーロス・ニュートン VS ニーノ・"エルビス"・シェンブリ
（英領バージン諸島／ウォリアー・マーシャルアーツ・センター）（ブラジル／アカデミア・ブドーカン）

義務感

大丈夫か？ 4・21広島大会でシュルトと対戦する武蔵が男前に意気込みを語った！

# 「K—1に挑戦されてる気がするんで迎え撃たないといけない義務感がある」

いよいよ間近に迫った4・21K—1ジャパン広島大会。注目はなんといっても、K—1VS『プライド』開戦第1Rとして行われる武蔵VSセーム・シュルトの一戦だ。

シュルトのコメントは前号で掲載したが、オランダの関係者のコメントからしても、いったい、武蔵はどんなふうに破壊されてしまうのだろうかと心配になっている読者も多いことだろう。

さて、当事者の武蔵だが、そんな心配はどこ吹く風。本人はいたってマイペースでこの一戦を迎えようとしている。武蔵は『プライド』でシュルトが闘った小路戦、佐竹戦、高山戦をビデオで見たそうだが、感想を聞くと「う～ん、シュルトがどうのこうのというより、相手の選手の構えからしてK—1ルールで試合をする時にああいうふうに構えないですからね。高山選手は最初ちょっと打ち合ってましたよね。まあ、大丈夫だと思います」とあっさりしたもの。

う～ん、頼もしいというか、逆に大丈夫か？ とも思ってしまうが、武蔵はこの一戦を「K—1に挑戦されてる気がするんで、それは迎え撃たないという義務感はあります」と武蔵なりに責務を果たそうという気持ちは強い。

そうなると、あとはリングで意気込みに対する結果を出すしかない。シュルトに対して〝武蔵流〟は命取りの戦法だ。武蔵はあえてそれを捨てて、1Rから飛び込んでいくつもりでいる。脱・武蔵流となるのか？ そうなると、この試合はかなり面白くなる。

この武蔵戦だけでなく、広島大会は全カード見所満載と言っても過言ではない。

中迫VSホースト戦も中堅戦となっているが、本来はもっと上に持っていってもいいカードである。

その中迫、なんと黒髪の坊主に豹変していた。「金髪は面倒くさいんですよ」と言っていたが、「もう、練習して頭が真っ白でなんてコメントしていいか分からない」と言うほど、かなり練習は充実している様子。ハント戦に続き、アッと驚くことをしでかしてくれるのか楽しみだ。■

## 4・21 K—1 BURNING2002 全カード

**日本VS世界5対5マッチ**

●第7試合／大将戦●
武蔵（日本／正道会館） VS セーム・シュルト（オランダ／ゴールデン・グローリー）

●第6試合／副将戦●
ニコラス・ペタス（デンマーク／極真会館） VS ピーター・アーツ（オランダ／メジロジム）

●第5試合／中堅戦●
中迫剛（日本／ZEBRA244） VS アーネスト・ホースト（オランダ／ボス・ジム）

●第4試合／次鋒戦●
子安慎悟（日本／正道会館） VS ニルソン・デ・カストロ（ブラジル／シュート・ボクセ・アカデミー）

●第3試合／先鋒戦●
野地竜太（日本／極真会館） VS アンドリュー・ペック（ニュージーランド／エリートキックボクシングジム）

**K—1 JAPAN GP2002出場決定戦**

●第2試合●
天田ヒロミ（日本／フリー） VS タケル（日本／正道会館）

●第1試合●
大石亨（日本／日進会館） VS TSUYOSHI（日本／ボスジム）

▲収録の合間に館長自らシュルト対策を武蔵に伝授。「武蔵はこの試合で吹っ切れてほしいね」と石井館長

▲4月1日より放送が始まった「最強魂」（日本テレビ系・毎週月曜日の深夜1時30分～2時）は、K－1だけでなく、様々な立ち技格闘技も追いかける番組だ

### 中迫のコメント

「ホースト戦は自ら望んだ試合です。以前、ボス・ジムに行ってスパーリングをしたことありますけど、その当時はまだ僕がペーペーで、とにかくうまいなぁと。ジャブが見えないんですよ。まっすぐ飛んでくる感じで。あと目に見えないプレッシャーを掛けてくる。とりあえず、精密機械なんで（ホーストが）あれ？ と思うことをしないと。とりあえず、トップなんでね。強豪との連戦が続いてますけど、これを糧にして今年は頑張りたいです」

▲自慢の金髪をバッサリ切り、黒髪の坊主に変身しちゃったグレート・ゼブラ氏。「男は黙って坊主！」だそうです

### 子安のコメント

「僕と正反対で手足が長いのでやりにくいです。情報はビデオしか見てないのでよく分かりません。組む力が強いと思うので、強引に組んできてのヒザがあるので組まれないように。僕はローしかないですから。足は効きそうな感じがしますけど……」

▲昨年末の『イノキ・ボンバイエ』以来の試合となる子安。どうやらカストロよりもシウバが気になる様子。「あの顔が嫌ですねぇ」（子安）。何も起こらなければいいが……

### 武蔵のコメント

「これまでは190センチ台の選手までしか試合をしたことはないですね。大道塾の選手は肩車してシュルト対策をやってたようですけど、僕はやりません。対策？ どこを狙うというより思い切り飛び込んでいきます。じっとしてるとヒザが来るんで。打撃ができるのは分かってますけど、僕はあくまでも迎え撃つんで。リーチもあるし、届かないだろうと思っても向こうの攻撃が届くかもしれないので、油断しないように1Rから飛び込んで行きますよ。ディフェンスが優れてるかどうか分からないですね。総合の試合のビデオしか見てないんで。でも、高山選手とやった時は最初攻め込まれてましたからね。『プライド』の試合で寝た相手を殴ってたんで気は荒いのかなぁと。今回は向こうからこっちへ来るわけですから余計に逃げられないですね。ライバル心とかはないですけど、K－1に挑戦されてる気がするんで、それは迎え撃たないとという義務感はあります」

▲さすがの武蔵も今回ばかりはピンチではないかと思われているが、本人はいたってマイペース

▶どう見てもボーッとシュルトを見つめてるとしか思えない武蔵だが、本人の中ではイケる度数はかなり高め。たしかにK—1ルールで試合をして負けるわけにはいかない

初挑戦

# K―1中量級人気が他局にも波及！ 魔裟斗がテレ東のバラエティ番組にレギュラー出演決定！

4月14日（日）21時よりテレビ東京でスタートする新ムーブメント創造バラエティ番組『ハマラジャ』に、魔裟斗がレギュラー出演することになった。これは「モーニング娘。」や「CHEMISTRY」を生み出し、10年間にわたって放送してきた人気番組『ASAYAN』の後番組で、司会はダウンタウンの浜田雅功が務める。魔裟斗以外の出演者は、YOU、元19（ジューク）のヴォーカル岡平健治、高校生アイドル上野未来など。魔裟斗にとって、これが初のレギュラー番組だ。

3月下旬に都内のスタジオで第1回目の収録が行われ、さっそく番組本番に挑んだ魔裟斗。浜ちゃんのフリにも動じず、絶妙な言葉のコンビネーションで切り返すなど、場慣れした感じを見せた（詳しいやりとりは番組で）。

ちなみに番組の内容は、夢や野望を持つ若者を番組がサポートするといったもの。アイドルや歌手、スポーツ選手など、有名になりたい若者を番組内で応援する。また、原宿に夢を持つ若者が集いやすい、番組の拠点ビルを建設する計画も進行中だとか。

「もしビルが完成したら、その中に自分のジムを作りたいですね」と魔裟斗。「渋谷にいる不良やワルとかが、行ってみたいなと思うようなジムにしたい」と番組収録後、自分の夢を語った。

なぜ今回、数多くいる格闘技選手の中で、魔裟斗に目を向けたのか？　テレビ東京番組プロデューサー・伊藤成人氏は次のように語る。

「ビジュアルです。ルックスもいいし、選手としての実力もある。それに自らイベントを手掛けたりと、自分の手で文化を発信してるでしょ。まさに番組のコンセプトと一致しました」

また、2月の『K―1 W・MAX』日本代表トーナメントに優勝したことも、大きな決め手になったとのこと。

「もちろんイベントには注目してました。凄い盛り上がってましたね。あれだけ若者を惹き付けるっていうのはものすごいことですよ。格闘技ファンも番組に取り込んでいきたい」（伊藤氏）

第1回目の収録では、スタジオ内でのやり取りだけだった魔裟斗だが、今後は、レポーターとして同世代の若者と絡んでいくこともあるという。ファンの人は、魔裟斗によるる現地からのレポートを、今から楽しみにしよう。

またレギュラーということで、気になるのは大会直前の番組出演だが……。このことに関して魔裟斗は、「たとえ大会直前の減量期間中でも番組に出演し続けたい」と言っているという。番組制作側としても、できる限り試合に負担がかからないようにしていきたいとのことだ。

日曜日21時からの放送で、しかも司会がダウンタウンの浜ちゃんということもあり、視聴者の年齢層は幅広いものになりそう。また、テレビ東京では『強者の法則』（毎週金曜日21時54分～22時00分）でも、4月5日より4週にわたり魔裟斗を取り上げる。

主役の知名度が上がることによって、5月11日開催の『K―1 W・MAX』にも注目が集まることは必至。魔裟斗のレギュラー番組出演は、K―1中量級人気により一段と拍車をかけそうだ。■

◀番組収録中、非常にリラックスムードの魔裟斗

▲「番組を通してさわやかなイメージを浸透させたい」と魔裟斗。（左からYOU、岡平健治、浜田雅功、上野未来）

## テレビ東京『ハマラジャ』

●毎週日曜日21:00～21:54
●出演…浜田雅功、YOU、魔裟斗、上野未来、岡平健治　ほか
※また、『強者の法則』（テレビ東京・毎週金曜日21:54～22:00）で、4月5日より4週にわたって魔裟斗を特集。格闘家としての魅力に迫っている

## 真夏の大一番

### これぞ"元祖異種格闘技トーナメント" 散打、シュート・ボクセ、ドラッカも参戦！

# この夏、シュートボクシングが大勝負！ 7・7横浜文体で『S―cup』開催！

今、勢いに乗っているシュートボクシング（SB）が、この夏、大勝負に出る。

7月7日に横浜文化体育館で『S―cupワールドトーナメント2002』を開催。トーナメントには早くも世界各国から、強豪の参戦が噂されている。

この『S―cup』とは、立ち技最強を目指すSBの理念に基づき、各分野の強豪が参加する、まさに立ち技による異種格闘技トーナメント。95年の第1回大会では吉鷹弘が、また96年から97年にかけて行われた第2回大会ではライアン・シムソンが優勝した。実に5年ぶりの開催となる今回の第3回大会は、70キロリミットで、出場選手8名による3分3Rのワンデイ・トーナメントで行われることになった。

気になる出場選手も、続々と決定している。

まず日本代表として、土井広之（シーザージム）と後藤龍治（STEALTH）の2人の出場が決まった。70キロ最強の声も高い土井と、K―1中量級で魔裟斗と激しく打ち合った後藤。この2人が、世界の強豪を迎え撃つかたちとなる。

海外からの選手だが、まずオーストラリアから、WMA世界Sウェルター級王者のダニエル・ドーソン（チームISS）の出場が決まった。

さらにシュート・ボクセからは総師・フジマール会長が、切り札を投入する構えを見せている。昨年11月に後楽園大会で行われた『SB VS シュート・ボクセ軍団』で全敗に終わったが、「前回とは違う。次は負けられない」と雪辱に意欲を示す。

現在、そのほかの選手についてもリストアップ中だが、豪華な顔ぶれのトーナメントになりそうだ。

まず中国散打。今回エントリーを予定している選手はムエタイとの他流試合で活躍するかなりの強者だとか。ムエタイ選手をボディスラムで場外に叩きつけた経歴を持つという。昨年のSBとの対抗戦で大敗を喫した選手たちとはまったく別、と考えたほうがよさそうだ。

ロシアからは、ドラッカの選手が出場予定だ。"ドラッカ"とは、ロシア語で「喧嘩」を意味し、打撃に投げを加えた競技。まさにロシア版SBで、路上の実戦を想定した格闘技だけに、恐い存在になるかも。

格闘王国オランダからの出場選手にも目が離せない。5月に開催される『K―1 W・MAX』の欧州代表のアルバート・クラウスを破った選手が、トーナメント出場候補に急浮上中だ。

フランスで開催されている総合格闘技大会『ゴールデントロフィー』の70キロのチャンピオンも、出場を予定している。

出場選手は決まり次第、発表される。まさに"元祖・立ち技異種格闘技トーナメント"に相応しい選手が出揃いそうだ。

また、今大会はSB真夏の大一番とあって、トーナメント以外の試合にも力が入る。

緒形健一は、ワンマッチで総合ルールでの試合を行うことになった。これは昨年リングスでの総合マッチに敗れたリベンジを果たしたいという本人の希望によるもの。相手はまだ未定だが、前回43秒で緒形を破ったカーティス・ブリガムより実績が上の選手と交渉中という情報もある。

さらに、国内外を問わず、総合格闘家が大量参戦し、SBルールの試合を行う計画も進行中だとか。もちろん宍戸、前田のワンマッチも行う予定だ。SBの四天王が勢揃いするとあれば、ファンもさらに盛り上がること必至。

まさに今大会は、SBの勢いを示す激しく熱い大会になりそうだ。■

## 『S－cup ワールドトーナメント2002』出場決定選手

土井広之〈シーザージム〉

後藤龍治〈STEALTH〉

ダニエル・ドーソン〈オーストラリア/チームISS〉

▲緒形はワンマッチで、昨年総合ルールで敗れたリベンジを目指す

▲シュート・ボクセのフジマール会長が、新たなる強豪をトーナメントに送り込む

## 『S－cup ワールドトーナメント2002』

7月7日（日）横浜文化体育館

◆チケット料金/SRS席20,000円、RS席15,000円、SS席10,000円、S席7,000円、A席5,000円、B席4,000円

◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザKINGS、シュートボクシング協会

◆チケット発売日/4月中旬予定

## 4・26PRIDE公認ジム・BCGプレオープンで

# なんと、PRIDE戦士による特別セミナー開催決定!

### いったい誰のセミナーが行われるのかっ!?

前号でお伝えしたとおり、4月27日に『プライド』公認ジムBCG（BODY CHECK GYM）が麻布十番にオープンするが、その前日の26日午後5時よりジム開き、そして午後7時より『プライド』戦士による特別セミナーが行われることになった。果たして、誰がセミナーを開くのか？　超大物であることは間違いない……らしい。なお、ジム開きはBCG会員と『プライド』ファンクラブ会員の方も参加可能。ただし、人数限定により予約制となる。そして、セミナーはBCG会員はもちろんのこと、一般の方の参加もウェルカム！　各セミナーの定員は40名となっていて希望者が多い場合はBCG会員が優先となる。悩んでいる暇はない。こんなチャンスはめったにない！　そう思ったら今すぐ電話で問い合わせだっ！

BCG BODY CHECK GYM

**開催概要**
日時／4月26、27日◎19：00～20：00、20：30～21：30
料金／1レッスン（1時間）　BCG会員：4000円　一般：8000円　（記念品付き）

**お問い合わせ先　03－3560－7911（12：00～22：00まで）**

### BCGニュース1
**物販もやってま～す**

BCGでは格闘技グッズやサプリメントなどの販売も行っている。グッズの目玉は『プライド』の試合で使われているグローブ。もちろん選手と同じものだ。このグローブは4・28『プライド20』の会場から販売スタートとなる。価格は20000円（予価・会員割引もあり）。そして、サプリメントはあの巨人軍の清原和博にパワーを授けたニンニク注射でおなじみの平石ドクター考案のサプリメントを販売。ニンニク注射のエキスで作ったタブレットをはじめ、様々な種類を取りそろえている。

### BCGニュース2
**プレ体験もやってま～す**

4月15日より、プレオープン企画としてコースを開設。BCG会員は無料で参加できる。また、体験入門（1人1回）もあるのでお問い合わせを。

### BCGニュース3
**女性専用コースも新設予定!**

ダイエットに励みたい女性、そしてWWFのリタのように強くなりたい女性。全ての女性の願いを叶える女性専門コースも近々新設予定。密かに強くなりたい人、ストレスを発散したい人はぜひ一度覗いてほしい！

### BCGニュース4
**パーソナルトレーニングコース設立!**

某有名空手家の肉体をバリバリに改造した足立光氏によるパーソナルトレーニングコースも開設。あなたの目的にあった肉体改造を足立氏がバッチリサポートしてくれる。

### "JUST BRING IT!" オレ様からのメッセージだっ

「フフフ、なぜ26日にプレオープンにしたかって？　28日に『プライド』があるから、大物選手にセミナーをやってもらえるからだよっ。そういう特権を使うから『プライド』公認って言うんだろ？　実際、今は問い合わせの電話や見学者が殺到しているんだよ。BCGは未来の『プライド』戦士を養成するプロ育成ジムのように思われてるけど、それだけじゃなくダイエット目的だったり、健康維持の人でも全然オッケ～なプログラムをたくさん用意してるから安心して見学に来てほしいね。BCGグランドマスターで、ひ弱で、第2の和田良覚を目指しているオレ様でも、11キロのダイエットに成功したのさ。まあ、まずはBCGの会員になることだな。ナウ・コール・ミー！」

# 美濃輪、おまえこんなところで何やってるんだ!?

## PRIDE参戦前に信じられない失速

**格下相手の前哨戦**

▲百瀬は秋山賢治と同じ禅道会に所属する総合志向の空手家。柔道でインターハイ5位の実績を持っている

『プライド』出陣を控えてのパンクラス後楽園大会。デビュー戦の百瀬を相手に闘った美濃輪だが、強さを見せつけるどころかドローとなってしまった

どうして、こういうことになってしまうのか。全ての歯車が狂っていたような気がしてならない。

3・25パンクラス後楽園大会で急きょ組まれた美濃輪の試合。

「4月（の『プライド』）がなくなると、かなり試合間隔が空いちゃうことになるんで」（尾崎社長）

『プライド』との交渉が難航していることで決定した出場なわけだが、もちろん来るべき大一番へ向けての前哨戦という意味合いも強い。それだけマスコミの注目も大きかった。これまでもパンクラスのトップ選手だった美濃輪だが、改めてその魅力と実力が〝『プライド』出場候補選手としてどうか。対ミルコに名乗りを挙げる資格はあるのか〟といったフィルターを通して測られるのだ。

対戦相手として抜擢された百瀬善規は禅道会所属の23歳。柔道時代はインターハイ5位の成績を収め、昨年は『リアルファイティング空手道選手権』で優勝を果たしている。期待の新鋭ではあるが、プロとしてはあくまでデビュー戦。美濃輪にとって〝ならし運転〟的な試合になってもおかしくなかった。いや、そうしなければいけなかったのだ。今にして思えば。

試合は、まあ美濃輪らしいと言えば美濃輪らしいものだった。差し合いから払い腰ぎみに強引なテイクダウン。さらに速攻のストレートアームバー。そのまま上になられても、

ト体

▲腕関節を逃げられても、不利な体勢から今度は

今度は足首を極めにかかる。この息

# この日だけは"熱さ"より"強さ"が見たかった

## いつもどおりの全力ファイトも、ことごとく返されて……

▲開始早々、美濃輪は払い腰ぎみに無理矢理テイクダウンすると、すかさずストレート・アームバーへ。ほぼ極まっていたのだが、力を入れた方向へ回られて体勢逆転

▶技を仕掛けては返されて上に乗られる、というパターンがこの日の美濃輪には多かった

▶美濃輪は常に先手を取っていたのだが……。百瀬はその動きをうまく封じていった

◀腕関節を逃げられても、不利な体勢から今度は足を狙う。この強引なまでの極めへのこだわりこそ美濃輪！

◀2R終了間際にはお互い一歩も引かない打ち合いが展開された

◀打ち合いの中、ハイキック、さらにはドロップキックまで放った美濃輪だが、惜しくもヒットせず

**ドロップキックも不発！**

▲2Rに入って失速していった美濃輪。バックを取られるピンチも

今度は足首を極めにかかる。この息つくヒマもない連続攻撃、徹底した極めへの執着心こそ美濃輪の素晴らしさなのである。

しかし、闘いは2Rに入って予想もしなかった局面を見せ始めた。百瀬がタックルを切ってハーフマウントを奪い、さらにマウントポジション、そしてバックからスリーパー。これは体を回転させて逃れた美濃輪だが、またしても上からパンチを浴びてしまう。

美濃輪はいったいどうしちまったんだ!? 禅道会サイドの押せ押せムードと反比例するパンクラスファンの気勢。「こりゃヤバイぞ」といった雰囲気だ。それでも「美濃輪なら大丈夫。絶対に勝ってくれる」という思いを込めた美濃輪コールでファンは後押し。それに応えるように、美濃輪もパンチ、ハイキック、ついにはドロップキックまで繰り出していったのだが……。

ドロー裁定が発表された瞬間、なんとブーイングが起こった。あの美濃輪にブーイング！ よりによって『プライド』出陣へ勢いをつけなきゃいけない時期に、この失速は痛すぎた。勝利という結果を残せなかっただけでなく、まさかプロレスラーの生命線であるファンの支持さえ薄れることになるなんて。美濃輪に集まった注目が大きかった分、そこでいい結果を出せなかった落胆もまた大きい。

この試合、たしかに美濃輪は観客をハラハラさせるスリリングなファイトをした。それは間違いない。でもここで——デビュー戦の相手との試合で——必要だったのは、むしろ圧倒的な勝利だったんじゃないかと思う。

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE 2002
SPIRIT TOUR
3.25★後楽園ホール

# こんな試合で口にする“プロレスラー魂”は寒い！

## ドロー判定にブーイング！

### 美濃輪のコメント

「自分の“ワールド”はできたかなって。ただ、勝って自分の物語を作りたかった。禅道会の人は芯が強いですね。(体調は？）悪かったら悪かったなりに闘うんで、片手がケガしてようが人間は闘えるし、自分はプロレスラーなんで。自分には大きな夢があって、今日はこういう結果で下がっても、最終的に辿り着けばいいかなと」

### 百瀬のコメント

「美濃輪選手らしくない試合になれば勝ちかなと思ったんですけど。やっぱ美濃輪選手のスピリットは素晴らしいです。自分の試合は“質問”で、答えは終わった後に仲間から返ってくるんで、今はよく分かんないです。後楽園っていう素晴らしい舞台と、美濃輪選手っていう素晴らしい選手に巡り会えて最高でした」

▲ドロップキックがスカされ、猪木－アリ状態となったところで試合終了。美濃輪は疲労困ぱい、逆に百瀬は「してやったり」といった感じだ

▶ジャッジの1人は百瀬を支持したものの、判定はドロー。2Rは百瀬が押していただけにブーイングや百瀬コールも聞かれた

★第7試合・メインイベント/ライトヘビー級5分2R

△百瀬善規（2R判定1-0、ドロー）美濃輪育久△
〈禅道会〉　〈パンクラスism〉

※採点…20-20、20-19（百瀬）、20-20

## 新設ウェルター級トーナメント開始！

▶今大会より、新設されたウェルター級の初代王者決定トーナメントが開始。第6試合で伊藤崇文（パンクラスism）と元キックボクサーの港太郎が対戦した。伊藤が判定で勝利したものの、港は何度となく仕掛けられた足関節をことごとく脱出するなどズバ抜けたセンスを披露。今後に期待を抱かせる内容だった

▲ウェルター級トーナメントには、MAキック・ウェルター級王者の佐藤堅一（士道館）も参戦。5月28日の後楽園ホール大会に出場する。佐藤はリング上で「このリングでキックボクサーの強さをみなさんにお見せします。押忍！」と挨拶。なお、この日の第3試合で北岡悟を判定で下した大石幸史（ともにパンクラスism）も、トーナメント参戦権を獲得した

◀第4試合は、石川英司（グラバカ）の意地が爆発。グラウンドでライトヘビー級ランカーの石井大輔（パンクラスism）を圧倒し、判定3－0で勝利を手にした。5月11日の大阪大会で渋谷修身との対戦が決まっている石川は、試合後、照れながらも「ブッ潰すんで覚悟して待っててください！」と郷野ばりのマイクアピール

▲第5試合で前ミドル級王者のネイサン・マーコート（コロラド・スターズ）に挑んだグラバカの三崎和雄だったが、開始29秒、投げられた際に左ヒジを脱臼して不運なドクターストップとなった

## どうなる菊田、美濃輪の『プライド』出陣

全試合終了後、記者陣に囲まれた尾崎社長は、『プライド』参戦について「菊田については4月でいけると思う」としながらも、美濃輪に関しては「今日の結果とかじゃなくて、相手が出てこないんですよ。うまく合わない」と交渉が難航していることを示唆。「もしかしたら4月を外して6月のほうの交渉を始めてもいいかなという気もしてます」とコメントした。また、今大会ではタイのムエタイジムと提携したことも発表。「今後、うちのリングにムエタイの選手も上げていきたい。そしたらミルコ選手とやれるかも（笑）」

◀人さし指を天に突き上げる得意のポーズも、この試合の後では虚しい

▶試合で全力を使い果たした美濃輪は、観客から見えない場所まで来ると鈴木みのるに抱えられながら控室へ。途中、非常階段でヘタりこんだ

見ていて少しばかり興醒めするぐらいでいい。実力差を見せつけて「ああ、やっぱり美濃輪は強いわ」と思わせてほしかったのだ。この試合に限っては。そうじゃなくて、どうして自信を持って『プライド』に上がれる？　体調不良という声もあった（本人は決して明言してはいないが）。だけど今の美濃輪は、それを考慮してもらえるような立場ではないはず。

「勝てなかったんで残念ですけど、自分のプロレスの〝ワールド〟はできたかなって」

美濃輪は試合後、そう振り返ったわけだが、ちょっと首を傾げてしまった。勝ち負けを超越して感動を与えるのがプロレスラーの役目でも、さすがにこの試合でそれを言っちゃあマズくないか？　百瀬が想像以上にいい選手だったことは差し引いたとしても……。

〝プロレスは結果じゃないから。試合は盛り上げたから〟ってことか。それはガチンコってものに対して、もっと言えばパンクラスの歴史に対して失礼だろう。

大会終了後。尾崎社長は『プライド』との交渉がさらに難航していることを示唆した。

「今日の結果とかじゃなくて、相手が出てこないんですよ。6月（出場）のほうの交渉を始めてもいいかもしれない」

……ボクが惚れ込んだ美濃輪育久というプロレスラーは、この日の後楽園にはいなかった。4月とか6月とかはどうでもいい。相手だって気にしない。とにかく美濃輪には、大きな舞台で暴れ回って、今回の妙なモヤモヤを吹き飛ばしてほしいのだ。頼むよ！

（橋本）

IMA世界タイトルのかかっていたこの試合。試合後には、アイブルの腰にベルトが巻かれた

# アイブルのほうは、シュライバーとの前哨戦に激勝！

## 拳獣・グレコとの対戦は壮絶・打撃戦必至！

12000人が熱狂＆大マンゾク！

力を出し切って闘った二人は試合後、抱き合ってお互いの健闘を称えた

◀アイブルの強烈な飛びヒザがシュライバーにヒット。この強烈なヒザが勝敗を決した

取材&文◎遠藤文康
写真◎2H2H、日光プレス

昨年に続き満員御礼となったアホイホール。12000人フルアップとなる光景は壮観だ。開始早々こそ3階席に空席が目立ったものの、あっという間に満席。この観衆のほとんどがメインのギルバート・アイブルVSボブ・シュライバーを観戦に来ていたのだ。

まさしく喧嘩が基礎となっているアイブル。そして年齢がひと回り上で、同じく喧嘩とキックが基礎となっているシュライバー。過去の対戦は2度。1回目はアイブルがアキレス腱固めでタップを奪取。2回目は打撃によるKOでシュライバー。今日は決着戦だ。

アイブルのピンポイントで当てるパンチと飛びヒザ。対するシュライバーは殴り合いこそが男の勝負とばかりの姿勢。顔面パンチには両者ともまったく怯みはない。殴られて顔がボコボコになってこそモチベーションが上がるタイプの人間なのだ。

試合はまさに西部の男が開拓魂で闘うような展開となった。ひたすら互いに顔面を叩き合う。しばきあう。ローキックすら使わない。タックルも敢えて使わない。開始早々こそアイブルが寝技に持ち込もうとしたが、シュライバーは付き合わない。あくまでスタンドでの勝負を目指す。場内からは大拍手が沸き起こる。

シュライバーの姿勢に共鳴し、暗黙の了解でアイブルも一切グラウンドの闘いを捨てた。ひたすら殴り合う両者。ストレート系のアイブル。

# 男と男の"暗黙の了解"両者、いっさいグラウンドなし

▶グラウンドは最初だけで、あとはひたすら殴る蹴るのみ。まさに大会名のとおり、「シンプル イズ ザ ベスト!」だ

アイブルのアッパーがシュライバーのアゴを捕らえる。それでもシュライバーは倒れなかった

出血多量によりドクターストップでTKO負けを喫したシュライバー。敗れはしたが、観客からは大声援が送られた

▶シュライバーのパンチも何発もアイブルにヒットしたが、アイブルはまったく怯むことはなかった

▲▼とにかく、ひたすら打撃を出し合う二人。熱い闘いに会場はどんどんヒートアップしていった

# 勝負を決めたのは、フック系でなくストレート系!

★第12試合(IMA世界タイトルマッチ/ヘビー級/10分1R)
○ギルバート・アイブル(9分20秒、TKO勝ち)ボブ・シュライバー●
〈ゴールデングローリー・カルビン〉 〈ボブジム〉
※出血多量によりドクターストップ

う両者。ストレート系のアイブル。フック系のシュライバー。
ガツン、ゴツンと音が響く。テンプルに当たればわずかながらによろめくアイブル。だが倒れない。ストレートが当たりシュライバーの鼻が潰れた。シュライバーの顔は血で真っ赤だ。痛々しく腫れ上がっている。でも倒れない。
両者とも倒そうとしながら、ともに倒れる気配はまったくない。アイブルがヒザを見舞う。これがシュライバーの両目をふさぐ結果を招いた。鼻や目の周囲からのあまりの出血に、遂にドクターによって試合が止められた。アイブルがTKOで勝利をもぎ取ったのだ。
敗れはしたもののシュライバーも男らしい殴り合いの勝負に満足したようで、両者互いの健闘を称えた。
終わってみれば、綺麗な顔のアイブルとボコボコに腫れ上がった顔のシュライバー。フック系かストレート系か、得意とするパンチの違いからこのような結果を招いたのだろうが、ともに闘い切ったという表情は抜群にいい。満場の観衆も、まさしく男らしい殴り合いの試合に満足したようで、両者はメインとしての重責を十分に果たした。この両者はまさに"男"の試合を見せたのだ。大観衆の前では、シンプルな闘いが分かりやすい。殴り合い。実にいい!
次のアイブルの試合は、4・28横浜アリーナの『プライド20』。相手は、元K—1ファイターの拳獣サム・グレコ、『プライド』初参戦だ。どのような試合になるのか、それはフタを開けてみなければ分からない。オランダのファンを魅了したド突き合いを見せるのか、カギはアイブルが握っていると言っていいだろう。■

▶兄ヴァレンタインに比べ、このところ伸長著しいアリスター・オーフレイム。この日も一方的な内容でロマン・ゼンツォフに圧勝した

▶アリスターは、スタンドの打撃も強力。とりわけヒザ蹴りの威力は凄い

# メチャ強！オーフレイム弟

第6試合

## また、日本でのファイトが見たいっ

ヴァレンタイン・オーフレイムの弟、アリスターが一方的な試合を展開した。いつものように解体屋の風体で現われたアリスターは、ゴングとともにヒザを多用してゼンツォフを追い込み、そのまま倒してグラウンドに移行。マウントパンチの連打でゼンツォフを攻めたて、最後は腕がらみを極めてあっさりとタップを奪ったのだ。その間1分26秒。とにかく伸び盛り、闘うたびに冴えを見せるアリスターだ。ジョン・ブルミンは、日本のパンクラスで闘わせてみたいと言っている。このところすこぶる評価の高いアリスター。パンクラスもいいが、日本で不調のお兄ちゃんに代わって『プライド』にも出てほしいと思うのだが……。■

第11試合

# リングスのカステル、ガス欠でリベンジ失敗

▲何発かのフック系の打撃をもらったリングスのヨープ・カステルはコーナーで完全にグロッキーとなり、試合を放棄

打撃の強いポール・カフーンに対して、カステルはグラウンドで優位に攻めたが、カフーンの粘りで極めきれなかった

第9試合

# 『プライド』ではイマイチのオーフレイム兄、オランダでは圧倒的な強さ発揮！

▲オーフレイムの強烈なローキックを体をひねって逃げるエマニュエル。この時点でダメージは大きかった

▲柔道出身のエマニュエルがオーフレイムを豪快な裏投げで投げるシーンも

▲ヴァレンタイン・オーフレイムは、フランスの実力者マーク・エマニュエルを打撃で圧倒

昨年のリングスオランダ大会で、このエマニュエルは圧倒的な存在感と強さを誇示していた。柔道出身のエマニュエルの投げとグラウンドに付き合えば取り返しのつかない展開になることは眼に見えている。戦法は一つ。打撃だ。ヴァレンタインのパンチが面白いように顔面に入り、切れのいいローがエマニュエルを揺さぶる。足を止められ、顔面が切れ、まるでウドの大木状態。投げも封じられ、得意の寝技にはまったく持っていくことができない。最後は左足が一瞬折れたように見えるほどの強烈なローを食らいリング上に横転。まったく立つことができなくなっていた。日本では白星に恵まれないヴァレンタインだが、この試合は完璧な勝利だった。■

# H2H【SIMPLE IS THE BEST 4】

3.17★オランダ・ロッテルダム・アホイホール

## RESULTS

★第1試合（女子ムエタイ/WPKL世界タイトルマッチ/－52kg）
○イロンカ・エルモント（5R判定3-0）リサ・ホウトン・スミス●
（ゴールデングローリー・カルビンジム）　（イギリス）

★第2試合（85キロ契約/10分1R）
○ムラド・チュンカイエフ（1分16秒、TKO勝ち）イカ・レイノ●
（ゴールデングローリー・チェチェン共和国）　※試合放棄による　（フィンランド）

★第3試合（IMAオランダタイトルマッチ/85キロ契約/15分1R）
○マルタイン・デ・ヨング（7分45秒、三角絞め）デイブ・ダルグリス●
（ゴールデングローリー・ヨング道場）　（ボブジム）

★第4試合（スーパーヘビー級/10分1R）
○サンデル・マキリアン（6分22秒、TKO勝ち）デイブ・ファン・デ・フェーン●
（ボスジム）　※ヒザ蹴り　（リングス）

★第5試合（75キロ契約/10分1R）
○セルゲイ・ヴィチコフ（延長53秒、肩固め）ブライアン・ロアニュー●
（ロシア）　（コップス）

★第6試合（ヘビー級/10分1R）
○アリスター・オーフレイム（1分26秒、腕がらみ）ロマン・ゼンツォフ●
（ゴールデングローリー・ヨング道場）　（ロシア）

★第7試合（IMA欧州タイトルマッチ/ヘビー級/10分1R）
○ロドニー・ファベルス（延長判定）ファティ・コカミス●
（ボブジム）　（ゴールデングローリー・ブレダ）

★第8試合（75キロ契約/10分1R）
○ロニー・リバノ（5分14秒、TKO勝ち）ステファン・タピラート●
（フィジオスポーツ）　※左足負傷による　（ヨンケルス道場）

★第9試合（スーパーヘビー級/10分1R）
○ヴァレンタイン・オーフレイム（5分09秒、KO勝ち）マーク・エマニュエル●
（ゴールデングローリー・ヨング道場）　※ローキック　（フランス）

★第10試合（ムエタイ/WPKL世界タイトルマッチ/76キロ契約）
○ライアン・シムソン（5R判定3－0）アシュウィン・バルラク●
（バゾーストジム）　（シタンジム）

★第11試合（スーパーヘビー級/10分1R）
○ポール・カフーン（8分48秒、KO勝ち）ヨープ・カステル●
（ゴールデングローリー・イギリス）　※試合放棄による　（リングス）

▲シムソンはクロスのフックでバルラクからダウンを奪うなど圧倒的な強さを見せた

▲IKBOの世界王者ライアン・シムソンは、スピード、打撃のキレでWPKL欧州王者アシュウィン・バルラクを上回る

◀WPKLの世界タイトルも手に入れたシムソンは、今やヨーロッパのミドル級第一人者と言ってもいい

第10試合

## 欧州ミドル級の第一人者シムソン、盤石の強さ！

現在のオランダで、ミドル級を背負って立つのがこの両者とペリー・ウベダだ。このところのバルラクの成長は著しいが、シムソンの充実振りも素晴らしく、激しい接戦が予想された。しかし、フタを開けてみるとシムソンが最初から最後まで流れをコントロール。わずかのタイミングでバルラクの攻撃をすかし、狂わせ、クロスでのフックでダウンを奪ったシムソン。バルラクは奮戦はするもののお手上げ状態。KOこそされなかったものの、バルラクは自分の良さを全て封じ込まれて敗北を喫した。スピード、切れ、インパクト、試合の組み立て。全てシムソンが上。会場で見ていた全日本キックの浜川憲一もシムソンのあまりのうまさと強さに驚嘆していた。■

▶グラウンドで力を使い切ったカステルをカフーンの強烈な打撃が襲う

リベンジマッチ。昨年の6月、カステルは無名のこの新人ファイターにアゴを骨折させられるという大敗北を喫した。打撃に注意したと見えてゴングとともにタックルからの袈裟固めを狙うカステル。作戦はいい。安易な打撃戦は再度の敗北を招く。しかしグラウンドで極め切れない。このチャンスでスタミナを使い果たしたのかスタンドでの再開ではカステルの動きが目立って鈍った。大きく胸で呼吸しあえぐカステル。その様子を見て尻振りダンスで挑発するカフーン。後はあの悪夢の再来のようにカフーンの打撃が始まる。何発かの大きなフック系の打撃を貰ったカステルはコーナーで動けなくなり試合放棄を宣告。リベンジは失敗となった。■

第7試合

▲メジロジムではムエタイ選手として活躍したロドニー・ファベルス。総合に移行するとともにボブジムに移籍し、以降、無敗街道ばく進中。ヒース・ヒーリングのスパーリングパートナーのファティ・コカミスには延長にもつれる接戦の末に判定勝ちし、IMA欧州タイトルを獲得

第8試合

▲昨年の大道塾・北斗旗2位の実績を持つテコンドー欧州王者のステファン・タピラートとWAKO空手欧州王者のロニー・リバノの試合は、激しい打撃戦が予想されたが、タピラートが負傷していたヒザを悪化させてTKO負け

第5試合

◀ブライアン・ロアニューとセルゲイ・ヴィチコフの試合は激しい打撃戦となったが勝負がつかずに延長に。しかし延長はあっけなく、ヴィチコフの肩固めにロアニューはあっさりタップした

第3試合

▲マルタイン・デ・ヨングはタックルでデイブ・ダルグリスを潰し、マウントを取るや一方的な攻撃を開始、腕十字で1エスケープ、三角絞めでエスケープを奪い、最後は再び横からの三角でタップを奪った

第4試合

▶ボスジム総合代表の巨人サンデル・マキリアンは打撃だけで勝負して、リングスのデイブ・ファン・デ・フェーンにあっさりTKO勝利

SRS SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション

# 4/12、4/19の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは4月2日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

『SRS』は金曜日深夜26時15分～26時45分（時間は変更することがあります）フジテレビ系で絶賛放映中。

4/12

極真ロシア勢、ブラジル勢の強さが爆発！

## 3・23『第1回極真パリ国際大会＆格闘技フェスティバル』特集

4月12日（金）/26:15～26:45

来年の世界大会に向けて、極真ヨーロッパ大会が開催されました。今回放送分のSRSでは、3月23日にフランスで行われた『第1回極真空手パリ国際大会』の模様をいち早くお送りします！　この大会には、日本から足立慎史が出場したほか、『2001全世界ウェイト制選手権大会』軽重量級2位のセルゲイ・オシポフや、ブラジル、ヨーロッパの強豪がエントリー。極真ヨーロッパ勢の実力はどれほどなのか？　と思ったら、ロシア勢、ブラジル勢が強い、強い！　来年、世界の座を日本人が奪還しなければいけないのに、この強さ。日本勢は大丈夫なのかしらとちょっと心配になってしまいました。彼らの実力のほどは、ぜひ番組でご確認ください！　また同日に同じ場所で開催されたヨーロッパ格闘家による演武『格闘技フェスティバル』の模様もお送りします。お楽しみあれ！

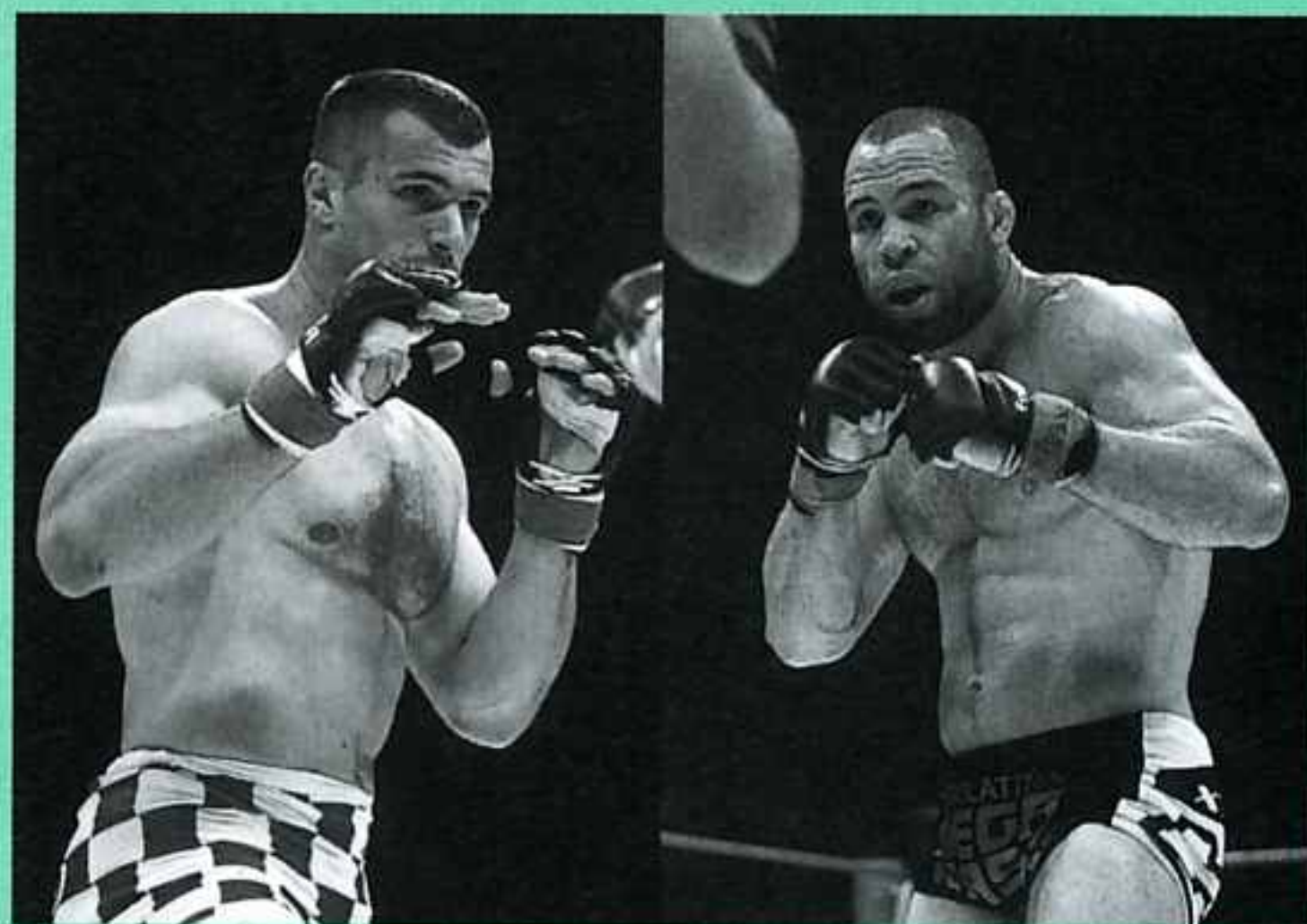
▲極真ロシアの実力者・オシポフ。この大会でも強さを発揮した

4/19

注目の大一番を前にSRSも気合いが入ってます！

## 2・24『プライド20』直前特集（前編）

4月19日（金）/26:15～26:45

昨年、K-1から総合のリングへ進出し、いまだ負けなしの強さを発揮しているミルコ。その一方で、『プライド』ミドル級で「無敗・無敵」を誇るヴァンダレイ・シウバ。この2人がなんと『プライド』のリングで拳を交える時が来たのです！　こんなにドキドキワクワクする試合、SRSが放っておくわけがないですね！　SRSでは、ミルコとシウバの2人の最新情報＆インタビューを中心に、4月19日と26日の2回に分け4・28『プライド20』の特集を放送します。う～ん、この試合の結末はいったいどうなってしまうの？ということで、浅草キッドの2人にもこの試合を徹底分析してもらいました。また、ミルコ、シウバ以外にも『プライド20』には、“拳銃”サム・グレコと元NFLプロフットボールプレイヤーのゴリラ……もといボブ・サップも出場。もちろんSRS取材班はすぐさまアメリカに飛び、彼らの近況を取材しております。最新映像をたっぷりお送りしますので、ぜひ『プライド20』の直前情報はSRSで仕入れてくださいネ！

▲試合はもう始まっている!?　ミルコとシウバの口撃にも注目！

## フジテレビ系列の番組から

◎CS721

### 3・3『K-1ワールドGP2002in名古屋』再放送

4月21日（日）19:00～

3月3日に名古屋レインボーホールで開催された『K-1ワールドGP2002in名古屋』を再放送します。ミルコのハイキックは、何度見ても惚れ惚れすること間違いナシ！　シウバ戦を前に、ミルコvsハント戦はぜひもう1度見ておきたいですネ。

SRSホームページのアドレスはこちら
http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ～い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見！

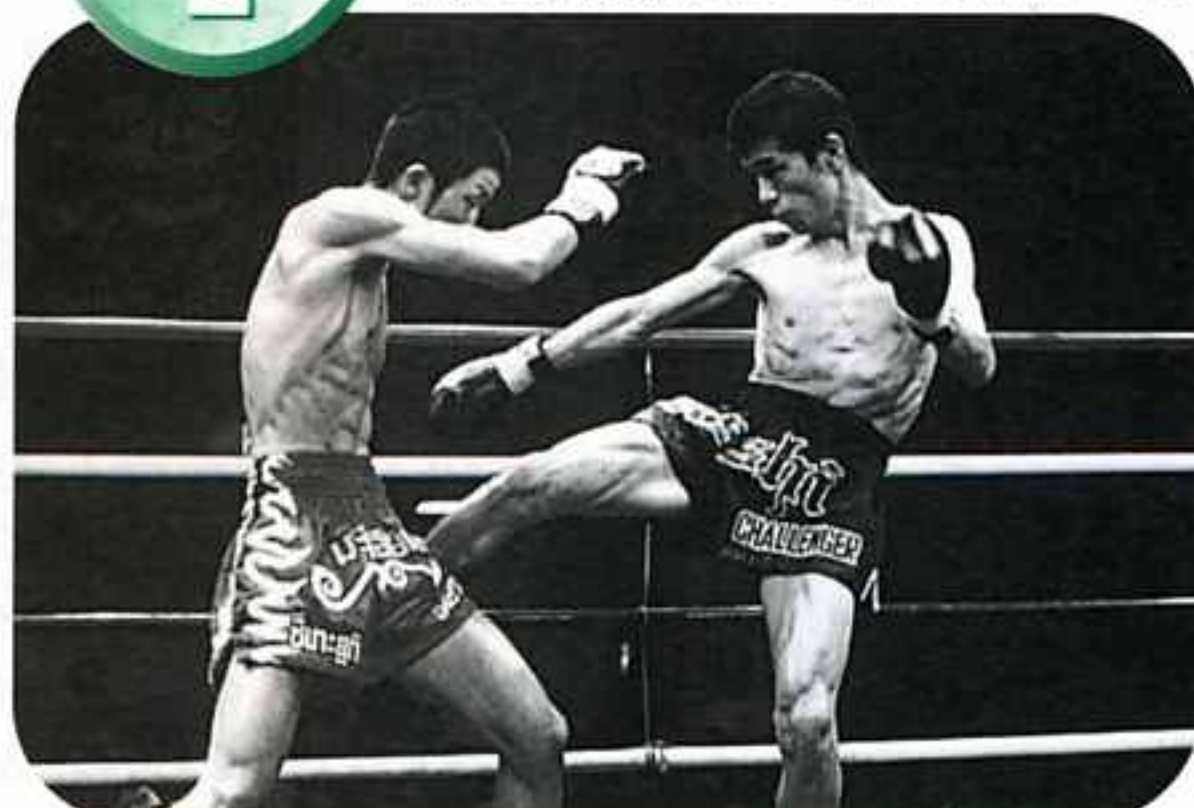
## TV

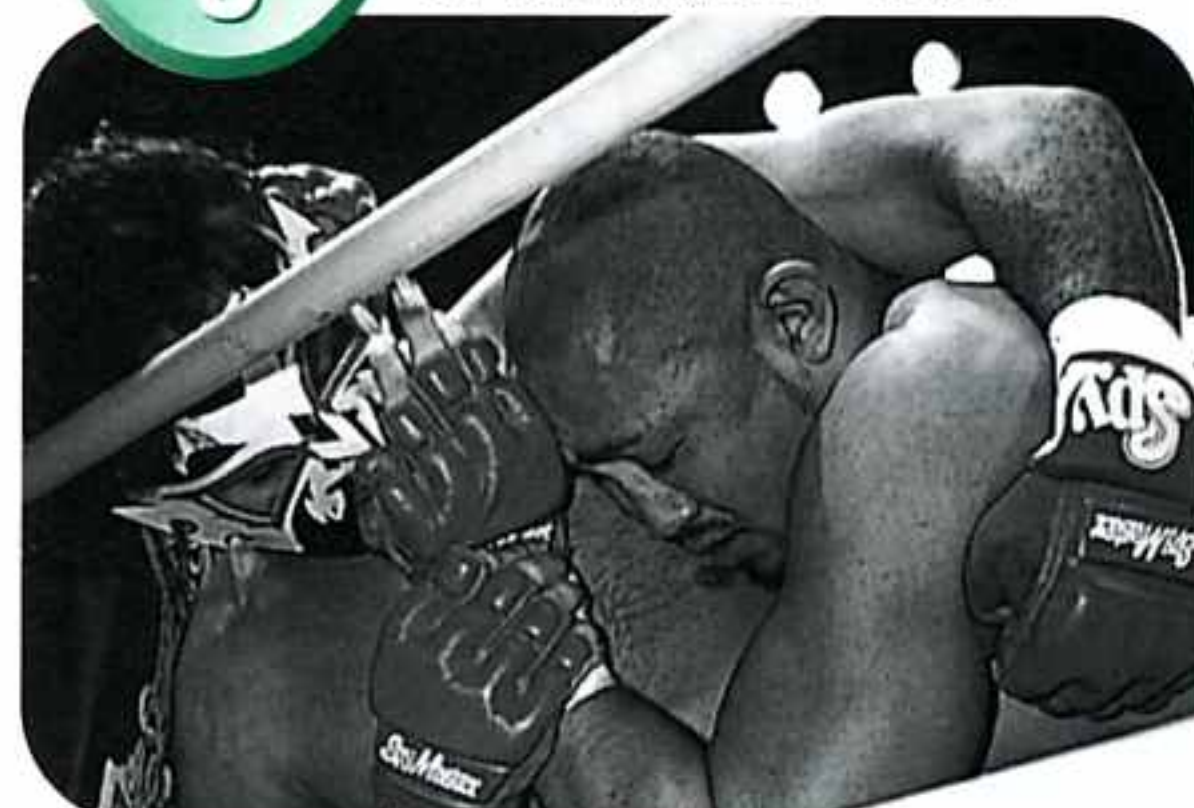
| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 4/11（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | ワールドコンバットファイト（再） | 4:00～5:00 | “ミスター撃圏道”スルタンマゴメドフ・カフカズ特集 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5:00～7:00 | MA日本キック連盟、『新春正月興行闘い続ける男たち』(01.1.27) |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 13:00～13:30 | 東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送4/13・8:30～、14・20:30～と27:30～、16・11:00～、19・15:30～ |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18:00～18:30 | 『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。第1回ゲストは長嶋一茂。再放送4/12・9:00～、13・23:30～、14・12:30～、16・14:30～、18・25:30～、19・20:55～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19:00～21:00<br>26:00～28:00 | 3.30に後楽園ホールで開催のMA日本キック連盟『COMBAT 2002』を放送。再放送4/12・9:30～、17・14:00～ |
| | GAORA | 全日本キックボクシング | 19:30～21:30 | 3.17後楽園ホール大会。再放送4/21・25:00～、23・10:00～ |
| | GAORA | 週刊格闘JAM！ | 21:40～21:50 | 毎回、K-1、PRIDEなどから活躍が期待される選手や格闘技界の旬な話題から、選手個人の特集など格闘技界の様々な話題を取り上げる。再放送4/13・9:35～、14・19:35～ |
| 4/12（金） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5:00～7:00 | MA日本キック連盟、『ODYSSEY-1』(01.3.30) |
| | フジテレビ | SRS | 26:15～26:45 | ➲P69 |
| 4/13（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 10:00～11:00 | 海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20:30～21:00 | 4/11を参照。再放送4/14・4:30～、15・8:30～と18:00～、16・23:30～、18・13:00～、20・8:30～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24:30～25:00 | 3.25後楽園ホール大会 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25:40～26:40 | 4.5東京武道館大会 |
| 4/14（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15:00～17:25 | 3.21東京体育館大会 |
| | WOWOW | UFC～究極格闘技～ | 18:00～20:00 | ➲Pick Up① |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 19:00～21:00 | 3.25後楽園ホール大会 |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21:00～21:54 | K-1 WORLD MAX日本代表の魔裟斗が、レギュラー出演するバラエティ番組 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24:55～25:25 | 4.7有明コロシアム大会 |
| 4/15（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 14:00～16:00 | 3.24に後楽園ホールで開催の新日本キック協会『GET FORWARD』 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18:30～19:00 | 4/11を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19:00～20:00 | 4/13を参照。内容未定。再放送4/16・13:00～、17・23:30～、20・10:00～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23:50～24:50 | 『格闘新世紀』／内容未定 |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 25:30～26:00 | 内容未定 |
| 4/16（火） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19:00～21:00<br>26:00～28:00 | 3.31に名古屋市公会堂で開催の修斗『SHOOTO GIG CENTRAL』。再放送4/17・9:30～、22・14:00～ |
| | 東海テレビ | PRIDE王 | 24:40～25:10 | 『PRE-PRIDE5』オーディション（後編） |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26:35～27:05 | 3.25後楽園ホール大会&3.30『DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA』大会より近藤有己vsキック・ボクサー、鈴木みのるvsソラールの試合を放送 |
| 4/17（水） | フジテレビ | すぽると | 23:50～24:30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| 4/18（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | ワールドコンバットファイト（再） | 4:00～5:00 | エヴァン・ターナー特集。vsヒース・ヒーリング戦ほか8試合 |
| | GAORA | 週刊格闘JAM！ | 25:10～25:20 | 3/11を参照。再放送4/19・26:35～、20・9:35～ |
| 4/19（金） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19:00～21:00<br>26:00～28:00 | ➲Pick Up② |
| | フジテレビ | SRS | 26:15～26:45 | ➲P69 |
| | 名古屋テレビ | DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA | 26:20～28:20 | ➲Pick Up③ |
| 4/20（土） | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 18:00～20:00 | 3.30『DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA』大会 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20:30～21:00 | 4/11を参照。 再放送4/21・4:30～、22・8:30～と18:00～、23・23:30～、25・13:00～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24:30～25:00 | 4/16のテレビ東京と同内容 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25:40～26:40 | 4.16後楽園ホール大会 |
| 4/21（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15:00～17:25 | 3.24尼崎市記念公園総合体育館大会 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | プライド侍！ | 19:00～21:00<br>26:00～28:00 | 月1回放送の『プライド』情報満載の話題のバラエティ番組。再放送4/23・9:30～ |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21:00～21:54 | 4/14を参照 |
| | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 22:00～24:00 | ➲Pick Up④ |
| | 日本テレビ | K-1ジャパン広島大会 | 22:30～24:00 | ➲P71 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24:55～25:25 | 4.7有明コロシアム大会 |
| | Jスカイスポーツ3 | シュートボクシング2002 | 26:00～28:00 | 3.31後楽園ホール『The age of “S” vol2』。再放送4/24・19:00～ |
| 4/22（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18:30～19:00 | 4/11を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19:00～20:00 | 4/13を参照。内容未定。再放送4/23・13:00～、24・23:30～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23:50～24:50 | 『格闘新世紀』／内容未定 |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 25:30～26:00 | 内容未定 |
| 4/23（火） | 東海テレビ | PRIDE王 | 24:40～25:10 | 『プライド20』直前情報 |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26:35～27:05 | 3.30『DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA』大会より謙吾vsドス・カラスJrを中心に放送（予定） |
| 4/24（水） | フジテレビ | すぽると | 23:50～24:30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| 4/25（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | ワールドコンバットファイト（再） | 4:00～5:00 | ジェレミー・ホーン特集。vsトラビス・フルトン戦ほか4試合 |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18:00～18:30 | 4/11を参照 |
| | GAORA | 週刊格闘JAM！ | 21:40～21:50 | 4/11を参照 |

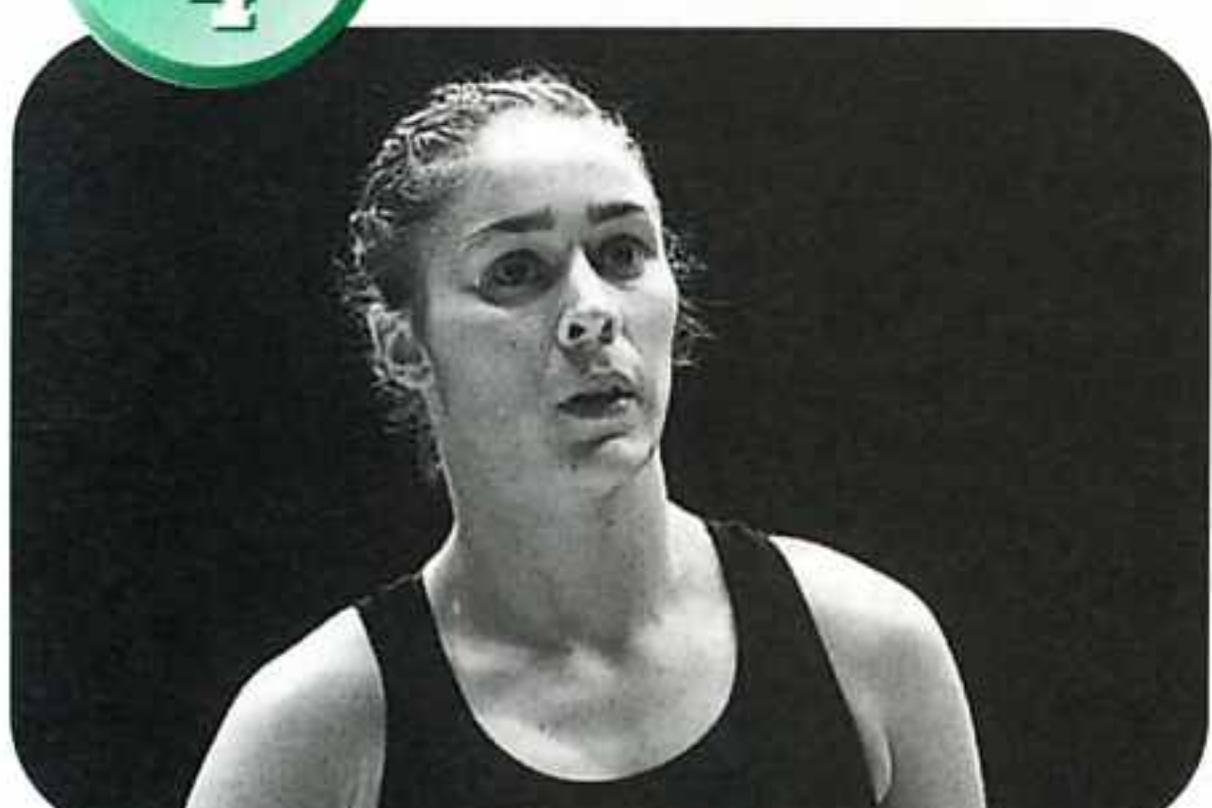
# ON THE AIR 4/11〜4/25
## 格闘技番組ガイド TV&RADIO

### Pick Up 1
『UFC〜究極格闘技〜』
WOWOW
4月14日（日）/18:00〜20:00

ファンが待ち望んでいた『UFC』の放送が、WOWOWで4月よりスタート。第1回目は、3月22日にアメリカ・ラスベガスで開催された『UFC36』をオンエア。解説は中井祐樹。今大会には、修斗から桜井“マッハ”速人と中尾受太郎が参戦した。特にマッハは、UFC初登場でウェルター級のタイトルに挑んだが……。マッハ完敗で話題を呼んだマット・ヒューズ戦を、キミの目で確かめよう！

### Pick Up 2
『バトルステーション』
FIGHTING TV SAMURAI!
〈3.3ニュージャパンキック後楽園ホール大会〉
4月19日（金）/19:00〜21:00、26:00〜28:00

3月3日に後楽園ホールで開催されたニュージャパンキック『DREAM RUSH Ⅱ』を放送。今大会の注目は、全日本キックから移籍した立嶋篤史。5回戦に出場し、結果は判定負けに終わった。新天地での立嶋の闘いに、キミは何を感じるか？　またメインに出場した、2001年度『SRS・DX』賞を受賞した孫悟空丸山の闘いぶりにも注目だ。（再放送…4/21・5:00〜、4/25・14:00〜）

### Pick Up 3
『DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA』
名古屋テレビ
4月19日（金）26:20〜28:20

3月30日に愛知県体育館で開催された『DEEP2001 4th IMPACT in NAGOYA』を2時間にわたってオンエア。ルチャ・リブレvs日本人選抜チームの5対5マッチや、和田良覚のデビュー戦、村浜武洋とジョン・ホーキの再戦、佐々木有生vsグスタボ・シムなど、バラエティに富んだカードが出揃った同大会。名古屋の格闘技ファンには、たまらない放送になりそうだ！（なお、スカイAでも4月20日（土）18時より今大会の模様をオンエア）

### Pick Up 4
『プロフェッショナル修斗』
Jスカイスポーツ3
4月21日（日）/22:00〜24:00

4月よりJスカイスポーツでも修斗の放送が開始される。第1回目の放送は、2部構成で行われる4・14修斗『WANNA SHOOTO JAPAN』北沢タウンホール大会の第1部をオンエア。マーロス・クーネンvs禅道会・石原美和子の女子プロ修斗マッチや、ペケーニョ軍団の参戦などで話題を集めており、見逃せない。なお、マモルが5カ月ぶりの再起戦を行う第2部は、5月1日（水）24:00から放送予定だ。（再放送…4/22・26:00〜、4/23・19:00〜）

### 日本テレビ
### 4・21『K-1ジャパン広島大会』放送予定
4月21日（日）22:30〜24:00

大注目のカード、武蔵vsセーム・シュルトが行われる4・21『K-1ジャパン広島大会』を、大会当日の22時30分よりオンエア。『プライド』で無敵の強さを誇るシュルトに、武蔵はどう挑むのか？また同大会には、次期K-1ジャパンのエースの声もあがっている極真会館の野地竜太も参戦する。今後の格闘技界の流れを作る重要な大会になることは必至なだけに、見逃せない。なお、当日13時30分より事前番組も放送するぞ。

### PPV
### 浅草キッド&橋本真也ドラマ出演！

4月26日（金）にPPVで放送される『浅草キッドの「浅草キッド」』に、ZERO-ONEの橋本真也が登場。これはビートたけし氏の自伝エッセイ『浅草キッド』（新潮文庫刊）をドラマ化したもの。主役のたけし役は水道橋博士が演じ、玉袋筋太郎は作家志望の親友・井上雅義氏役を務める。ちなみに、橋本真也はおでん屋の主人として登場。3人のやりとりは、ぜひ番組を見て確認を！

◆日時/4月26日（金）21:00〜23:00（Ch.122　ほか）
◆視聴料/1,000円
◆お問い合せ/スカイパーフェクトTV!　カスタマーセンター　☎0570-039-888（10:00〜20:00）

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00〜20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月〜金10：00〜18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00〜18：00　土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00〜20：00）

■スポーツ・アイ・ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月〜金10：00〜18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00〜21：00）

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30〜18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月〜金10：00〜18：00）

# VIDEO & DVD
## 注目作品&NEWリリース情報

### 〈新作紹介❶〉 It's HOT!

**『絶叫のワンダーランド～実況ストロングスタイル～〈DVD〉』**
パイオニアLDC/120分
5,800円/4月25日（木）発売

**あの名言・名調子がDVDに！**

新日本プロレスのテレビ実況の名言を収録したビデオ「絶叫のワンダーランド」vol.1とvol.2を収録したDVDが4月25日に発売されるぞ！　舟橋慶一アナや古舘伊知郎氏、辻よしなりアナなどの、名勝負を彩った名言・名調子が、貴重な試合映像とともに蘇る。また、1999年から2000年にかけて控室などで繰り広げられた真鍋アナと大仁田厚のやりとりも収録されているのは、ファンにとって嬉しい限りだ。視聴者を画面に引き込む各実況者の巧みな語彙センス。名勝負を作るのは選手だけでない。実況者の役割も大きいことにあらためて気付かされる作品だ！

### 〈新作紹介❷〉 It's HOT!

**『ルイス&ペデネイラス ノヴァ・ウニオン柔術〈上・下〉』**
クエスト/上巻83分、下巻90分
5,600円（上下巻とも）/発売中

**目指すはジョン・ホーキ！**
**実践に役立つ柔術テクニックが満載！**

ジョン・ルイスとアンドレ・ペデネイラスが主宰するノヴァ・ウニオン柔術。ジョン・ホーキやB・J・ペンらが所属し、数多いブラジルの柔術道場の中でもトップクラスの名門だ。ルイス&ペデネイラスの2人が、攻撃と防御の両面を詳しく解説しているこのビデオ。テイクダウンでの攻防やガードポジションでの動き、マウントやバックマウントポジションからの攻めや防御が、段階を踏み学びやすいかたちで収録されているぞ。このビデオを見て柔術テクニックをアップさせよう！

### 〈おすすめの一冊〉 Recommend

**『闘龍門～天下三分の計～』**
エイベックス/119分
4,500円/発売中

**闘龍門ワールド全開のビデオ！**

ウルティモ・ドラゴン率いるルチャ団体「闘龍門」。メキシコから日本へと逆輸入する形で興行を行い、ファンから人気を集めている団体だ。闘龍門といえば、望月成晃やマグナムTOKYO、ビッグフジなど個性豊な選手たちが魅力の1つ。このビデオには、闘龍門ジャパン、M2K、クレイジーMAXの3軍対抗戦を中心に収録されている。3軍入り乱れてのリング上でのマイクのやりとりは「おっ、これは日本版WWF？」と思わせるが、必ずどこかで落ちが付き、会場は笑いに包まれる。シリアスな格闘技ビデオもいいが、たまには気分を変え楽しくて笑える闘龍門ワールドを楽しんでみてはいかが？（HP…http://www.avex-club.com/toryumon/で通信販売も行っているぞ）

### RENTAL RANKING（3/1～3/20調べ）

1. 『アブダビ・コンバット2001』 クエスト/90分
2. 『PRIDE.18』 メディアファクトリー/120分
3. 『THE CONTENDERS M-1』 クエスト/85分
4. 『アブダビ・コンバット2000』 クエスト/115分
5. 『ザ・グレイト・グレイシー・ジェネレイション 2』 アットマーク/52分

**1位 『アブダビ・コンバット2001』**
**静かに繰り広げられる細かな神経戦を読みとれ！**

2001年にアブダビで開催された『アブダビ・コンバット』の全6階級の決勝戦が収録されているビデオ。派手な展開こそ少ないが、さすが組み技の祭典だけあって、グラウンドでの細かな神経戦は見応え十分だぞ！

### プロレス&格闘技専門ビデオショップ『チャンピオン』
**東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6F**
**☎03-3221-6237**

▲4月より『チャンピオン』がリニューアルオープン！　1万本以上のプロレス&格闘技ビデオに加え、取り揃えてあるグッズの数もパワーアップ。レンタル料金も変更となった。また往復宅急便でのビデオレンタルも引き続き行うぞ（詳細は問い合わせを）

**チャンピオン 丸尾開志店長**

「はじめまして。店長の丸尾です。4月1日より『チャンピオン』がリニューアルオープンしました。レンタル料金も値下げするなど、よりいっそう皆さまがご利用しやすくなりました。今後ともよろしくお願いします」

### SELL RANKING（3/1～3/20調べ）

1. 『アブダビ・コンバット2001〈DVD〉』 クエスト/360分　10,500円
2. 『前田vsカレリン〈DVD〉』 クエスト/50分　5,600円
3. 『自成道・時津賢児 打たせずに撃つ』 クエスト/90分　5,600円
4. 『DEEP2001』 スパイク/121分　6,600円
5. 『ノヴァ・ウニオン柔術 上巻』 クエスト/83分　5,600円

**2位 『前田vsカレリン〈DVD〉』**
**これが前田の生きざまだ！**

1999年2月に横浜アリーナで行われた前田日明のラストマッチを収録したDVD。"人類最強の男"アレキサンダー・カレリンに真っ向から挑む前田。つねに最強の男を求めてきた前田の雄姿がここにある！

※表示価格は全て税別価格

# GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介!

## 〈新作紹介❶〉 It's HOT!

### 『浅草キッドTシャツ2002』
グレート・アントニオ/3,500円(税別)

**キッドTシャツ最新版登場!**

昨年の夏に発売された「浅草キッドTシャツ」の第2弾登場! ファンに大反響だった前回のスーツ姿のデザイン。今回は、2人がタイツ一丁に大変身したぞ。大ヒット間違いなしなので、早めにGETしておいたほうがよさそうだ!

## 〈新作紹介❷〉 It's HOT!

### 『矢野卓見フィギュア』
グレート・アントニオ/4,800円(税別)

**なにっ?! ヤノタクフィギュアだと?**

出ます! 出します! 「サクラバマシン」「桜庭和志」「藤田和之」に続くグレ・アンプロデュースフィギュアの第4弾。「矢野卓見フィギュア」が4月13日(土)に発売決定!本人ソックリの実物は、ぜひ店頭でご確認を!

※写真はパッケージです

## グレート・アントニオ
西山千尋店長

「4月20日(土)にグレート・アントニオにて浅草キッドの御二人を招き『浅草キッドTシャツ2002』の発売記念イベント&サイン会を開催します! 詳細は本誌のグレート・アントニオ誌上通販コーナーもしくは、グレート・アントニオHPをご覧ください」

**グレート・アントニオ**
東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル1F ☎03-3462-1001
通信販売受付 ☎03-3295-4450 or 0570-007800
ホームページアドレス http://www.great-antonio.jp
営業時間/11:00～20:00(月曜定休)
通信販売受付/10:00～18:00(月～土曜)

## GOODS RANKING (3/15～3/31)

1. 『ファスティング・ダイエット』 杏林予防医学研究所/18,000円(税別)
2. 『アントニオ猪木vsブルーザー・ブロディTシャツ』 グレート・アントニオ/4,500円(税別)
3. 『アディオス・アミーゴスTシャツ』 グレート・アントニオ、ダブルクロス/3,800円(税別)
4. 『マスクド・サクモン』 サン・アロー/2,200円(税別)
5. 『とうふパン』 杏林予防医学研究所/1,000円(税別)

**1位 『ファスティング・ダイエット』**

**ますます広がるファスティング人気!**

各方面から問い合わせ多数の「ファスティング・ダイエット」。脂肪を効果的に燃焼するので、肉体改造には最適。最近、お腹が気になってきたという人にぜひオススメです!

## GAME INFORMATION

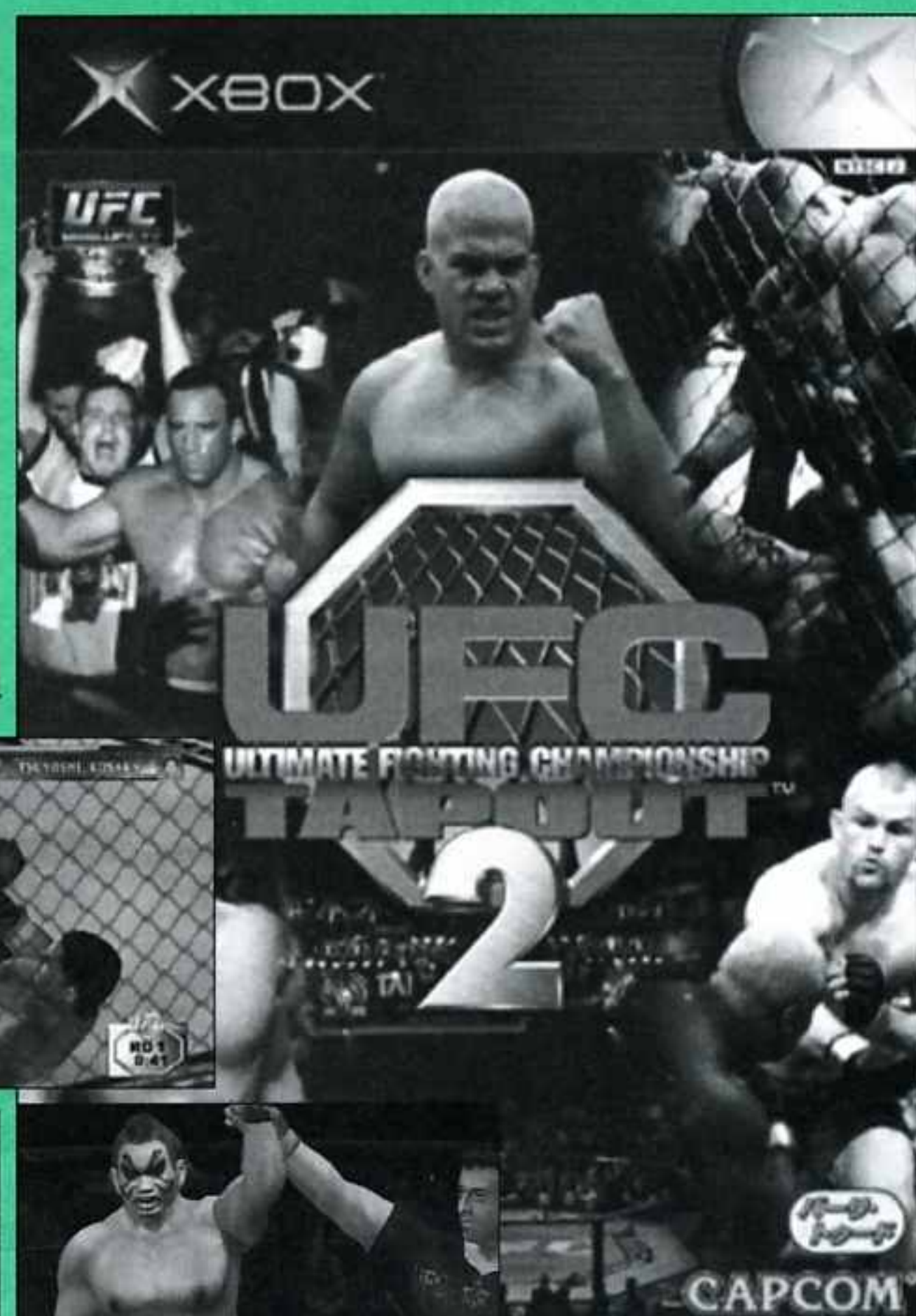
### 一瞬にして勝敗が決まるスリリングな攻防! この緊張感がたまらない!

## 格闘ファンを虜にしたゲーム『UFC』の第2弾が4月18日にXboxで登場!

昨年1月にプレイステーションとドリームキャストで発売され、格闘技ファンを熱くさせたゲーム『UFC』の第2弾が、4月18日(金)にXboxで発売されるぞ! 宇野薫やジョシュ・バーネットなどが新たに追加され実名で登場する選手が27名に増えたほか、選手の表情がアップになったり天井からの映像があったりと、カメラアングルもさらにパワーアップ。迫力満点の映像は、キミをより熱くさせること間違いなしだ。また、エディットモードでのパーツの数も増加し、また一段と個性的なオリジナルキャラクターを作れるようになったのも嬉しい。スタンドでの打撃戦やグラウンドでの細かい攻防を制し、『UFC』の王者を目指せ!

◆タイトル/『Ultimate Fighting Championship 2 TAPOUT』
◆ハード/Xbox
◆価格/6,800円(税別)
◆発売日/4月18日(木)
◆お問い合わせ/(株)カプコンユーザーサポートセンター
☎06-6946-3099 月～金曜9:00～12:00、13:00～17:30(祝日を除く)

▼前作同様、今回もTKが登場するぞ

▲一瞬にして勝負が決まるので気を抜けない

◀あっ、このオリジナルキャラクターは!?

# Et cetra

## 前田日明が東京イサミでサイン会開催！

本誌グッズコーナーでおなじみ東京イサミで、前田日明のサイン会を開催するぞ！　同店にて「クイック・キック・リーTシャツ」や「アディオス・アミーゴスTシャツ」などリングス関連のTシャツ購入者に整理券を配布。当日は、色紙以外にも、サインをしてもらいたいものがあれば持ち込み可能だ。今年のゴールデンウィークの幕開けは、日明兄さんとともに迎えよう！
◆日時/4月28日（日）12:00～14:00
◆場所/東京イサミ（JR「新宿」駅から徒歩5分）
◆対象/「クイック・キック・リーTシャツ」「アディオス・アミーゴスTシャツ」などリングス関係のTシャツの購入者に整理券を配布
◆お問い合わせ/東京イサミ　☎03-3352-4083

## P's LAB東京で新クラス開設！

4月27日よりP's LAB東京に新クラス「英語で習うキックボクシング」が開設されるぞ！　外国人インストラクターのマティアス・ロレンツィ氏が身振り手振りを交えながら、英語でキックボクシングを指導。技術だけでなく同時に語学力の向上も図れるという斬新なクラスとなっている。また外国人も入会可能なので、格闘技に興味がある外国人にもオススメ！
◆日時/毎週土曜日16:30～18:00
◆場所/P's LAB東京（地下鉄日比谷線「広尾」駅、①②出口から徒歩5分）
◆入会金/大人20,000円、学生16,000円、子供10,000円、親子20,000円
◆月会費/大人8,000円、学生6,000円、子供5,000円、親子12,000円
※入会時、月会費2カ月分、銀行口座、銀行届け出印、学生証（学生のみ）、写真1枚（4cm×3cm）が必要
◆講師/マティアス・ロレンツィ（1992年スウェーデン・ムエタイ王者、1993年北ヨーロッパ・ムエタイ王者、1999年よりP's LABアシスタントインストラクター）
◆お問い合わせ/P's LAB東京　☎03-5792-7079

## ファッションショップ「KARMA」に謙吾Tシャツのニューモデル登場！

東京・お台場にあるストリート系ファッションショップKARMAに、謙吾Tシャツが仲間入り！　下の写真で紹介したほかにも、多数バリエーションを揃えてある。通信販売も行っているので、詳細については問い合わせを。
◆場所/東京都港区台場1-6-1 デックス東京ビーチ4F
◆営業時間/11:00～21:00（不定休）
◆お問い合わせ/KARMA OFFICIAL SHOP
☎03-3599-6070

▲プリントされている豪快な文字は謙吾直筆のもの（定価3,900円より）

## 「ゼロから始めるブラジリアン柔術」セミナー開催中！

現在、パレストラ八王子で「ゼロから始めるブラジリアン柔術～超初心者編～」セミナーを開催中だ！　内容は、セミナー名どおり柔術初心者を対象に、ブラジリアン柔術の基本に絞って集中指導するといったもの。講師は、ブラジリアン柔術茶帯の塩田"GOZO"歩が務める。また、セミナー期間中はパレストラ八王子入会金が半額なので、入会するなら今がチャンス！
◆日時/3月23日（土）～5月11日（土）毎週木・土曜日（木曜日…19:00～20:00、土曜日…13:00～14:00）
◆場所/パレストラ八王子（JR「八王子」駅、京王線「京王八王子」駅から徒歩8分）
◆料金/1回1,000円
◆お問い合わせ/パレストラ八王子　☎0426-68-5366

## 極真会館下総支部にて内弟子募集

現在、極真会館下総支部では、内弟子を募集している。下総支部といえば、2001年6月の世界ウェイト制大会準優勝の実績を持つ門井敦嗣らが所属している道場。空手に集中して打ち込みたいキミには最適の環境と言えよう。門井らとともに世界を目指せ！
◆申し込み方法/身長・体重・運動歴を書いた履歴書、全身写真に内弟子志願の動機を添え、下記の宛先まで申し込み。後日、連絡あり
〒278-0035　千葉県野田市中野台172-4
◆お問い合わせ/極真会館下総支部　☎04-7121-1964

## 出場選手募集

**【B.J.J. TOURNAMENT 2002「コパ・パレストラ　ウエスト・ジャパン」】**
◆日時/5月4日（土・祝）9:10～
◆会場/神戸市立王子スポーツセンター（JR「灘」駅から徒歩10分）神戸市灘区青谷町1-1-1
◆試合形式/ブラジリアン柔術ルールに則った男女別・年齢別・帯別・階級別トーナメント
◆階級/各クラスによって異なるので問い合わせ
◆出場資格/健康で、感染症のない15歳以上の男女（未成年は保護者のサインが必要）
◆出場料/一般6,000円、パレストラ会員＆日本BJJ連盟加盟団体選手十女性4,500円、ジュベニウ（18歳未満）3,000円
◆申し込み方法/参加申込書に必要事項を記入し、押印、写真、参加費を同封の上、参加費を添え下記の宛先まで現金書留にて4月20日（土）必着で応募
〒176-0012　練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
◆お問い合わせ/パレストラ東京　☎03-5984-3209

**【B.J.J. TOURNAMENT 2002「コパ・パレストラ　ノース・ジャパン」】**
◆日時/5月12日（日）9:10～
◆会場/札幌市・白石区体育館柔道場（地下鉄東西線「南郷7丁目」駅から徒歩5分）※諸事情により、会場が札幌市内の別会場に変更になる場合もあり
◆試合形式/ブラジリアン柔術ルールに則った男女別・年齢別・帯別・階級別トーナメント
◆階級/各クラスによって異なるので問い合わせ
◆出場資格/健康で、感染症のない15歳以上の男女（未成年は保護者のサインが必要）
◆出場料/一般6,000円、パレストラ会員＆日本BJJ連盟加盟団体選手十女性4,500円、ジュベニウ（18歳未満）3,000円
◆申し込み方法/参加申込書に必要事項を記入し、押印、写真、参加費を同封の上、参加費を添え下記の宛先まで現金書留にて4月30日（火）必着で応募
〒065-0009　北海道札幌市東区北9条東11丁目3-26　パールコート光星10-1F
◆お問い合わせ/パレストラ札幌　☎011-733-5301

**【第4回オープントーナメント全日本ジュニア空手道選手権大会】**
◆日時/5月25日（土）9:00～
◆会場/大阪市中央体育館メインアリーナ（地下鉄中央線「朝潮橋」駅下車、②出口より徒歩3分）
◆試合形式/クラス別、組み手によるトーナメント
◆階級/小学生の部…各学年男女別、中学生の部…男女別ウェイト制（軽量級・45kg以下、中量級・55kg以下、中重量級・65kg以下、重量級・65kg超）
◆出場資格/小学1年生から中学3年生までの健康な少年少女。（出場者多数の場合、書類選考により出場者を決める）
◆出場料/10,000円
◆申し込み方法/参加申込書に必要事項を記入し、写真2枚（柔道着姿で上半身写真。裏に住所、氏名、電話番号を記入）と出場料、健康診断書を同封の上、参加費を添え下記の宛先まで現金書留にて4月20日（土）必着で応募
〒530-0034　大阪市北区錦町3-1　正道会館総本部『全日本ジュニア大会』事務局
◆お問い合わせ/正道会館総本部・全日本ジュニア大会事務局　☎06-6357-1654

**【B.J.J. TOURNAMENT 2002「コパ・パレストラ　サウス・ジャパン」】**
◆日時/5月26日（日）9:10～
◆会場/北九州市・北九州パレス柔道場（西鉄バス96番系統「北九州パレス」下車、徒歩1分）
◆試合形式/ブラジリアン柔術ルールに則った男女別・年齢別・帯別・階級別トーナメント
◆階級/各クラスによって異なるので問い合わせ
◆出場資格/健康で、感染症のない15歳以上の男女（未成年は保護者のサインが必要）
◆出場料/一般6,000円、パレストラ会員＆日本BJJ連盟加盟団体選手十女性4,500円、ジュベニウ（18歳未満）3,000円
◆申し込み方法/参加申込書に必要事項を記入し、押印、写真、参加費を同封の上、参加費を添え下記の宛先まで現金書留にて4月27日（土）必着で応募
〒176-0012　練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
◆お問い合わせ/パレストラ東京　☎03-5984-3209

**【第3回全日本ブラジリアン柔術選手権大会】**
◆日時/5月31日（金）～6月2日（日）9:10～
◆会場/台東リバーサイドスポーツセンター3F・第1武道場（地下鉄銀座線・都営浅草線・東武伊勢崎線「浅草」駅から徒歩10分）
◆試合形式/ブラジリアン柔術ルールに則った
◆階級/各クラスによって異なるので問い合わせ
◆出場資格/①感染症のない健康優良な日本ブラジリアン柔術連盟登録選手で青帯以上の選手 ②2002年3月10日までに連盟に団体加盟登録を行った公認アカデミーまたはサークルの所属選手③各カテゴリーに1つの公認アカデミーから2名まで、1つの公認サークルから1名までの人数制限あり。参加人数過多の場合、公認サークル所属選手の出場を断る場合もある
◆出場料/一般6,000円、女性＆ジュベニウ（18歳未満）4,500円
◆申し込み方法/個人申込書に必要事項を記入し、写真と参加費を同封の上、参加費を添えアカデミーまたはサークル単位でまとめて団体申込書とともに現金書留にて5月16日（木）必着で申し込み。個人単位やFAXでの申し込みは一切受付ない
〒176-0012　練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江戸田B1-101
◆お問い合わせ/日本ブラジリアン柔術連盟・全日本選手権大会事務局　☎03-5984-3209

**【第21回アマチュアシュートボクシング関東大会】**
◆日時/6月2日（日）8:30～
◆会場/神奈川県立体育センター本館（小田急江ノ島線「善行」駅から徒歩8分）藤沢市善行7-1-2
◆試合形式/階級別トーナメント
◆階級/軽量級（57kg未満）、中量級（67kg未満）、重量級（67kg以上）
◆出場資格/①身体健康な満15歳以上の男女（未成年者は保護者の同意が必要）②ボクシング・キックなどプロの試合に出場経験のない人
◆出場料/7,500円（保険料込み）
◆申し込み方法/参加申込用紙に必要事項を記入し、参加費を添え下記の宛先まで5月20日（月）必着で申し込み
〒242-0016　大和市大和南2-13-14
◆お問い合わせ/ワールドシュートボクシング協会
☎03-3843-1212　湘南ジム　☎046-264-9867

# GOODS & TICKET
## ショップガイド

### 東京イサミ　新宿駅南口徒歩3分

〒101-0061　東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
☎03-3352-4083
毎週火曜日、祝日定休　営業時間　11:00～19:00

### イサミ尚武堂（株）　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町2-18-5 京三会館2F
☎03-5214-6487
年中無休　営業時間　11:00～19:00

### チャンピオン　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6F
☎03-3221-6237
年中無休　営業時間11:00～22:20

### 書泉グランデ　書泉ブックマート　地下鉄神保町駅

〒101-0051　東京都千代田区神保町1-21-6（書泉ブックマート）
☎03-3294-0011
営業時間（平日）10:30～19:00（日祝）10:30～18:30

### レッスル渋谷　渋谷駅南口徒歩4分

〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル3F
（1F茜屋）☎03-3464-0078
営業時間（平日）10:00～19:00（日祝）10:00～18:00

### ファイター　地下鉄新宿3丁目駅　C4出口徒歩1分

〒160-0022　東京都新宿区新宿3-3-9-B1
☎03-3354-1903
毎月第3水曜日定休　営業時間11:00～19:00

### アイドール　西武新宿駅徒歩5分

〒160-0023　東京都新宿区西新宿7-1-3　加藤ビル4F
☎03-3371-5211
毎週月曜日定休　営業時間　11:00～19:00

### 主要チケット発売所

| 発売所 | 電話 | 発売所 | 電話 |
|---|---|---|---|
| チケットぴあ | ☎03-5237-9999 | 渋谷東急文化チケットセンター | ☎03-3406-1513 |
| チケットセゾン | ☎03-3250-9999 | レッスル渋谷店 | ☎03-3464-0078 |
| ローソンチケット | ☎03-3569-9900 | レッスル池袋店 | ☎03-3989-0056 |
| CNプレイガイド | ☎03-5802-9999 | 板橋大山アメリカン | ☎03-3962-6443 |
| オデッセー | ☎03-3408-0331 | チャンピオン | ☎03-3221-6237 |
| 書泉ブックマート | ☎03-3294-0011 | フィットネスショップ格闘技 | ☎03-3265-4646 |
| 後楽園ホール | ☎03-5800-9999 | | |

### 格闘技オフィシャルホームページ

- K-1　http://www.k-1.co.jp/
- UFO　http://www.ufojp.co.jp/
- 極真会館（松井派）　http://www.kyokushin.co.jp/
- リングス　http://www.rings.co.jp/
- アントニオ猪木　http://www.inokiism.com/
- 大道塾　http://www.daidojuku.com/
- パンクラス　http://www.so-net.ne.jp/pancrase/
- UFC　http://www.ufc.tv/index1.asp
- 怪獣王国　http://www.monsterkingdom.com/
- シュートボクシング　http://www.shootboxing.org/
- 日本武道伝骨法會　http://www9.big.or.jp/~koppo/
- 修斗　http://www.alles.or.jp/~shooto/index.html
- 新日本キックボクシング協会　http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/
- 全日本キックボクシング連盟　http://www.aj-kick.co.jp/
- J-NETWORK　http://www.kickboxing.co.jp/
- PRIDE　http://www.so-net.ne.jp/pride/
- 髙田道場　http://www.takada-dojo.com/
  http://www.takada-dojo.com/i/（iモード用）
- 掣圏道　http://www.seiken-do.com/
- 全日本新空手道連盟　http://www.shinkarate.net/

# 宇月田麻裕の 北斗占い

Mahiro Utsukita

破軍 武曲 廉貞 文曲 貪狼 禄存 巨門

**4/11～4/24**

### ★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

### 北斗本命星早見表（ホクトホンミョウジョウ）

| 貪狼星 | 巨門星 | 禄存星 | 文曲星 | 廉貞星 | 武曲星 | 破軍星 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 1959 | 1958 | 1957 | 1956 | 1955 | 1954 |
| 1960 | 1961 | 1962 | 1963 | 1964 | 1965 | 1966 |
|  | 1971 | 1970 | 1969 | 1968 | 1967 | 1978 |
| 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 |  |
| 1984 | 1983 | 1982 | 1981 | 1980 | 1979 |  |
|  | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 |
| 1996 | 1995 | 1994 | 1993 | 1992 | 1991 |  |

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ　聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです。
武曲（ブゴク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

## 破軍星

**全体運**
障害が出やすい時。旅行運がダウンしているので、遠方への出張や遠征には注意が必要。とくに金銭問題と書類のミスが危険信号。契約書関連は、記入漏れや間違った内容がないか細心の注意を。サインしてしまってからではアウト。

**恋愛運**
恋愛に対してビビりそう。男は男らしく、キメる時にはキメないと、せっかくのチャンスも逃げてしまいそう。カップルは、相手のペースに巻き込まれそう。

**勝負運** 大切なことはメモしておくと勝運UP。
**健康運** 体調を壊しやすいので暴飲暴食はNG。
**金運** 盗難の危険。貴重品はキッチリとしまっておこう。

★ラッキーカラー★ ライトピンク
★ラッキーアイテム★ CD
★ラッキースポット★ オープンカフェ

## 武曲星

**全体運**
春爛漫なのにハートは曇りがち。パワー不足の上に、やらなきゃいけないことが目白押しで大混乱。まずは何をするにもひと呼吸して、落ち着くことがポイント。焦らずに、ジックリと物事に向き合っていくと、案外スンナリいくハズ。

**恋愛運**
エッチがまだなカップルは、ジレったいくらいキープ状態に。フリーは、恋愛以外のことに意識が向いて、なかなかターゲット探しに意欲が湧かない時。

**勝負運** 中途半端なことをしてはNG。やり通すこと。
**健康運** お肌のトラブルに注意。スキンケアをして。
**金運** 必需品はコンビニよりスーパーで買って節約。

★ラッキーカラー★ ベージュ
★ラッキーアイテム★ ハンカチ
★ラッキースポット★ ショッピングアーケード

## 廉貞星

**全体運**
内に秘めた潜在脳力が発揮される時。新しく関わる誰かの力によって、今までのあなたと違った一面がクローズアップされる期待も。まったく関心がなかったカテゴリにもチャレンジすると、新しいあなたとの出会いに感動しそう……。

**恋愛運**
ドキッとするような好みのタイプに出会えるチャンス！　合コンやパーティの誘いに参加してみて。うまくいくと、いきなりエッチな～んて可能性もあり。

**勝負運** 新しく出会う人が勝負運を運んできそう。
**健康運** 耳鼻科系が弱い時。検査してみては？
**金運** 義理と人情を大切にすると見返りの期待。

★ラッキーカラー★ コバルトブルー
★ラッキーアイテム★ バッグ
★ラッキースポット★ ライヴハウス

## 文曲星

**全体運**
凶兆星の予感。星の輝きがあなたに届かない時。呑気に構えていたら、いつの間にかチャンスを逃していた、な～んてことがありそう。スポットライトを浴びるチャンスが減るので、少ないチャンスを最大限に生かして勝負しよう！

**恋愛運**
近くに恋人候補がいないからって、安易に友達の彼女に手を出すと、かなりのダメージにつながる暗示。カップルは、環境の変化で少しずつ距離ができそう。

**勝負運** 巨門の知人にアイディアをもらうとグッド。
**健康運** 体力ダウン。ウォーキングは欠かさずにして。
**金運** 不用品をネットオークションに出してみては？

★ラッキーカラー★ イエロー
★ラッキーアイテム★ 手帳
★ラッキースポット★ エスニックレストラン

## 禄存星

**全体運**
ワクワクドキドキするようなことが多くなる予感。試合や仕事に対して、やる気が出て、楽しんで臨めそう。ただし、へらへらし過ぎると、気合いが足りないように思われてしまう危険。やる気を見せたり、メリハリをつけていこう。

**恋愛運**
ラブラブな時を過ごせる暗示。仲間たちとパ～ッと遊びに行くも良し、2人きりの世界に入るも良し。歓迎会の宴の後にラッキーハプニングの期待も……。

**勝負運** エネルギーUPする映画を観るとグッド。
**健康運** 部屋の掃除を。環境から清潔にするのが大事。
**金運** 身だしなみを整えるための出費は惜しまずに。

★ラッキーカラー★ ホワイト
★ラッキーアイテム★ アクセサリー
★ラッキースポット★ 居酒屋

## 巨門星

**全体運**
吉兆星が輝いています。勝負を賭けてOK。良きアドバイザーを得たり、パートナーと組んで仕事やトレーニングをすると、順調な仕上がりに。手頃な人がいない時は家族にアシストを頼もう。チームプレイの人はとくにラッキー。

**恋愛運**
4月ということもあり、環境の変化に準じながら恋人探しをするとグッド。あなたに、恋の女神が微笑んでいる時なので、いち早く恋人をゲット！

**勝負運** 勝負日にはノリの良い音楽を聞くとOK。
**健康運** 気候の変化には洋服で体温調節していこう。
**金運** 春のキャンペーンを利用して得しよう。

★ラッキーカラー★ ライトパープル
★ラッキーアイテム★ ボヘミアンファッション
★ラッキースポット★ 公園

## 貪狼星

**全体運**
割り切りが良くなれる時。ドロドロとした問題にハマっていた人は、スポンと抜けるような瞬間がやってくる暗示。方法や考え方をちょっと変えてみると、見えなかったものが見え、小さなことにこだわっていたな～と、感じられそう。

**恋愛運**
気持ちの余裕ができるので、ジックリとグッドパートナー探しをしてみては？　カップルは、恋人への熱が冷めやすい時。魅力的な人へハートが揺らぎそう。

**勝負運** 勝負には友達が何かと力になってくれる暗示。
**健康運** 突き指や指を切ったりしそう。指先に要注意。
**金運** 欲しかった物が格安でゲットできる期待。

★ラッキーカラー★ シルバー
★ラッキーアイテム★ ペットボトル
★ラッキースポット★ リバーサイド


宇月田麻裕プロフィール　ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/




「ターザンさんがやった仕事で一番、ベストなのは〝ザッツ・レスラー〟を書いたことなんですよね。ボ

## 次号予告

# あれから5年9カ月
# ターザン山本、本格連載スタート!!

# 『ザッツ・レスラー』改め『ザッツ・ムチャリブレ』を御期待！

「ターザンさんがやった仕事で一番、ベストなのは〝ザッツ・レスラー〟を書いたことなんですよね。ボクらはあれの大ファンなんですから……」というのは浅草キッドである。博士（水道橋博士）も玉ちゃん（玉袋筋太郎）も口を揃えてそう言うのだ。

かつて『週刊プロレス』に連載していたエッセイ。あれは宮沢賢治を意識して書いたもの。自分では〝詩〟だと思っている。

だから〝ザッツ・レスラー〟には人一倍、愛着がある。プロレスを本当に好きになったら、誰でも詩人になることができる。

これは私の中にある仮説の一つである。それを証明するために〝ザッツ・レスラー〟を書いてきた。問題は言葉（言語）をどう使うかである。プロレスを言葉で美しく表現できたら、どれだけ楽しいことか？ その野望に挑戦したのが〝ザッツ・レスラー〟なのだ。

それが果たして今の時代に通用するのか？ 今、一度挑戦してみたくなった。というわけで『SRS・DX』の谷川編集長にお願いしてみたという次第。二つ返事で彼は〝OK〟してくれた。

今度はプロレスラーと格闘家も対象にしたい。ファンにとってあるいは私にとって至上の喜びは、選手や試合を、夢見るように見れる瞬間があることである。

それを言葉にしてきたのが〝ザッツ・レスラー〟だった。物事をいつも過剰に見てしまう。それがファンというものなのだ。そのファンの過剰性をもう一度、回復させたい。過剰なる言葉を、私は再び作り上げたいのだ。■

**はみ出しターザン情報**

4月27日（土）夜7時よりターザン山本トークライブ「自画自賛の会」が開催されます。
【場所】千代田区三崎町2-9-9ナガヤビル5F『格闘技・プロレス図書館　闘道館』
【入場料】前売り1,500円（当日2,000円）ワンドリンク付き　【お問い合わせ】☎03-3512-2080

ABNORMAL★MOGUTAN

# あぶもぐ

大阪場所

五日目

親方◎小松モグタン

SUPER MONDAY NIGHT IN KABUKI

テレクラ

THE RESIDENTS

**驚愕！　あのユセフ・トルコがグレート・アントニオを襲撃！　猪木のポスターを発見すると、すかさず殴りかかるは、チョップを入れ始めるわ、首を絞め始めるわで、お店のガラスが割れんばかりの勢いだった。この元気を見習って、元気な作品を送ってください！　それにしても、テレクラの前を颯爽と歩くシウバは素敵だなぁ。**

（真杉哲也・東京都東久留米市・24歳）
◆うまいなぁ、本当に！　カラーにしたいくらいうまいよ。でも、座談会の時のメシもうまかったなぁ。

（小川徹・埼玉県八潮市・16歳）
◆本当に、武藤はカッコイイなぁ！　この格好良さは全国民が見習うべきだね！

（やさま優作・東京都小平市・29歳）
◆ベン獣が怪物を描いたぞ！　見ろ、この迫力を！　『プライド20』で実物と見比べてみ！

ボブ・サップはただのプロレスラーだと思っていたので、あまり注目していませんでしたが、相手がヤマノリだと話はべつ。今回こそ、ノリの結果を期待しています。ところで、昔、石井館長が『アンディ・フグVSビッグ・バン・ベイダー』が見たいと言っているのを聞いた時は、随分はっちゃけた人だなぁと思ったのですが、今まさに時代が館長に追いついたのですね。
（春名義行・兵庫県明石市・35歳）
◆石井館長は今も昔もはっちゃけっぱなし！　アンディがベイダーのムーンサルト食らうところを見たかった。

K―1VS『プライド』開戦記念企画で、『プライド20』でK―1軍の巨人ファイター・ボブ・サップと試合をする山本憲尚が、K―1軍のジャイアント・ノルキヤの次に試合をするのが、また巨人だから、頑張ってほしい。身長205センチ、体重160キロだから凄い。本当にゴリラに似ている。そこが面白いところだった。『プライド20』はヤマノリに勝ってほしい。頑張れ。
（小川徹・埼玉県八潮市・16歳）
◆これぐらい、純粋にヤマノリを応援している人間がいると思うと嬉しいね。ただ、人のことを〝つくし〟呼ばわりしたことだけは、よく覚えておくぞ！

こいつ本物のゴリラ（ボブ・サップ）。本当に凄そう。これからがとっても楽しみ！
（岩田知之・鳥取県鳥取市・33歳）

◆本当にゴリラにしか見えないなぁ。

浅草キッドの底抜けアントンハイセルで、ターザン山本が太田プロ所属というのは本当か？
（渡辺弘幸・愛知県名古屋市・33歳）
◆調べろ、テメェでッ！

読者プレゼントをもっと魅力のあるものにして。例えば裏ビデオ。安生VSヒクソン、鈴木みのるVSアポロ菅原。藤波VSチャボ・ゲレロ（寝屋川）ｅｔｃ。
（青戸渉・鳥取県米子市・27歳）
◆探せ、テメェでッ！　読プレの出てくるスキがねぇようにしてみろよ！

『物理学の世界で猪木劇場大爆発』は、一般紙面で見たが関係ない！
（伊澤篤・東京都江東区・47歳）
◆関係ないことないでしょう！　あなたの生活が今よりも格段に良くなる発明ですよォォォ！　今に猪木さんに感謝する時が来ますよォォォ！

『Ｉｎｏｋｉ　Ｎａｔｕｒａｌ　ＰｏｗｅｒⅣ』の記者会見ですけど、猪木が行くところは、全てプロレス空間になるということが、よく分かりました。
（春名義行・兵庫県明石市・35歳）
◆猪木さんは真剣にやっているんだぞ！　もっとこの偉大な功績を讃えろ！

ボブ・サップは人間じゃないみたい。恐い。僕は田村選手の大ファンです。この開き直りは、何か一皮剥けたような。ところで、女子の水着姿ですが、べつにいいとは思いますが、もう少し硬派でいてほしい。
（山内義久・大阪府三島郡・33歳）
◆この野郎！　女子の水着姿って『プライド』ガールのことか？　もう少し硬派でいてほしいって、下半身は硬派にならなかったのかな？　ンムフフフ。

## よく見りゃ似てる？ シリーズ1

◎新田明臣とゴージャス松野
◎須藤元気とサッカーの野人岡野
◎ゼブラ中迫とジャイアンツ高橋尚
◎篠原光と上沼恵美子
◎ＧＫ金澤と高山
◎サクとウド
◎船木誠勝と大澄賢也
◎マーク・コールマンとモト冬樹
ど〜ですか！?
（渡辺拓也・新潟県柏崎市・29歳）

◆本当に似ているのか？　コールマンとモト冬樹はたしかに似ていると思うぞ！　早くシリーズ2を送ってください。

頭の彫り物がワイルドなヴァンダレイ・シウバ。なんか最近、“プロレスキラー”として名高いミルコ・クロコップと対戦するとかしないとか。まあ、僕は断然シウバを応援します。なんか最近、ミルコ調子にのっているし……。それはともかく兵庫県水上郡の柏原町のローソンに『ＳＲＳ・ＤＸ』置いたほうがいいよ。ってゆーか、僕の住所は明かさないけど、とりあえず兵庫県の水上郡の柏原町のローソンに『ＳＲＳ・ＤＸ』を置いてみよう！
（タイガーマスク・？・？歳）

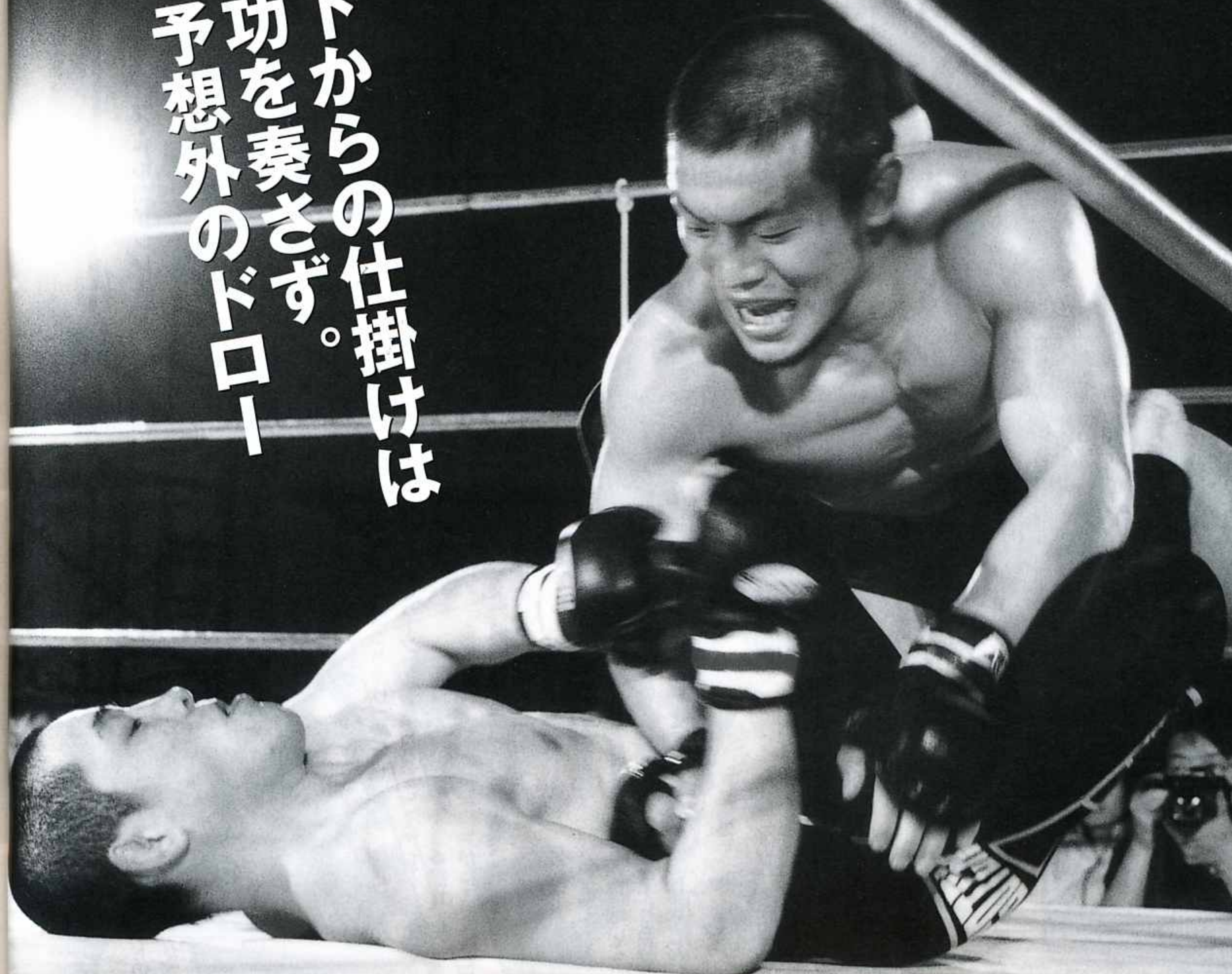
◆この野郎！　住所を明かしてみろよ！　でも“ビバ・兵庫！”

馳さんは安田のデビュー戦の相手なので、特別に一票入れさせてもらいました。選挙の時は、ウチの会社にも来てました。「子を育て……」は、市内に貼ってあるポスターに書かれているものです。政治のほうでガンバッテください。
（有権者・石川県金沢市・？歳）
◆こんな爽やかな政治家の馳先生に、ピンハネ疑惑が起こらないようにみんなで気を付けよう！

あて先
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

**★作品募集**
『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！　強烈なぶちかましをお待ちしております。

# 未来へのまなざしと冷徹な現状認識 植松直哉、14カ月ぶり復帰も感傷ゼロ

## 下からの仕掛けは功を奏さず。予想外のドロー

昨年1月以来となる修斗公式戦に挑んだ植松直哉（下）だったが、井上和浩を相手にまさかのドローとなってしまった。しかもドロー判定が発表されると、会場から「えっ……？」というざわめきが起こるような内容

★第6試合・メインイベント/ライト級5分3R

**△植松直哉（3R判定1-1、ドロー）井上和浩△**

〈K'z FACTORY〉 〈インプレス〉

※採点…29-29、29-28、28-29

この大会には、二つの大きな意味があった。まず一つは、これが名古屋で開催される初のプロ興行だということ。首都圏の大会場でやるのもいいが、地方で人気、知名度を上げていくのも同じくらい価値がある。そして二つめは、メインイベントで植松直哉が復帰することだ。

植松が修斗の試合に出場するのは、昨年1月のマイク・コルドッソ戦以来実に14カ月ぶり。去年の5月にウィルス性の腸炎を患い、一時は生死さえ危ぶまれるほどだったという。本当に、よくぞ帰ってきてくれたという感じだ。

それに、このところマッハがUFCで大敗を喫したり、下北沢にしろ後楽園にしろ選手の欠場やカードの延期、中止がやけに目立つ状況で、いまいち修斗に元気がなかったように思えたから、この植松の復帰は「修斗ここにあり！」を証明する起爆剤としても期待していたのである。

なぜチャンピオンでもない植松にそこまで期待をかけてしまうのかは、その戦績を見てもらえば分かる。9戦して8勝1分。一本勝ちが5。この異様なまでの極めの強さが植松を際立った存在にしているのだ。磐石の政権を築いているノゲイラのライト級王座を脅かすとしたら、やっぱり植松だろうなって思いもある。

そして、この日も一本勝ちのチャンスが試合開始早々にやってきた。タックルで倒されながら井上和浩の

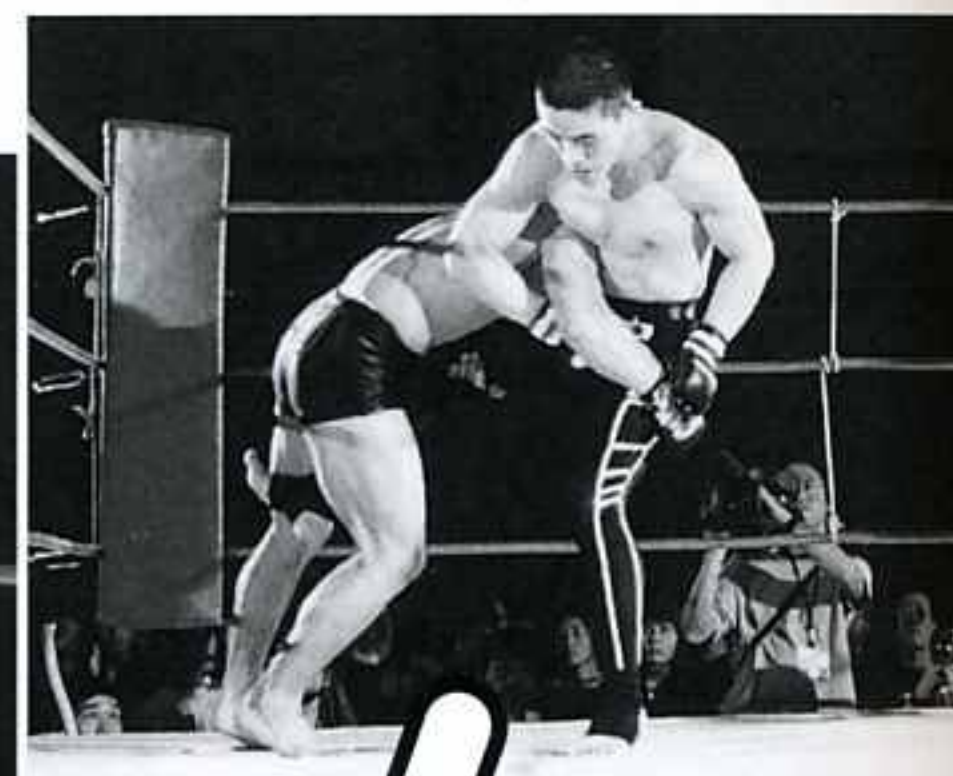
# いきなりのアームロックは不発
# ああ、"極め"の醍醐味が見たかった……

### 植松のコメント

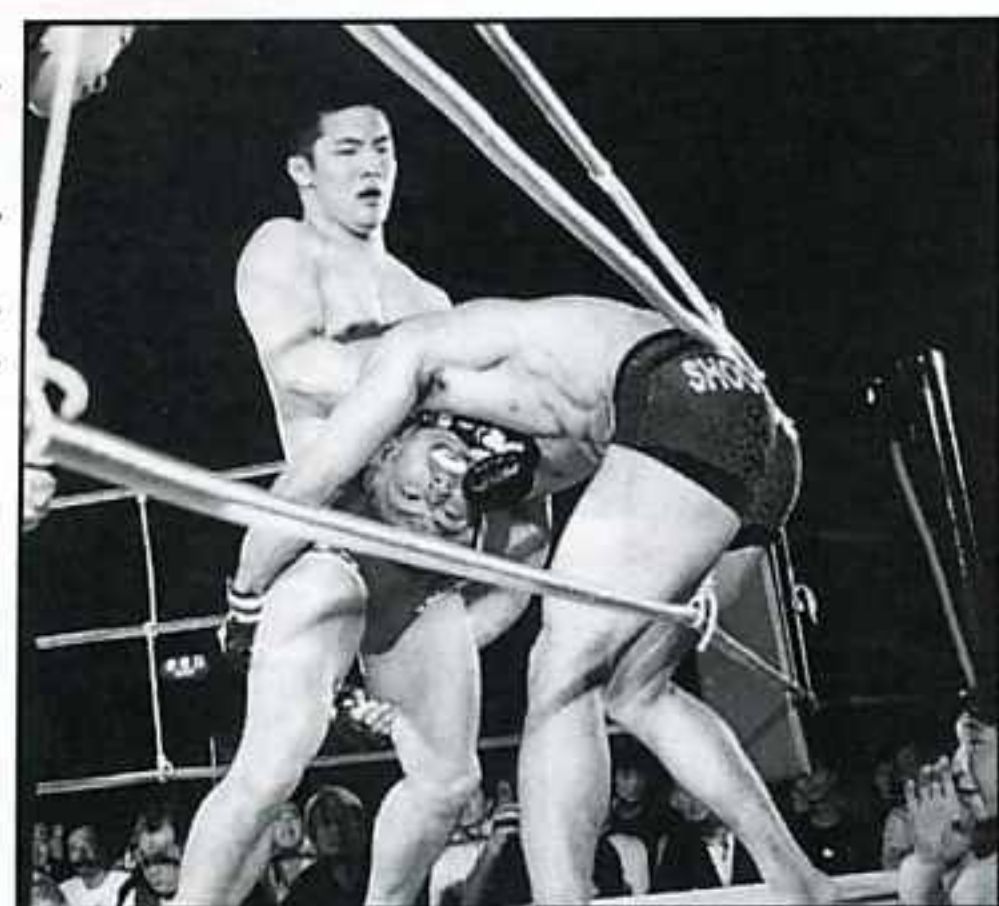
「考えてたことを試そうと思って、手応えも多少あったんですけど。1Rで極められなかったのが全て。1試合でチャンスはそう何度も来ないんで。下から仕掛けても判定で不利になるのは分かってたんで、極められなかった自分が悪いですね。（この結果を踏まえてノゲイラ戦は？）いや、それはちょっとカンベンしてください」

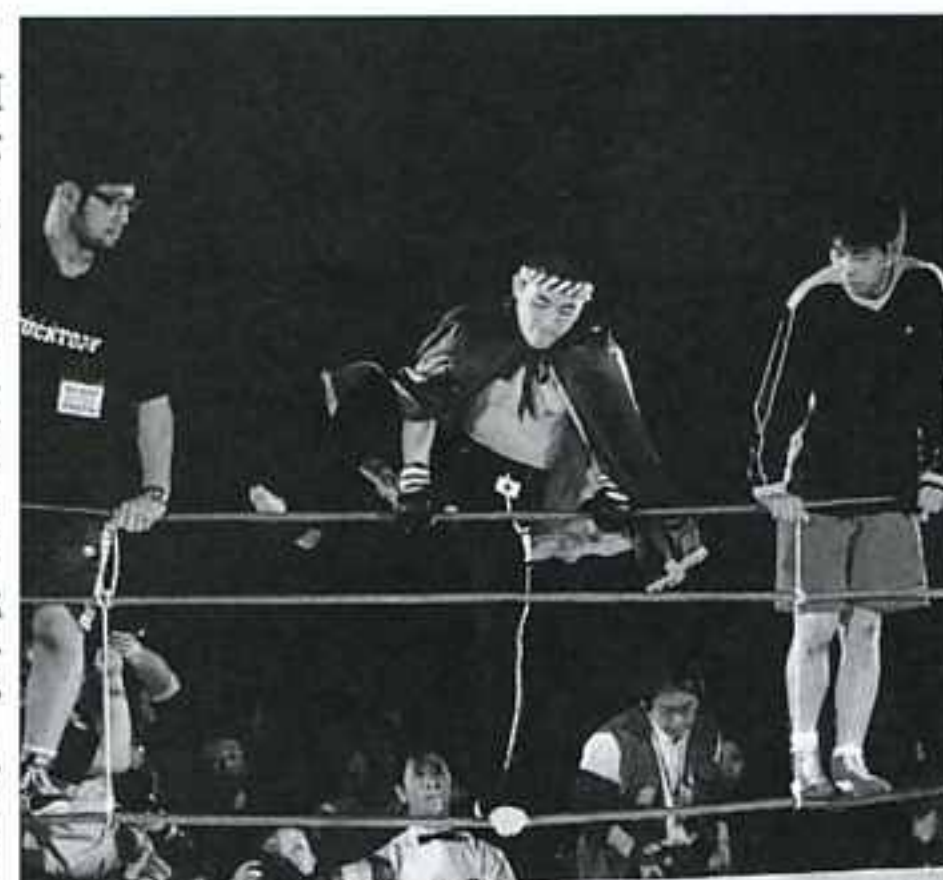
### 井上のコメント

「練習では寝技でも一本取ってるんですけど、試合でやるのは難しいですね。でも、上を目指すにはそれでも取れるような気持ちをつけていかないと。逃げっていうか、勝ちを優先してしまうんで。足関節はもう、凄い意識してました。（判定は）勝ったかなと思ったんですけど（笑）、仕方ないですね。最初、腕もヤバかったんで」

1R、タックルにきた井上の腕を取ってアームロックを極めにかかった植松。この試合最大のチャンスだったが、惜しくも決まらず

▲井上は植松の打撃をかいくぐってタックルに。下からの攻めを狙う植松はこれに逆らわなかった

▲ランバーを打撃の師と仰ぐ植松。ラウンド序盤は鋭いミドル、ローを打っていく

▶セミファイナルはウェルター級の3回戦。八隅孝平（パレストラ東京）が杉江"アマゾン"大輔（ALIVE）のタックルを切ってフロントスリーパーで一本勝ち（1R3分31秒）

▲今大会は名古屋で行われる初のプロ修斗興行。ルミナ、坂本プロデューサーもグッズ販売コーナーでファンサービス

▶植松はマントにモンコン姿で、ムエタイ式の入場。セコンドにはルミナ、大石真丈らとともに港太郎もついていた

▲三角絞めや腕を取りにいくなど、ガードポジションから盛んに攻めていった植松。だが井上はこれに付き合わず、スキを見てパンチを落としていった

タックルで倒されながら井上和浩の腕を取り、アームロックへ。一瞬「ウガァッ！」という声がして井上の腕が伸び切った。が、惜しくも極まらず。そしてそれ以降は、井上が何度もテイクダウンして、グラウンドで攻めているような感じの展開。

　攻めているような感じ、というのは、グラウンドで上からパンチを落とすのが見た目に分かりやすく、ジャッジにも反映されやすいから。実際は植松も下から虎視眈々と十字や三角を狙っていた。だが、井上はそれを徹底して封じ、上になって印象点を稼いでいった。ランキングは一つしか違わないが、井上にとって植松は"格上"の選手のはず。なんとか勝とうとして必死だったのだ。

　結果はドロー。試合を終えた植松は意外なほど冷静に闘いを振り返っていた。

「下から仕掛けて判定で不利になるってのは分かってました。1Rに極められなかったのが全て。1試合でチャンスはそう何度も来ないんで」

　久々の復帰戦ということに関しても「たまたま9試合目と10試合目が空いちゃっただけ。特別な感情はないです」と素っ気ない。ただ、確実に勝ち星を稼げなかったことには「自分の目指すスタイルが勝ち星につながるって信じてますから。僕にとって勝つってことと自分のスタイルを作るってことは同じなんで」と、ガンコなこだわりを見せた。植松が見据える未来の自分のスタイルがどんなものなのか。これからも追いかけていきたいと思う。

　とはいえ今回、植松がメインの責任を果たせなかったのも事実。「それが勝負というものだから」と納得してしまうのは、あまりに寂しいというものだ。

（橋本）

優勝候補

# 増田が……トーナメントが……この一発でブッ壊されたぁぁぁ!!

こんなモノ凄いノックアウトは年に1回あるかどうかだ。大月の右フックがまともに命中。体が硬直したところに右ハイもドカン。本命・増田は心も体もブッ飛んだ

撮影◎吉澤晃

★第4試合/60キロ級トーナメント1回戦(3分3R)

**○大月晴明(1R0分53秒、TKO勝ち)増田博正●**

〈REXJAPAN〉 〈ソーチタラダ〉

※右フック

トーナメント戦とは本来、決勝戦こそ最高に盛り上がるもの。たった1人の最後の勝者を決めようというのだから当然である。だが、格闘技、しかも『ワンナイト・トーナメント』の場合、その図式は必ずしも当てはまるとは限らない。

そう、この『COMBAT—2002』、さまざまなキックボクシング・フィールドから強豪を募り、60キロ級の最強をMAキックのリングで決めようという試みこそ、そんな逆転の構図で魅惑の色に彩られた大会だった。だって、1回戦が断然面白かったのだ。優勝候補がコロコロと、しかも劇的に負けていったのだからたまらない。

のっけの第1戦からのけぞった。大宮司進がいきなり散った。むろん、不敗の相手、花戸忍も最初からダークホース的な存在ではあったのだが、人気絶頂の魔裟斗とともに独自路線を歩む大宮司の切れ味が上と見られていた。だが、現実は、その大宮司が花戸に追い回され、3Rにはヒザでダウンを奪われて、完敗を喫することになる。

続いてMAのエース格ファイティング前沢も姿を消す。最後までらしさを見せないままの敗退だった。だが、トーナメントの意図を根こそぎぶち壊したのはこの人、大月晴明に違いない。とんでもないことを、それも53秒の早業でやってのけたのだ。

今回参戦した顔ぶれを見て、核と

| MAキック | KING~COMBAT-2002~ |
|---|---|
| 3.30★後楽園ホール | *60キロ級日本一決定トーナメント* |

# 勝った大月も、このキックで途中棄権……本命、対抗、ダークホースまで1回戦から実力者が散りまくった！

# モンゴルの春にも『サクラサク』優勝は極真の使い手、花戸忍！

不敗の新星・花戸が快進撃。1回戦では大宮司からヒザの連打でダウンを奪う。その後も極真で鍛えた滑らかなキックを武器に一気に勝ち上がった

▲もう1人の優勝候補・大宮司だったが、花戸の果敢な攻めにいいところなく押し込まれて、早々と姿を消した

▶優勝賞金100万円を現ナマで手にした花戸は、さすがに喜びを隠せない。「嬉しいです。最後の試合が一番キツかった。負ける気はしなかったけど。1月の試合が終わってからタイに行って、ずっと練習してきた。ヒザもそうだけど、スピードあるコンビネーションも学んできた。4月にタイトルマッチが決まってるので、必ず勝ちます」

▲決勝は、花戸とリザーバーとして準決勝から出場のラビット関。準備不足の関はまったく元気がなく、花戸の激しいアタックばかりが光る。結局、2Rにローでダウンを奪った花戸が大差の判定で優勝を決めた

★第9試合/60キロ級トーナメント決勝戦（3分3R）
**○花戸忍（3R判定3-0）ラビット関●**
〈東金ジム〉　〈山木ジム〉
※採点…30-24、30-26、30-26。関は2Rに右ローで2度ダウン

小石原勝（習志野ジム）
及川知浩（龍生塾）
ラビット関（山木ジム）
大月晴明（REXJAPAN）※負傷により棄権
増田博正（ソーチタラダ）
ファイティング前沢（土浦ジム）
梅下湧暉（谷山ジム）
大宮司進（シルバーウルフ）
花戸忍（東金ジム）

見よ、この目！　増田の意識は完全に飛んだ

今回参戦した顔ぶれを見て、核と

なるのは誰かと問われたら、私はやっぱり増田博正だと答える。事によると、その増田がどういう勝ち方をするのかを確認する大会とも思っていた。このJ－NETの看板スターはそれくらいに実績、実力とも一枚抜けた存在に見えていた。1回戦で顔を合わせる大月は、7戦7勝6KOと快進撃を続ける全日本キック期待の存在だが、なんせキャリアはないし、ここ10カ月も試合から遠ざかってる。まずは増田のお手並み拝見といきたい。が、読みは一撃の轟音とともにあっけなく崩れ去った。

右フックだった。増田の体が鉄の棒で差し抜かれたようにこわばる。それから弛緩していく。ここで大月が右ハイをフォローしたからたまらない。そのままマットに叩きつけられた。これで全ては終わった。

試合終了後も、どよめきが収まらなかった。モノ凄いKOシーンだった。控室の増田は何を聞かれても、「（KOは）何ラウンド？」と繰り返すばかり。意識は完全にブッ飛んでいた。さらにおまけがあって、大月も最後の右ハイを蹴った時に、右足の甲を痛めて、リタイアを余儀なくされたのだ。本命が消え、取って代わった新主役も、一陣の旋風を残して去っていった。まさしく〝そして誰もいなくなった〟である。

後は『COMBAT―2000』の勝者ラビット関がリザーブに登場し、大宮司を食った花戸が優勝への街道を突っ走る。念のために確認しておきたいが、だから花戸の優勝にケチがついたなどとは毛頭思わない。極真で鍛え上げた柔らかなタッチのキック、タイで磨いた鋭いヒザ。こちらも確かな新時代の到来を予感させたのだ。

（宮崎）

SRS・DX Editor's Talk

# 編集部トーク 裏事情

## 今夏、空前の格闘技戦争が勃発か？

A　K—1VS『プライド』の対抗戦が本格的に開戦になる中で、今年の夏に大会場で『イノキ・ボンバイエ』の第2弾が行われるという噂が前からあるんだけど、それはどこまで本当に決まっているの？

C　プロレス専門紙なんかに出ているのは、そのイベントは『イノキ・ボンバイエ』ではなく、K—1VS『プライド』になるとか、日付も7月7日説や8月11日説と様々。会場については、石井館長が発言したこともあり、サッカーのワールドカップで使用する横浜国際スタジアムなんて話も出ていますね。で、主催に関しては、TBSがやるというのは、いずれも共通しているんですけど。

B　TBSは去年『ファイトTV』という初の24時間テレビを行い、畑山隆則の世界戦を目玉として瞬間最高視聴率が、30%を超える大成功を収めている。そこで、『イノキ・ボンバイエ』やK—1VS『プライド』のようなイベントをやれば、畑山の世界戦以上の数字が取れるのは、まず間違いないと踏んでいるのは当然だろう。しかし、本当のところを言うと、まだ何も決まっていないのが現状らしいよ。

A　まあ、それだけのイベントをやるからには、クリアしなきゃいけない問題はたくさんあるからな。K—1も『プライド』もびっしりと興行スケジュールが組まれているし、お互いにテレビ局の問題もあるから。

B　というより、それだけのイベントを行う会場がまずないと思うよ。会場押さえはどの団体も、普通1年前からやっているものだからね。それに2・11K—1中量級大会を見ていると、魔裟斗VS小比類巻貴之の決着戦をやったとしたら、それだけでボクシングの辰吉丈一郎VS薬師寺保栄の世界戦並みの反響になる気がする。それくらいの勢いが、今のK—1中量級にはあるからね。

A　だけど、それも5・11K—1中量級の世界大会を見てからだなぁ。その結果次第で、そのカードがプラチナカードに化ける可能性もあるし、逆に2人とも1回戦で負けてしまったら、意味がなくなることもある。そのへんもあって、まだ何も決められないのが本音なんじゃないだろうか。

C　それ以外に、UFO&ZERO—ONEが8月にビッグイベントを行うという噂もありますよ。それはTBSじゃなく、日テレで放送されるのが濃厚だと言われているんですけど、そうなると大きなテレビ戦争、興行戦争になりそうですね。

B　興行戦争で言えば、まだまだ噂があるんだけれど、『一撃』の第2回大会も夏あたりに開催したいと、以前松井館長が言っていた。『一撃』はプロとアマチュアの交流の場であり、K—1や『プライド』に上がる前段階としてのステップの場として今後も開かれるだろうけど、ポイントは極真の選手もまた総合にチャレンジしようとしていること。そうなると、松井館長と前田日明の友情から、リングスの選手が出てくる可能性が高い。それは前田自身もコメントしているからね。まだ、どこの団体も正式発表がないんでなんとも言えないんだけど、もしかしたら今年の夏は凄い格闘技戦争が起こるかもしれない。

A　いずれにせよ、今年の格闘技界はK—1VS『プライド』が主軸になるのは間違いない。髙田延彦のラストマッチ、桜庭や藤田の復帰戦も、そうしたK—1がらみのカードになってくるんじゃないかな。

B　そのためには、『プライド』ではK—1の選手が勝ち続けてもらいたいし、石井館長もK—1で『プライド』戦士に勝ってもらって、ドラマを伸ばしたいんじゃないかな。セーム・シュルトなんて、今年のK—1グランプリの目玉にしたいくらいだろう。

C　でも、K—1広島大会はチケット完売、『プライド20』横アリ大会も、K—1がらみの3つのカードを発表しただけで、初動1万枚のチケットが動いたのは、凄いことですよねぇ。■

▶昨年の『イノキ・ボンバイエ』以来、急速に接近したK—1と『プライド』。果たして猪木軍団はどうなる？

◎石井館長は格闘技界で〝リベンジ〟という言葉を流行らせたが、格闘技の興行で一番プロデュースセンスを問われるのは、負け様をいかに見せられるかということである。これさえ、プロデューサー・選手が分かっていれば、格闘技のイベントは必ず継続的に当たる。つまり、何が言いたいかというと、こうした他流試合が頻繁に行われる時代になると、どうしても勝ちにいくあまりにカードがつまらなくなってしまうことが多いことだ。そういう他流試合をやってもどちらも負けられない試合だが、裏を返せばどっちが負けても傷つかない試合だ。たとえば、ミルコVSシウバはどちらも負けられない試合だが、裏を返せばどっちが負けても傷つかない試合だ。

たとえば、ミルコが負けたりしたら、K—1ルールでシウバとのリベンジもありだし、あるいはK—1戦線を離脱し、結果が出るまで総合に専念するというドラマを見せられる。そうなったら、アンディ2世は完全にミルコのもの。また、勝てばミルコVS桜庭、ミルコVS藤田なんてカードが出てくるから、『プライド』にとっても、K—1にとってもおいしいことこの上ない。シウバが負けたとしたら、ミルコとの再戦は今度こそ『プライド』ルールでやればいいし、打倒K—1のためにあえてK—1のリングに殴り込みにいくといったドラマがいくらでも生まれてくる。それもまた、K—1にとってもおいしいし、『プライド』にとっても王者シウバ主体のドラマが初めてできると言っていい。次の注目度も、どう転んでも大きいだろう。藤田、桜庭、田村、大山といった休んでいる選手は、それ自体がタメになり、ドラマになっているはず。だから、負けを恐れず、他流試合にはどんどん打って出るべきなのだ。（谷川）

SRS・DX
次号の発売日は4月25日（木）です。
発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之　編集長：谷川貞治
DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、岩村唯是
溝口真穂、野尻雅友、小林善夫

DEEP 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

# いたいけな中年オヤジ 和田良覚39歳 激勝!!

## 金原が、髙阪が、高山が 心から祝福!!

▲和田のパンチを受けて倒れたアステカ。和田は練習につき合ってくれた髙阪らと思わず、抱き合う

試合後の控室前では金原、髙阪、高山、滑川、横井、伊藤らが和田を囲んで記念写真。全員の笑顔がこの闘いの全てを象徴している

# 元Uインター勢、元リングス勢、家族が見守る中で勝利を手にした瞬間！

## 「まさかパンチで倒すとは思わなくて」（和田談）

最強伝説を証明するかのような完璧な勝利。試合時間はわずか1R2分54秒であった

▲UWFのテーマ曲に乗って入場してきた和田。本人は緊張していたと語っていたが、その顔には闘志がみなぎっていた

▲アステカもインディー団体『華☆激』を率いる31歳。気合いは十分だった

ことをしたたと思う。

　この試合のブッキングのために尽力し、途中、前田日明総裁に怒られたりしながらも、結果として和田良覚という素晴らしい選手をファンの前に提供してくれたのが彼だからだ。

　でも、なぜ、金原がここまで動いたのか？

　そこには和田さんのためというのももちろんあったとは思うが、その根底には明らかに面白半分が存在したはず。あの39歳の和田さんが、あのレフェリーの和田さんがバーリ・トゥードで初デビューすることになったらどんな顔するだろうか。慌てたり、困ったり、意を決したりと、さまざまな表情を楽しめるだろうなぁ。金原が思ったのはこんなことではないだろうか。

　DEEPという興行を巻き込んだ、ただのイタズラ。後味スッキリの心地イイ企てがこの試合だったのである。

　また、そうなれば、周囲も大いに和田良覚で遊びに走るのは当然。本誌や『紙プロ』といった心ある雑誌は、ことさら、和田最強伝説をあおりまくって本人を無闇に追い込み、選手側も金原を筆頭に髙阪、桜庭までもが「和田さんから一本取られた」と喜んで証言して、最強伝説をパンパンに膨らませる。そんな状況に「勘弁してくださ～い」と悲鳴を上げる和田さんを、みんなで楽しむ素敵な構図。

　主催者までもがUWFのテーマ曲を入場曲に使用して（この選曲のおかげで試合当日、せっかくリラックスしていたはずの和田さん

だったのに曲を聞いた途端、緊張

DEEP 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

# あれ？　練習どおりにはいかない!?
## 「思うように身体が動かなくて焦りましたよ。息が上がりましたね、やっぱり」（和田談）

▲勝ち名乗りを受ける和田の顔はさすがにお疲れのご様子

▶試合開始すぐにアステカを足払いで倒した和田はすかさずアームロックの体勢になるも、緊張からか身体が思うように動かない。この後、このアームロックは外されてしまうのだった

★第1試合（5分3R）
**○和田良覚（1R2分54秒、KO勝ち）アステカ●**
〈リングス・ジャパン〉　〈プロレスリング華☆激〉
※右ストレート

▲最後は両者とも死力を振り絞ってのパンチの打ち合い。和田のパンチが1発、2発と決まってアステカは崩れ落ちていった

◀これが一瞬で決めた足払い。日頃の練習の成果が出たわけだが、ここから先はどうにも身体が動かない

▲マウントパンチを連打する場面もあり、試合自体は完全に和田のペース。でも、やっぱり身体は思うように動かない

だったのに曲を聞いた途端、緊張感はいきなりMAX!）、和田良覚をたっぷり堪能したのだ。

友情とはこういうことを言うのである。

とはいえ、いざ試合となったら、何が起こるか分からない。対戦相手のアステカはインディー団体『華☆激』を率いてきた団体の長。今回、DEEPに上がったのも団体の若手の道作りのためという理由を持つ31歳だ。簡単には引き下がらないだろう。

それに練習と試合はまったく違うもの。緊張感で動けなくなる可能性だってなくはない。

楽観ムードはどこかあるものの、なにしろ選手としてリングに上がるのは初めての和田さんだから、試合前のドキドキ感はかなりのものであった。

実際、高山などは前日、佐世保でノアの興行があったにもかかわらず、朝7時の電車に乗って急きょ会場入りし、セコンドについているのだ。

どんな結果になるのか？　マスコミ、関係者もファンの気持ちに戻って試合のゴングを心待ちにしていたのである。

そして第1試合。Uのテーマ曲とともに和田良覚39歳が花道を歩いてくる。その後ろには金原、高阪、高山、滑川、横井、伊藤といった顔が続き、この豪華絢爛な絵に観客もすさまじいばかりの熱狂ぶりだ。ところが、そんな最中、和田さんはといえば「入場曲が鳴った瞬間に固くなってしまってぇ……」といった案配だったりしたのである。大丈夫か、和田！　だが、もう待ったなし。第1R

昨年8月18日のリベンジに挑んだ
村浜。K—1中量級大会での闘

# チビたちにも勝ったところを見せられて良かったぁ

# 仲間たちの喜ぶ顔が最高のご褒美だ

## 和田のコメント

「試合前は思ったより緊張しなかったんですが、入場曲がかかったら『あれ？』って。思うように身体が動かなくて焦りました。息が上がりましたね、やっぱり（笑）。まさかパンチで倒すとは思わなかったですね。今日のリングは別世界でした。なんか、なんか、今もなんか分からないような不思議な世界でした。プロの世界は厳しいなと痛感しました」

▲負けたアステカも試合後は笑顔で和田の勝利を讃え、これからもプロレスをやっていくと力強く言い切っていた

▶試合後、リング上に息子・武尊（たける）くんと桜庭和志の息子・大世くんを抱き上げる。勝利を応援してくれた人たち、全てに分け与えていく

▲金原のこの嬉しそうな顔。前田日明総裁に怒られた甲斐があったというものである

のゴングが鳴ると、和田さんはパンチ＆ローキックを繰り出し、突っ込んできたアステカを一瞬の足払いで倒す。そこからサイドを取ってアームロックを狙うも、これは逃げられてしまい、マウントからパンチを連打。だが、これも逃げられてスタンド状態に戻り、壮烈な打撃戦の末、和田さんはアステカをKOした。

　和田良覚39歳。周囲の人間（特に金原）の心憎い焚き付けによって初めてバーリ・トゥードのリングに立ったこの男は、見事周囲の期待に応えて勝利を手にしたのだ。そこにあったのは彼が歩んできた39年間の人生そのもの。

　和田さんの勝利を我がことのように喜ぶ、金原、高阪、高山たちの顔が、そのまま彼らとともに濃密な時間を過ごしてきた和田良覚のかけがえのない財産だろう。

　また、美人妻のかよこ夫人にしたって、腹の中では心底心配しながらも「腕の一本や二本折れても大丈夫だから好きなことして」と気丈に彼をサポート。

　リング内のことは年下の選手たちに支えてもらい、リング外では年下の妻に支えられながら、自分の夢を貫徹した39歳が和田良覚という男なのである。裏方である自分に十分満足しながらも、ほのかに抱いていた強さへの憧れを見事に形にした自称〝ツルピカハゲチャビン〟。

　そんな男が初めてバーリ・トゥードに挑むからこそ、ボクらはこの試合を愛でることができたのだと思う。〝初めてのおつかい〟感覚で。

　ビバ、いたいけな親父！（ブチ）

村浜は悪くない!!

DEEP 2001 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

# 村浜、ホーキにリベンジ失敗……、しかし村浜は悪くない！

## 悪いのはマッチメイク！この借りは「K—1VS猪木軍」で返せ！

昨年8月18日のリベンジに挑んだ村浜。K—1中量級大会での闘いっぷりに、リベンジへの期待感は高まっていたのだが、同じ技で返り討ちにあってしまった

▲同じ技で敗れてしまった村浜は、さすがにショックを隠せない。しかし、ＤＥＥＰの翌日から開催されている大阪プロレスのタッグリーグにはキチンと参加している。これぞ、プロレスラー魂！　相棒はオリエンタルだ！

▶返り討ちにしたホーキはご満悦の表情で引き上げる。コメントブースでは「ムラハマは前よりもレベルアップしていた」と語っていた。まったく余裕だ！

▶ホーキはマウント状態から技を仕掛けてきたが、これを村浜は体を回転させて逃げた。しかし、バックに回ったホーキはアッという間に腕十字に移行。またもやあっさりと、村浜からギブアップを奪って見せた

### 村浜のコメント

「なんにもないです。しゃべることないッスから。もう本当に見たまんまですよ。しゃべればしゃべるほど、バカっぽくなるだけですから。（もう一度やってみたい？）もう、いいッスね。何を言っても言い訳になるんで」

★第7試合（5分3R）
○ジョン・ホーキ（1R2分31秒、腕ひしぎ十字固め）村浜武洋●
〈ノヴァ・ウニオン〉　〈大阪プロレス〉

村浜は悪くない!!

ジョン・ホーキとのリベンジマッチに挑んだ村浜。対戦カード発表ではひと際声援が多かったのも最近の彼の活躍からすれば当然である。なんたってK—1中量級で魔裟斗と対戦し、敗れはしたものの熱い闘いで観客やテレビを見たファンにも感動を与えた、いま乗りに乗っているファイターである。プロレス、K—1、総合となんでもこなすマルチ選手こそ村浜なのだ。

しかし相手が良くない。まったくプロらしくない闘い方で攻める。おいおい、ここはプロのリングやぞ。ただ勝つだけならアマである。村浜の打撃をかいくぐって得意技で仕留めるのがホーキに与えられた使命なのに。

でも村浜が何もできないのも事実だった。まったく前回と同じである。せっかくK—1で売名できたのにこれでは振り出しに戻ってしまったではないか！　ということは、マッチメイクが悪いのだ。この大会でジョン・ホーキと再戦する必要性がないのだ。俺ならルチャVS日本の先鋒に使うね。村浜VSソラールだったらスイングした試合になったことだろう。もしくは今回出てないルチャ戦士なら、村浜の良さも引き出され凄い試合になったに違いない（キッパリ）。

だいたい村浜は休憩前に出てくる選手ではない。堂々メインを張らなければウソである。そう考えれば村浜の価値は実は下がってないのかも？　よし村浜よ、この借りは「K—1VS猪木軍」で返せ。俺様が自信を持って猪木さんに推薦するよ。

（島田裕二）

# リングスVSパンクラス対抗戦 日本VSルチャ軍団を喰えず……

## やっぱり滑川と渡辺じゃ無理だったか……

リングスVSパンクラスの因縁の対抗戦は、リングスの滑川が判定で勝利。しかし、闘った両者の世代が若すぎたのか、まったく殺伐としたものを感じさせない試合になってしまった

### 滑川のコメント

「やっぱり相手も同じ“U”の仲間で、同じ練習をしてきているなぁというのを感じましたね。敵対ムードとかなくちゃいけないんでしょうけど、パンクラスの方々はキレイでいい方だと。ファンの方がどう思おうと勝手なんですよ。ドロドロした見方とか、それはそれで楽しんでもらいたいんですよ。パンクラスに出たいです。リベンジはパンクラスのリングでもどこでも受けますよ」

## セコンド陣は豪華だったが……殺伐ムードまるでなし！

▶滑川のセコンドには金原とTKが付いた。入場の時には、この2人に高山、伊藤と、Uインターとリングス勢を引き連れ入場した

▶渡辺のセコンドに付いたのは美濃輪と石井。渡辺の入場は一人きりだった

▶試合が終了して、判定に入り、渡辺が勝利をアピールするとそれにつられるように、滑川も勝利をアピール

▲滑川は、再三、足関狙いにいったが極めきれず。ちなみに滑川は、試合開始早々、拳を痛めてしまった

◀1R、渡辺はスリーパーで滑川を追い詰める場面もあったが、試合は終始後手に回ってしまった

★第5試合（5分3R）
**○滑川康仁（3R判定2-0）渡辺大介●**
〈リングス・ジャパン〉　〈パンクラスism〉
※採点…30-29、30-30、30-29

今回のDEEPは12試合も組まれていたが、一番の目玉は何かと言ったら、当然日本VSルチャの5VS5対抗戦、そしてリングスの和田良覚レフェリーの選手デビューである。この2つの目玉は、狙いどおりに盛り上がった。その割を食ってしまったのが、因縁の対決と言われたリングスVSパンクラスの対抗戦、滑川VS渡辺だ。

カードが組まれた段階からして、「なんでこの2人の対戦がリングスVSパンクラスなの？」というような反応が圧倒的。しかも、観客が待ち望んでいた殺気ムード満点の試合ではなく、ファンは見事に期待を裏切られた。

しかし、お互いに遺恨がなく、年も若い滑川と渡辺には、殺伐とした試合などズバリ言って無理。会場に詰めかけたファンは肩透かしを食った印象を受けたかもしれないが、これが現実なのだ。もう、リングスVSパンクラスという遺恨タップリだったシチュエーションも、すっかり過去の遺物として風化してしまっていたのだ。

特にリングス軍団は、遺恨だとか言う前に、明日の食い扶持を確保しなければならない。〝リングス難民〟滑川が、試合開始早々に拳を痛めながらも、3R闘い抜いて勝利したのは、帰る家を失った者の必死さと、前田日明の求心力に引き付けられてきた、ファンたちの熱い声援の賜物だろう。

リングス軍団の結束力は、リングスファンの熱い声援を呼び起こし、実に心地好い空間を作ってくれた。これも前田の財産の一つ。滑川よ、今度は自分で、この空間を作り出してくれ！

（小松）

を作り出してくれ！　（小松）

DEEP 2001 4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

# グラバカ佐々木、世界への手応えを掴む！

## 田村に勝ったグスタボ・シムと立って互角、寝て互角の好勝負

ドローに終わり、なんとも言えない表情を浮かべた佐々木。だが世界のトップどころと闘っても通用するという手応えは掴めた

★第6試合（5分3R）
△グスタボ・シム（3R判定1-0、ドロー）佐々木有生△
〈ファスVTシステム〉　〈パンクラスGRABAKA〉
※採点…29-28、29-29、30-30

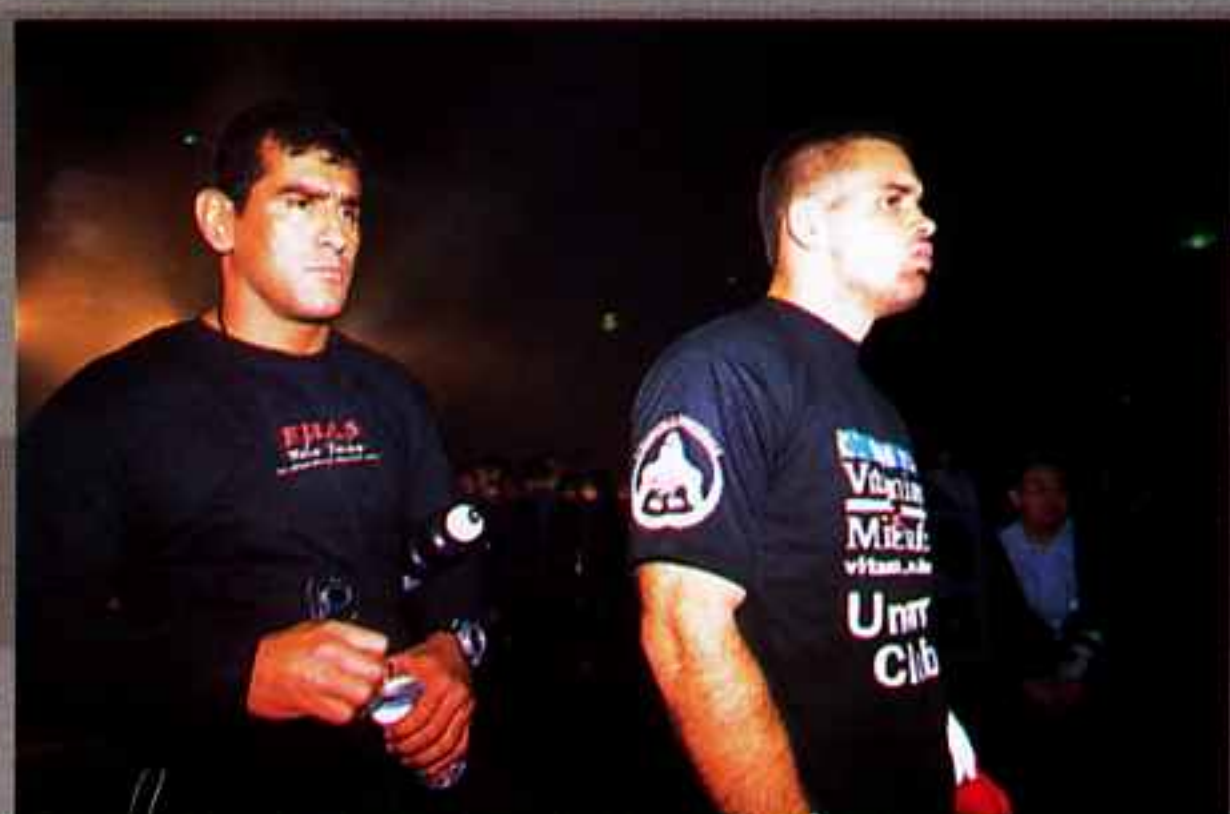
### 佐々木のコメント

「最後はストレートとハイキックで畳みかけられればいいなぁと思ってたんですけど。自分の中では、絶対ハイキックで倒れると思ってたんで。自分がどれだけできるか分からないし、強いファイターと闘えて、これからの糧になると思います。ただ一本勝ちか一本負けの分かりやすい試合を見せたかったんで、そこはちょっと」

### シムのコメント

「彼は素晴らしいファイターだけど、僕が勝ってたと思う。打撃では自分が上だし、テイクダウンも奪ったんだから。（作戦は？）常にKO勝ちを狙っていた。でもそのチャンスがなかったね。相手はアームロックや三角絞めが得意と聞いてたけど、打撃でもいいパンチが一発入ってしまった。次は『プライド』に出てみたいね」

▶2R、ローキックに合わせたタックルでテイクダウンし、パスガードにも成功した佐々木。このラウンドは確実に取っていた

▶シムのセコンドにはマルコ・ファスが。対する佐々木サイドには菊田、郷野がついていた

▲会場で観戦していた港太郎も「あれは凄い！メチャ強いですよ」と舌を巻いたシムの打撃。坂田亘を一撃でノックアウトしたこともある

▲もともと空手をやっていて、今はスネークピットで打撃を学ぶ佐々木。ミドルキックがいいタイミングで決まっていた

▲1R、それに試合終了間際には真正面からパンチの打ち合い。お互いKOを狙っていたのだという

この試合が佐々木有生にとって大事だったのは、相手がグスタボ・シムという強豪選手だったからというだけではない。それと同時に〝パンクラスファン以外の観客に試合を見せる〟ってことも重要だった。石井、渋谷、山宮と、パンクラス本隊の主力選手から連続して一本勝ちを収めている佐々木は、グラバカでも最も勢いを感じさせる。その実力をより多く、広く伝えることに意味があった。

坂田、田村、ヘイズマンに勝ったシムの実力は疑いようもないし、この日も十二分に伝わってきた。そのシムと、佐々木は中身の濃い攻防を繰り広げたのだ。1Rはガードポジションから揺さぶりをかけ、それでは動かないと見るや2Rにはテイクダウンから見事パスガードを決めて会場を沸かせる。

相手の土俵である打撃戦でも一歩も退かず、タイミングよくミドルをヒットさせ、得意の左ハイであわやというシーンもあった。最終Rはやや失速してしまったが、実に堂々とした闘いぶりだったのである。

以前から「世界のトップどころと闘っていきたい」と言っていた佐々木。このシム戦で、その手応えは充分に掴めたようだ。そしてそれは、この日の観客全員が認めると思う。今大会はルチャファン、リングスファン、プロレスファン、ただの興味本位と、実にいろんな観客層が入り交じっていたわけだが、彼らも一様に「グラバカの佐々木ってのはいい選手だな」と感じていた様子。そのことは佐々木にとって試合と同じくらい大きな収穫であるはずだ。（橋本）

# ランバー、日本人に初の敗北 今度の相手には遊びがなかった！

▼1R終盤、十字に捕えられたランバー。残り時間は1分近くあって、もはやこれまでというムードだったのだが、なんとラウンド終了まで耐え切った！

▲勝った砂辺は沖縄にあるパンクラスの公認ジム『武限』の選手。今後は軽量級の充実も図るパンクラスにとっては大きな戦力だろう

▲前回、総合プロデビュー戦で矢野卓見を破ったランバーだが、2戦目の今回は砂辺に判定負け。タックルをいなしてコケさせたり、足関節合戦を繰り広げたりと見せ場は作ったが……

▶テイクダウンして上からガッチリ抑え込み、時折バスター（持ち上げて叩き付ける攻撃）を出していた砂辺。これが判定の決め手になったか

★第3試合（5分3R）
**○砂辺光久（3R判定2-0）“ランバー”ソムデート吉沢●**
〈ハイブリッド・レスリング武限〉 〈M16ジム〉
※採点…29-29、30-29、30-28

「ランバーに勝った日本人って、僕が初めてじゃないですか？」（砂辺）

あ、そうだ。キック、総合を通じてランバーが日本人選手に負けるのはこれが初めてだった。山口元気、土屋ジョーら日本キック界のトップ選手、さらに総合ではヤノタクまで下したランバーに土をつけるのが、まさかほとんど無名の砂辺だとは……。組み付きにいって何度もすっ転がされながらも、上のポジションをキープし続けて判定勝ちを奪い取った砂辺。ランバーにしてみれば、その砂辺の必死さにやられた感じだ。前回、対戦したヤノタクは闘い方が超個性的、言い換えれば余裕というか遊び心があるタイプで、それがランバーの大胆なファイトスタイルとうまく噛み合っていた。だが砂辺はビッグネームを食ってやろうとスキを見せなかったのだ。それでも何度となく会場を沸かせる場面があったんだからさすがランバー。次回はいよいよ、ブラジルの柔術世界王者と対戦する。（橋本）

# 師匠・田村が見守る中、U-FILE軍団は2連勝！

◀今大会にはU－FILEからもう1人、佐々木恭介が参戦。大道塾の北斗旗体力別大会で準優勝したこともある土居龍晴にアームロックで完勝。「打撃が強いって聞いてビビッてたんですけど、寝技になったら自信はあったんで」と佐々木。嬉しい初勝利だ。ちなみにこの日、U－FILEの総大将・田村潔司は2階席から観戦。コメント、写真撮影などを一切拒否して弟子たちの試合を見守った

★第2試合（5分3R）
**○佐々木恭介（1R2分51秒、アームロック）土居龍晴●**
〈U-FILE CAMP〉 〈T3〉

★第4試合（5分3R）
**○長南亮（1R4分22秒、タップアウト）秋山賢治●**
〈U-FILE CAMP〉 〈禅道会〉
※グラウンドパンチ連打

▶禅道会の秋山賢治と対戦した長南亮。いきなり上に乗られてピンチを迎えたものの、下からのパンチを効かせ、秋山がニーオンザベリーを狙った瞬間にリバーサル成功。身動きの取れない秋山にしこたまパンチを叩き込んでタップを奪った。美濃輪を苦しめたこともある秋山に快勝した長南は、6月のディファ大会で行われるミドル級トーナメントに出陣予定

## フューチャーファイト結果

| | |
|---|---|
| ★5分2R | ●マリオ・セルジオ・横山（1R終了、TKO）木村仁要●<br>〈マリオ・セルジオ柔術アカデミー〉 〈誠ジム〉<br>※木村の負傷により |
| ★5分2R | ●岩間朝美（1R1分07秒、KO勝ち）江波圭一●<br>〈名古屋BJJクラブ〉 〈四王塾〉 |
| ★5分2R | ●永井智章（1R3分44秒、V1アームロック）倉橋達也●<br>〈直心会名古屋ファイトクラブ〉 〈T3〉 |
| ★5分2R | ▲浅野誉也（時間切れ引き分け）木村直生▲<br>〈The Body Box〉 〈EVOLUTION〉 |

次回は6・9ディファ有明大会で
…2キロ以下級

DEEP INTERNATIONAL 2001

4th IMPACT in Nagoya
3.30★愛知県体育館

# なぜだ？ DEEPに破壊王参上！

3試合目が終わった後、なんと破壊王・橋本真也が佐伯代表に花束を渡しに登場。なぜか「1、2、3、ダァーッ！」をやったため、観客は呆気にとられていた。また、鈴木みのるに「橋本さん、出るんですか？」と聞かれると、「営業だよ」と答えたという

今日はDEEP大会を応援に来ました。
不景気な世の中ですが、
日頃の憂さを晴らしてください。
それではいきますかーッ！
1、2、3、ダァーッ！
ありがとうございました。

▲会場には、メキシコでドスＪｒと一緒に特訓したことがある闘龍門ジャパンのＣＩＭＡ（右上）、修斗の佐藤ルミナ、そしてアレクサンダー大塚が来場。その他にも、田村潔司、Ｋ―１の武蔵、パンクラスに出場したばかりの港太郎の姿が目撃されている

▲物販コーナーも大にぎわい。ルチャ軍団Ｔシャツが飛ぶように売れていた

▲今回は新しく４人のラウンドガールが登場。試合前には会場で人気投票が行われていた

## ＤＥＥＰ情報

### 次回は6・9ディファ有明大会で82キロ以下級ワンデイトーナメント開催！

日本VSルチャ軍団を軸に、大盛況で終わったDEEP2001愛知県体育館大会。しかし、終わったばかりだというのに、すでに今年の大まかなスケジュールが決定している。まず、６月９日（日）に開催されるディファ有明大会では、『DEEPジャパン・ワンデイ・トーナメント』という82キロ以下の選手が参加するトーナメントが行われる。また、その他にもワンマッチとして昨年の12月大会で流れてしまったパンクラスの伊藤崇文対元バトラーツの日高郁人、さらにランバーが柔術の世界チャンピオン・アリソン・メロに挑む一戦も組まれている。そして、見事デビュー戦をKO勝ちで飾った和田良覚にも、選手もしくはレフェリーとして参加を要請しているとのこと。９月には首都圏で中規模以上の会場で興行を予定しているが、ここでは格闘技ファンが待ちに待った、ブラジリアン・トップチームとグラバカの３対３の対抗戦が組まれる予定だ。さらに、12月に首都圏で開催予定の興行にはムエタイ軍団が来襲。ラジャの元チャンピオンクラスも参戦させようとしているので、これからもまだまだDEEPからは目が離せない。

**DEEP9月大会で遂に実現か!? ブラジリアン・トップチーム VS GRABAKA**

DEEP9月大会出場予定選手

ジョン・ホーキ〈ブラジル／ノヴァ・ウニオン〉
ドスカラスJr〈メキシコ／AAA〉
村浜武洋〈大阪プロレス〉
“ランバー”ソムデート吉沢〈M16ジム〉

**ルールはヒジ有り!? DEEP12月大会にムエタイ軍団来襲！ ラジャの元チャンピオンクラスも参戦か？**

DEEP12月大会出場予定選手

ムエタイ軍団〈タイ〉

**DEEPジャパン ワンデイトーナメント 出場予定選手**

上山龍紀〈U-FILE CAMP〉
長南亮〈U-FILE CAMP〉
窪田幸生〈パンクラスism〉
石川英司〈パンクラス・グラバカ〉
星野勇二〈RJW〉

**決定カード**

伊藤崇文VS日高郁人
〈パンクラスism〉〈フリー〉

“ランバー”ソムデート吉沢VSアリソン・メロ
〈M16ジム〉〈ブラジル／ノヴァ・ウニオン〉

島田は見た！　～DEEP編～

# 宇宙人でも参加可能なDEEP！ ここにこそ、〝四角いジャングル〟がある！

文◎島田裕二

元気ですか？　私は元気です。今回名古屋で行われたDEEP名古屋を観戦しました。この大会の私の感想をお伝えしましょう。

## ☆和田レフェリー最強!!☆

我らが番長、全レフェリーの期待の星。和田さんがなんとVTデビュー。「オイ！ホントかよ」と突っ込み入れたくなるくらいの出来事だ。

この試合に向けて練習している和田さんを激励に世界のTK道場に出向かう。マジで動きも良いし、いけるかも、相手のアステカも初のVTだし。この試合を組んだ佐伯さんは凄い!!　ある意味これ以上の隠し球はないでしょう。さすがDEEP！　いつもマッチメイクには驚かされる！　試合は和田さんの完全勝利！見事なまでの打撃でのKOであった。

あっぱれ和田！

よし俺様もやるぞ！　新日本の5・2東京ドームでデビューだ。島田、野口（『プライド』）VS田山、海野（新日本）でどうだ。レフェリーは和田さんだ。それに向けて練習するぞBCGで。

## ☆横井は怪物！☆

リングスが活動停止になり闘う場所をなくしたリングス・ジャパンの面々。俺様のグッドフレンド、世界のTKこと高阪は5月に行われるUFCに参加する予定だが、それ以外の選手は路頭に迷っているだろう。しかし佐伯マジックで和田

さんと滑川、横井がDEEPに電撃参戦！

滑川は、リングスVSパンクラスの対抗戦に出撃で、パンクラスの渡辺と対戦。両者決め手に欠くが、なんとか滑川が判定勝利。やはり団体の意地と日本人対決ということで負けない闘い方に見えた。もう少し攻め手を増やさないとなぁ。客もいるんだからガンガン行かなきゃ。結果だけ見れば、家を追いやられた者の強みで滑川が勝ったけどね。

というわけでリングス勢のトリに出て来たのはデビューして半年の横井である。風貌といい、闘い方といい、なかなかトンパチな発言といい、俺様一押しの選手である。彼は現在、志に共鳴している高阪に同調し、高阪のチームに参加している。あのゴリラ男の高阪も横井の隣にいるとハンサムマンに見えてくるのだから、横井という男がどんな奴か想像できるだろう。まさにジャングルから抜け出た新タイプのゴリラーマンなのである。

柔道をバックグラウンドに持つゴリラーマンこと横井は、この大会でルチャVS日本の先鋒を任された。対戦相手のメモ・ディアスはなんと2度の五輪参戦の経験を持つレスリングの選手。どこがルチャ・リブレやねん、と思うなかれ。メキシコ育ちということは、ルチャ魂を生まれながらに持っているということだ（キッパリ）。リングスVSルチャなんてメチャメチャ楽しいではないか。

いざ試合が始まると横井の打撃が序盤は冴える。しかしメモ・ディアスはめっちゃ打たれ強い。殴られても殴られてもタップしない彼のハートにルチャ魂を見た。結局、横井の判定勝ちだが、怪物もルチャの打たれ強さに驚いたことだろう。う～ん、横井の一本勝ちを期待しただけに残念。でも何ごとも順調にいくより、いろいろあったほうがいいのだ。よし打ち上げなんか出ないで、今すぐTKと練習しろ。そしてボブ・サップとの日米ゴリラ対決実現に向けて精進するのだ。頑張れ横井！

でもこの日のリングス勢はみんな勝って良かったね。これも和田効果かな!?

## ☆ソラール!?☆

レフェリーの立場から言えば、彼は何しにこの大会に出てきたのか？　反則して平気な顔して（マスク越しでも微笑む顔が見えた）マジで許せない。試合前は、和田さんの試合と鈴木さんの試合を期待していたのに。

あんな奴、二度と許さん！

と思いきや会場はなぜかソラールコールやビバ・メヒコール。それまでの試合が判定でだらけていただけに、ソラールの試合で空気は変わり観客も大喜び。なるほど、もしかしたらこのじめじめした空気を読み取ったソラールが、プロレスラーの威信を見せるため、あえて反則を犯したのか？　そう考えたらソラールは二度とこのリングに帰れないのを覚悟でプロレス魂を見せたのかも？　恐るべしルチャ戦士。伊達に初代タイガーマスクと抗争していたわけではない。

なるほどこの反則負けでメインの謙吾VSドス・カラスJrの対決が、ガ然楽しみになったのは言うまでもない。親分が恥をかかされた謙吾の復讐心はますます強まったことだろう。レフェリーから見れば大悪党だが、観客から見ればこの日のMVPはソラールだ。

しかし、これで終わるパンクラスではあるまい。リング上で大乱闘を起こし、ルチャ戦士に熱く突っかかる伊藤や美濃輪を見て、彼らのプロレスラーの意地も伺えた。やれやれ、とことんやれや！　できればマイクで美濃輪に「今から俺がやってやる、かかってこい！」ぐらい言ってほしかったなぁ。ソラールを追放するんじゃなく、鈴木さんとの再戦か、VS美濃輪が見たい！　できれば世界初のVTでの『マスカラコントラカベジェラ』（負けたほうがマスクか髪の毛を切る試合）をやってほしい。DEEPの佐伯さんならやるだろう！　う～ん、ぜひ見に行きたい。でもレフェリーの立場ならやらせれないけどね。佐伯さん大英断、期待してます。

# ソラールは二度とリングに帰れないのを覚悟で プロレスラー魂を見せたのか？

## ☆ドス・カラス最高！☆

初のVTでルチャの奥義チリマで謙吾を完全KOしたドス・カラスJr。謙吾にとっては、半年ぶりのリベンジマッチだ。前回ただのマスクマンだと舐めていた謙吾。そうドス・カラスJrはただのマスクマンではないのだ。偉大な叔父ミル・マスカラスと偉大な父ドス・カラスの血を引いた男なのだ。血筋は最高である。前回のJrの勝利を自分のこと以上に喜んだのはほかでもない、ドス・カラスである。日本で数々の偉業を残したマスカラス兄弟。俺様も入場曲『スカイ・ハイ』を聞くだけで鳥肌が立ったものだ。

この日もそうだった。ドス・カラスJrは『スカイハイ』での入場、セコンドはもちろんドス・カラスである。去年バトルのNK大会に参戦してもらったドスJrはますます自信をつけているようだ。この時一緒だったバス・ルッテンも彼の実力を見抜き、一緒に練習すれば、すぐVTの世界で一番になれると断言していた。試合は残念ながら逆転負けしてしまったが、その底力は目を見張るべきものがある。負けてドス・カラスJrには得たものが多かったのでは！

個人的にはルチャでもナンバー1に、VTでもナンバー1に、そして最終的にはWWFでレジェンドをドス・カラスJrには築いてほしいものだ。偉大な叔父もMSGで伝説を作ったもの。ドス・カラスJrよ、伝説を継承するのだ。もちろんいつでもセコンドはドス・カラスだ!!　ステージパパになれッ！

というわけで今回のDEEPは話題盛りだくさんであった。このままオリジナル路線を突き進んでほしい。ある意味夢のマッチメイクが見れるのはDEEPかも？　例えば、モンゴル相撲VSルチャとかムエタイVSカポエラ、ジークンドーVS柔道、テコンドーVSサンボなど、ありとあらゆる競技の異種格闘技の試合が見れそうだ。ワクワクするぜ！

ホントに『プライド』とは別の路線を走るDEEP。このまま格闘技界のなんでも有りに突き進んでほしい。今回出た和田さんみたいな掘り出しファイターがいるはずである。そういう意味でも、DEEPの役割は大きいのである。未知なる強豪、見知らぬ格闘技探求と、DEEPは世界的にも類のない大会である。だから〝ビバ！　佐伯〟なのである。今回の大会を見て、本当に強く感じた。実はここに四角いジャングルがあるのだと。DEEPなら宇宙人でも参加可能だぜ!!

最後に、久々に橋本真也と再会。こんな所で会ってしまうなんて、さすがは破壊王だぜッ！　■

総評

# 佐伯社長よ、迷わず進めよ、DEEPは格闘技版FMW!

文◎谷川貞治

名古屋は私が高校時代まで過ごした故郷である。DEEPが行われた愛知県体育館は自宅から歩いてわずか5分のところ。そのため、よく新日本プロレスの興行があると、自転車に乗って会場を訪れ、ちょうどメインイベントが始まるくらいの時間に、受付に誰もいなくなるのを見計らって、タダ見をしていた(正直、スマン!)。

愛知県体育館では当時、シリーズ最終戦の首都圏興行を直前に控えた、重要なポイントとなる大会を行っていた。猪木がアンドレ・ザ・ジャイアントを初めてボディスラムした瞬間も、ハルク・ホーガンとの初対決も、私はこの愛知県体育館で見ている。そういう貴重な試合が私の青春の思い出なのだ(そういえば、私が初めて猪木と握手したのも、この愛知県体育館で行われた、アントン・マテ茶発売記念サイン会だった)。

愛知県体育館の食堂でバイトしたこともある。これも好きな猪木の試合や大相撲をタダで見るためだった。その食堂は20年経った今でも、ほとんど内装も変わらず健在だった。私はそこでカメラマンの原悦生さんと待ち合わせし、インタビューすることになっていた。当時、一緒にバイトをやっていた友人が、その後食堂の店長になったという噂を聞いたが、やはりもういなかったのはちょっと残念だった。

愛知県体育館は名古屋城のお堀の内にあり、この日、桜は満開。このあたりは本当に庭みたいなもので、この桜の季節になるといつかここでデートしてやろうと思っていたが、いまだに実現していない。だから、ホントこのタイミングで愛知県体育館に来られたことをDEEPの佐伯社長に感謝したい。

この愛知県体育館で産声を挙げたDEEPも、今回で4回目。村浜VSホイラー戦から始まったDEEPは、第2回大会でドス・カラスJrを投入したあたりから、イベントのカラーが見えてきた。

それは『プライド』が世界に誇るメジャーリーグとしたら、DEEPは総合格闘技のインディー団体という方向性だ。前田日明のUWFが社会的なムーブメントになっていた時代、自然発生的に、その対極にあたる大仁田厚のFMWが誕生したように、『プライド』の裏としてDEEPは出てきたと、私は見ている。

また、DEEP自体、その認識があればあるほど存在価値は高まるだろう。『プライド』を目指す必要はないし、修斗やパンクラスを目指す必要もない。DEEPは裏『プライド』であり続けることにこそ、生き残る道はあるのだ。

そういうことを期待しながら、私は一度DEEPを生で見てやろうという気持ちで名古屋に帰って来た。会場に入って驚いたのは、名古屋にもかかわらず、多くの選手・関係者が来ていたことだ。橋本真也に、田村潔司、高山善廣、金原弘光、髙阪剛、アレクサンダー大塚、そしてなぜか武蔵の顔まで見かけた。もちろん、同じジムの選手を派遣しているのが理由の人もいるが、それでも顔ぶれを見ていると、みんな何かを感じて来ているのだろう。これだけの選手が集まるところに、DEEPの期待感は表れてると言っていい。

それにしても、もったいないところも多い。まず、今回のマッチメイクを見る限り、明らかにこれは東京でやるべき興行である。個人的には名古屋でやってくれるのは嬉しいが、名古屋出身の私から見ても、これはちょっとマニアックすぎるぜ。たぶん、横浜文体や代々木第2あたりでやっていたら、まったく別のイベントに見えたに違いない。

それに、余分な試合が正直多すぎた。今回のDEEPは、なんと12試合もカードが組まれていたが、これは佐伯社長がたぶん人が良すぎて、断りきれなかったんじゃないかということが見えてくるカード編成だ。

興行は決して選手の側に立ってやるべきものじゃない。佐伯社長はもともとファンの人である。そのファンの人が興行に踏み切ったわけだから、自分の持っているファンとしての感性で徹底的に勝負すればいいのだ。そうしないと「DEEPって何をやりたいの?」と、言われかねないことになる。

その佐伯社長の抜群の感性で、今回誰からも感心されたのが、元リングスのレフェリー和田良覚を担ぎ出したことである。これは、正直やられたと思った。ドス・カラスJrやソラールも面白かったが、まさか和田良覚に目を付けるとは。これぞ、まさに最終兵器と呼べるウルトラCだった。

ただ、おしいと言えば、対戦相手のアステカっていう人がもうちょっとなんとかならなかったのかということ。まあ、和田良覚のデビュー戦勝利で満足していた人がほとんどだったので、そこまで言うことはないのかもしれないが、私的にはもう少し和田良覚の良さを引き出す相手がいたんじゃないかと思う。

DEEPが裏『プライド』の総合格闘技版FMWとしたら、今回の大会で軸となったのは、和田良覚とメキシコ・ルチャ・リブレ軍団である。佐伯社長としては、まずこの2つの軸をどう生かすかが腕の見せどころだった。

しかし、もったいないと言えば、「日本VSルチャ」の5対5マッチの陣容もやや気になった。謙吾VSドス・カラスJrのリベンジ戦、鈴木みのるVSソラールのマッチメイクは最高。この2試合は内容的にも十分楽しめたし、ここにDEEP生き

残りのヒントは隠されていると感じた。

今はプロレスよりバーリ・トゥードのほうが面白いと言われているが、正直純バーリ・トゥードが興行的に成り立つかどうかはいまだ疑問。なぜ「プライド」があそこまでブレイクしたかというと、ガチガチの純バーリ・トゥードと思われてしまうような格闘技っぽい試合を作らないよう、必死にもがいているからだ。

「プライド」は、グレイシーも、世界一流のバーリ・トゥーダーも、新種のプロレスラーに仕立て上げている。だから、「プライド」に新プロレスや昔の猪木イズムをファンは見たりしているのだ。その反対に、「プライド」でもガチガチのバーリ・トゥード戦は、今でもファンをシーンとさせている。

もちろん、和田良覚やルチャ・リブレの選手にバーリ・トゥードをやらせるDEEPも、新種のプロレスと言える。だから、アマチュアに近い格闘家同士の試合に比べて、彼らの試合はいっぺんに客を温めることができる。もちろん、それはインディー的世界だが、私がDEEPに関心があるのは、その一点のみと言っても過言ではない。

そういう意味で言えば、「日本VSルチャ5対5マッチ」に若手の横井宏考を入れるのはアリだが、坂田亘でギリギリ。でも近藤有己がそこに入るのはいかがなものかと思ってしまう。

近藤はかつてはヒクソンの挑戦者の候補に名を連ねており、UFCではティト・オーティズと対戦。「プライド」に上がって、世界の強豪と闘うことを最も期待されているパンクラス選手である。その近藤VSルチャの試合では、近藤の良さも出ないし、ルチャは死んでしまう。実際、近藤はあまりにも大人げなく、ルチャを秒殺してしまった。

私だったら、日本チームの近藤と坂田の代わりに、村浜とランバーを入れていただろう。あるいは、村浜と和田良覚とか。せっかく、ホイラー戦で株を上げ、K―1中量級GPで魔裟斗と好試合をやって、今やこの日のDEEPの中でも一番の知名度になっているのが村浜。その村浜がジョン・ホーキなんて選手と闘うなんてなんの意味もない。それだったら、ルチャとやってたほうが、魔裟斗VS村浜のように、お互いを光らせることができただろう。

ルチャ、和田良覚、村浜武洋……こういった選手を殺さず、光らせることこそ佐伯社長の今後のテーマである。そして、それでこそ〝ファン〟佐伯社長の世界が爆発し、DEEPはその存在価値を高めていくことになる。

そして最後は、佐伯社長自らがDEEPに出ることを切に願う！■

破壊王から嬉しそうに花束を受け取る佐伯社長（右）の顔は、まさにファンの顔だ！

――シムさん、昨日の試合はドローでし

ちしたよ。55秒ぐらいだったかな。

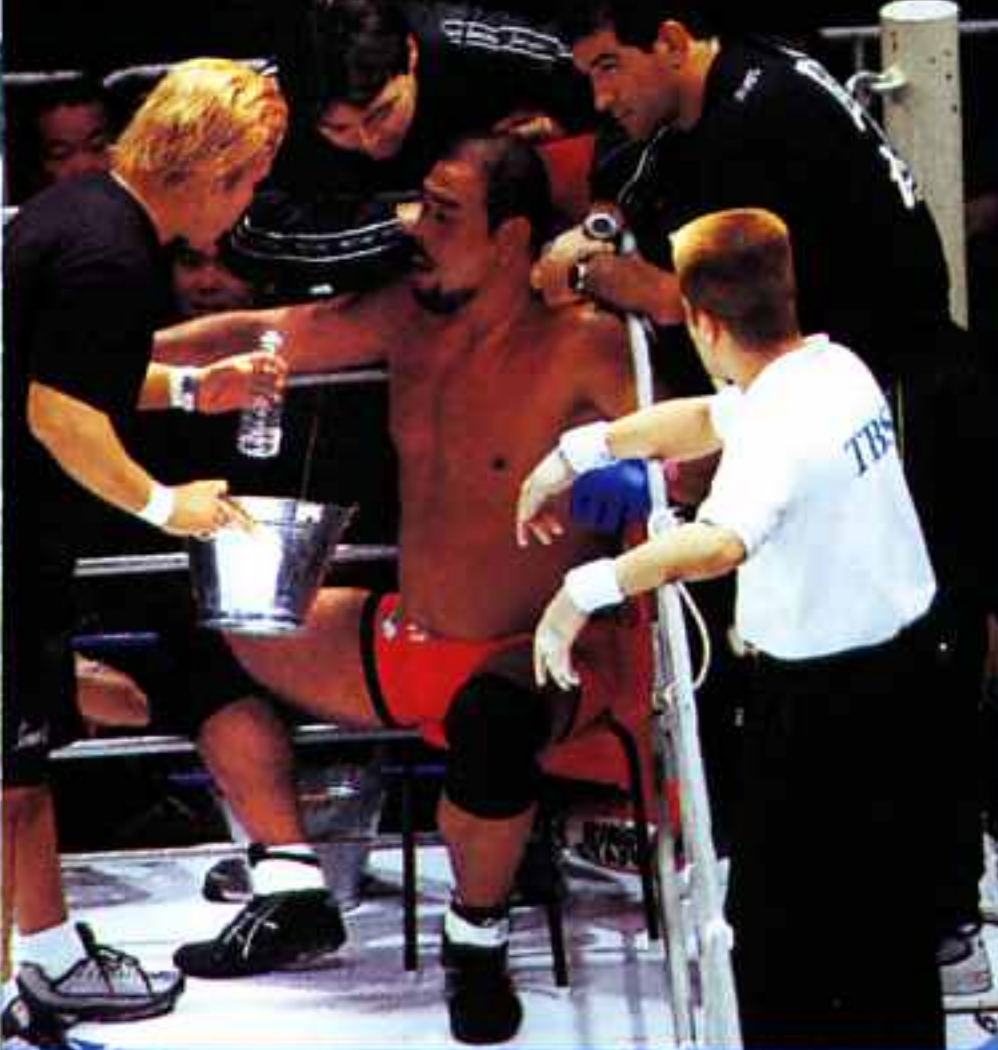
なり冷静だったしね。

習してきて良かったと言ってくれたんだ。

“安田忠夫の親方”マルコ・ファスに聞く
PRIDE VSK―1

# 「アンディ・フグと闘いたかったな!!」

**DEEP2001に出場したグスタボ・シムのセコンドとして来日したマルコ・ファス。かつてはヒクソン・グレイシーが対戦を避けているとまで言われた男だが、最近は『イノキ・ボンバイエ』に出場した安田忠夫や永田裕志のコーチというイメージが強い。そこで、せっかく来日したので、昨年の猪木軍のマルコ道場での生活模様や、『プライド』VSK―1について、弟子のシムともども聞いてみた。**

聞き手◎小松伸太郎

――シムさん、昨日の試合はドローでしたけど、いかがでしたか？

**シム** 僕が勝ったと思うよ。僕は1Rと3Rは取ったと思っているんだ。

――マルコさん、シムさんの昨日の闘いぶりはいかがでしたか？

**ファス** 凄くいい試合だったし、相手も素晴らしいファイターだったけど、グスタボが勝ったと思うね。

――シムさんは格闘技はいつ頃始められたんですか？

**シム** 15か16歳頃だね。ムエタイから始めたよ。それで93年から、マルコの所にいるんだ。

――シムさんから見てマルコさんはどんな方ですか？

**シム** 素晴らしい人だし、いい見本なんで、マルコのような素晴らしいチャンピオンになりたいんだ。常に彼を見て練習しているよ。

――マルコさんにお聞きしたいんですけど、最近の主な活動はどうですか？

**ファス** 5カ月前に試合はしたよ。ただ、アメリカに弟子たちがいて、面倒を見たり、世話をしているし、セミナーもあるのでそんなに試合には出てないよ。でも、また日本で試合をしたいと思って、交渉してもらっているよ。

――その試合はどうでしたか？

**ファス** カリフォルニアのカジノでイベントをやったんだけど、足関節で一本勝ちしたよ。55秒ぐらいだったかな。

――相手の名前は分かります？

**ファス** ジェイソン・ランバート。レスリングをやっていて、体重が110キロぐらいある選手だ。23歳で、『KOTC』のチャンピオンだよ。バーリ・トゥードは7戦全勝しているよ。

――最近、日本からマルコさんの道場に練習に行くことが多いんですけど、印象に残っている選手はいますか？

**ファス** ヤスダとナガタかな。ヤスダはフィジカル面ではそんなに優れていないけど、練習熱心だったね。その成果でこの前のイベントで結果を残せたと思うよ。

――永田選手はどうでした？

**ファス** ナガタは素晴らしい才能の持ち主だけど、残念ながら彼とは一緒に練習する時間が短かった。ヤスダは1カ月間練習してて、ナガタは9日間だけだったからね。レスリングは凄い上手だったけどね。

――安田さんは練習熱心だったということなんですけど、精神的にも強かったんですか？

**ファス** 凄く強かったね。

――日本ではナマクラというか、あまり練習熱心ではないということで有名な方だったんですけど（笑）。

**ファス** 最初に来た時は、凄い面倒くさがり屋だったね（笑）。でも、僕の所に来てからは、1日2回練習していたよ。フィジカル面とテクニックのね。

――安田さんが精神的に強いというのは、どんなところで感じましたか？

**ファス** う～ん、練習熱心だし、常に自信を持ってやっていたよ。例えば、テクニックを完璧にマスターしなくても、自信だけは持っていたね。ナガタは試合前はかなり緊張していたけど、ヤスダはかなり冷静だったしね。

## ヤスダはテクニックを完璧にマスターしなくても、自信を持ってやっていたよ（ファス）

――自信があるというのは、何も考えてないということですか？（笑）

**ファス** ワッハハハ。彼には自分を信じることが大切って、常に教えていたんだ。「自分を信じているか？」って聞いたら、常に「イエス！」って答えていたよ。英語でしゃべれるのは「イエス！」しかなかったんだけどね（笑）。

――ワッハハハ。安田さんはかなり英語をしゃべれるようにはなったんですか？

**ファス** 「イエス」と「サンキュー」ぐらいかな（笑）。励ますと、大きな声で「イエス、イエス！」と答えていたよ。

――聞いた話で、マルコさんが安田さんの宿泊している所から自転車で来させて、タバコは禁止させていたらしいですね。

**ファス** ホテルから、道場まで5、6キロ離れていたから、自転車で来いと言ったんだ。いい練習になるだろう？ それとタバコはやめろとも言ったよ。そういえば、イノキさんのイベントの後に「タバコを1本吸いたい」と僕に許可を取ってから、1本吸っていたよ（笑）。だけど、タバコの量は減ったよ。空いている時間に水泳とかやらせたりしたからね。

――安田さんは『イノキ・ボンバイエ』のあと、プロレスでチャンピオンになりましたけど、知っていますか？

**ファス** 昨日雑誌で見たよ、ベルトを巻いている姿をね。凄く嬉しいね。

――『イノキ・ボンバイエ』の後に、マルコさんの所に、挨拶には来られたんですか？

**ファス** イノキさんのイベントのあとにアメリカにお土産を持って来てくれてね、凄く感謝しているようなことを言われたよ。アメリカという違う国に来て、大変だったと思うけど、今まで、僕の所で練習してきて良かったと言ってくれたんだ。

――どんなお土産だったんですか？

**ファス** スモウレスラーの置物だよ。自分のリングに飾ってあるよ。

――やっぱり相撲なんだ（笑）。安田さんは、日本でギャンブルに狂って、凄い借金を背負っていたんですけど、そのことについてはどう思います？

**ファス** 彼は今まで外れた道にいたけど、今は借金も返しているし、娘とも仲良くなったと思うし、いい方向に行っているよ。

――安田さんは向こうではギャンブルはしなかったんですか？

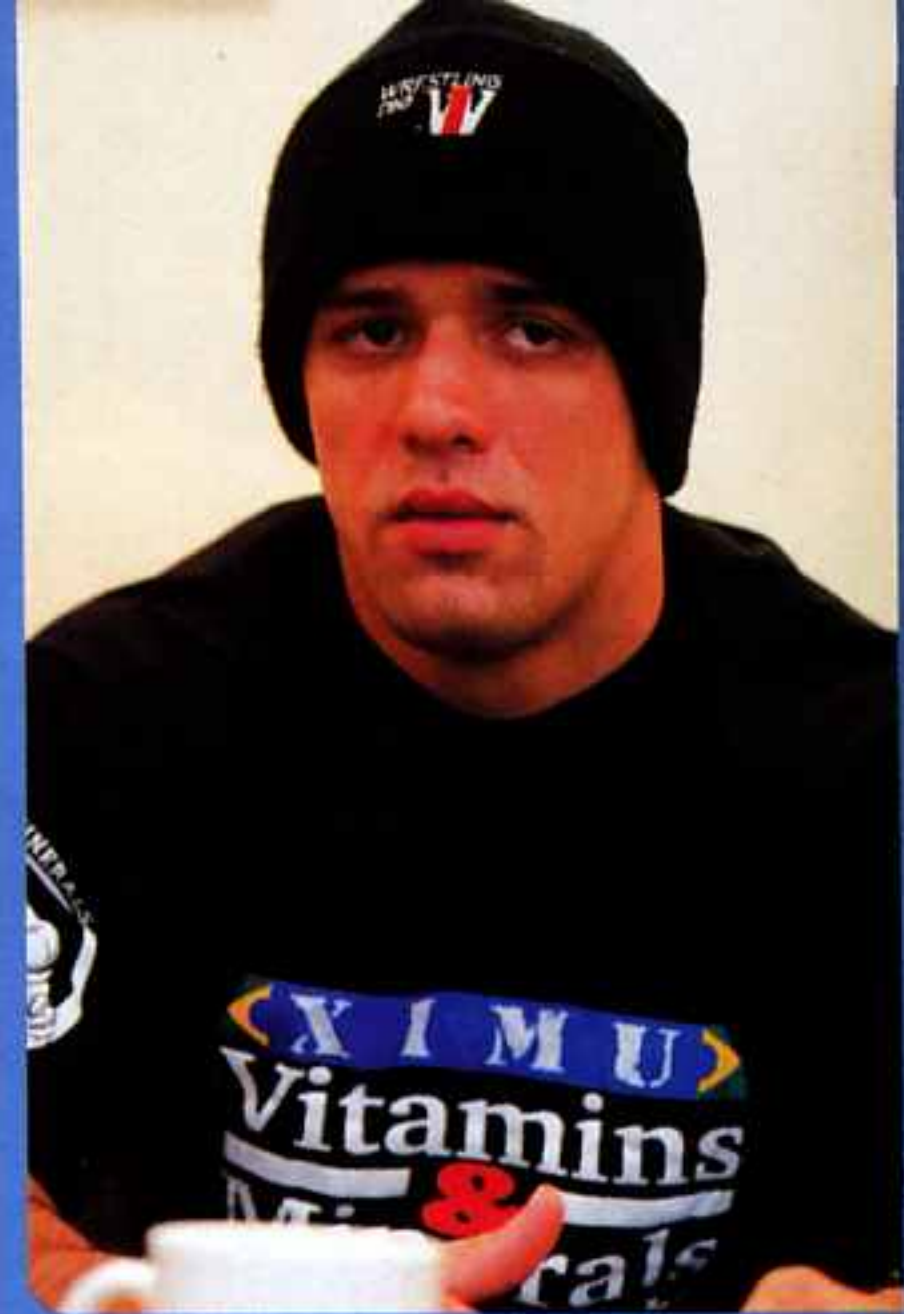
**ファス** ノー！（笑）。1日中トレーニングをして疲れていたから、直接ホテルに帰って行ったよ（笑）。

――マルコさんはギャンブルに狂った経験はないんですか？

**ファス** ギャンブルは好きじゃないよ。そんなことになったら、ワイフに殺されるかもしれないよ（笑）。

――奥さん恐そうですね（笑）。それで、その安田さんが大活躍した「猪木軍VS K―1」なんですけれども、マルコさんはどんな印象を持たれたんですか？

**ファス** 猪木軍が勝つ可能性が高かったと思っていたよ。やっぱり、寝技があるし、K―1は打撃しかやっていないしね。みんなはバンナがヤスダに絶対に勝つと思っていたみたいだけど、僕はずっとヤスダが勝つと信じていたよ。

▲ファスは『イノキ・ボンバイエ』で安田のセコンドを務めた。テレビでは、安田が勝利後控室に戻ってくる時に、ファスに泣きながら抱きつくシーンが放映されたこともあった

――僕も安田さんが勝てると確信したのはカードが組まれた瞬間でしたよ。ところで、K―1ファイターが、バーリ・トゥードをやるということに関してはいかがですか？

**ファス**　いい結果を出すには、長い時間が必要だね。寝技を経験していないし、それなりのトレーニングをしなければダメだね。

――まあ、とはいえ、ミルコ・クロコップという選手が短期間で結果を出し続けていますよね？

**ファス**　今までは打撃で試合が終わっているけど、寝技にいったら苦労すると思うよ。

――そのミルコ選手が『プライド』でヴァンダレイ・シウバと試合をすることになったんですけど、それについてはどう思います？

**ファス**　ヴァンダレイは危険な目に遭いそうだな。寝技にいけば、勝つ可能性はかなり高いけど、打撃でいけばかなり危険だよ。

――今、『プライド』とK―1が対抗戦という状況になっていて、『プライド』に出ている選手でも、打撃のできる選手がK―1に上がるという状況になっているんですよ。マルコさんのお弟子さんでも、シムさんのような打撃の優れた選手はいると思うんですが、こういう選手がK―1に上がるというのはいかがですか？

**ファス**　グスタボみたいに10年ぐらいムエタイをやっている選手ならいいけど、2、3年しかやっていない選手では危険だね。もちろん、勝つことはできるよ。ただそのためには、トレーニングの方法を変えないといけないね。K―1で勝つためにはムエタイのトレーニングに専念しないと。

――なるほど。じゃあ、シムさんにお聞きしたいんですけど、K―1に関してはどんな印象を持たれていますか？

**シム**　素晴らしいイベントだと思っているよ。K―1に出ることは一つの夢なんだ。いつでも闘う準備はできているよ。

――どうですか、闘ってみたい選手とかいますか？

**シム**　僕は相手を選ばない。ただ、自分と同じ階級ならばという話だけどね。僕の最終的な目標は、常にトップのイベントに参加することなんだ。だからK―1や『プライド』で、自分の力とマルコから教わったレベルやファイトスタイルを世界中の人たちに見てもらいたいね。

――マルコさんから見て、K―1の選手でバーリ・トゥードをやったら強いと思う選手と、『プライド』とかのバーリ・トゥードの選手でK―1に出ても強いと思う選手を1人ずつ挙げてくれませんか？

**ファス**　『プライド』に出るならミルコ。K―1に出るならペドロ・ヒーゾだな。

――まったく打撃ルールをやったことのない選手で、K―1に上がっても通用する選手は誰ですか？

**ファス**　ミノタウロだな。

――ああ、ノゲイラ選手は、自分でもK―1に上がりたいと言っているんですけど、十分に通用すると。

**ファス**　ミノタウロは打撃に関してかなり上達してきたよ。ただし、練習方法を変えないとね。打撃の練習に専念しないと。今、彼はムエタイの練習を随分増やしているよ。

## K―1に出るのは夢だったんだ。闘う準備はできている！（シム）

――トップチームの人たちと一緒に練習されているんですか？

**ファス**　ミノタウロはババルと一緒に練習しているんだ。

――ノゲイラ選手の打撃のどこが凄いんですか？

**ファス**　テクニックはもちろんあるし、一番は精神面だね。常に冷静に闘っているし、焦らずに自分をコントロールして闘っている。そこが一番強いね。

――『プライド』に上がっているセーム・シュルトという選手が今度K―1に出るんですけど、それに関してはどう思われますか？

**ファス**　彼は元々打撃の選手で空手とかやっていたから、かなり成功できると思うよ。バーリ・トゥードよりもK―1のほうが成功するんじゃないか？

――シュルト選手の相手は武蔵という日本人なんですけども、知っていますか？

**ファス**　知っているよ。

――結果はどうなると思いますか？

**ファス**　絶対シュルトがKO勝ちするね。

――マルコさんが何年か前にK―1で挨拶した時は、あれは試合をやろうということだったんですか？

**ファス**　最初は試合をやろうと思っていたけど、あの時はケガもあったんだ。テイクダウン取っただけで、ヒザが外れることがあったからね。今はもう手術したんで大丈夫だけど。

――あの時のK―1だったら、誰と試合をしたかったですか？

**ファス**　アンディ・フグだね。彼はK―1の歴史に永遠に残る、偉大な選手だよ。

――今のK―1にアンディ・フグがいたとして、バーリ・トゥードをやったらどうだったと思いますか？

**ファス**　成功する可能性はかなり高いと思うよ。精神的に強いし、K―1でもずっと負けてきてからチャンピオンになったからね。

――今のK―1で闘ってみたい選手はいますか？

**ファス**　最近、K―1を見ていないから、印象に残っていないんだよ。

――そうですか。例えば、ミルコ選手がバーリ・トゥードのルールでやろうと言ったら、どうですか？

**ファス**　まったく問題ないよ。

――マルコさんは様々なプロレスラーを見てきたと思いますけど、K―1の選手とプロレスラーで、どちらがバーリ・トゥードに対応しやすいと思いますか？

**ファス**　プロレスラーだね。彼らは寝技も、打撃も全部やっているしね。

――以前、高田さんと一緒に桜庭さんもマルコさんの所にトレーニングしに行っていたと思うんですけど、桜庭さんがミルコ選手とやったら、どちらが勝つと思いますか？

**ファス**　サクラバだね。彼は頭のいい選手だから、寝技に絶対に持ち込めると思うし、このところシウバに連敗しているけど、彼がトップのファイターであることには変わりはないよ。

――桜庭さんへの評価は高いんですね。じゃあ、最後にお聞きしたいんですけど、昨日、会場にアレクサンダー大塚さんがいたんですけども、まだリベンジを狙っているんですか？

**ファス**　もちろん、闘いたい！　雑誌のインタビューでも何遍も言っているけど、今でもリベンジしたいと思っているよ。

――んあ〜、意外にしつこい人だなぁ。■

仰天！ユセフ・トルコが遺言状を書いた!?

# 猪木よ！スポーツ界の天皇になれ！

3月14日、力道山とともに日本プロレスを創立し、長く日本のプロレス界で活躍してきたユセフ・トルコの著書、「プロレスへの遺言状」が発売された。この本は、プロレス界の歴史、特にトルコ本人が深く関わってきた力道山時代のことが詳しく書かれ、その時々の事件に立ち会った人々との対談も収録。特に、めったにマスコミに出ない、力道山未亡人・田中敬子さんや猪木の弟・啓介氏、日本プロレスの経理部長だった三澤正和氏などが登場していることが目玉の一つだ。トルコにはこの本の内容を聞くとともに、昨年出版され大きな話題を呼んだ、ミスター高橋の「流血の魔術　最強の演技」についても聞いてみた。

撮影◎中島ミノル
聞き手◎小松伸太郎

▶グレート・アントニオの店内に飾られてある力道山の写真の前で。この「プロレスへの遺言状」の目玉の一つは、力道山未亡人・田中敬子さんとの対談

――トルコさん、お元気そうですね（笑）。

**トルコ**　世界の3本指に入る肺ガンの先生に、「トルコさん、100歳まで大丈夫」って言われたんだよ、勘弁してくれってね（笑）。腹上死するってんだよ。でも、長生きするには、女性を大事にしなけりゃダメだよ。

――女性を大事にするのが長生きの秘けつですか（笑）。それはさておいて、今回出版された本、「プロレスへの遺言状」についてお聞きしたいんですけど、まず お書きになった経緯を教えてください。

**トルコ**　猪木とある所で話したんだけど、「私が今あるのはトルコ先輩のおかげです。これからの人生をトルコ先輩のために尽くしたい」って言ってくれたんですよ。ちょうど、プロレスの本を書いてくれっていう話があったんですけど、「俺はもうプロレスは飽きた」と言ったんですよね。でも、「プロレスを早く原点に戻して、あの世に行きたいよ」という話をしてたら、「これまでトルコさんの見てきた歴史を書いてください。これはトルコさんにしか書けない」って、凄い口説かれちゃってね。まあ、猪木もああやって言ってくれたし、「よし、それならやろう」ってことで。生きているのは俺と遠藤幸吉と駿河海だけなんだから。プロレスのスタートからの人間だからね。あとはもう全部死んじゃっているわけだからね。で、これを始めたんですよ。

――なるほど。プロレスを原点に戻そうと。たしかに、歴史は重要ですからね。

**トルコ**　そうそう。で、いろんな人に会いながら、話を聞いて書いたわけさ。例えば俺が何かを言っているんじゃなくて、その人の口からの話をね。まとめたやつを俺は力道山のいる天国へ持って報告に行きたいという気持ちから始めたわけですよ。じゃあ、プロレスの悪口じゃなくて、現実にあった話だけは書くよと。これは歴史の本だから。東スポが書いたのとは違うから。知りっこないんだから。そういう話をね、他の第三者が知っているはずがないんだよ。

――当事者だけが知っている話ということですね。

**トルコ**　そう、だから俺は力道山と同期と言われているけど、実際は俺と遠藤のほうが1年古いんですよ。というのは、柔拳やってたから。で外人のトップは俺だったの。アメリカのチャンピオンとかさ、イタリアのチャンピオンとかみんな俺の子分でさ、同じトルコ人だけど。

――同じトルコ人（笑）。当事者しか知らないといえば、僕がビックリしたのは、猪木さんの日本プロレス最後の試合の時に、トルコさんと猪木さんの弟の啓介さんがナイフを持って、猪木さんをガードしていたという話なんですけども。

**トルコ**　そうそう、事実なんだから。札幌の体育館でね、猪木が泣いてきたから、俺に。俺も命を賭けて、来たらと思ってね。

――それだけ危険な状況だったんですか？

**トルコ**　そうそう、芳の里が、下駄が。あれは下駄って言うんだよ。

――なんで下駄なんですか？（笑）。

**トルコ**　あだ名だよ。アメリカに行ったら、下駄ばっかしやってたんだよ。それで、あいつがいろんな若いヤツ集めて、猪木が出て来たらやっちゃえっていうのを聞いて、猪木の弟に「いいか、俺とお前しかいないんだから。ちゃんと持ってろ、来たら思いっきり暴れてやれや」と。猪木を追放しようとしてたから。

▲猪木のポスターを見つけると、急に襲いかかり、首を絞め始めた。医者からは100歳まで生きられると太鼓判を押されているそうだ

▶グレート・アントニオの店内に飾られてある力道山の写真の前で。この「プロレスへの遺言状」の目玉の一つは、力道山未亡人・田中敬子さんとの対談

――猪木さんのために体を張ったと。

**トルコ**　そうですよ。で、馬場に一番最後に、猪木と試合やれと。世紀の一戦をみんな見たいんだから。

――ああ、いきなり話が飛びますね（笑）。97年に企画したBI対決のことですか？

**トルコ**　そう。馬場はね、「分かりましたよ。先輩を裏切らないですからね」って。そうしたら、「先輩、シングルじゃできない」って言うんだよな。「じゃあ、タッグでいい試合見せろ、俺がレフェリーやるから」と。で、猪木は全部OKしたの。馬場もOKしたの。で、本にも載せてあるけど、プランニングを全部作ったの。全部作ったのに、待ってても来やしないよ。誰だって？　元子だ、あのくそったれ！

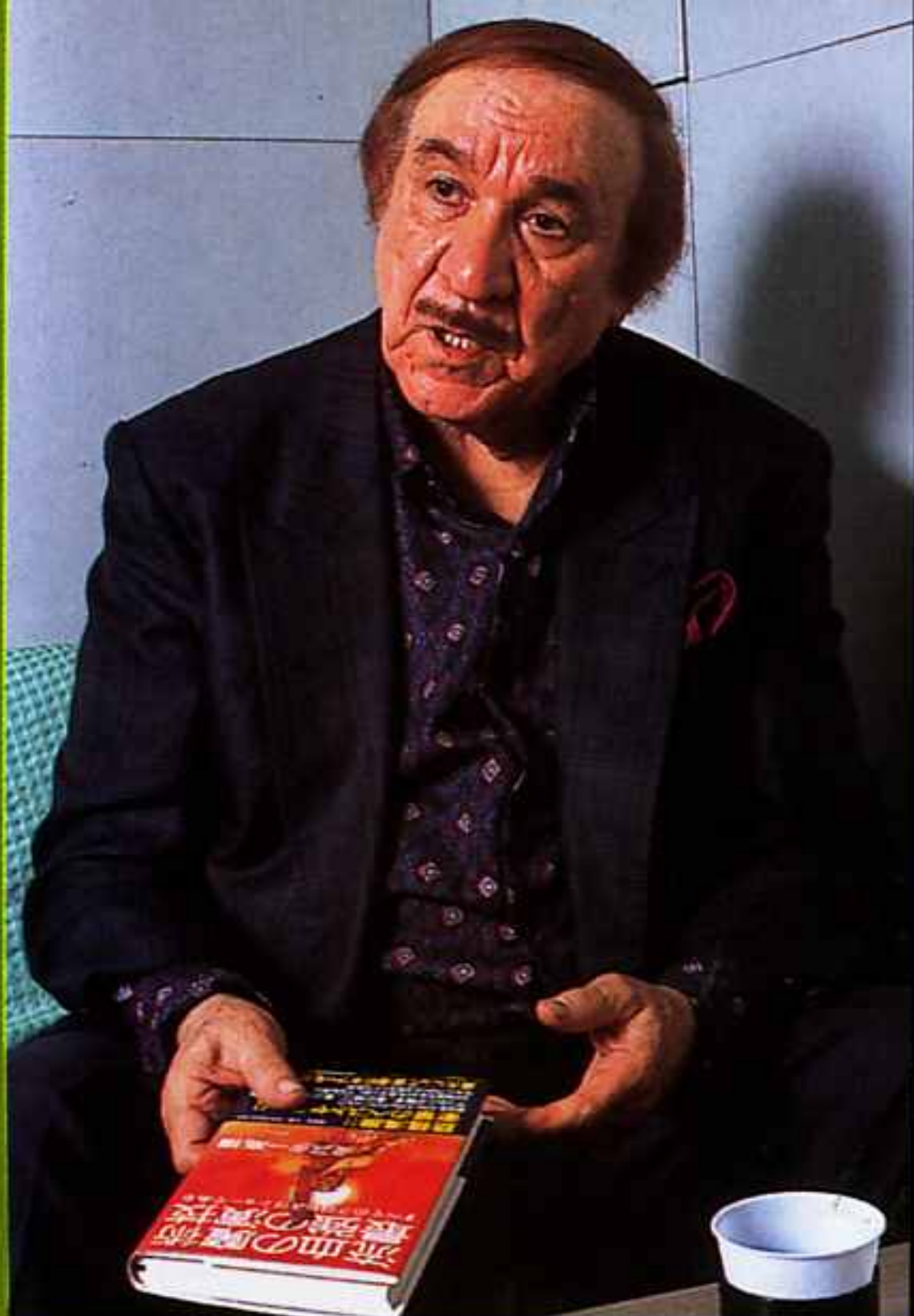
――ヒャッ！　くそったれ!?

**トルコ**　あの野郎が壊しやがったんだよ。それで怒ったから、「おい馬場、オバケ！　もうキャピタルに来るな！　引退しろ！」って言ったんだよ。

――引退勧告まで！（笑）。

**トルコ**　そりゃ言ったよ。それからしばらく、キャピタルには来なくなったよな。

――馬場さんを、キャピタル東急に出入り禁止にしてしまったんですか（笑）。ところで、トルコさんもよくご存知だと思うんですけど、新日本プロレスでレフェリーをやっていたミスター高橋さんなんですけども。

**トルコ**　そうなんだってなぁ。なんか本を書いたんでしょう？

――凄い話題になっているんですよ。

**トルコ**　あれ、俺の弟子なんだよ。俺が教えたんだよ。レフェリー教えた俺の第1期生だよ。おかしいってんだよ。俺、読まないけど。読みたくないから。そういうこと書いたっていうから、凄いなぁっていうんだよな。これはあまりにもな。う〜ん、これがズーッと世話になってきて、いいお金もらってきておきながら、こういうことをする人間性が分からないんだよ。新日本の子会社をやるっていう話ができなかったために、こういうことをやるっていうさ。

――警備会社ですね。

**トルコ**　そこに新日本の体制がおかしいと、悪いと思うな。これやった時の社長は誰だ？

――藤波さんですね。

**トルコ**　藤波か。だから、早く言えば、藤波は社長の顔じゃないっていうんだよ。こういうふうにさせちゃったのは藤波が悪いから。会社のやり方がおかしい。

――藤波さんが悪いと。この本が売れているっていうのは、どういうことなんですかね？

**トルコ**　それが分からないんだよ。結局、買っている人は、若い人なんでしょう？　年寄りの人は買わないでしょう？

――そうですねぇ。若いファンが多いと思うんですけども。

**トルコ**　俺は読まないけれども、切って流血させたって言っているんでしょう？　それは絶対ないよ。俺、レフェリーやっててないもの。だって、（フレッド・）ブラッシーは金歯を入れて、それで噛むんだから。鉄の爪（フリッツ・フォン・エリック）なんか、凄かった。爪でガーッとやれば、なんでも潰しちゃうもん。ビールの缶を穴開けちゃうんだもん。あいつはカウボーイだから、小さい時から毎日オッパイをギューギュー搾ったりするから、指の力が強いんだな。テキサスの人は、小さい時から牛やったり馬の爪を取ったりとかやるでしょう？　だから、テキサス系のレスラーは凄いよ。普通の人間の爪じゃないね。もう厚さが倍以上あるよ。で、血管狙ってやるわけだよ。ビューッと血が出るわけだよ。だって、吉村道明なんか、1回死にかけて体にペースメーカー入れているらしいんだけど、レスリングやって血をいっぱい流したでしょう？　アレが影響しているよね。

## （ミスター高橋は）なんで今頃になってこんなことやるのかなぁって。それは藤波が悪い！

――試合の流血がですか！

**トルコ**　一番血を流したのがあの男でしょう？　外人が足で頭を蹴る時ね、水の入っている風船を踏むと水がシューッと飛ぶでしょう？　あの感じですよ。血がピューッと。

――そんな勢いで出るんですか？

**トルコ**　もうね、ちょうど血管の所だから。

――はぁ〜凄いなぁ。ところで、高橋さんってどんな人だったんですか？

**トルコ**　いや、俺こういう人間だと思わなかったよ。プロレス界の中では、一番義理堅い人間だと思ってた。だから、ホントにもう、アッパーカット食らった感じですよね。なんで今頃になってこんなことやるのかなぁって。それは誰が悪いのかは、藤波だよな。新日本の社長が悪い。

――そこまで断言しなくても（笑）。ところでトルコさん、アメリカのWWFってどう思っていられるんですか？

**トルコ**　いやだから、来た時にキップが1枚もないぐらい、お客が行っちゃって、それが残念なんだよ。俺たちの時代だったら、体育館にね、「あんなヤツ来たら貸すな！」って。今でもやればできるんですよ。

――圧力を掛けるんですか（笑）。

**トルコ**　圧力できますよ、そりゃ！

――なるほど（笑）。まあ、話は戻るんですけど、高橋さんは「WWFはエンターテインメントだと公表したことで、成功しているから、日本もそうすべきだと思って書いた」って言っているんですよ。その辺はどうですか？

**トルコ**　だから、俺が否定したら、こいつウソになっちゃうからな。そうでしょう？　俺がズーッとやってきたんだから、そんなはずはないだろうと。俺が教えたんだから。

――実はこの本が出た時に、高橋さんの本に対する返答なのかなぁと思ったんですけど。

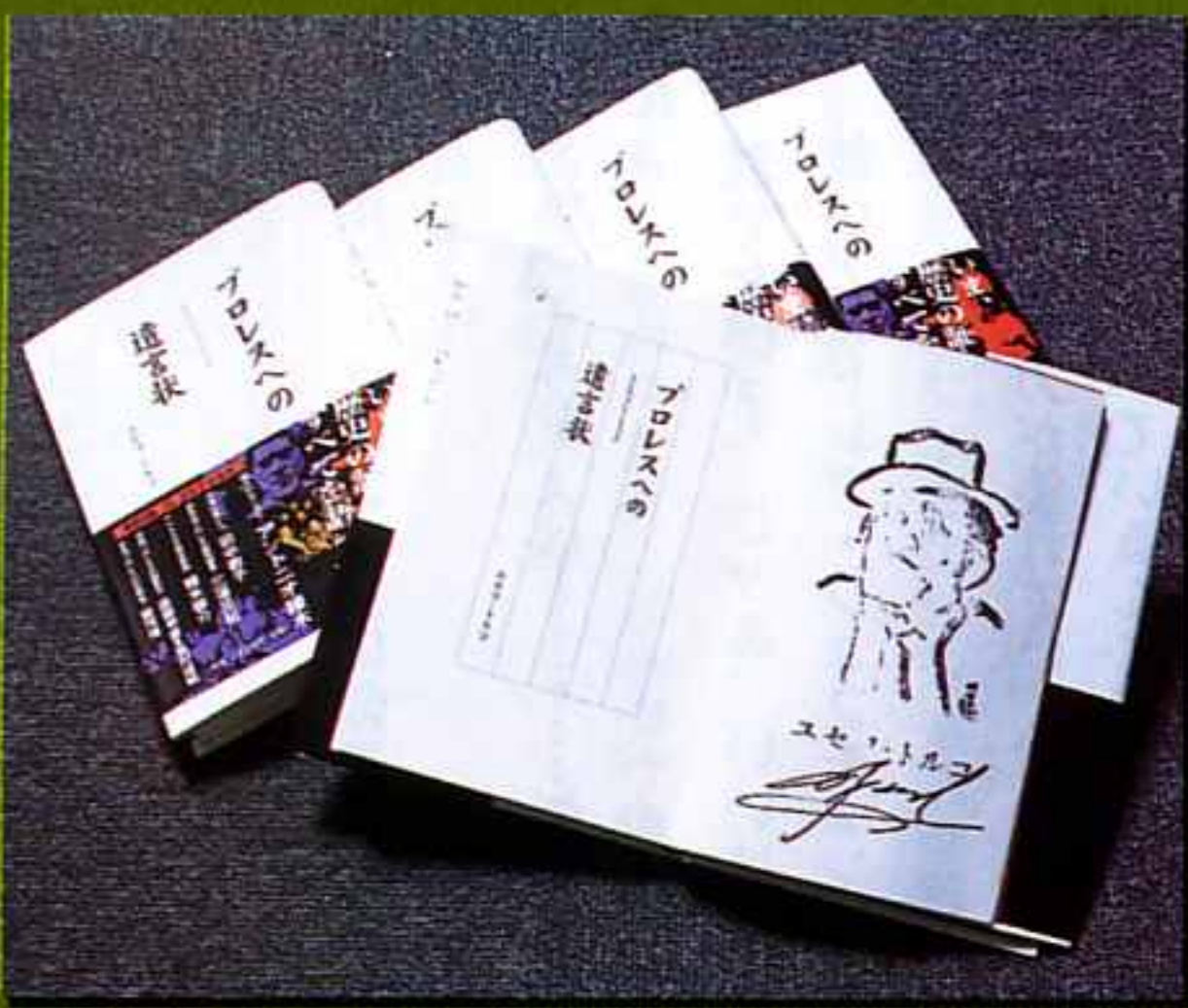
**トルコ**　いやいや、企画自体は俺のほうが早かったからな。

――ただ、こういう本が出ること自体プロレスがピンチなのかなぁって気がするんですよ。

**トルコ**　だから、俺はまず、プロレスをキチンとしてね、コミッショナーを作ってね。この間世界格闘技連合っていうのを作ったんだよ。で、猪木にスポーツ界の天皇になってくれって言ってくれる人がいてね。それで俺は乗ったんだから。猪木にね、「天皇になるならなれ！」と。それでスポーツ界を一つにして、やれれば最高だなぁと。これは本にも書いてあるけど、僕の遺言状っていうのはこれなんですよ。これで決めて、あの世に行きたいと思っているの。

――それは具体的に進んでいるんですか？

**トルコ**　進んでいますよ。だから、新日本の30周年、5月の2日にやるね？　それが終わったら、これに本馬力かけてね、トコトンまでやると、俺は約束しているんだから。やんなかったら、俺が猪木に4の字固めにするよ（笑）。遺言状なんだからね。俺も明日にでも死ぬかもしれないってんだよ。

――さっき、肺ガンの名医に100歳まで大丈夫だって言われたって言ってたじゃないですか（笑）。ぜひ長生きして、日本のプロレス界をシャキンとさせてください。■

▶このページで紹介したユセフ・トルコ著、「プロレスへの遺言状」サイン入り本を5名様にプレゼント。サイン本が欲しい方は、住所、氏名、年齢、電話番号、今号の感想を書いて、編集部「プロレスへの遺言状」係までお送りください（あて先は読者プレゼントコーナーと同じです）

**ユセフ・トルコ**……1930年5月23日、樺太生まれで両親はトルコ人。日本にプロレスが来る前から、柔拳興行で外国人選手として活躍。1953年、力道山らとともに日本プロレスを創立、レスラーそしてレフェリーとしても活躍した。1980年、新日本プロレスで行われた猪木とウィリー・ウィリアムスの異種格闘技戦をレフェリーとして裁いたことでも有名

# 詩人・アントニオ猪木に驚異のライバル出現！

## 原悦生カメラマンが世界初のサッカー詩集を出版！

聞き手◎谷川貞治

原悦生（はら・えつお）1955年、茨城県つくば市生まれ。早大卒業後『スポニチ』の写真記者を経てフリーランスに。ワールドカップは86年のメキシコ大会から取材し、現在は年間120試合をカバー。プロレス、格闘技のキャリアはさらに長く『INOKI』『猪木の夢』『The Battle of 21st』『カリスマ』などの著書がある。

――原さ～ん、今日は原さんのほうからぜひインタビューしてくれないかってことでやってきました。

**原**　僕が今日言いたいのはね、時代はボーダーレス。

――はぁ？

**原**　うん、だから今日のDEEPの試合を見ても分かるように、時代はもうごちゃ混ぜのボーダーレスの時代じゃない。

――はぁ……。

**原**　で、たとえばこのオリバー・カーン。サッカーのドイツ代表のゴールキーパーなんだけど、ファイターそのものなんだよね。気性が激しくて、鼻血なんか出しても相手に向かっていく凄い選手なんだよ。彼なんか、バーリ・トゥード向きだって僕は思うんですよ。

――はぁ……。

**原**　でも、カーンが『プライド』に出るには、30億円くらいかかるんだけどね（笑）。

――ええっ!?

**原**　で、次がこの男。中田英寿。この人は谷川クンも知ってると思うんだけど、彼なんか生き方そのものがヒールでね、よくカメラマンとか、ゴミ呼ばわりされるんだけどさぁ、非常にファンサービスがないというか、マスコミ嫌いで有名なんだよね。その一方で、コマーシャルで愛想がいいところを見せてるんだけど、僕から言わせれば中途半端でね、ヒールならヒールに徹すればいいと思うんですよ。だけど、子供たちだけはサインしろよ、と。子供たちはやっぱり未来のサッカー人気の鍵を握っているからね。彼は子供にもサインしないんだけど、それだけはやったほうがいいと思うんだよね。そんな中田にも、ぜひこのボーダーレス時代にプロレスをやらせたい。相手はカシンがいいと思うんだよ。カシンVS中田！　似た者同士で面白いでしょ（笑）。

――はぁ……。

**原**　じゃあ、次はこの写真を見てピンと来ない？

――えっ、この写真？　いやぁ……。

**原**　ミルコ・クロコップに似てると思わない？

――ああ、そう言えば………似てるのかなぁ。

**原**　似てない？　じゃあ、いいけどさぁ。彼はアンドレア・シェフチェンコといって、ウクライナの代表なんだけど、非常に身体能力が優れていて、僕は『プライド』に向いているんじゃないかと思うんです。ミルコにも似ているし。

――はぁ……。

**原**　まぁ、だから時代はボーダーレスということで、サッカーの選手の中にも、格闘技をやらせたいヤツはいっぱいいるんだよね。

――ああ……そうでしょうね。

**原**　で、これなんだけどさ。

――えっ!?

**原**　僕、サッカーの詩集を出したんですよ。

――へぇー、カメラマンの原さんが詩集を。

**原**　そう（笑）。これはね、『ワールドサッカーグラフィック』（ビクターエンターテインメント刊）に「Don't shoot a poet～ゴール裏の詩」と題して、僕が1996年からずっと詩を書き綴っていたものを一冊にまとめたわけ。おそらく世界初のサッカー詩集だと思っているんだよね、僕は。

――ああ、そういうことですか。やっと意味が分かったんですけど、つまりこの

# 原カメラマンが格闘家にしたいフットボール・プレイヤー!

▲真ん中にいるのが原カメラマンがミルコに似ていると言い張るアンドレア・シェフチェンコ（ウクライナ）

▲プロレス界にもいないヒール中田英寿

▶ドイツのゴールキーパー、オリバー・カーン

詩集を『SRS・DX』でも大々的に宣伝しろっていうわけですね（笑）。

**原**　そう。だから時代はボーダーレスって言ってるじゃない（笑）。サッカーにも格闘技をやらせたい人材はたくさんいるんで、まったく無関係じゃないと思うんですよ。

――はぁ……。やっぱり無関係なんじゃないですかねぇ（笑）。

**原**　いや、でも関係あると言ったら、やっぱりこれを一冊にまとめたっていうのは、猪木さんから刺激を受けたからなんですよ。僕のほうが先に、そうだなぁ小学生くらいから詩を書いているんですけど、猪木さんが『馬鹿になれ！』という詩集を出したじゃないですか。それで僕もやろうと思ったんですね。この詩集ができて、猪木さんに「ハイ！」と渡した時、猪木さんがどういうリアクションをするのか？　それが見たくて一冊の本にしたようなもんですよ。

――それはいい話ですね。もう見せたんですか？

**原**　いや、まだ会ってないんだけどね。今度、会場かどこかで渡そうかなと思って。

――原さんはもともと猪木さんの素晴らしい写真を撮る方で有名なんですけど、プロレスと格闘技、サッカーが専門なんですか？

**原**　そうだね。自分の子供の頃のオモチャ箱に入ってたのは、やっぱり野球とプロレスだったんだけど、野球はONが引退して醒めちゃったんですよね。その野球に代わって写真を撮り出したのが、サッカーなんですよ。だから、今は格闘技とサッカーを追い続けているっていう感じだね。

――ONが引退して野球に醒めちゃったと言うんでしたら、猪木さんが引退してからのマット界はどうです？　原さんほど長くやってたら飽きるってことないですか？

**原**　いや、それでもプロレス・格闘技は長く追い続けていれば、いまだに何か感じるものにいっぱい出合えますからね。そういう意味じゃ、今でも全国に足を運んで、年間100試合以上は見てますよ。猪木さんなんかはもう、1年の3分の1は一緒にいた時期もありましたけど、猪木さん以外の部分でも、プロレス・格闘技はまだ撮り続けていれば、新鮮なものに出合えますからね。だから、プロレス・格闘技だけは、オモチャ箱の引き出しは開けっ放しだよね。

――それは僕なんかもまったく同じですね。原さんから見て、最近のファイターの中でカメラマン心を刺激する人って誰ですか？

**原**　やっぱり、ミルコ・クロコップですね。最初にミルコを見た時は、ミルコ・タイガーって呼ばれてて、いい選手なんだけど、どうしてもシカティックの弟子という印象をぬぐえなかったじゃない。でも、最近のミルコは、入場からして別人のようなオーラを放っている。だから、今一番面白いのはミルコかなぁ……。

――へぇ～、原さんがミルコ。

**原**　だけど、僕はサッカーを見る時も、やっぱりプロレスや格闘技で学んだ感性って凄く強いんですよね。選手のキャラクターなんかも、どうしてもファイターと見比べてしまう。だから、この詩集の中にも格闘技のことをオーバーラップさせるフレーズがたくさん出てくるんですよ。たとえばさっき言ったカーンに対して、「ファイター」というタイトルをつけているし、「マスクマン」とか「暴れん坊」っていうタイトルの詩もある。この詩には、僕が撮り続けた写真も合わせて掲載しているんだけど、あえて写真を大きく使わなかったのは、写真集じゃなく、詩集として勝負したかったからね。

――それで、一度格闘技ファンにも買って読んでくれ、と。今日はそういう話だったんですね（笑）。

**原**　そうそうそう（笑）。プロレス・格闘技で身に付いた感性が、どういう形で他でも表現されてるのか、そういうところもボーダーレスの時代として、見てもらいたいんですよ。

――さらに言えば、古舘伊知郎さんは原さんのことを「青い鳥を追い求めるチルチルとミチルのようだ」とおっしゃってましたけど、その青い鳥を追い求めて旅している中で見つけた数々のものが、この詩集の中に詰まっているっていうことですね（笑）。

**原**　そうそうそう（笑）。その青い鳥がワールドカップなのか、マラドーナなのか、ロナウドなのか分からないからこそ、僕は旅を続けているわけね。明日からまた海外に出ちゃうし。格闘技でも同じで、青い鳥が猪木さんなのか、ミルコなのか、『プライド』なのか分からないけど、それを追い求めて写真を撮ったりしているわけ。

――かっこいいなぁ～、原さん。でも、この写真はミルコには似てないと思うんですけど（笑）。

**原**　そうかな～。

――あ、分かった！　ダチョウ倶楽部の肥後さんに似ているわ。

**原**　んあ～。■

©Essei Hara

▲原カメラマンが詩集を出したのは、アントニオ猪木に刺激を受けたからだった

詩集 サッカーの記憶
フットボール・メモリーズ
原 悦生

**詩集・サッカーの記憶**
「フットボール・メモリーズ」
（株）エンターブレイン発行
定価1600円

撮影◎吉澤晃

# SMACK GIRLの「実験劇場」さらに激化！

# ガチンコでロイヤルランブル!?

◀いやらしさが増した新コスチュームと、お手製〝マグナムTOKYO風〟マスク姿で登場したナナチャンチン。この入場から『ロイヤルスマック』は始まった

★入場順
1.ナナチャンチン（チーム南部）
2.Lay-ho（ボディプラント）
3.照井和瑛（フリー）
4.川又尚美（フリー）
5.金子真理（禅道会）
6.酒井真紀（チームアトラス）
7.瀧本美咲（禅道会）

◀最初は、実力差が僅差のナナチャンチンとLay-hoが激突。1分間ではもちろん勝負がつかず、3番手の照井の登場となった

▶照井入場の途端、ナナチャンチンとLay-hoはタッグを組み、2人で照井を攻めるも極めきれず。4番手の川又登場。3人掛かりで照井を仕留めた

▶実力者・金子がLay-hoを仕留めるのを、酒井と瀧本はそっと見守る

▶そして、今度は瀧本が酒井を仕留める。瀧本と金子は同門ゆえ、金子は静かに見守る

◀結局最後には、実力者の金子と瀧本が残った。禅道会同士ということもあり、やりにくそうだったが、最後は金子が、腕ひしぎ十字固めで瀧本からタップを奪い、11分48秒のロイヤルランブルは幕を閉じた

★退場順（ROYAL SMACK 2002 時間差バトルロイヤル特別ルール）

| | 敗者 | 時間・決まり手 | 勝者 |
|---|---|---|---|
| 1. | ●照井和瑛〈フリー〉 | （4分14秒、腕ひしぎ十字固め） | 川又尚美〈フリー〉○ |
| 2. | ●ナナチャンチン〈チーム南部〉 | （7分12秒、腕ひしぎ十字固め） | 酒井真紀〈チームアトラス〉○ |
| 3. | ●川又尚美〈フリー〉 | （7分56秒、腕ひしぎ十字固め） | 瀧本美咲〈禅道会〉○ |
| 4. | ●Lay-ho〈ボディプラント〉 | （8分04秒、腕ひしぎ十字固め） | 金子真理〈禅道会〉○ |
| 5. | ●酒井真紀〈チームアトラス〉 | （10分00秒、アームロック） | 瀧本美咲〈禅道会〉○ |
| 6. | ●瀧本美咲〈禅道会〉 | （11分48秒、腕ひしぎ十字固め） | 金子真理〈禅道会〉○ |

今大会の目玉はなんと言っても『ロイヤルスマック』。多人数が同時にリングに上がって闘い、負けた者から降りていくという、プロレスではお馴染みのバトルロイヤル形式だが、格闘技で行われたのは、もちろんこれが初めて！　しかも、ただのバトルロイヤルではなく、アメリカのWWFが年に一度の大会でしか行わない『ロイヤルランブル』を真似た、時間差式バトルロイヤルなのだ。プロレス・格闘技にかかわらず、様々なところから面白い要素を取り入れようとする『スマックガール』の姿勢には、いつもながら関心させられるが、同時にその無鉄砲さには、心配もさせられる。だいたい、プロレスでよく行われているとしても、ガチンコでやっちゃおうとは、なかなか思わないものである。

『ロイヤルスマック』のルールとしては、一切打撃は禁止で、選手が抽選順で1人ずつリングに上がり、2人目が入場してから、1分毎に次の選手が入場するというもの。

ここでの注目は、『スマックガール』のレギュラーでありながら秒殺され続けているナナチャンチンが、大勢のどさくさに紛れて、勝ち残ってしまうのでは？　というところであった。だが、やはりどんな形式であれ、ナナチャンチンはナナチャンチン。秒殺とまではいかないまでも、2人目の敗退者となってしまった。やはり実力のある選手が残った。

試合前には「単なる話題作りの色物」と見ていたファンやマスコミを

SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SM

SMACK GIRL ROYAL SMACK 2002

4・7★東京・ディファ有明

# ビックリ仰天！ 総合格闘技でハンディキャップマッチ！

▶プロレスラーになるのが夢だった3人娘、坂口、金井、市村が、現役プロレスラー・ドレイク森松に挑んだ。皮肉な運命の巡り合わせである

◀体重差40キロのドレイクの強烈なパンチを顔面に食らい、坂口は涙を流してしまったが、その後も果敢に挑んでいった

前回のリング上で決まった3対1のハンディキャップマッチ。さすがに3人を相手にしたドレイクはスタミナ切れが目立ったが、最後は3R2分01秒、チキンウィングアームロックでドレイクが金井からタップを奪った

★第4試合（SGS変則タッグマッチルール／5分3R）

○ドレイク森松（3R2分01秒、チキンウイングアームロック）坂口一美、市村幸恵、金井広美●

〈フリー〉 〈GF2〉 〈GF2〉 〈GF2〉

※金井がチキンウィングアームロックでギブアップ

SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK GIRL

▲セミは、唯一入場時に紙テープが飛んだ、しなしさとこ（右・GIRL FIGHT ACC）と小池亜伊子（左・禅道会）の対戦

◀試合前の秒殺宣言どおり、しなしは1R1分01秒、腕ひしぎ十字固めで小池を下した。セコンドには、練習に通っているというシュートボクシングの土井広之と後藤龍治がついた

SMACK GIRL SMACK GIRL SMACK

◀辻は試合後、「前回は試合がなくなっちゃったんですけど、今回はいい試合ができたと思います。プロなんでお客さんに喜んでもらえるような試合をしたいです」と語った。辻は次回『アックス』への参戦が決定している

▲昨年12月の『アックス』で辻に敗北し、再戦を望んでいる星野育蒔も観戦に訪れた。星野は「すぐにでも一緒に試合したい。興奮して、すぐにでもリングに上がりたくなった」と改めて辻との再戦を希望した

## 辻ちゃん、やっとデビュー戦！

前回の大会で、対戦相手の篠原光の体調不良により、試合が流れてしまった辻結花（闇愚羅）が、やっと『スマックガール』でのデビュー戦を果たした。対戦相手は初参戦の岡裕美（フリー）。辻は、見事なタックルで、空手家・岡の得意な打撃を完全に封じ、最後は後方から飛びつき1R3分43秒、スリーパーホールドで試合を決めた

試合前には「単なる話題作りの色物」と見ていたファンやマスコミを驚かせるほど、終わってみれば話題性の面白さだけでなく、緊張感みなぎる勝負としての面白みを見せることにも成功した。

また、『3対1変則タッグマッチ』も、ガチンコでは成り立たないと思われたルールの中で、説得力のある激闘を見せてくれた。この試合は、話題性だけでなくドラマ性も兼ね備えていて、現役プロレスラーとプロレスラーの夢を諦め、まだ始まったばかりの女子総合格闘技に転向した3人の女の子の試合がマッチメイク。1対1でやったらもちろんかなわない相手だが、3対1で闘うことにより、違った意地と根性を見せてもらった。今までの格闘技観では考えられなかった新しい視点を、やる側にも見る側にも切り開いたこの2試合の実験は、大成功だったといえよう。

そして、セミとメインでは一転、実力者のしなしさとこと辻結花が、きっちりとした試合を見せ、興行を締めてくれた。

最近の『スマックガール』は、前半で呼び物的試合を、そして後半では試合内容で魅せるカードを組み、バランスを取っている。どちらかに偏ってしまっては『スマックガール』ではないという、興行スタイルも定着しつつある。今回も、会場は超満員。もうひとつの女子総合格闘技興行『アックス』や、最近、女子の試合も行うようになった修斗とはまた別の魅力で、どんどん客を集めている。『スマックガール』だからこそ、様々な選手に様々なスタイルで闘う場を提供できる、という独自の道を、今後もどんどん追求していってほしい。

（沖崎）

# 総合格闘技ファンも注目せよ！ SBは今、興奮のつるべ打ちだ!!

緒形の相手、トニーは188センチのUKF世界ウェルター級王者であり、バックスピンキックとバックブローを得意とする変則的ファイター。こういう相手が意外に強かったりするのだが……

今回のキャラ外人はこのエセ・ブルース・リー!!

◀▶この構えと衣装によって客席は試合開始前から沸き始める。だが、かつてのマンソン・ギブソンやK－1ミドル級の須藤元気のようなスタイルで闘うこういう選手をナメてかかると痛い目にあう可能性もあるのだ。1R、2Rでは緒形は相手の力量を測ろうと、好きなように攻撃させた

## エース4人毎回登場！
## 盛り上がる異種格闘技戦も毎回！
## 未知のキャラ立ち外人も大挙襲来!!

「SBは今、修斗より盛り上がってるよ」

宍戸大樹が大逆転KO勝利を飾ったばかりの会場内でファンがもらした言葉である。

実際、現在のSBの会場内の熱は毎回かなりの高さなのは事実。それは、土井、緒形、前田、宍戸の四天王がほぼ毎回勢揃いし、後楽園大会で言えば、この4人の闘いが必ず見られる上に、シュートボクセ軍団やボブチャンチン軍団と異種格闘技戦を展開して、濃い空間を形作っているからだろう。

また、呼んでくる外人選手のキャラクターが際立っているのも、盛り上がる要因の一つ。例えば、リングスのリー・ハスデルしかり、そのハスデルとのボコボコの打撃戦を制した身長2メートルの大巨人シリル・ディアバデしかり、そして今回はこのエセ・ブルース・リーのトニー・バレントが会場の空気を温めた。

なにしろ、この男、来日前の情報では188センチの長身で、ファイトスタイルはかつてのマンソン・ギブソン（K―1ミドル級で須藤元気が見せたバックブロー、バックキックを主体とした変則攻撃を得意とした選手で、キックの日本人トップ選手だけでなく、ムエタイ選手までも次々とKOした伝説の強豪）を荒削りにした選手。鼻っ柱も強くてプロモーターの言うことを聞かず、超一流選手を当てて潰そうという計画まで持ち上がった危険な男だったのである。

ところがだ。いざ、後楽園ホールに現れた本人はトラックスーツ着用というブルース・リー気取り。力が抜けることこの上ないのだが、本人は堂々とリーさながらの構え

The age of "S" vol.2

3.31★後楽園ホール

# なんだ、コレ!? こんなアッパーカット、初めて見たぞ!!

## もしかして"風車の理論"?

## 緒形は相手の良さを十分に引き出してから一気に叩き潰した!!

1R、緒形が技を引き出そうとしているとも知らず、調子に乗ったトニーはついにこんなアッパーまで披露。底が丸見えなのが底なしのトニーに脱帽！

▼2R中盤からエンジンスタートさせた緒形は強烈なローでトニーを追いつめ、コーナーではパンチからヒザ蹴りであっさり最初のダウンを奪った

### 緒形のコメント

「非常にやりづらい相手でしたね。ただ、攻撃はまったく効きませんでした。7月のS-cupにはワンマッチで出ます。というのはボクには1つ忘れ物があるんで。リングスで去年の10月にやられたリベンジをしたいなと。KOKルールでシュートボクシングのワザを使って勝ちたいと思ってます」

### トニーのコメント

「ブルース・リーは特に意識していない。こういう衣装が好きなんだ。オガタはとても強い選手だった。キックがとても速くて強かった。シュートボクシングのルールはとてもいい。ラスベガスのK―1ショーでも闘ったこともある私だ。まだまだ見せるテクニックがあるのでぜひ次も呼んでくれ」

◀第3R、3度のダウンを奪った緒形は試合を盛り上げるだけ盛り上げてKO勝利で幕を閉じた

▼飛び後ろ回し蹴りも繰り出すが、緒形はきっちりガード

▲緒形のローを両足飛びで避けるトニー。ワザ師だ

★第7試合（3分5R）

**○緒形健一（3R2分54秒、TKO勝ち）トニー・バレント●**

〈シーザージム〉　〈ニックワンキック〉

※3ノックダウン（3度ともヒザ蹴りの連打）。トニーは2Rにもヒザ蹴りの連打でダウンを喫している

力が抜けることこの上ないのだが、本人は堂々とリーさながらの構えからサイドキックやバックスピンキックを繰り出してくる。これには客席も一気にお祭りムードでトニーを堪能し始める。

一方、先の情報が頭に入っている緒形は一切、気を抜くことはない。逆に相手の得意技のバックブローを自ら出していって力量を探る。だが、この緒形の作戦をどう勘違いしたのか、トニーはますます調子に乗ってブルース・リー・ムーブをエスカレート。蹴りを出してはピタっと止まってポーズを作ってみたり、バックブローはもちろんとしてカカト落としまで飛び出す始末。

こうやって2R中盤まで好き勝手にワザを出していたトニーは結果として観客を大いに楽しませるとともに緒形にその力量の全てを見透かされてしまうのだ。そうなったら、緒形はもう仕留めるだけのこと。2R終盤にヒザ蹴りでダウンを奪い、3Rでは3度ダウンさせてKO勝利をモノにした。

さて、試合を振り返ってみればトニーの良さを限界まで引き出していた緒形。強さを凌ぎ合う試合とは別に観客を楽しませるプロの仕事を見せつけたのである。

SBは面白い。強豪だと思って呼んだら、違う意味でツワモノだった選手がひょっこり登場し、興行に彩りを与えてしまうのだ。

また、客席を見渡せば、清水健太郎や力也さんがいたりする空間もマニア心を刺激して素晴らしい。

面倒くさいことは何もないのだ。SBの興行があったら、そこに行けばいい。楽しい思いをして家路につけるのである。（ブチ）

# 精も魂も尽き果てた土井 命からがらの延長戦勝ち

## 北の最終兵器軍団・スケグロフに苦戦 ダウンを奪われながらも競り勝つ

### 土井のコメント

「相手が強かった。それにタフだった。攻撃は軽かったんだけど、僕の攻めが悪かった。（ダウンを食った）右パンチは見えてたんだけど、こっちも右フックの動作に入ったところだったから、ああ来たぁって感じ。今日は全然ダメ。魔裟斗？　K－1中量級は見ましたよ。強かったね。というより周りが弱すぎたんじゃない？」

### スケグロフのコメント

「タフな闘いだった。土井は強くていいファイターだ。でも、5Rが終わった時は、自分が勝っているような気がしたんだけど。自分はムエタイが専門だから、今日はヒジとかが使えなくてやりにくかった。試合がムエタイルールだったら、それにウクライナで闘っていたら、間違いなく勝っていたよ。ま、もう一度闘いたいね」

## 「K─1中量級？　準備はできてるけど……」 土井、試合内容に不満

▶2R、スケグロフの右を食ってダウンを喫する。土井の苦戦はここから始まった

▲延長戦2─0の僅差で土井の手が挙がる。……が、その顔に笑みはない

▲右ストレートがクリーンヒット。ウクライナ人のボクシングテクはかなりのものだった

▲延長ラウンドは、両者とも疲労困憊。本戦では鮮やかにシュートポイントを奪った土井の投げも、ヘタヘタと崩れ落ちてしまった

◀スケグロフがペースを握って試合は進行。土井の〝キラー・ロー〟ももう一つダメージを与えきれない

★第8試合（3分5R）
**○土井広之（延長判定2-0）アーテム・スケグロフ●**
〈シーザージム〉　〈ウクライナ/北の最終兵器軍団〉
※採点…10-10、10-9、10-9。本戦1-0（49-49、50-48、49-49）。土井は2Rにシュートポイント1つあり。また土井は2Rに右ストレートでダウン

立ち技系格闘技ファンの照準は、K─1中量級、それも魔裟斗に集中しているのだろう。だが、シルバーウルフの華やかな活躍を追いかけたいのなら、この人の動向にも注目されたい。土井広之。この両雄は、まだ決着が付いていない。3年前の対戦では、引き分けだった。「土井に分があった」という人も少なくない。その後の魔裟斗は確かに格段の戦力アップしているが、土井も〝キラー・ロー〟に加えてミドル、ハイキック、パンチも凄みを増してきているのだ。

だが、そんな土井でも、「いつも相手のデータはありません」と言うのは、いかにもツライ。さらに、この日のスケグロフのようになかなかの手練れが相手となると、そうそう簡単に勝てはしない。

苦しい闘いだった。2R、北の最終兵器軍団所属のムエタイ戦士を後方に投げシュートポイントを奪った土井だが、その直後に右ストレートを浴びてダウンを喫してしまう。これでペースが乱された。

終盤戦は両者とも疲労して、残り火をどこまで焚き付けられるかが勝負、というような我慢比べ。延長戦でローを連発した土井が、やっと勝利にしがみついた。

見映えのしない白星だった。土井の表情も冴えない。

「魔裟斗？　いつでも闘う準備はできています。でも、今日のような試合では何も言えませんよね」

そんな日もあるさ。立ち技最強を目指す、厳しい連戦の旅だもの。目前に大きな仕事も待っている。7月に開催されるS─cupにも参戦が決まった。土井に安息の日はまだ来そうもない。（宮崎）

The age of "S" vol.2
3.31★後楽園ホール

# 宍戸大樹、危機一髪！リングスの使者をきわどく逆転KO

▶思い切り攻め込んでくる小谷に、あわやというところまで追い込まれた宍戸だったが、切れ味鋭いパンチで一瞬のうちに逆転した

▲思わぬ小谷のこの一撃。宍戸は2度のダウンを食らってしまう

◀あまりにもドラマチックな決着の瞬間。宍戸は思わずコーナーポストに駆け上る

★第4試合（3分5R）
○宍戸大樹（2R2分40秒、KO勝ち）小谷直之●
〈シーザージム〉 〈ロデオスタイル〉
※左ストレート。宍戸は2Rに左ストレートで2度ダウン

リングの中では、逆転KOこそ最強にして無双のドラマである。なおかつ意外な展開が次々に組み合わさるのなら、なおさら喜ばしい。SBの新花形・宍戸大樹と、リングスから参戦の総合格闘家・小谷直之の対戦に、こういうことが起きるなんて誰が想像しただろうか。1Rはとどこおりなく進んだ。宍戸のキック、ヒザに追い立てられ、打撃は本職ではない小谷に荷の重い試合に見えた。だが2R、その小谷が放った左パンチがヒットして、宍戸はダウンするのだから分からない。すぐさま左ストレートがまた炸裂し、宍戸はさらにもう一度倒れてしまう。宍戸のダメージは深かった。明らかに動きが悪くなる。かさにかかって突進する小谷の前に、頼りなく後退を重ねる。もはや絶体絶命と思えた時、ドンデン返しは一瞬のうちにやってきた。小谷の入りばなに、宍戸が打ち込んだ右フックから左ストレート。もんどり打って倒れ込んだ小谷は、もう立っては来なかった。（宮崎）

# 同志を失った悲しみを堪え燃える、シーザー会長！

▲先日、49歳の若さで亡くなった伊礼厚レフェリーの遺影を背に、シーザー会長が熱く燃える。休憩後、リングに上がったシーザー会長。7月にS－cup、そして延期になった中国散打軍との対抗戦を8月に行うことを発表。「前に進む道はまだありません。それを僕らは、命を賭けて切り開いていこうと思っております。そして後に続く若者たちが、きっとまた整地して進んで行ってくれることを希望し夢に見て、頑張ってまいります！」とコメント。このあと『同期の桜』が流れる中、伊礼レフェリーの追悼セレモニーが行われた

▲同志の想い出が胸に去来したのか、リング上で涙をグッと堪えるシーザー会長

# 前田、投げられまくって完敗！

▶ドラッカの王者アルカレスに完敗を喫した前田は、すっかり落ち込んでいた。「全然、身になってないちゅうか。もう10年やってきて今の状況を打開せんと」と試合後コメント

◀徹底して投げ狙いにいくアルカレス。強引に前田を担ぎ上げ、何度もマットに叩きつけた

▲投げですっかりペースを乱された前田。ヒザやパンチを連打する場面もあったが、本領を出し切れず今年に入って2連敗

★第6試合（3分5R）
○アルフォンソ・アルカレス（5R判定3-0）前田辰也●
〈ニックワンキック〉 〈寝屋川ジム〉
※採点…49-48、49-48、49-48。アルカレスは1Rに1つ、4Rに1つのシュートポイントあり

# 突然リニューアル変異予告！

2002年4月下旬、
『SRS・DX』オフィシャルサイトが
パワーアップ!!

アドレスは同じ！>http://www.so-net.ne.jp/srs-dx/

遂に蘇ったあの超大物Xが、
心機一転『SRS・DX』公式サイトで大爆発！(の予定！)

今こそターザンY本に乗れ!!

## 「俺がネット界をイレギュラーさせますよぉ!!」by X

いつ何時、誰のアクセスでも
受ける!!

4月21日、広島で"K-1vsPRIDE"が早くも開戦！
『SRS・DX』サイトでも徹底レポート中!!

4・21K-1ジャパン広島大会
4・28『PRIDE.20』横アリ大会

### 祝！"K-1vsPRIDE"開戦!!　次回のリアルタイム速報予告

石井館長の発言に端を発した"K-1vsPRIDE"が、4月21日(日)、早くも広島で開戦ですよぉ！　さらに、次の週には横浜アリーナでの『PRIDE.20』で、ミルコVSシウバの一戦もあるんですよぉぉ！　ということで、『SRS・DX』オフィシャルサイトでは、注目の2大会を完全リアルタイム速報します！　試合内容、写真、選手のコメントはもちろん、石井館長ほか関係者のコメントまで徹底レポート！　大会前に行われる記者会見や選手インタビューもガンガンアップ！　大会後には掲示板で熱く語り合うのもよし！　『SRS・DX』サイトなら"K-1vsPRIDE"を100倍楽しめるんですよぉぉぉ!!

http://www.so-net.ne.jp/srs-dx/

# Cashing Info

# ファイナンス情報

グレートアントニオ

誌上通販

日本の猛者、浅草キッド来たる!!

小池栄子たんも
肉体改造（胸はそのまま）に
大成功！

グレート・アントニオが
すべての日本国民に放った
スペシャルハイキック！
ダイエット＆肉体改造の

# 最終兵器。

Mineral & Herb

# Fasting Diet

| ファスティング・ダイエット（360ml×3本入り） |
|---|
| **Fasting Diet　18,000円（税別）** |
| 販売元／グレート・アントニオ　開発研究／杏林予防医学研究所 |

●ファスティング・ダイエット　¥18,000（税別）
ファスティングに関する詳しい内容は、グレート・アントニオHP（http://www.great-antonio.jp）をご覧ください。

●浅草キッドTシャツ2002
（カラー白／サイズXS・S・M・L）¥3,500（税別）

ファスティングに関する詳しい内容は、グレート・アントニオHP（http://www.great-antonio.jp）をご覧ください。

# たっつぁん万座ビーチ

読者プレゼント

街角は春のにおいでいっぱい！
春らしいプレゼントの数々をどうぞ！

【本誌ハッシー提供】

編集部からのUFCみやげ！

UFC 桜井"マッハ"速人Tシャツ 3名様

FRONT BACK

UFC Tシャツ 1名様

FRONT BACK

3・22『UFC36』大会記念Tシャツ 2名様

FRONT BACK

UFC ティト・オーティズTシャツ 1名様

FRONT BACK

3・22『UFC36』大会パンフレット 1名様

UFC ステッカー 1名様

【トミー提供】

『闘魂烈伝』のゲームボーイアドバンス版がついに発売！

ゲームボーイアドバンス専用ソフト
『新日本プロレスリング闘魂烈伝アドバンス』 2名様

※新日本プロレス全面協力のもと、T2000、ZERO-ONEなどの他団体も含めた約40人の実名選手を操作し、多彩な技による闘いが楽しめる一本。価格5,800円（税別）発売中。この商品に関するお問い合わせは、株式会社トミーお客様相談室☎03-3693-8655まで

【エイベックス提供】

この一本で闘龍門の軍団抗争の全てが分かる！

ビデオ
『DRAGON ERA 闘龍門 天下三分の計』 3名様

※4,500円（税抜）発売中。この商品に関するお問い合わせは、http://www.avex-club.com/toryumonまで

【ナムコ提供】

鉄拳シリーズ最新作『鉄拳4』がPS2で登場！

プレイステーション2用ソフト『鉄拳4』 3名様

※アーケードで大人気のゲーム性に、家庭用ならではの新モード、新たなストーリー演出などを加えパワーアップした一本！ 6,800円（税別）発売中！

【新紀元社提供】

ターザンの新刊ですよぉぉ！

ターザン山本著
『プロレスファンよ 感情武装せよ！』 5名様

## 応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう！

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、

❶ 郵便番号・住所・電話番号
❷ お名前
❸ 年齢・ご職業
❹ 希望プレゼント名
❺ 今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻ 今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼ 本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先 〒101-0054 東京都千代田区
神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ㊽」係まで

締め切り…2002年5月2日（木）当日消印有効。

応募券 たっつぁん万座ビーチ㊽

SRS DX 4・25 No.68

K-1 vs PRIDE「ルール問題」大研究!
3.30『DEEP 4th IMPACT』名古屋大会

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年4月25日発行　第4巻・9号・通巻68号
編集人・谷川貞治　発行人・柳沢忠之　発行所・(株)フジテレビ出版／(株)ローデス　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号

定価680円
本体648円



雑誌21584-4/25　T1121584040684　Printed in Japan